

開講科目名 / Course	看護研究法	
時間割コード / Course Code	G1001	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	原沢 のぞみ	
科目区分 / Course Group	(研 究) / (研 究)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	後藤 喜広 (専任教員)、原沢 のぞみ (専任教員)	
必修・選択区分 /	必修	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的な要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用しない
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	
担当教員 /	原沢のぞみ (看護学研究科・教授) 後藤喜広 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	原沢のぞみ nozomi.harasawa med.toho-u.ac.jp 後藤喜広 yoshihiro.gotou med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、12:45 ~ 13:00	
授業概要 /	看護研究の基礎的知識の理解を基盤とし、受講生の研究テーマに即して研究方法についてクリティーク、文献レビューを実施することで、研究を計画するための考え方を修得する。	
到達目標 /	基本的な研究のあり方と看護研究に関する理論と実際について説明できる。 文献クリティーク、文献レビューが行える。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽	
事前・事後学習とその時間 /	講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。 30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行うこと。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み(40%)、レポート(60%)から総合的に評価する。	
フィードバック方法 /	レポート内容を3段階で評価し返却する。	

教科書 /	バーズ&グローブ(著),黒田裕子他(翻訳),看護研究入門 原著第9版,ELSEVIER.(2023)
参考書 /	坂下玲子他(著),系統看護学講座 別巻 看護研究,医学書院.(2023) 牧本清子、山川みやえ(著),よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版,日本看護協会出版会.(2020) Judith Garrard他(著),看護研究のための文献レビュー マトリックス方式,医学書院.(2012) 谷津裕子(著),「Start Up 質的看護研究 第2版」,Gakken.(2015)
備考(関連科目等) /	自身の卒業研究について再確認しておくこと。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 オリエンテーション	後藤 喜広,原沢 のぞみ	オリエンテーション,自己紹介(研究の経験、研究テーマ)	
2 研究の重要概念	原沢 のぞみ	看護研究の基盤となる重要概念について学ぶ	
3 リサーチエスチョンの立て方	原沢 のぞみ	リサーチエスチョンの設定について考える	
4 自己のリサーチエスチョン	原沢 のぞみ	自己のリサーチエスチョンについてのプレゼンテーション	
5 文献レビュー	原沢 のぞみ	文献検索方法について学ぶ	
6 文献レビュー	原沢 のぞみ	レビュー方法(文献管理方法を含む)・文献クリティークについて学ぶ	
7 質的研究	後藤 喜広	質的研究 質的研究とは何かについて学ぶ	
8 質的研究	後藤 喜広	質的研究 質的研究とは何かについて学ぶ	
9 質的研究	後藤 喜広	質的研究 質的データの収集方法とは	
10 質的研究	後藤 喜広	質的研究 質的データの収集方法 インタビューの実施	
11 質的研究	後藤 喜広	質的研究 質的データの収集方法 インタビューの実施	
12 質的研究	後藤 喜広	質的研究 質的データの分析方法 分析実習	
13 質的研究	後藤 喜広	質的研究 質的データの分析方法 分析実習	
14 質的研究	後藤 喜広	質的研究 質的データの分析方法 分析実習	
15 質的研究	後藤 喜広	質的研究 質的データの分析方法 まとめ	
16 量的研究	原沢 のぞみ	量的研究デザインについて学ぶ	
17 量的研究	原沢 のぞみ	量的データの扱い方について学ぶ	
18 量的研究	原沢 のぞみ	量的データの収集方法について学ぶ	
19 量的研究	原沢 のぞみ	量的データの分析方法と結果の示し方(記述統計)	
20 量的研究	原沢 のぞみ	量的データの分析方法と結果の示し方(推測統計)	
21 量的研究	原沢 のぞみ	量的データの分析方法と結果の示し方(尺度の活用)	
22 研究計画書の作成	原沢 のぞみ	研究計画書作成の目的、配慮すべき事項について学ぶ	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
23 論文作成・成果発表	原沢 のぞみ	論文作成・成果発表のポイントについて学ぶ	
24 研究のクリティーク	原沢 のぞみ	量的研究についてクリティークをした結果についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う	
25 研究のクリティーク	原沢 のぞみ	質的研究についてクリティークをした結果についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う	
26 研究課題レビューセッション	後藤 喜広, 原沢 のぞみ	自己の研究課題について文献レビューを行い、プレゼンテーション、ディスカッションを行う	
27 研究課題レビューセッション	後藤 喜広, 原沢 のぞみ	自己の研究課題について文献レビューを行い、プレゼンテーション、ディスカッションを行う	

開講科目名 / Course	基礎看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2107	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	菊池 麻由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	菊池 麻由美 (専任教員)、小坂 志保 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	zoom
担当教員 /	菊池麻由美 (看護学研究科・教授) 小坂志保 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先 (教室) /	菊池麻由美 mayumi.kikuchi med.toho-u.ac.jp 小坂志保 shiho.kosaka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30-13:00	
授業概要 /	実践科学としての看護学の構造・看護の知の特徴についての理解を深めると共に、文献の検索・講読の方法を知り、論文をクリティカルに読む力を涵養する。文献検討を通して、関心のある看護現象の関連概念を整理し、自身のResearch questionを明確化する。	
到達目標 /	1. 看護学の発展過程、看護の知の特徴を捉え、関心のある看護やケアの現象を説明することができる。 2. 自分が探求しようとする課題周辺の看護現象についての文献を分析的に読むことができる。 3. 自分の実践を振り返り、自分が探求しようとする課題を明確化し、記述することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。 受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前に準備を行って参加すること。
評価方法・基準 /	課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。 評価については、授業内で講評し、課題を共有する。
フィードバック方法 /	課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する
備考(関連科目等) /	授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。 各自の臨床経験を振り返りながら、課題に取り組むことを期待する。 プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-3 看護と看護科学	菊池 麻由美, 小坂 志保	科目のオリエンテーション 看護学の発展の経緯と実践の科学としての看護学の特徴 看護学研究の研究手法 課題提示	
4-7 論文クリティークの方法	菊池 麻由美, 小坂 志保	論文クリティークの意義 論文クリティークの方法 文献の検索	
8-17 文献検索・クリティーク演習	菊池 麻由美, 小坂 志保	キーワードの決定 文献の検索 検索結果の保存と管理	
18-21 量的研究のクリティークの実際	菊池 麻由美, 小坂 志保	プレゼンテーション 討論	
22-25 質的研究（質的記述的研究）のクリティーク	菊池 麻由美, 小坂 志保	プレゼンテーション 討論	
26-27 まとめ	菊池 麻由美, 小坂 志保	論文クリティークとクリティカル・シンキング サブストラクション	

開講科目名 / Course	基礎看護学演習	
時間割コード / Course Code	G2110	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	菊池 麻由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	菊池 麻由美 (専任教員)、渡邊 奈穂 (専任教員)、小坂 志保 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Zoom
担当教員 /	菊池麻由美 (看護学研究科・教授) 小坂志保 (看護学研究科・准教授) 渡邊奈穂 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先 (教室) /	菊池麻由美 mayumi.kikuchi med.toho-u.ac.jp 小坂志保 shiho.kosaka med.toho-u.ac.jp 渡邊奈穂 naho.watanabe med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	事業開講日 13:00 ~ 17:00	
授業概要 /	看護職者の実践や経験に関する質的データの分析方法を演習する。各自の看護実践や関心に沿ってテーマを設定し、実際に調査を行い、得られたデータの分析、分析結果の報告を行うことで、課題の明確化および研究方法の修得の機会とする。	
到達目標 /	看護職者の実践や経験について実際の調査する演習を通して、各自の研究課題を明確化・言語化する。 各自の関心に沿って選択したテーマに即してデータを収集し、そのデータを分析する。 分析結果をまとめ、各自の関心に即した特定の実践や経験を記述する。 これらの演習を踏まえて、各自の研究課題に適した研究方法論を説明する。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観	

事前・事後学習とその時間 /	30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。 演習の成果を研究計画書の形でまとめる。
評価方法・基準 /	課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（20%）で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。
教科書 /	ホロウェイ ウィーラー、野口道子訳、ナースのための質的研究入門、医学書院
参考書 /	別途、提示する。
備考(関連科目等) /	授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。 各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 演習概論	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	オリエンテーション 質的なデータの分析方法と演習方法	
2-3 データ分析方法	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	質的記述の方法・GT・GTA・現象学的アプローチ	
4-6 データ作成	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	逐語録作成	
7-9 データ分析	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	データの切片化	
10-15 データ分析	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	データのコード化	
16-21 データ分析	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	データのカテゴリー化 ネーミング	
22-24 データ分析	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	俯瞰図の作成	
25-26 プレゼンテーショ	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	演習成果の報告	
27 まとめ	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	授業の総括	

開講科目名 / Course	性・生殖看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2401	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的な要素 /	ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google classroom, Zoom, PC
担当教員 /	富岡由美(看護学研究科・教授) 加藤知子(看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日10:00～11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00～13:00	
授業概要 /	ライフスタイルの各期を生きる女性の心身の健康問題について理解し、より健康的な生き方をサポートするための健康教育のあり方を追求する。女性の健康問題に関して論じられた成書から、女性の心身に関する知識を科学的に捉え、健康教育についての技術、能力を養う。講義形式とゼミナール形式で課題を基に討議しながら進める。	
到達目標 /	1. ライフサイクルの各期を生きる女性の心身の健康問題について説明できる。 2. 女性の健康的な生き方をサポートするための健康教育のあり方を具体的に述べることができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	ゼミナール形式にて課題に対する自己学習を重視する。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	講義および課題への取り組み（30%）、レポート（70%）にて総合的に評価する。 授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	レポートの内容をA,B,Cの3段階で評価し、返却する。
教科書 /	我部山キヨ子他編「助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学」医学書院・2023年（第6版） 堀内成子、片岡弥恵子編「助産学講座5 助産診断・技術学」医学書院・2026年（第7版）
参考書 /	課題に沿ってその都度提示する。
備考(関連科目等) /	授業科目に関する内容について、あらかじめ提示した資料等がある場合は目を通しておくこと。 必要に応じてリアルタイムでの遠隔授業も行う。その際は事前に連絡する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 女性のライフサイクルと健康課題	富岡 由美	科目オリエンテーション プレコンセプションケアについて	
2 女性のライフサイクルと健康課題	富岡 由美	プレコンセプションケアについて	
3 女性のライフサイクルと健康課題	富岡 由美	思春期・成熟期・老年期の女性の健康と課題	
4 女性のライフサイクルと健康課題	富岡 由美	思春期・成熟期・老年期の女性の健康と課題	
5 女性のライフサイクルと健康課題	富岡 由美	思春期・成熟期・老年期の女性の健康と課題	
6 女性のライフサイクルと健康課題	富岡 由美	思春期・成熟期・老年期の女性の健康と課題	
7 女性のライフサイクルと健康課題	富岡 由美	思春期・成熟期・老年期の女性の健康と課題	
8 女性と環境	加藤 知子	家族システムと健康	
9 女性と環境	加藤 知子	家族システムと健康支援	
10 女性と環境	加藤 知子	女性と放射線	
11 女性と環境	加藤 知子	女性と放射線	
12 女性と環境	富岡 由美	女性と住環境	
13 女性と環境	富岡 由美	女性と住環境	
14 健康教育	富岡 由美	健康教育について	
15 健康教育	富岡 由美	健康教育の実践	
16 健康教育	富岡 由美	カウンセリングの理論	
17 健康教育	富岡 由美	カウンセリングの実際	
18 健康教育	富岡 由美	思春期の健康課題：健康教育	
19 健康教育	富岡 由美	思春期の健康課題：健康教育	
20 女性への健康教育	富岡 由美	女性の健康課題：成熟期と更年期の女性の健康教育	
21 女性への健康教育	富岡 由美	女性の健康課題：成熟期と更年期の女性の健康教育	
22 思春期の健康	富岡 由美	思春期の性教育	
23 思春期の健康	富岡 由美	思春期の性教育	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
24 女性の身体活動	富岡 由美	身体活動と健康	
25 女性の身体活動	富岡 由美	妊娠期の身体活動	
26 女性の身体活動	富岡 由美	産後の身体活動	
27 まとめ	富岡 由美	講義内容のまとめを行う	

開講科目名 / Course	性・生殖看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2402	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 伏見枝莉 (看護学部・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	

オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日10:00～11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00～13:00 渡邊幸恵 毎週月曜日12:00～13:00 山本由香 毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00～13:00
授業概要 /	リプロダクティブヘルツ/ライツの理念および性と生殖に関する理論や概念について学び、周産期に関連する分野の研究内容を解釈し、専門職としての在り方について探究する。母性・助産領域における様々な健康問題に関する研究の動向やケアの在り方を考察し、女性が安全で快適な妊娠・出産を体験できるための具体的な支援方策を考える。
到達目標 /	1. 母性・助産領域における様々な身体的・心理社会的健康問題に関する研究課題を文献的に考察し、説明できる。 2. 女性が安全で快適な妊娠・出産を体験できるための支援方策を具体的に述べることができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	課題に対する授業、自己学習とプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	講義および課題への取り組み(30%)、レポート(70%)にて総合的に評価する。 授業時間数の2/3以上の出席をもって、評価の対象とする。
フィードバック方法 /	レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。
教科書 /	1) 谷津裕子「Start Up 質的看護研究」学研メディカル秀潤社・2014年(第2版)
参考書 /	随時、講義の際に提示する
備考(関連科目等) /	授業科目に関する内容について、事前に提示した資料等がある場合は、目を通しておくこと。 原則、対面形式にて実施する。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 科目オリエンテーショ	富岡 由美	周産期に関連する理論と研究	
2 女性および母子を取り巻く社会の課題	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	助産と政策	
3 女性および母子を取り巻く社会の課題	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	助産と政策	
4 女性および母子を取り巻く社会の課題	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	助産師の社会的責任と倫理	
5 女性および母子を取り巻く社会の課題	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	助産師の社会的責任と倫理	
6 女性および母子を取り巻く社会の課題	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	助産とグローバル	
7 女性および母子を取り巻く社会の課題	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	助産とグローバル	
8 女性および母子を取り巻く社会の課題	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	ジェンダーとリプロダクティブヘルス	
9 女性および母子を取り巻く社会の課題	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	ジェンダーとリプロダクティブヘルス	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
10 女性および母子を取り巻く社会の課題	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	ウイメンズヘルスにおける助産師の役割	
11 女性および母子を取り巻く社会の課題	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	ウイメンズヘルスにおける助産師の役割	
12 研究の動向	富岡 由美	生殖と健康に関する研究の動向	
13 研究の動向	富岡 由美	生殖と健康に関する研究の動向	
14 研究の動向	富岡 由美	生殖と健康に関する研究の動向	
15 研究の動向	富岡 由美	生殖と健康に関する研究の動向 国際比較	
16 研究の動向	富岡 由美	母性看護・助産活動と研究	
17 研究の動向	富岡 由美	母性看護・助産活動と研究 国際比較	
18 研究の動向	加藤 知子	母性・助産・性と生殖に関する最近の研究動向について	
19 研究の動向	渡邊 幸恵	母性・助産・性と生殖に関する最近の研究動向について	
20 研究の動向	山本 由香	母性・助産・性と生殖に関する最近の研究動向について	
21 文献検討	渡邊 幸恵	研究の文献検討の意義と方法	
22 研究課題の探求	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	研究論文クリティーク	
23 研究課題の探求	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	研究論文クリティーク	
24 研究課題の探求	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	研究論文クリティーク	
25 研究課題の探求	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	研究論文クリティーク	
26 研究課題の探求	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	研究論文クリティーク	
27 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	研究課題の明確化(発表)	

開講科目名 / Course	性・生殖看護学演習	
時間割コード / Course Code	G2403	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 伏見枝莉 (看護学部・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日 10:00 ~ 11:00 加藤知子 毎週月曜日 12:00 ~ 13:00 渡邊幸恵 毎週月曜日 12:00 ~ 13:00 山本由香 毎週月曜日 12:00 ~ 13:00 疋田仁美 毎週月曜日 12:00 ~ 13:00 伏見枝莉 毎週月曜日 12:00 ~ 13:00	

授業概要 /	母性、助産、性と生殖などの中から各自の関心のある領域やテーマの研究論文を検索し、最近の研究動向について考察する。研究論文の研究デザインや研究方法等をクリティークすることを試み、クリティークのプロセスを通じて各自が関心のある領域の課題を明確にし、自己の研究課題を考える。
到達目標 /	1. 母性、助産、性と生殖などの中から各自の関心のある領域やテーマの研究論文を検索し、最近の研究動向や話題について説明できる。 2. 研究論文の研究デザインや研究方法等を信頼性・妥当性の見地からクリティークを試みることができる。 3. クリティークのプロセスを通じて、各自が関心のある領域の課題を明確にし、自己の研究課題を述べることができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ
事前・事後学習とその時間 /	30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。 講義およびゼミナール方式。課題に対して学生各自が個人ワークをして、その内容をプレゼンテーションする。そして、発表内容に関して全員でディスカッションし、学習を深める。
評価方法・基準 /	講義およびディスカッションへの取り組み(20%)、課題のプレゼンテーション(50%)、レポート(30%)で評価する。 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 授業時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	個人ワーク、プレゼンテーションに際して、アドバイスをを行う。
教科書 /	なし
参考書 /	以下の図書が参考になる。 1) 北素子、谷津裕子「質的研究の実践と評価のためのサブストラクション」医学書院・2009年 2) 牧本清子、山川みやえ「よくわかる看護研究論文のクリティーク 研究手法別のチェックシートで学ぶ (essentials of EBP)」日本看護協会出版会・2020年(第2版) 3) D.F. ポーリット、C.T. ベック著、近藤潤子翻訳、「看護研究 原理と方法」医学書院・2010年(第2版) 4) パーンズ&グローブ 看護研究入門 評価・統合・エビデンスの生成 エルゼビア・ジャパン株式会社 2023年(原著第9版)
備考(関連科目等) /	自らの関心のあるテーマについて、基本的な知見を広めておくこと。 原則、対面にて実施する。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 科目オリエンテーショ	富岡 由美	研究の動向	
2 研究計画	加藤 知子	研究計画書の作成(量的研究)	
3 研究計画	山本 由香	研究計画書の作成(質的研究)	
4 研究計画	富岡 由美	研究倫理	
5 研究計画	富岡 由美	研究倫理	
6 研究方法	渡邊 幸恵, 加藤 知子, 山本 由香	データ収集方法	
7 研究方法	渡邊 幸恵, 加藤 知子, 山本 由香	データ収集方法	
8 研究方法	渡邊 幸恵, 加藤 知子, 山本 由香	データ収集方法	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
9 研究方法	渡邊 幸恵, 加藤 知子, 山本 由香	データ収集方法	
10 研究の分析	渡邊 幸恵, 加藤 知子, 山本 由香	データ分析	
11 研究の分析	渡邊 幸恵, 加藤 知子, 山本 由香	データ分析	
12 研究の分析	渡邊 幸恵, 加藤 知子, 山本 由香	データ分析	
13 研究の分析	渡邊 幸恵, 加藤 知子, 山本 由香	データ分析	
14 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	各自の関心領域についてのプレゼンテーション	
15 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	各自の関心領域についてのプレゼンテーション	
16 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	各自の関心領域についてのプレゼンテーション	
17 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	各自の関心領域についてのプレゼンテーション	
18 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	各自の関心領域についてのプレゼンテーション	
19 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	各自の関心領域についてのプレゼンテーション	
20 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	自己の研究課題の明確化(研究動機・背景・研究目的・研究方法等)	
21 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	自己の研究課題の明確化(研究動機・背景・研究目的・研究方法等)	
22 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	自己の研究課題の明確化(研究動機・背景・研究目的・研究方法等)	
23 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	自己の研究課題の明確化(研究動機・背景・研究目的・研究方法等)	
24 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	自己の研究課題の明確化(研究動機・背景・研究目的・研究方法等)	
25 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	自己の研究課題の明確化(研究動機・背景・研究目的・研究方法等)	
26 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	自己の研究課題の明確化(研究動機・背景・研究目的・研究方法等)	
27 研究課題の探求	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	自己の研究課題の明確化(研究動機・背景・研究目的・研究方法等)	

開講科目名 / Course	実践助産学特論	
時間割コード / Course Code	G2405	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 伏見枝莉 (看護学部・助教) 根本隆洋 (大森病院・教授) 前村由美 (前村医院・院長) 関谷秀樹 (大森病院・准教授) 長崎澄人 (大森病院・講師) 佐久間淳也 (大森病院・助教) 日色雄一 (日色鍼灸院・院長)	

科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp 根本隆洋 前村由美 関谷秀樹 長崎澄人 佐久間淳也 日色雄一 を@に置き換える。
オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日10:00～11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00～13:00 渡邊幸恵 毎週月曜日12:00～13:00 山本由香 毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00～13:00 根本隆洋 授業終了後に質問を受け付ける。 前村由美 授業終了後に質問を受け付ける。 関谷秀樹 授業終了後に質問を受け付ける。 長崎澄人 授業終了後に質問を受け付ける。 佐久間淳也 授業終了後に質問を受け付ける。 日色雄一 授業終了後に質問を受け付ける。
授業概要 /	周産期医学の変化や女性の社会的立場・意識の変化などの社会動向を踏まえて、自然の営みとしての助産の在り方を追求する。また、高度な医療に対応できる助産師の専門性を考えるとともに、助産技術を習得する。保健医療チームにおける助産師の役割や意義について考える。
到達目標 /	1、高度医療介入時に必要な検査・診断技術・医療技術を説明できる。 2、高度医療介入時の支援について説明することができる。 3、周産期に必要な口腔衛生について説明することができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	講義、ゼミ形式により進める。超音波検査、分娩時の救急処置など一部演習を含む。講義の前に、指定した学習を行うこと。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	講義および課題に対する取り組み(20%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)で総合的に評価する。 授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。レポートは講評や解説を授業内で行い、共有する。
教科書 /	日本母体救命システム普及協議会/京都産婦人科救急診療研究会 編著「J-CIMELS公認講習会ベシックコーステキスト 産婦人科必修 母体急変時の初期対応」メディカ出版・2020年(第3版) その他、必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	村越毅「術前・術中・術後のアセスメント&ケアを時系列で網羅！帝王切開バイブル」メディカ出版・2018年 その他、講義の中で指定する。

備考(関連科目等) /	原則対面形式で行う。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義をリアルタイムにて行う。 北村メンタルヘルス学術振興財団「周産期メンタルプロフェッショナル研修」の受講が可能である。
----------------	--

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 助産師に必要な高度実践能力について	富岡 由美	科目オリエンテーション 助産師に必要となる実践能力について	
2 周産期の医療介入	前村 由美	硬膜外麻酔分娩	
3 周産期の医療介入	前村 由美	硬膜外麻酔分娩	
4 周産期の医療介入	長崎 澄人	帝王切開術・吸引分娩について	
5 周産期の医療介入	長崎 澄人	帝王切開術・吸引分娩について	
6 周産期の医療介入	長崎 澄人	分娩誘発・促進分娩	
7 周産期の画像診断	長崎 澄人	骨産道・胎児超音波画像について	
8 周産期の画像診断	長崎 澄人	骨産道・胎児超音波画像について	
9 周産期の画像診断	長崎 澄人	骨産道・胎児超音波画像について	
10 周産期の画像診断	長崎 澄人	骨産道・胎児超音波画像について	
11 会陰裂傷縫合術	佐久間 淳也	会陰切開・会陰裂傷縫合術	
12 会陰裂傷縫合術	佐久間 淳也	会陰切開・会陰裂傷縫合術	
13 東洋医学	日色 雄一	助産と東洋医学	
14 東洋医学	日色 雄一	助産と東洋医学	
15 東洋医学	日色 雄一	助産と東洋医学	
16 東洋医学	日色 雄一	助産と東洋医学	
17 産科救急について	伏見 枝莉, 富岡 由美	事例(分娩期)からの臨床推論	
18 産科救急について	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩時の救急処置	
19 産科救急について	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩時の救急処置	
20 産科救急について	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩時の救急処置	
21 産科救急について	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩時の救急処置	
22 周産期のメンタルヘルス	根本 隆洋	周産期におけるメンタルヘルス	
23 周産期のメンタルヘルス	根本 隆洋	周産期の精神疾患	
24 周産期のメンタルヘルス	渡邊 幸恵	周産期におけるメンタルヘルスの支援 北村メンタルヘルス研修	
25 周産期のメンタルヘルス	渡邊 幸恵	周産期におけるメンタルヘルスの支援 北村メンタルヘルス研修	
26 周産期の口腔衛生と機能	関谷 秀樹	妊産褥婦の口腔衛生	
27 周産期の口腔衛生と機能	関谷 秀樹	乳幼児の口腔機能	

開講科目名 / Course	実践助産学演習	
時間割コード / Course Code	G2406	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 伏見枝莉 (看護学部・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日10:00～11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00～13:00 渡邊幸恵 毎週月曜日12:00～13:00 山本由香 毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00～13:00	
授業概要 /	女性が妊娠・出産・育児を主体的に自己管理できるように対象者に応じた具体的な助産ケアや支援を考察する。対象者に応じた効果的な助産ケア、保健指導の企画および実施をする。実施により、助産師としての実践能力を高める。	

到達目標 /	1、健康教育の運営や実際について述べるができる。 2、育児支援やメンタルケアについて説明できる。 3、乳房ケアの実際を学ぶことで、正確な観察とアセスメント・診断ができる。 4、妊娠糖尿病妊婦に対する栄養指導法について述べるができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ
事前・事後学習とその時間 /	演習・フィールドワークを中心に行う。事前に提示した資料を熟読し学習に参加する。 30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	演習および課題への取り組み (30%)、教育プログラムの作成 (30%)、教育プログラムの評価 (20%)、レポート (20%) で総合的に評価する。 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 授業時間の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	レポートは講評や解説を授業内で伝え、課題を共有する。
教科書 /	日本母体救命システム普及協議会 / 京都産婦人科救急診療研究会 編著「J-CIMELS公認講習会ベーシックコーステキスト 産婦人科必修 母体急変時の初期対応」メディカ出版・2020年(第3版)
参考書 /	その他、必要時に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	原則対面形式で行う。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。日本母体救命システム普及協議会 / 京都産婦人科救急診療研究会「J-CIMELS公認講習会ベーシックコース」の受講が可能である。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 科目オリエンテーション	富岡 由美	実践助産学演習の進め方、学習方法について	
2 健康教育の実際	伏見 枝莉, 加藤 知子	出産前教育：妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを見学	
3 健康教育の実際	伏見 枝莉, 加藤 知子	出産前教育：妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを見学	
4 健康教育の実際	伏見 枝莉, 加藤 知子	出産前教育：妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを作成	
5 健康教育の実際	伏見 枝莉, 加藤 知子	出産前教育：妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを作成	
6 健康教育の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	出産前教育：妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを実施	
7 健康教育の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	出産前教育：妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを実施	
8 健康教育の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	出産前教育：妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを実施	
9 健康教育の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	出産前教育：妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを実施	
10 健康教育の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	出産前教育：妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを実施	
11 健康教育の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	出産前教育：妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを実施	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
12 乳房ケア	山本 由香	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。 (ゲストスピーカー：堤式助産母乳育児相談処)	
13 乳房ケア	山本 由香	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。 (ゲストスピーカー：堤式助産母乳育児相談処)	
14 乳房ケア	山本 由香	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。 (ゲストスピーカー：堤式助産母乳育児相談処)	
15 乳房ケア	山本 由香	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。 (ゲストスピーカー：堤式助産母乳育児相談処)	
16 乳房ケア	山本 由香	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。 フィールドワーク：堤式助産母乳育児相談処	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
17 乳房ケア	山本 由香	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。 フィールドワーク：堤式助産母乳育児相談処	
18 乳房ケア	山本 由香	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。 フィールドワーク：堤式助産母乳育児相談処	
19 乳房ケア	山本 由香	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。 フィールドワーク：堤式助産母乳育児相談処	
20 産婦の栄養と食生活	伏見 枝莉, 疋田 仁美, 加藤 知子	産婦の栄養と食生活 調理演習	
21 産婦の栄養と食生活	伏見 枝莉, 疋田 仁美, 加藤 知子	産婦の栄養と食生活 調理演習	
22 産婦の栄養と食生活	伏見 枝莉, 疋田 仁美, 加藤 知子	産婦の栄養と食生活 調理演習	
23 産科救急	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美	産科危機的出血 (J-CIMELS)	
24 産科救急	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美	産科危機的出血 (J-CIMELS)	
25 産科救急	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美	産科危機的出血 (J-CIMELS)	
26 産科救急	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美	産科危機的出血 (J-CIMELS)	
27 まとめ	富岡 由美	授業のまとめを行う	

開講科目名 / Course	助産学特論	
時間割コード / Course Code	G2407	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google classroom, Zoom, PC
担当教員 /	富岡由美(看護学研究科・教授) 梅村なほみ(大森病院・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 梅村なほみ を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日10:00~11:00 梅村なほみ 授業終了後に質問を受け付ける。	
授業概要 /	妊娠・出産・育児に関わる支援だけでなく、女性の一生を通じた健康支援や社会の中での助産師の役割についても幅広く考察する。また、助産師の歴史、国内外の制度、倫理的な課題なども取り上げ、「なぜ今、助産師が必要なのか」を多角的に理解することを目指す。 授業を通じて、土台となる考え方を身につけ、自分自身がどんな助産師を目指したいかを考える機会とする。	
到達目標 /	1.助産学の対象と特徴、学問的意義を理解し説明できる。 2.助産師の役割と専門性について、制度的・歴史的背景を踏まえて説明できる。 3.女性のライフサイクルとリプロダクティブヘルスにおける助産師の支援領域を説明できる。 4.助産に関する倫理的課題や社会的責任について、助産師の立場を説明できる。 5.助産師の活動を取り巻く保健医療福祉制度との関連性を理解し、チーム医療の中での助産師の立場を述べることができる。	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	授業科目に関する内容について、あらかじめ資料を取り寄せ予習をしておくこと。 講義やグループワークそれに基づくプレゼンテーションを行う。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	講義および課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)、ディスカッション(20%)で総合的に評価する。 授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	プレゼンテーション、ディスカッションについては授業内で講評を伝え、課題の共有をする。レポートは講評・解説し、Active Academyに掲示する。授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
教科書 /	1)我部山キヨ子, 武谷雄二編「助産学講座1基礎助産学[1]助産学概論」医学書院・2022年(第6版) 2)三砂ちづる編,「科学的根拠から考える 助産の本質」南山堂・2021年(第1版)
参考書 /	必要に応じて、随時参考図書を紹介する。
備考(関連科目等) /	授業は遠隔と対面形式にて実施する。遠隔形式の場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義をリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 助産の定義	富岡 由美	科目オリエンテーション・助産の狭義・広義の定義	
2 助産の概念	富岡 由美	助産の概念(意義・助産援助のあり方) Women-Centered Careについて	
3 助産の概念	富岡 由美	助産の概念(意義・助産援助のあり方)(映像を利用した学習)	
4 助産の歴史と文化	富岡 由美	社会の変化と助産の歴史について	
5 助産の歴史と文化	富岡 由美	社会の変化と助産の歴史について	
6 助産における専門性	富岡 由美	助産師の声明、綱領について	
7 助産における専門性	富岡 由美	助産師に必要な倫理について	
8 助産師教育	富岡 由美	助産師の教育について	
9 助産師教育	富岡 由美	助産師の到達目標	
10 助産業務の基盤施策	富岡 由美	健やか親子21について、子育て世代包括支援センターについて	
11 助産業務と基盤施策	富岡 由美	母子保健施策の現状について	
12 助産師の役割と業務	富岡 由美	助産師の役割と業務について	
13 助産師の役割と業務	富岡 由美	助産所の母子保健に対する支援について	
14 助産師の役割と業務	富岡 由美	助産所の母子保健に対する支援について(フィールドワーク)	
15 助産師の役割と業務	富岡 由美	助産所の母子保健に対する支援について(フィールドワーク)	
16 助産師の役割と業務	富岡 由美	助産所の母子保健に対する支援について(フィールドワーク)	
17 助産師の役割と業務	富岡 由美	助産所の母子保健に対する支援について(フィールドワーク)	
18 性・生殖と人権	富岡 由美	リプロダクティブ・ヘルスについて	
19 性・生殖と人権	梅村 なほみ	出産に関する生命倫理	
20 性・生殖と人権	梅村 なほみ	出産に関する生命倫理	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
21 性・生殖と人権	富岡 由美	助産とインフォームド・コンセントについて	
22 母子保健統計と諸制度	富岡 由美	母子保健の諸制度	
23 母子保健統計と諸制度	富岡 由美	母子保健の諸制度	
24 助産師の役割と業務	富岡 由美	海外における助産師の役割と活動	
25 助産師の役割と業務	富岡 由美	海外における助産師の役割と活動	
26 助産師の役割と業務	富岡 由美	助産所の母子保健に対する支援について (フィールドワークを踏まえてのディスカッション)	
27 助産師の役割と業務	富岡 由美	助産所の母子保健に対する支援について (フィールドワークを踏まえてのディスカッション)	

開講科目名 / Course	助産学特論	
時間割コード / Course Code	G2408	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	加藤 知子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	加藤知子 (看護学研究科・准教授) 富岡由美 (看護学研究科・教授) 渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 中田雅彦 (大森病院・教授) 伊藤歩 (大森病院・講師) 古田雅 (大森病院・栄養部上席室長)	
科目責任者連絡先(教室) /	加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 中田雅彦 伊藤歩 古田雅 を@に置き換える。	
オフィスアワー /	加藤知子 毎週月曜日12:00~13:00 富岡由美 毎週月曜日10:00~11:00 渡邊幸恵 毎週月曜日12:00~13:00 中田雅彦 授業終了後に質問を受け付ける。 伊藤歩 授業終了後に質問を受け付ける。 古田雅 授業終了後に質問を受け付ける。	

授業概要 /	妊娠期にある対象の経過診断および健康生活診断をするために必要な知識および助産技術とその背景にある概念や理論を学ぶ。また、妊婦とその家族のセルフケア能力を促すために必要な援助方法を探求する。
到達目標 /	1、妊婦と胎児の経過を理解したうえで、助産診断を行うことができる。 2、妊婦とその家族のセルフケア能力を促すために必要な援助方法を述べることができる。 3、異常の早期発見や異常に移行しないための支援について述べることができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	講義および演習で授業を行う。 事前に提示された資料で事前学習を行い参加する。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	筆記試験(60%)、課題への取り組み(40%)で総合的に評価する。 授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	プレゼンテーション、レポートについては授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 試験については、授業内で解答の解説を行い、課題を共有する。
教科書 /	1)我部山キヨ子, 武谷雄二編「助産学講座7助産診断・技術学 [1] 妊娠期」医学書院・2021年(第6版) 2)日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2026」日本産科婦人科学会事務局・2026年 3)日本助産診断・実践研究会「実践 マタニティ診断」医学書院・2025年(第6版) 4)日本助産診断・実践学会「マタニティ診断ガイドブック」医学書院・2025年(第7版)
参考書 /	1)荒木勤, 鈴木俊治著「最新産科学 正常編 第23版」光文堂・2023年 2)荒木勤, 鈴木俊治著「最新産科学 異常編 第23版」光文堂・2023年
備考(関連科目等) /	母性看護学(妊娠期)を修得していることを前提に講義・演習を行う。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い講義を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 科目オリエンテーション・妊娠期の成立	富岡 由美	妊娠期の助産の特徴・目的、妊娠の成立、妊娠の維持	
2 妊娠経過の診断	伊藤 歩	妊娠の早期診断	
3 妊娠経過の診断	伊藤 歩	妊娠に伴う全身の変化	
4 妊娠経過の診断	伊藤 歩	妊娠に関連した検査	
5 妊娠経過の診断	中田 雅彦	母子感染症に関する検査と治療	
6 妊娠経過の診断	中田 雅彦	妊娠と薬物	
7 妊娠経過の診断	中田 雅彦	胎児の発育の診断	
8 周産期の栄養	古田 雅	周産期における栄養管理	
9 周産期の栄養	古田 雅	周産期における栄養指導の実際	
10 周産期の栄養	古田 雅	周産期における栄養指導の実際	
11 ハイリスク妊娠の診断	中田 雅彦	ハイリスク妊娠の検査と診断	
12 ハイリスク妊娠の診断	中田 雅彦	ハイリスク妊娠の治療	
13 ハイリスク妊娠の診断	中田 雅彦	異常の早期発見と予防	
14 ハイリスク妊娠の診断	中田 雅彦	異常の早期発見と予防	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
15 妊娠期のフィジカルアセスメント	加藤 知子	妊婦の健康診査 妊娠の診断・経過診断	
16 妊婦への支援	加藤 知子	妊婦の日常生活におけるケア・保健指導	
17 妊婦への支援	加藤 知子	心理・社会的支援 妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア	
18 ハイリスク妊婦の支援	渡邊 幸恵	ハイリスク妊婦のアセスメント	
19 ハイリスク妊婦の支援	渡邊 幸恵	ハイリスク妊婦のアセスメント	
20 ハイリスク妊婦の支援	渡邊 幸恵	ハイリスク妊婦の助産診断	
21 ハイリスク妊婦の支援	渡邊 幸恵	ハイリスク妊婦の助産診断	
22 ハイリスク妊婦の支援	渡邊 幸恵	ハイリスク妊婦の助産診断	
23 妊婦の助産過程	加藤 知子	ローリスク妊婦の助産診断とケア	
24 妊婦の助産過程	加藤 知子	ローリスク妊婦の助産診断とケア	
25 妊婦の助産過程	加藤 知子	ローリスク妊婦の助産診断とケア	
26 妊婦の助産過程	加藤 知子	ローリスク妊婦の助産診断とケア	
27 まとめ	加藤 知子	助産過程についてプレゼンテーションとディスカッション	

開講科目名 / Course	助産学特論	
時間割コード / Course Code	G2409	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	渡邊 幸恵	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 富岡由美 (看護学研究科・教授) 中田雅彦 (大森病院・教授) 長崎澄人 (大森病院・講師) 伊藤歩 (大森病院・講師) 佐久間淳也 (大森病院・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 中田雅彦 長崎澄人 伊藤歩 佐久間淳也 を@に置き換える。	
オフィスアワー /	渡邊幸恵 毎週月曜日12:00~13:00 富岡由美 毎週月曜日10:00~11:00 中田雅彦 授業終了後に質問を受け付ける。 長崎澄人 授業終了後に質問を受け付ける。 伊藤歩 授業終了後に質問を受け付ける。 佐久間淳也 授業終了後に質問を受け付ける。	

授業概要 /	分娩期の助産診断に必要な産科学をはじめ、分娩の3要素が分娩進行に与える影響と、3要素の相互関係について理解を深め、助産診断に必要な理論を習得できるよう進める。また、産婦とその家族に対し、分娩各期の具体的ケアについて教授する。
到達目標 /	1、分娩の機序やフィジカルアセスメント法を理解したうえで助産過程を展開することができる。 2、助産診断のもと、産婦とその家族に対して安全で適切な援助の方法を述べることができる。 3、分娩時の異常や産科救急の処置について述べるができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	講義および提示した課題に対しプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。事前に提示した課題を行い、講義に参加すること。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	筆記試験(60%)、課題への取り組み(40%)で総合的に評価する。 授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	課題については授業内で講評し返却する。グループワークは授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 試験については、授業内で解答に対する解説を行う。
教科書 /	1)我部山キヨ子, 藤井知行編「助産学講座7助産診断・技術学 [2] 分娩期・産褥期」医学書院・2026年(第7版) 2)日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2026」日本産科婦人科学会事務局・2026年 3)日本助産診断・実践研究会「実践 マタニティ診断」医学書院・2025年(第6版) 4)日本助産診断・実践学会「マタニティ診断ガイドブック」医学書院・2025年(第7版)
参考書 /	1) 進純郎/堀内成子「正常分娩の助産術トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」医学書院・2010年 2) 町浦美智子「助産学実習プレブック 助産過程の思考プロセス」医歯薬出版株式会社・2024年(2024年) 3) THE 分娩 ビジュアルで学ぶ生理学・助産診断・分娩介助のすべて メディカ出版・2021年
備考(関連科目等) /	母性看護学(分娩期)の復習をして臨むこと。 講義は対面と遠隔で行い、事前に通知をする。遠隔形式の場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 分娩の定義、分娩の3要素	富岡 由美	科目オリエンテーション 分娩3要素について(娩出力・娩出物・産道)	
2 分娩の3要素	富岡 由美	分娩3要素について(娩出力・娩出物・産道)	
3 分娩の機序	渡邊 幸恵	陣痛発来から分娩終了までの機序	
4 分娩の機序	渡邊 幸恵	陣痛発来から分娩終了までの機序	
5 分娩の機序	渡邊 幸恵	陣痛発来から分娩終了までの機序	
6 分娩経過	渡邊 幸恵	産婦の健康診査と胎児の健康診査	
7 分娩経過	渡邊 幸恵	産婦の健康診査と胎児の健康診査	
8 分娩経過	渡邊 幸恵	産婦の健康診査と胎児の健康診査	
9 分娩経過	渡邊 幸恵	産婦の健康診査と胎児の健康診査	
10 分娩期の異常	長崎 澄人	分娩3要素の異常	
11 分娩期の異常	長崎 澄人	分娩3要素の異常	
12 分娩時の異常	佐久間 淳也	分娩に伴う偶発疾患・合併症	
13 分娩時の異常	佐久間 淳也	分娩に伴う偶発疾患・合併症	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
14 分娩時の異常	中田 雅彦	産科救急（産科出血・産科ショック）	
15 分娩時の異常	中田 雅彦	産科救急（産科出血・産科ショック）	
16 分娩経過の診断	伊藤 歩	CTGの判読	
17 分娩経過の診断	伊藤 歩	CTGの判読	
18 分娩経過の診断	渡邊 幸恵	分娩期の診断と経過予測	
19 分娩経過の診断	渡邊 幸恵	分娩期の診断と経過予測	
20 分娩期の助産過程	渡邊 幸恵	分娩期の助産診断とケア	
21 分娩期の助産過程	渡邊 幸恵	分娩期の助産診断とケア	
22 分娩期の助産過程	渡邊 幸恵	分娩期の助産診断とケア	
23 分娩期の助産過程	渡邊 幸恵	分娩期の助産診断とケア	
24 分娩期の助産過程	渡邊 幸恵	分娩期の助産診断とケア	
25 分娩期の助産過程	渡邊 幸恵	分娩期の助産診断とケア	
26 分娩期の助産過程	渡邊 幸恵	分娩期の助産診断とケア	
27 まとめ	渡邊 幸恵	授業内容のまとめ	

開講科目名 / Course	助産学特論	
時間割コード / Course Code	G2410	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	山本 由香	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	山本由香 (看護学研究科・講師) 富岡由美 (看護学研究科・教授) 野田玲穂 (大森病院・助産師) 杜裕美 (大森病院・助産師)	
科目責任者連絡先(教室) /	山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 野田玲穂 杜裕美 を@に置き換える。	
オフィスアワー /	山本由香 毎週月曜日12:00~13:00 富岡由美 毎週月曜日10:00~11:00 野田玲穂 授業終了後に質問を受け付ける。 杜裕美 授業終了後に質問を受け付ける。	
授業概要 /	産褥期にある対象を身体的、心理的、社会的、さらに生活という視点を含めて助産診断を行い、助産過程を展開する。また、産褥期にある女性やその家族に対する助産ケア・健康相談・教育活動ができる能力を養う。	
到達目標 /	1.産褥期にある女性の身体的、心理的、社会的変化を理解し、産褥期の女性及び家族のアセスメントを行い、根拠に基づく助産過程を展開できる。 2.産褥期にある女性やその家族に対する健康相談・教育・支援の計画立案ができる。	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。 なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。
評価方法・基準 /	筆記試験(60%)、課題への取り組み(40%)で総合的に評価する。 授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	助産過程・保健指導案については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 試験については、授業内で解答に対する解説を行う。
教科書 /	1)我部山キヨ子、藤井知行編「助産学講座7助産診断・技術学 [2] 分娩期・産褥期」医学書院・2025年(第7版) 2)日本助産診断・実践学会「マタニティ診断ガイドブック」医学書院・2025年(第7版) 3)日本助産診断・実践学会編「実践マタニティ診断」医学書院・2025年(第6版) 4)日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2026」日本産科婦人科学会事務局・2026年
参考書 /	随時紹介する
備考(関連科目等) /	母性看護学(産褥期)を修得していることを前提に講義・演習を行う。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 分娩後2時間までの経過とケア	富岡 由美, 山本 由香	科目オリエンテーション 分娩後2時間までの助産診断とケア	
2 分娩後2時間までの経過とケア	山本 由香	分娩後2時間までの助産診断とケア	
3 産褥期の生殖器の解剖・生理	山本 由香	生殖器と他臓器との位置関係・血管の走行、ホルモン	
4 産褥期の乳房の解剖・生理	山本 由香	乳房の解剖と他臓器との位置関係・血管とリンパの走行、ホルモン	
5 産褥期の社会・心理(女性)	山本 由香	産褥期の女性の社会・心理の特徴	
6 産褥期の社会・心理(家族)	山本 由香	産褥期の家族の心理	
7 産褥期の異常とケア	山本 由香	産褥期の異常とケア(身体)	
8 産褥期の異常とケア	山本 由香	産褥期の異常とケア(精神)	
9 不快症状の緩和のためのケア	山本 由香	不快症状の緩和のためのケア	
10 母親役割獲得過程と支援	山本 由香	母親役割獲得過程と支援	
11 グリーフケア	山本 由香	グリーフケアとは	
12 グリーフケア	山本 由香	対象の理解	
13 産後2週間健康診査	山本 由香	産後2週間健康診査での診断と支援	
14 産後1か月の健康診査	山本 由香	産後1か月の健康診査での診断と支援	
15 産褥期の助産診断とケア	山本 由香	事例の紹介	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
16 産褥期の助産診断とケア助産過程の展開	山本 由香	経過診断と支援	
17 産褥期の助産診断とケア助産過程の展開	山本 由香	日常生活行動/社会心理状態の診断と支援	
18 産褥期の助産診断とケア助産過程の展開	山本 由香	育児（母乳）の診断と支援	
19 産褥期の助産診断とケア助産過程の展開	山本 由香	助産過程の展開の発表	
20 乳房管理	野田 玲穂	ラクテーションコンサルタント（新生児の立場から）	
21 乳房管理	野田 玲穂	ラクテーションコンサルタント（新生児の立場から）	
22 乳房管理	杜 裕美	ラクテーションコンサルタント（母の立場から）	
23 乳房管理	杜 裕美	ラクテーションコンサルタント（母の立場から）	
24 産後の保健指導	山本 由香	産後の保健指導の概要	
25 産後の保健指導（個別性のある退院指導）	山本 由香	産後の保健指導案の立案	
26 産後の保健指導	山本 由香	産後の保健指導案の発表	
27 まとめ	山本 由香	講義のまとめをおこなう	

開講科目名 / Course	助産学特論	
時間割コード / Course Code	G2411	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	加藤 知子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom , Zoom , PC
担当教員 /	加藤知子 (看護学研究科・准教授) 伏見枝莉 (看護学部・助教) 増本健一 (大森病院・准教授) 西田朋子 (大森病院・師長補佐)	
科目責任者連絡先(教室) /	加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp 増本健一 西田朋子 を@に置き換える。	
オフィスアワー /	加藤知子 毎週月曜日 : 12:00 ~ 13:00 伏見枝莉 毎週月曜日 : 12:00 ~ 13:00 増本健一 授業終了後に質問を受け付ける。 西田朋子 授業終了後に質問を受け付ける。	
授業概要 /	新生児の生理的特徴および成長発達の過程、その逸脱状態について理解し、的確に助産診断ができる能力を養う。新生児の正常な成長発達を促進していくための助産診断・ケアから母親や家族に対する支援についても追求する。 また、出生直後の緊急時の対応が習得できるように教授する。	

到達目標 /	1. 新生児期の生理的特徴や成長発達過程を理解し、新生児のフィジカルアセスメントを実施し、根拠に基づく助産過程を展開できる。 2. 新生児の胎外生活の適応からの逸脱状態をアセスメントし、必要なケアを述べることができる。 3. 新生児蘇生をモデルで実施できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。 なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。
評価方法・基準 /	筆記試験(60%)、課題への取り組み(40%)で総合的に評価する。 授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	助産過程・保健指導案については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 試験については結果を提示し、設問について解説する。
教科書 /	1) 仁志田博司「新生児学入門第」医学書院・2018年(第5版) 2) 田村正徳「日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト」メジカルビュー社・2026年(第5版) 3) 日本助産診断・実践学会編「マタニティ診断ガイドブック」医学書院・2025年(第7版) 4) 日本助産診断・実践学会編「実践マタニティ診断」医学書院・2025年(第6版) 5) 石井郁子, 廣間武彦編「助産学講座8助産診断・技術学 [3]新生児期・乳幼児期」医学書院・2021年(第6版) 6) 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2026」日本産科婦人科学会事務局・2026年
参考書 /	随時、参考図書を紹介する。
備考(関連科目等) /	新生児蘇生法Aコースの認定取得が可能である。 母性看護学(新生児期)を修得していることを前提に講義・演習を行う。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い講義を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 科目オリエンテーション・新生児の解剖・生理	加藤 知子	新生児の分類、出生直後の生理的特徴	
2 新生児の解剖・生理	加藤 知子	呼吸・循環	
3 生後24時間以内の新生児の助産診断	伏見 枝莉, 加藤 知子	新生児期の助産ケアの特徴、胎外環境への適応と成長・成熟	
4 生後24時間以内の新生児への支援	伏見 枝莉, 加藤 知子	胎外環境への適応への支援	
5 生後24時間以内の新生児への支援	伏見 枝莉, 加藤 知子	成長発達への支援	
6 生後24時間以降の新生児の助産診断	伏見 枝莉, 加藤 知子	胎外環境への適応と成長・成熟	
7 生後24時間以降の新生児への支援	伏見 枝莉, 加藤 知子	成長発達への支援	
8 生後24時間以内の新生児(異常)の助産診断	西田 朋子	正常から逸脱の診断	
9 生後24時間以降の新生児(異常)の助産診断	西田 朋子	正常から逸脱している児へのケア	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
10 正常からの逸脱及び異常な状態への支援	西田 朋子	低出生体重児（早期産児）へのケア	
11 正常からの逸脱及び異常な状態への支援	西田 朋子	家族へのケア	
12 新生児の助産過程	伏見 枝莉, 加藤 知子	事例紹介	
13 新生児の助産過程	伏見 枝莉, 加藤 知子	新生児の助産過程の展開	
14 新生児の助産過程	伏見 枝莉, 加藤 知子	新生児の助産過程の展開	
15 新生児の助産過程	伏見 枝莉, 加藤 知子	新生児の助産過程の発表	
16 新生児に関する保健指導	伏見 枝莉, 加藤 知子	保健指導案の立案（沐浴・啼泣・生理）	
17 新生児に関する保健指導	伏見 枝莉, 加藤 知子	保健指導案の立案（沐浴・啼泣・生理）	
18 新生児の異常	増本 健一	新生児医療の現状	
19 新生児の異常	増本 健一	低出生体重児（早期産児）に起こりやすい異常（病態・生理）	
20 新生児の異常	増本 健一	呼吸器・循環器・神経・代謝異常	
21 新生児の異常	増本 健一	ハイリスク妊娠によって出生した新生児、多胎児	
22 新生児救急蘇生法	加藤 知子	新生児救急蘇生法	
23 新生児救急蘇生法	加藤 知子	新生児救急蘇生法	
24 新生児救急蘇生法	加藤 知子	新生児救急蘇生法	
25 新生児救急蘇生法	加藤 知子	新生児救急蘇生法	
26 新生児救急蘇生法	加藤 知子	新生児救急蘇生法	
27 まとめ	加藤 知子	講義内容のまとめを行う	

開講科目名 / Course	助産学演習	
時間割コード / Course Code	G2415	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	渡邊 幸恵	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 伏見枝莉 (看護学部・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	渡邊幸恵 毎週月曜日12:00~13:00 富岡由美 毎週月曜日10:00~11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00~13:00 山本由香 毎週月曜日12:00~13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00~13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00~13:00	
授業概要 /	妊娠期・産褥期・新生児期の助産診断に不可欠な診断技術および援助技術の演習を行い、その技術の習得を目指す。	

到達目標 /	1. 妊娠期にある健康な母子に対するヘルスアセスメント技術を学び、安全・安楽に妊婦に提供することができる。 2. 産褥期・新生児期にある対象に対する助産ケアの知識・診断技術を学び、演習で実施することができる。 3. 周産期において対象が正常な経過をたどるために必要な保健指導案を立案することができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽
事前・事後学習とその時間 /	実習室における演習、産婦人科外来における演習、グループワーク、個人ワークなどを行う。 30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	演習への取り組み(30%)、教育プログラムの作成(30%)、教育プログラムの発表(20%)、OSCE(20%)で評価する。 授業時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	授業内で講評を伝え、課題を共有する
教科書 /	1)我部山キヨ子, 武谷雄二編「助産学講座6助産診断・技術学 [1] 妊娠期 医学書院・2021年(第6版) 2)我部山キヨ子, 藤井知行編「助産学講座7助産診断・技術学 [2] 分娩期・産褥期 医学書院・2026年(第7版) 3)石井邦子・廣間武彦編「助産学講座8助産診断・技術学 [3] 新生児・乳幼児期 医学書院・2021年(第6版)
参考書 /	1)藤森敬也「改訂4版 胎児心拍数モニタリング講座 大事なサインは見逃さない」メディカ出版・2021年 2)中井章人「図説CTGテキスト助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)レベル 認証必須研修CTGテキスト」メジカルビュー社・2016年 3)我部山キヨ子「助産師のためのフィジカルイグザミネーション: アセスメント力を磨く」医学書院・2018年
備考(関連科目等) /	技術の習得に向け、主体的に取り組むことを期待する。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 妊娠期に必要な援助技術	富岡 由美	科目オリエンテーション 妊婦健康診査に必要な技術(フィジカルエグザミネーションを含む)	
2 妊娠期に必要な援助技術	富岡 由美	妊婦健康診査に必要な技術(フィジカルエグザミネーションを含む)	
3 妊娠期の健康診査	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	妊婦健康診査(技術チェック)	
4 妊娠期の健康診査	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	妊婦健康診査(技術チェック)	
5 妊娠期の健康診査	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	妊婦健康診査(技術チェック)	
6 助産外来の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	産科外来における演習	
7 助産外来の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	産科外来における演習	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
8 助産外来の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	産科外来における演習	
9 妊娠期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	妊婦への保健指導案の作成 (貧血、妊娠高血圧症候群予防等)	
10 妊娠期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	妊婦への保健指導案の作成 (貧血、妊娠高血圧症候群予防等)	
11 妊娠期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	妊婦への保健指導案の作成 (貧血、妊娠高血圧症候群予防等)	
12 妊娠期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	妊婦への保健指導の発表 (貧血、妊娠高血圧症候群予防等)	
13 妊娠期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	妊婦への保健指導の発表 (貧血、妊娠高血圧症候群予防等)	
14 産褥期・新生児期の健康診査	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	産褥期のヘルスアセスメント (OSCE)	
15 産褥期・新生児期の健康診査	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	産褥期のヘルスアセスメント (OSCE)	
16 産褥期・新生児期の健康診査	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	新生児期のヘルスアセスメント (OSCE)	
17 産褥期・新生児期の健康診査	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	新生児期のヘルスアセスメント (OSCE)	
18 産褥期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	褥婦への保健指導案の作成 (家族計画、産後の運動等に関する保健指導)	
19 産褥期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	褥婦への保健指導案の作成 (家族計画、産後の運動等に関する保健指導)	
20 産褥期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	褥婦への保健指導案の作成 (家族計画、産後の運動等に関する保健指導)	
21 産褥期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	褥婦への保健指導の発表 (家族計画、産後の運動等に関する保健指導)	
22 産褥期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	褥婦への保健指導の発表 (家族計画、産後の運動等に関する保健指導)	
23 新生児期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	新生児の保健指導案の作成 (日々の観察とケアに関する保健指導)	
24 新生児期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	新生児の保健指導案の作成 (日々の観察とケアに関する保健指導)	
25 新生児期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	新生児の保健指導案の作成 (日々の観察とケアに関する保健指導)	
26 新生児期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	新生児の保健指導の発表 (日々の観察とケアに関する保健指導)	
27 新生児期における保健指導	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	新生児の保健指導の発表 (日々の観察とケアに関する保健指導)	

開講科目名 / Course	助産学演習	
時間割コード / Course Code	G2416	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	渡邊 幸恵	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	グループワーク、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google classroom , zoom , PC
担当教員 /	渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 伏見枝莉 (看護学部・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	渡邊幸恵 毎週月曜日12:00~13:00 富岡由美 毎週月曜日10:00~11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00~13:00 山本由香 毎週月曜日12:00~13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00~13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00~13:00	

授業概要 /	演習を通して分娩介助技術の習得を目指す。診療ガイドライン及び科学的根拠に基づいた安全で安楽な分娩介助技術を探求し、対象者へ提供できる技術レベルに達するまで鍛錬を重ねていく。
到達目標 /	1. 産婦及び家族に対して、安全で安楽な助産の実践に必要な分娩介助技術を原理原則に基づいて実施できる。 2. 分娩期に必要なとされる産痛緩和技術や呼吸法などの具体的なケア方法を理解し、安全安楽な方法で実施できる。 3. 分娩期の医療介入時（帝王切開術前後、無痛分娩）の支援について述べるができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 （看護学研究科） /	（DP1）知識・技能と課題解決力、（DP2）共生型リーダーシップ、（DP3）社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	事前に配布する分娩介助の動画を何度も視聴してから授業に参加すること。 技術演習および、課題を提示した学生のプレゼンテーションとディスカッションによって進める。 対面形式にて実施する。 30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	演習への取り組み（20%）、OSCE（80%）で、総合的に評価する。 演習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	授業内で講評を伝え、課題を共有する。
教科書 /	1) 我部山キヨ子, 武谷雄二編「助産学講座7 助産診断・技術学 [2] 分娩期・産褥期」医学書院・2026年(第7版) 2) 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン産科編2026」日本産科婦人科学会事務局・2026年
参考書 /	1) 進純郎 / 堀内成子「正常分娩の助産術トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」医学書院・2010年 2) 進純郎「分娩介助学」医学書院・2014年（第2版） 3) 村上明美「DVDで学ぶ開業助産師の「わざ」仰臥位分娩介助」医歯薬出版株式会社・2009年
備考(関連科目等) /	女性生殖器の構造の復習、分娩の機序および分娩経過の診断に必要な知識の復習（助産学特論）をしておくこと。 演習前に基礎看護技術（滅菌操作・手洗い・ガウンテクニック・導尿）の方法の復習をしておくこと。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。 演習時間以外にも分娩介助技術の自己学習・練習をすること

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 分娩介助技術	渡邊 幸恵	科目オリエンテーション 分娩介助の意義、分娩介助の基本姿勢、分娩室の環境調整	
2 分娩介助技術	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助者の準備、間接介助者の役割	
3 産婦への支援の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩期のケア 呼吸法・産痛緩和・リラクゼーション法	
4 産婦への支援の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩期のケア 分娩促進・呼吸法の誘導	
5 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術（分娩室の準備、分娩介助者の準備）	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
6 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(清潔野の作成)	
7 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(清潔野の作成)	
8 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(清潔野の作成)	
9 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(肛門保護、会陰保護、児娩出)	
10 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(肛門保護、会陰保護、児娩出)	
11 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(肛門保護、会陰保護、児娩出)	
12 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(臍帯切断、胎盤娩出から分娩第4期まで)	
13 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(臍帯切断、胎盤娩出から分娩第4期まで)	
14 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(準備から分娩第4期まで)	
15 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(準備から分娩第4期まで)	
16 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(準備から分娩第4期まで)	
17 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	内診、人工破膜	
18 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	導尿、分娩第4期のケア	
19 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	胎児付属物の検査と計測	
20 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(OSCE)	
21 分娩介助法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(OSCE)	
22 分娩介助技法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(OSCE)	
23 分娩介助技法の実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	分娩介助技術(OSCE)	
24 周産期の医療介入時の支援	伏見 枝莉, 富岡 由美	硬膜外麻酔分娩の支援 帝王切開術前後の支援	
25 周産期の医療介入時の支援	伏見 枝莉, 富岡 由美	硬膜外麻酔分娩の支援 帝王切開術前後の支援	
26 周産期の医療介入時の支援	富岡 由美, 疋田 仁美	硬膜外麻酔分娩の支援 無痛分娩時の支援	
27 周産期の医療介入時の支援	富岡 由美, 疋田 仁美	硬膜外麻酔分娩の支援 無痛分娩時の支援	

開講科目名 / Course	助産学実習	
時間割コード / Course Code	G2417	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	渡邊 幸恵	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	実習	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 伏見枝莉 (看護学部・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	渡邊幸恵 毎週月曜日12:00~13:00 富岡由美 毎週月曜日10:00~11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00~13:00 山本由香 毎週月曜日12:00~13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00~13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00~13:00	
授業概要 /	妊娠期から受け持ち、直接分娩介助を経て、産褥期の母子の助産ケア、産後の家庭訪問等、産後6か月まで継続的な支援を行う。	

到達目標 /	1. 正常な経過をたどる妊婦と家族を受け持ち、妊娠期、分娩期、産褥期、育児期、新生児期、乳児期の各期において助産過程を展開し、産後6か月まで継続して個別性を踏まえたケアを実施できる。 2. 妊産褥婦とその家族に対して個別性を踏まえた保健指導を実施できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	妊娠、産褥、新生児期のケア計画および指導案の準備をしておくこと。 (詳細は実習要項参照)
評価方法・基準 /	実習態度(30%)、実習記録(50%)、カンファレンス(10%)、実習評価表(10%)で総合的に評価する。 実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	なし
参考書 /	随時、参考書を紹介する。
備考(関連科目等) /	助産学特論 ~、助産学演習、の単位を修得見込みであること。 原則、すべて臨地で実習を行う

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
-----	------	---------	----

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 実習概要	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	<p>正常な経過をたどる対象を受け持ち、妊娠期・分娩期・産褥期・育児期・新生児期・乳児期において対象に助産過程を展開し、産後6か月まで継続して対象とその家族に適切なケアを実施する。</p> <p>1.妊娠期 1) 妊婦健康診査に参加し、助産過程を展開し、診断技術を用いて助産診断を行う。 2) 助産計画に基づいて、予測的かつ経過に応じた相談・教育・ケアを行う。 3) 妊婦への個別指導計画を立案し実施する。</p> <p>2.分娩期 1) 助産過程を展開し、分娩期のケアを行う。 2) 産婦の安全安楽を考えた分娩介助を行う。</p> <p>3.産褥期・新生児期・育児期・乳児期 1) 産褥入院中の褥婦および新生児の助産過程を展開し、ケアを実施するとともに個別指導計画を立案し、保健指導を行う。 2) 退院後～1か月健診までの間に家庭訪問を行う。 3) 家族計画の個別指導計画を立案し、産後1か月健診で家族計画指導を実施する。 4) 産後2～3か月及び6か月頃に家庭訪問を行い、対象を取り巻く環境および生活状況を理解し、助産過程に基づいて母親とその家族に対してケアを実施する。</p>	
2 実習施設		<p>実習施設は、以下の周産期医療施設とする。</p> <p>東邦大学医療センター 大森病院</p>	

開講科目名 / Course	助産学実習	
時間割コード / Course Code	G2418	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	渡邊 幸恵	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	実習	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	タブレット端末、Google Classroom、Zoom、PC
担当教員 /	渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 伏見枝莉 (看護学部・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	渡邊幸恵 毎週月曜日12:00~13:00 富岡由美 毎週月曜日10:00~11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00~13:00 山本由香 毎週月曜日12:00~13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00~13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00~13:00	

授業概要 /	正常分娩の直接介助・間接介助、帝王切開事例、吸引・鉗子分娩事例、胎児・新生児仮死、などのリスク事例や無痛分娩等について経験する。
到達目標 /	1. 分娩期の産婦と胎児に、助産診断と助産技術を用いて安全で安楽な分娩介助が実施できる。 2. 正常か否かの診断やリスク状態にある母子へのケアを対象に助産過程を用いて適切な助産ケアが実施できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	1. 実習施設は、東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター佐倉病院、大森赤十字病院、前村医院、瀬尾医院とする。*詳細は実習要項参照 2. 助産過程における助産診断や助産計画、直接・間接分娩介助の評価等は、所定の記録用紙を用いて展開し、終了後まとめて速やかに提出する。
評価方法・基準 /	実習態度(20%)、実習記録(40%)、カンファレンス(20%)、実習評価表(20%)で総合的に評価する。 実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	1) 我部山キヨ子、武谷雄二編「助産学講座7助産診断・技術学 [2] 分娩期・産褥期」医学書院・2026年(第7版) 2) 日本助産診断・実践研究会編「マタニティ診断」医学書院・2025年(第6版)
参考書 /	随時、参考書を紹介する。
備考(関連科目等) /	分娩介助技術の復習をすること。 助産学特論 ~ 、助産学演習 ~ の単位を修得見込みであること。 すべて臨地で実習を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 実習概要	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	母体・胎児共に妊娠期を正常に経過した、分娩期の産婦を受け持つ。助産診断のための母体・胎児の情報収集・アセスメントを行い、個別性に応じた分娩各期の助産計画を立案する。 1. 助産過程の展開 2. 実践内容 産婦のケア、分娩の直接介助、分娩から分娩第4期のケアの実施、間接介助、胎盤計測、新生児のケア、産褥期・新生児期の助産過程展開、正常逸脱に対する対処、周産期医療チームの連携	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
2 実習施設		<p>実習施設は以下の周産期医療施設とする。</p> <p>東邦大学医療センター 大森病院 東邦大学医療センター 佐倉病院 大森赤十字病院 前村医院 瀬尾医院</p>	

開講科目名 / Course	臨床看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2551	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	原沢 のぞみ	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	佐藤 由紀子 (専任教員)、原沢 のぞみ (専任教員)、申 于定 (専任教員)、山中 源治 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	ZOOM、PC
担当教員 /	原沢のぞみ (看護学研究科・教授)、山中源治 (看護学研究科・准教授)、佐藤由紀子 (看護学研究科・講師)、申 于定 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先 (教室) /	原沢のぞみ nozomi.harasawa med.toho-u.ac.jp、山中源治 motoharu.nakayama med.toho-u.ac.jp、佐藤由紀子 yukiko.sato med.toho-u.ac.jp、申于定 ujon.shin med.toho-u.ac.jp を@に置き換える	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:45 13:00	
授業概要 /	臨床で活用されている看護理論の構成要素、理論の枠組み、理論の有効性と限界について説明することができる。	
到達目標 /	臨床看護学領域で活用できる理論・概念について学び、看護における有用性を説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	授業への取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート40%で評価する。評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。	

フィードバック方法 /	講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。
教科書 /	参考文献は、開講時に提示する。
参考書 /	参考文献は、開講時に提示する。
備考(関連科目等) /	対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 - 2 ガイダンス	原沢 のぞみ	オリエンテーション	
3 - 6 臨床看護学の特徴	原沢 のぞみ	臨床看護学の本質 看護師の役割	
7 - 10 臨床看護学に有用な理論・概念 (発達の理解)	原沢 のぞみ	ライフサイクル理論 発達理論・役割理論	
11 - 14 臨床看護学に有用な理論・概念 (対象の理解)	原沢 のぞみ	人間関係論 セルフケア理論・ニード理論	
15 - 18 臨床看護学に有用な理論・概念 (危機状態の理解)	山中 源治	危機理論 ストレス理論・コーピング理論	
19 - 22 臨床看護学に有用な理論・概念 (喪失体験の理解)	山中 源治	自己概念・自尊感情 ボディイメージ 障害の受容過程	
23 - 24 臨床看護学に有用な理論・概念 (慢性状況の理解)	申 于定	病みの軌跡 不確かさ	
25 - 27 臨床看護学に有用な理論・概念 (家族の理解)	佐藤 由紀子	家族アセスメント 家族看護	

開講科目名 / Course	臨床看護学演習	
時間割コード / Course Code	G2554	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	原沢 のぞみ	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	原沢 のぞみ (専任教員)、山中 源治 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	ZOOM、PC
担当教員 /	原沢のぞみ (看護学部・教授)、山中源治 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	原沢のぞみnozomi.harasawa med.toho-u.ac.jp、山中源治motoharu.nakayama med.toho-u.ac.jp	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45 - 13:00	
授業概要 /	フィールドワークのプロセスを通して、研究の意義について説明できる。研究テーマに基づいた研究計画を作成できる。研究を遂行する上での自己の課題を述べることができる。	
到達目標 /	各自が立案したフィールドワークを通して研究テーマの妥当性を説明できる。フィールドワークの結果をもとに研究計画書を作成できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	フィールドワーク実施レポート40%、プレゼンテーション40%、ディスカッション20%によって授業展開する。 課題レポートの評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。	
フィードバック方法 /	講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。	

教科書 /	参考文献は、開講時に提示する。
参考書 /	参考文献は、開講時に提示する。
備考(関連科目等) /	対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 - 2 ガイダンス	原沢 のぞみ	オリエンテーション	
3 - 6 フィールドワーク演習	原沢 のぞみ, 山中 源治	フィールドワークの実際	
7 - 10 フィールドワーク演習	原沢 のぞみ, 山中 源治	フィールドワークの実際	
11 - 14 フィールドワーク演習	原沢 のぞみ, 山中 源治	フィールドワークの実際	
15 - 18 フィールドワーク演習	原沢 のぞみ, 山中 源治	フィールドワークの実際	中間評価
19 - 22 フィールドワーク演習	原沢 のぞみ, 山中 源治	フィールドワークの実際	
23 - 25 フィールドワーク演習	原沢 のぞみ, 山中 源治	フィールドワークの実際	課題の抽出
26 - 27 フィールドワーク演習	原沢 のぞみ, 山中 源治	フィールドワークの実際	課題の明確化

開講科目名 / Course	がん看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2601	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 成光	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM
担当教員 /	小林成光(看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	masamitsu.kobayashi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00	
授業概要 /	がん看護を实践するうえでの基盤となる諸理論の基礎的概念を教授する。諸理論の概念枠組みを用いた事例検討を通して概念の实践への応用を検討し、看護实践・研究・教育の視点をふまえた分析や考察からがん患者・家族に対する看護援助の方略を探求する。	
到達目標 /	1. がん看護を实践するうえでの基盤となる諸理論の基礎的概念を学び、諸理論の概念枠組みを説明できる。 2. 事例検討を通して概念の实践への応用方法を具体的に述べることができる。 3. 諸理論の臨床での応用について、看護实践・研究・教育の視点をふまえて分析・考察し、がん患者および家族に対する看護援助の方略を述べることができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連(看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	1. 課題文献について抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。 2. 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。	

評価方法・基準 /	文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってonlineを用いたりリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 オリエンテーション	小林 成光		
3-5 セルフエフィカシー	小林 成光	セルフエフィカシーの理論の理解と実践への活用 事前課題：Self-efficacy: Toward a Unifying Theory of Behavioral Changeを読み資料にまとめる	
6-8 ストレス・コーピング理論	小林 成光	ストレス・コーピング理論の理解と実践への活用 事前課題：Stress, Appraisal and Copingを読み資料にまとめる	
9-11 危機理論	小林 成光	危機理論の理解と実践への活用 事前課題：Crisis and Motivation: A Theoretical Modelを読み資料にまとめる	
12-14 セルフケア理論	小林 成光	セルフケア理論(オレムのセルフケア理論、症状マネジメントモデル、IASM; The Integrated Approach to Symptom Management)の理解と実践への活用 事前課題：テーマについて資料にまとめる	
15-17 看護介入モデル	小林 成光	看護介入モデルの理解と実践への活用 事前課題：A Nursing Intervention Modelを読み資料にまとめる	
18-20 病みの軌跡、行動変容モデル	小林 成光	病みの軌跡、行動変容モデル 事前課題：テーマについて資料にまとめる	
21-23 家族理論	小林 成光	家族看護理論・社会システム理論の理解と実践への活用 事前課題：テーマについて資料にまとめる	
24-25 理論の応用・事例分析	小林 成光	既習の概念・理論を用いて、これまでの臨床事例を分析	
26-27 理論の応用・事例分析	小林 成光	既習の概念・理論を用いて、これまでの臨床事例を分析	

開講科目名 / Course	がん看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2602	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 成光	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM
担当教員 /	小林成光(看護学研究科・准教授)、祖父江由紀子(大森病院看護部・がん看護専門看護師)、安宅大輝(大森病院看護部・不妊症看護認定看護師)、角甲純(三重大学大学院医学系研究科・教授 / がん看護専門看護師)、立松典篤(名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻・助教 / 理学療法士)、野口恵子(救世軍清瀬病院・チャプレン)	
科目責任者連絡先(教室) /	masamitsu.kobayashi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00	
授業概要 /	がんの診断や治療によって生じた身体的・精神的・社会的側面における問題や、がんの進行に伴う身体活動制限や、サバイバーの抱える諸問題に対する機能の維持・回復するための看護援助を教授する。がん患者とその家族の抱える課題を理解し、継続的かつ包括的な看護援助について科学的根拠に基づいて探求する。	
到達目標 /	1.がんの診断や治療によって生じた身体的・精神的・社会的側面における問題や、がんの進行に伴う身体活動制限や、サバイバーの抱える諸問題に対する機能の維持・回復するための看護援助について具体的に述べることができる。 2.がん患者とその家族の抱える課題を理解し、継続的かつ包括的な看護援助について科学的根拠に基づいて述べることができる。 3.がん患者とその家族が置かれている状況を多角的な視点で分析し、対象者のセルフケア能力を見極めて柔軟に看護援助を展開するための高度な実践方略について述べるができる。	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	1. 課題文献について抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。 2. 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってonlineを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 オリエンテーション	小林 成光	オリエンテーション、がん看護の最新の動向	
3-4 集学的治療(化学療法)	小林 成光	化学療法における看護とその実際	
5-7 集学的治療(放射線療法)	祖父江 由紀子	放射線療法における看護とその実際	
8-9 アピアランスケア	小林 成光	がん治療に伴う外見変化に対する看護	
10-11 仕事とお金の支援	小林 成光	がん患者の就労支援と患者を取り巻く諸問題	
12-14 がんリハビリテーション	立松 典篤	がん治療に伴う生活への影響とリハビリテーション・悪液質	
15-16 緩和ケア概論	小林 成光	緩和ケアの概念と必要な看護	
17-19 終末期における苦痛症状	角甲 純	苦痛症状への看護(呼吸困難など)	
20-22 スピリチュアルケア	野口 恵子	がん患者が抱えるスピリチュアルペインへの支援とその実際	
23-25 がん治療における妊孕性温存に対する支援	安宅 大輝	生殖機能の温存に対する看護	
26-27 まとめ	小林 成光		

開講科目名 / Course	がん看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2603	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 成光	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM, オンデマンド
担当教員 /	小林成光(看護学研究科・准教授)、菊池由宣(医学部・准教授)、寺原敦朗(医学部・教授) 栃木直文(医学部・教授)、岸一馬(医学部・教授)、中村陽一(医学部・教授)、奥西勝秀(医学部・教授)、齊藤芙美(医学部・准教授)、竹林ちあき(大森病院・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	masamitsu.kobayashi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00 外部講師の場合：授業終了後に質問を受け付ける。	
授業概要 /	高度ながん看護実践の基盤となる幅広い専門的知識を習得するために、がんの疫学、病理診断、各種治療法や予防・早期発見などについて最新の知見を教授する。また、代表的ながん疾患を中心に科学的根拠に基づいた最新の治療方法に関する知識(手術療法、薬物療法、放射線療法、緩和ケアなど)、がん治療・症状マネジメントに活用される主たる薬剤の薬理作用・作用機序・適応等について教授する。	
到達目標 /	1. がんの発生機序、病理診断、各種治療法や予防・早期発見などについて最新の知見について説明できる。 2. 代表的ながん疾患を中心に、科学的根拠に基づいた最新の治療方法(手術療法、薬物療法、放射線療法、緩和ケアなど)について説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	1. 講義、事例検討を行う。 2. 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	講義後の課題60%、事例検討およびプレゼンテーション40%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	・菊池由宣, 見えるがん化学療法(ケモセラ) 第1版, 南山堂, 2022 講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってonlineを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 オリエンテーション	小林 成光	科目のオリエンテーション・がん医療の動向	
3-4 がんの発生機序(病態生理)	奥西 勝秀	がんの発生機序および病態生理について最新の知見を踏まえて理解する。 講義後、学修内容に基づいた課題を提出する。	
5-6 がんの病理診断	栃木 直文	がんの病理診断の基本的考え方と診断方法について理解する。 講義後、学修内容に基づいた課題を提出する。	
7-8 がん薬物療法	菊池 由宣	がん薬物療法の原理, 適応および治療方法について理解する。 講義後、学修内容に基づいた課題を提出する。	
9-10 放射線療法	寺原 敦朗	放射線療法の原理, 適応および治療方法について理解する。 講義後、学修内容に基づいた課題を提出する。	
11-12 緩和ケア	中村 陽一	がん医療における緩和ケアの理念と基本的な治療の考え方について理解する。 講義後、学修内容に基づいた課題を提出する。	
13-14 乳がん	齊藤 芙美	乳がんの病態, 診断および治療の特徴について理解する。 講義後、学修内容に基づいた課題を提出する。	
15-16 消化器がん	菊池 由宣	消化器がんの病態, 診断および治療の特徴について理解する。 講義後、学修内容に基づいた課題を提出する。	
17-18 血液がん	竹林 ちあき, 菊池 由宣	血液がんの病態, 診断および治療の特徴について理解する。 講義後、学修内容に基づいた課題を提出する。	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
19-20 肺がん	岸 一馬	肺がんの病態，診断および治療の特徴について理解する。 講義後、学修内容に基づいた課題を提出する。	
21-22 事例検討	小林 成光	代表的ながん症例の診断および治療経過について整理し，プレゼンテーションを行う。	
23-24 事例検討	小林 成光	代表的ながん症例の診断および治療経過について整理し，プレゼンテーションを行う。	
25-26 事例検討	小林 成光	代表的ながん症例の診断および治療経過について整理し，プレゼンテーションを行う。	
27 まとめ	小林 成光		

開講科目名 / Course	がん看護学演習	
時間割コード / Course Code	G2605	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 成光	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM
担当教員 /	小林成光(看護学研究科・准教授)、節原光江(東邦大学医療センター大森病院看護部・がん看護専門看護師/副看護部長)、黒澤亮子(東邦大学医療センター大森病院・がん看護専門看護師)、佐々木千幸(国立がん研究センター中央病院・精神看護専門看護師)	
科目責任者連絡先(教室) /	masamitsu.kobayashi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00	
授業概要 /	がんやがん治療に伴い生じる主な身体的・精神的症状の発症メカニズム及び評価方法、緩和方法について教授する。さらに、セルフケア理論を基盤としている症状マネジメントモデルを活用し、症状の出現によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法を習得し、症状緩和のための看護を探究する。	
到達目標 /	1. 症状の体験の理解とそのマネジメントの考え方、評価方法について、セルフケア理論を基盤としている症状マネジメントモデルを基に理解し、具体的な方略を述べることができる。 2. がん患者にみられる主な症状のメカニズム及び評価方法に関する知識を学び、緩和するための看護支援を述べることができる。 3. 今まで実臨床で経験した症状緩和の看護について症状マネジメントモデルを用いて説明することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ	

事前・事後学習とその時間 /	1. 課題について資料を作成し、プレゼンテーションを行い、討議する。 2. 30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってonlineを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 オリエンテーション	小林 成光	オリエンテーション、症状マネジメント 総論	
3-5 症状の理解と看護支援(疼痛)	小林 成光	疼痛の発現メカニズムの理解と、疼痛によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	
6-8 症状の理解と看護支援(悪心・嘔吐)	小林 成光	悪心嘔吐の発現メカニズムの理解と、悪心嘔吐によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	
9-11 症状の理解と看護支援(呼吸困難)	小林 成光	呼吸困難の発現メカニズムの理解と、呼吸困難によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	
12-14 症状の理解と看護支援(食欲不振・倦怠感・便秘)	小林 成光	食欲不振・倦怠感・便秘の発現メカニズムの理解と、食欲不振・倦怠感・便秘によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	
15-17 症状の理解と看護支援(不安・抑うつ・せん妄)	佐々木 千幸	不安・抑うつ・せん妄の発現メカニズムの理解と、不安・抑うつ・せん妄によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	
18-20 症状の理解と看護実践	節原 光江	がん患者に生じる身体症状のアセスメントと看護援助のエビデンスと実践	
21-23 症状の理解と看護実践	黒澤 亮子	がん患者に生じる身体症状のアセスメントと看護援助のエビデンスと実践	
24-25 事例検討	小林 成光	臨床事例を分析	
26-27 事例検討	小林 成光	臨床事例を分析	

開講科目名 / Course	高齢者看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2901	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	横井 郁子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	松元 由香(専任教員)、横井 郁子(専任教員)、石橋 タミ(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	コンピュータ、大学で整備された情報通信ネットワーク
担当教員 /	横井郁子(看護学研究科・教授) 石橋タミ(看護学研究科・准教授) 松元 由香(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	横井郁子 yokoiyk med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30~13:00 事前にメールで連絡	
授業概要 /	看護学を学ぶ者として「高齢者に関心を持つ」「高齢者を知る」ための自分自身の基盤について振り返り、再構築する。	
到達目標 /	1. 老年学、老年医学等、高齢者に関する学問領域を知り、高齢者看護学との関係を理解することができる。 2. 高齢者の健康課題を生活機能の側面で評価することの必要性と具体的方法について説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	講義への取り組み(プレゼンテーション等)40%、課題レポート60%。 レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。	
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。	

教科書 /	必要に応じて提示する。
参考書 /	必要に応じて提示する。
備考(関連科目等) /	事前に配布される文献等資料をよく読んでおくこと。 講義およびゼミ形式で行う。 対面形式と遠隔形式を組み合わせる。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 高齢者看護学とは1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	
2 高齢者看護学とは2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	
3 高齢者看護学とは3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	
4 高齢者看護学とは4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	
5 高齢者と健康問題1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(食事)	
6 高齢者と健康問題2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(食事)	
7 高齢者と健康問題3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(排泄)	
8 高齢者と健康問題4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(排泄)	
9 高齢者と健康問題5	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(活動)	
10 高齢者と健康問題6	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(活動)	
11 高齢者と健康問題7	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(休息)	
12 高齢者と健康問題8	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(休息)	
13 高齢者と健康問題9	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(身じたく)	
14 高齢者と健康問題10	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(身じたく)	
15 高齢者と健康問題11	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(コミュニケーション)	
16 高齢者と健康問題12	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フレイル・疾患と生活機能(コミュニケーション)	
17 ケア提供者の現状と課題1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	家族を含むケア提供者について	
18 ケア提供者の現状と課題2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	家族を含むケア提供者について	
19 ケア提供者の現状と課題3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	家族を含むケア提供者について	
20 ケア提供者の現状と課題4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	家族を含むケア提供者について	
21 社会資源の活用と課題1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	高齢者の住まいの変遷	
22 社会資源の活用と課題2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	高齢者の住まいの変遷	
23 多職種による高齢者支援のための評価1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	文献購読	
24 多職種による高齢者支援のための評価2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	文献購読	
25 高齢者看護学の役割1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	プレゼンテーションと討議	
26 高齢者看護学の役割2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	プレゼンテーションと討議	
27 高齢者看護学の役割3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	プレゼンテーションと討議	

開講科目名 / Course	高齢者看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2902	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	横井 郁子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	松元 由香 (専任教員)、横井 郁子 (専任教員)、石橋 タミ (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	コンピュータ、大学で整備された情報通信ネットワーク
担当教員 /	横井郁子 (看護学研究科・教授) 石橋タミ (看護学研究科・准教授) 松元 由香 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先 (教室) /	横井郁子 yokoiyk med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12 : 30 ~ 13 : 00	
授業概要 /	高齢者の暮らし・療養の場をマネジメントする能力の基礎を養う。	
到達目標 /	1 加齢変化をふまえた環境調整について述べるができる。 2 療養の場が高齢者に与える影響について述べるができる。 3 1、2から、より良い環境調整について提案することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	講義への取り組み40%、課題レポート60%。 レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。	
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。	

教科書 /	必要に応じて提示する。
参考書 /	必要に応じて提示する。
備考(関連科目等) /	講義およびゼミ形式で行う。 対面形式と遠隔形式を組み合わせる。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 病院という建物の変遷1	横井 郁子	ナイチンゲール病棟から現代、そして未来	
2 病院という建物の変遷2	横井 郁子	ナイチンゲール病棟から現代、そして未来	
3 病院という建物の変遷3	横井 郁子	ナイチンゲール病棟から現代、そして未来	
4 身体機能と療養の場1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	感覚系の変化と療養の場	
5 身体機能と療養の場2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	感覚系の変化と療養の場	
6 身体機能と療養の場3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	感覚系の変化と療養の場	
7 身体機能と療養の場4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	感覚系の変化と療養の場	
8 身体機能と療養の場5	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	
9 身体機能と療養の場6	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	
10 身体機能と療養の場7	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	
11 身体機能と療養の場8	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	
12 認知機能と療養の場1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	認知機能の変化と療養の場	
13 認知機能と療養の場2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	認知機能の変化と療養の場	
14 認知機能と療養の場3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	認知機能の変化と療養の場	
15 認知機能と療養の場4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	認知機能の変化と療養の場	
16 加齢変化とリスク回避1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	インシデント報告の分析_治療	
17 加齢変化とリスク回避2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	インシデント報告の分析_治療	
18 加齢変化とリスク回避3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	インシデント報告の分析_検査	
19 加齢変化とリスク回避4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	インシデント報告の分析_検査	
20 加齢変化とリスク回避5	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	インシデント報告の分析_転倒・転落	
21 加齢変化とリスク回避6	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	インシデント報告の分析_転倒・転落	
22 加齢変化とリスク回避7	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	インシデント報告の分析_転倒・転落	
23 加齢変化とリスク回避8	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	インシデント報告の分析_転倒・転落	
24 加齢変化とリスク回避9	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	インシデント報告の分析_その他	
25 加齢変化とリスク回避10	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	インシデント報告の分析_その他	
26 安全と安心のための環境調整1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	プレゼンテーションと討議	
27 安全と安心のための環境調整2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	プレゼンテーションと討議	

開講科目名 / Course	高齢者看護学演習	
時間割コード / Course Code	G2904	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	横井 郁子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	松元 由香(専任教員)、横井 郁子(専任教員)、石橋 タミ(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	PBL(課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	コンピュータ、大学で整備された情報通信ネットワーク
担当教員 /	横井郁子(看護学研究科・教授) 石橋タミ(看護学研究科・准教授) 松元 由香(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	横井郁子 yokoiyk med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30~13:00	
授業概要 /	医療福祉施設の人員配置、施設基準等を踏まえた上で、高齢者のヘルスアセスメントをいかした環境調整を行う看護の役割を再考する。	
到達目標 /	1. 医療福祉施設で療養生活を送る高齢者の環境をアセスメントすることができる。 2. 看護学の視点による療養環境マネジメントの特徴について説明することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観	
事前・事後学習とその時間 /	事前学習内容に関するプレゼンテーションおよび討議の後、実践現場において上記の実践を行う。実践現場における実践内容に関しては学生自らが行動計画を立て、教員の指導を得て実践に臨む。実践の場への協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。 施設基準について事前学習をしておく。 30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	プレゼンテーションおよび討議30%、事前学習成果レポート30%、実践の場での課題に関するレポート40%。 レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。	

フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	必要に応じて提示する。
参考書 /	必要に応じて提示する。
備考(関連科目等) /	対面形式と遠隔形式を組み合わせる。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 医療福祉施設の療養環境の現場と課題1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	
2 医療福祉施設の療養環境の現場と課題2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	
3 医療福祉施設の療養環境の現場と課題3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	
4 医療福祉施設の療養環境の現場と課題4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	
5 医療福祉施設の療養環境の現場と課題5	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	
6 医療福祉施設の療養環境の現場と課題6	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	
7 医療福祉施設の療養環境の現場と課題7	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	
8 医療福祉施設の療養環境の現場と課題8	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	
9 フィールドワーク計画立案1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの場の紹介と計画発表	
10 フィールドワーク計画立案2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの場の紹介と計画発表	
11 フィールドワーク計画立案3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの場の紹介と計画発表	
12 フィールドワーク計画立案4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの場の紹介と計画発表	
13 フィールドワーク1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	
14 フィールドワーク2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	
15 フィールドワーク3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	
16 フィールドワーク4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	
17 フィールドワーク5	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	
18 フィールドワーク6	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	
19 フィールドワーク7	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	
20 フィールドワーク8	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	
21 フィールドワーク9	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	
22 フィールドワーク10	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	
23 フィールドワーク11	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	
24 フィールドワーク12	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの実施	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
25 成果発表と討議1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークをもとに環境マネジメント指針を作成・発表	
26 成果発表と討議2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークをもとに環境マネジメント指針を作成・発表	
27 成果発表と討議3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークをもとに環境マネジメント指針を作成・発表	

開講科目名 / Course	小児看護学特論	
時間割コード / Course Code	G3001	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	天野 里奈 (専任教員)、河上 智香 (専任教員)、高山 充 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	荒木暁子(看護学研究科・教授)、河上智香(看護学研究科・准教授)、天野里奈(看護学研究科・助教)、高山充(看護学研究科・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子akiko.araki med.toho-u.ac.jp 河上智香chika.kawakami med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	成長発達理論や家族理論、セルフケア理論、コーピング理論等、小児看護の基盤を成す理論について理解を深め、小児看護への活用を考察する。	
到達目標 /	1. 代表的な家族理論について理解し、小児看護への活用を述べることができる 2. 小児各期の成長発達について理論に基づき判断することができる 3. 小児とその家族のセルフケアやコーピング等に関する理論について、発達段階をふまえて理解し看護への活用を述べることができる	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。	

フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	<ul style="list-style-type: none"> ・ Hockenberry, MJ, et al : Wong's Nursing Care of Infants and Children (11th ed.), Mosby, 2019 ・ Potts, NL, Mandleco, BL: Pediatric Nursing Caring for Children and Their Families, Delmar, 2012 ・ 南裕子, 野島佐由美, 他: 看護理論集 第3版, 日本看護協会出版会, 2013 ・ 鈴木和子, 渡辺裕子: 家族看護学 理論と実践 第5版, 日本看護協会出版会, 2019 ・ 奥山眞法子: 小児医療心理学, エルゼビア・ジャパン, 2007 ・ 舟島なをみ: 看護のための人間発達学 第5版, 医学書院, 2017
参考書 /	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上田礼子: 生涯人間発達学 改訂第2版, 三輪書店, 2012 ・ ロレイン・M・ライト&ジャニス・M・ベル 著 小林奈美 訳・監訳/松本和史 訳: 病の苦悩を和らげる家族システム看護, 日本看護協会出版会, 2011 ・ Denham, S., et.al: Family-Focused Nursing Care, F. A. Davis, 2016 ・ Rowe, J., et al: Family Health Care Nursing: Theory, Practice, and Research(6th ed.), F. A. Davis, 2018 ・ Perri J. Bomar: Promoting Health in Families(3rd ed.), Saunders, 2004
備考(関連科目等) /	<p>講義や演習を基に、ゼミナール形式で議論を行う。</p> <p>事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加すること。</p> <p>30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。</p> <p>遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。</p>

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 小児看護の理論(1)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	コースオリエンテーション	
2 小児看護の理論(2)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	小児看護の専門性、小児看護領域での高度実践に必要な能力看護実践体験をもとに討議し今後の学修について展望する	
3 成長発達に関する理論(1)	荒木 暁子	新生児期から思春期にわたる成長発達に関する代表的な理論 (エリクソン、ピアジェ等)	
4 成長発達に関する理論(2)	荒木 暁子	新生児期から思春期にわたる成長発達に関する代表的な理論 (エリクソン、ピアジェ等)	
5 成長発達に関する理論(3)	荒木 暁子	乳幼児の成長発達。愛着理論、母子相互作用	
6 成長発達に関する理論(4)	荒木 暁子	乳幼児の成長発達。愛着理論、母子相互作用	
7 成長発達に関する理論(5)	河上 智香, 荒木 暁子	学童・思春期の成長発達、ヘルスプロモーション	
8 成長発達に関する理論(6)	河上 智香, 荒木 暁子	学童・思春期の成長発達、ヘルスプロモーション	
9 成長発達に関する理論(7)	河上 智香, 荒木 暁子	自身の看護実践事例を提示し、成長発達の理論を用いた分析と討論を通して理解を深める	
10 家族に関する理論(1)	荒木 暁子	家族の定義、日本における小児と家族の動向、家族看護・家族看護学の目的、小児と家族の健康問題と看護の役割	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
11 家族に関する理論(2)	荒木 暁子	・家族理論とは、家族システム理論と小児看護への活用 ・家族機能、家族発達理論、家族アセスメントモデルと小児看護への活用	
12 家族に関する理論(3)	河上 智香, 荒木 暁子	・家族のレジリエンス	
13 家族に関する理論(4)	荒木 暁子	カルガリー式家族アセスメント/介入モデル、家族のストレス対処理論と小児看護への活用	
14 家族に関する理論(5)	荒木 暁子	カルガリー式家族アセスメント/介入モデル、家族のストレス対処理論と小児看護への活用	
15 家族に関する理論(6)	河上 智香, 荒木 暁子	自身の看護実践事例を提示し、家族理論を用いた分析と討論を通して理解を深める	
16 家族に関する理論(7)	河上 智香, 荒木 暁子	自身の看護実践事例を提示し、家族理論を用いた分析と討論を通して理解を深める	
17 セルフケア・コーピングに関する理論(1)	荒木 暁子	オレム看護一般理論(セルフケア理論、セルフケア不足理論看護システム理論)と小児看護への活用	
18 セルフケア・コーピングに関する理論(2)	荒木 暁子	オレム看護一般理論(セルフケア理論、セルフケア不足理論看護システム理論)と小児看護への活用	
19 セルフケア・コーピングに関する理論(3)	河上 智香, 荒木 暁子	ストレス・コーピング理論と小児看護への活用	
20 セルフケア・コーピングに関する理論(4)	河上 智香, 荒木 暁子	ストレス・コーピング理論と小児看護への活用	
21 セルフケア・コーピングに関する理論(5)	河上 智香, 荒木 暁子	自尊感情と自己効力感の理論と小児看護への活用	
22 セルフケア・コーピングに関する理論(6)	河上 智香, 荒木 暁子	自尊感情と自己効力感の理論と小児看護への活用	
23 セルフケア・コーピングに関する理論(7)	河上 智香, 荒木 暁子	自身の看護実践事例を提示し、セルフケア理論やストレス・コーピング理論等を用いた分析と討論を通して理解を深める	
24 セルフケア・コーピングに関する理論(8)	河上 智香, 荒木 暁子	自身の看護実践事例を提示し、セルフケア理論やストレス・コーピング理論等を用いた分析と討論を通して理解を深める	
25 理論の小児看護実践への活用(1)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	小児看護学特論 で学修した内容に関する英文献を一つ選択し、全文訳および文献についての考察を加え、プレゼンし、文献コピーと共に提出する	
26 理論の小児看護実践への活用(2)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	小児看護学特論 で学修した内容に関する英文献を一つ選択し、全文訳および文献についての考察を加え、プレゼンし、文献コピーと共に提出する	
27 まとめ	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	授業内容のまとめ	

開講科目名 / Course	小児看護学特論	
時間割コード / Course Code	G3003	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	天野 里奈 (専任教員)、河上 智香 (専任教員)、高山 充 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Teams,
担当教員 /	荒木暁子 (看護学研究科・教授)、河上智香 (看護学研究科・准教授)、天野里奈 (看護学研究科・助教)、高山充 (看護学研究科・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30 ~ 13:00	
授業概要 /	小児のフィジカルアセスメント、成長発達評価、養育環境の評価について理解を深め、実践に活用できるように進めていく。	
到達目標 /	小児の成長発達評価や健康状態および環境を査定するために必要となる高度実践看護の知識と技法を修得する。 1 . 乳児・幼児・学童思春期のフィジカルアセスメントのポイントおよび系統的なフィジカルアセスメントを理解し、健康状態を査定できる 2 . 小児の成長発達および成長発達に影響を与える環境と、その査定方法を理解し活用できる	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	事前に課題について文献抄読、視聴覚教材を活用し、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論の準備を行う。授業中に修得できなかった学習内容や技術は、事後に学習を行う。30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	プレゼンテーション50%、フィールドワークのレポート50%で総合的に評価する。 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。	

フィードバック方法 /	授業内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小野田千枝子, 土井まつ子 他: こどものフィジカルアセスメント. 金原出版, 2004 ・ Burns, C.E.et al: Pediatric primary Care (6th edition), Saunders, 2016 ・ 藤枝憲二, 加藤則子: 現場で役立つ成長曲線, 診断と治療社, 2007 ・ 榊原洋一, 小林美由紀: 子どもの保健演習ノート 改訂第3版. 診断と治療社, 2016 ・ Frankenburg, W,:DENVER 第2版, 日本小児医事出版社, 2009 その他、視聴覚教材、各種統計資料(省庁、白書、学会など)、ガイドラインなど
参考書 /	適宜紹介、提示する
備考(関連科目等) /	遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。小児看護学特論・、小児看護学演習の学習内容を統合し取り組む。 *フィールドワークは東邦大学医療センター大森病院小児科外来あるいは小児科病棟において、健康障害のある子ども1事例を査定し、報告書および看護計画を作成し、ディスカッションにより査定や看護計画の妥当性等についてディスカッションする。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 小児のフィジカルアセスメント : 成長発達、養育環境の評価	荒木 暁子	コースオリエンテーション(講義)	
2 小児のフィジカルアセスメント	天野 里奈, 荒木 暁子	呼吸系のフィジカルアセスメント(講義)	
3 小児のフィジカルアセスメント	河上 智香, 荒木 暁子	呼吸系のフィジカルアセスメント(プレゼンテーション, ディスカッション)	
4 小児のフィジカルアセスメント	天野 里奈, 河上 智香, 荒木 暁子	循環系のフィジカルアセスメント(講義)	
5 小児のフィジカルアセスメント	天野 里奈, 河上 智香, 荒木 暁子	循環系のフィジカルアセスメント(プレゼンテーション, ディスカッション)	
6 小児のフィジカルアセスメント	高山 充, 荒木 暁子	消化系のフィジカルアセスメント(講義)	
7 小児のフィジカルアセスメント	高山 充, 荒木 暁子	消化系のフィジカルアセスメント(プレゼンテーション, ディスカッション)	
8 小児のフィジカルアセスメント	荒木 暁子	脳神経系のフィジカルアセスメント(講義)	
9 小児のフィジカルアセスメント	荒木 暁子	脳神経系のフィジカルアセスメント(プレゼンテーション, ディスカッション)	
10 小児のフィジカルアセスメント	荒木 暁子	運動系のフィジカルアセスメント(講義)	
11 小児のフィジカルアセスメント	荒木 暁子	運動系のフィジカルアセスメント(プレゼンテーション, ディスカッション)	
12 小児のフィジカルアセスメント	河上 智香, 荒木 暁子	感覚系(眼科、耳鼻科)、皮膚のフィジカルアセスメント(講義)	
13 小児のフィジカルアセスメント	河上 智香, 荒木 暁子	感覚系(眼科、耳鼻科)、皮膚のフィジカルアセスメント (プレゼンテーション, ディスカッション)	
14 小児のフィジカルアセスメント	荒木 暁子	全身のフィジカルアセスメントとその報告 (プレゼンテーション, ディスカッション)	
15 小児の成長評価	河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	小児の成長発達の評価 概論(講義)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
16 小児の成長評価	河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	成長曲線、肥満度等を活用した横断的評価と縦断的評価 (プレゼンテーション, ディスカッション)	
17 小児の発達のアセスメント	天野 里奈, 河上 智香, 荒木 暁子	乳児・幼児・学童思春期の発達アセスメントのポイント(講義)	
18 小児の発達のアセスメント	天野 里奈, 荒木 暁子	乳児・幼児・学童思春期の発達アセスメント(プレゼンテーション, ディスカッション)	
19 小児の発達のアセスメント	荒木 暁子	小児の発達検査、知能検査概論とその適応(講義)	
20 小児の発達のアセスメント	荒木 暁子	DENVER、遠城式乳幼児分析的発達検査法による発達検査(講義)	
21 小児の発達のアセスメント	天野 里奈, 荒木 暁子	親子の相互作用、育児ストレス、家庭環境、睡眠リズム(講義)	
22 小児の発達のアセスメント	荒木 暁子	親子の相互作用、子どもの非言語的 Cue(講義)	
23 小児の発達のアセスメント	荒木 暁子	子どもを取り巻く社会環境、社会的決定要因(講義)	
24 健康上の問題をもつ小児の成長発達、健康状態、環境の査定 *	河上 智香, 荒木 暁子	健康上の問題をもつ小児1事例の成長発達・健康状態・環境の査定 (フィールドワーク)	
25 健康上の問題をもつ小児の成長発達、健康状態、環境の査定	河上 智香, 荒木 暁子	結果を報告書にまとめ、看護計画を作成 (プレゼンテーション, ディスカッション)	
26 健康上の問題をもつ小児の成長発達、健康状態、環境の査定	河上 智香, 荒木 暁子	査定、報告書、および看護計画について ディスカッション(プレゼンテーション, ディスカッション)	
27 小児の査定 総括	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	小児の査定に関する学びと課題をディスカッション(プレゼンテーション, ディスカッション)	

開講科目名 / Course	小児看護学演習	
時間割コード / Course Code	G3005	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	天野 里奈 (専任教員)、河上 智香 (専任教員)、高山 充 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	荒木暁子(看護学研究科・教授)河上智香(看護学研究科・准教授)天野里奈(看護学研究科・助教)、高山充(看護学研究科・助教)、竹田佳子(大森病院・小児看護専門看護師)、長順子(大森病院・小児看護専門看護師)、市原真穂(千葉県立保健医療大学・教授, 非常勤講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子akiko.araki med.toho-u.ac.jp 河上智香chika.kawakami med.toho-u.ac.jp を@に置き換える	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	小児看護領域における倫理的問題の特徴と倫理調整、ソーシャルサポートについて理解を深める。様々な健康問題や状況にある小児に対し、成長発達段階をふまえた高度実践看護の知識と視点を修得する。	
到達目標 /	1. 小児看護領域における倫理的問題の特徴とその分析方法、倫理調整とその評価、および、ソーシャルサポートについて理解し、必要な看護を述べることができる 2. 様々な健康問題や状況にある小児に対し、成長発達段階をふまえた高度実践看護の知識と視点を修得し、必要な看護を述べるができる	
ディプロマ・ポリシーとの関連(看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ	

事前・事後学習とその時間 /	小児看護領域において、生じやすい倫理的問題やその調整、様々な健康問題を有する、あるいは複雑な状況にある小児を理解する上で必要となる理論や概論についての文献検討および学習を事前に行っておくこと。 事例を用いて倫理調整やコーディネーションを行えるよう、プレゼンテーション、ディスカッションを通して進めていく。 30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝えし、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	・ Russell, LT. et al: Family-centered Care and Positive Developmental Outcomes for Youth with Special Health Care Needs: Variations across Family Structures. Journal of Family Nursing, 29-59, 24(1), 2018. ・ Kerr, H., et.al: Transition from Children's to adult services for young adults with life-limiting conditions: A realist review of the literature. International journal of Nursing Studies, 76, 1-27, 2017. ・ Beth, CL. et al.: Transition Needs of parents of Adolescents and Emerging Adults with Special HealthCare Needs and Disabilities. Journal of Family Nursing, 362-412, 21(3), 2015.
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	事前に課題に関連する文献学習を行う。事例の取り扱いに関しては倫理的配慮を十分に行う。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 小児看護領域における高度実践	荒木 暁子	コースオリエンテーション 小児看護領域で求められる専門性の高い看護について概説する	
2 小児看護領域における倫理的課題(1)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	・ 小児看護における倫理原則、小児の権利、QOL ・ 小児の意思決定能力と意思決定への参画(インフォームド・アセント含む) ・ 小児の倫理的問題の特徴とその分析方法(重症新生児、障害児、予後不良時における治療方法の決定)	
3 小児看護領域における倫理的課題(2)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	・ 小児看護における倫理原則、小児の権利、QOL ・ 小児の意思決定能力と意思決定への参画(インフォームド・アセント含む) ・ 小児の倫理的問題の特徴とその分析方法(重症新生児、障害児、予後不良時における治療方法の決定)	
4 小児看護領域における倫理的課題(3)	市原 真穂	小児看護領域における倫理調整とその評価 看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	
5 小児看護領域における倫理的課題(4)	市原 真穂	小児看護領域における倫理調整とその評価 看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	
6 急性期にある小児と家族への看護援助(1)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	危機的状態にある小児と家族への援助、危機理論、悲嘆過程と家族の反応	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
7 急性期にある小児と家族への看護援助(2)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	危機的状態にある小児と家族への援助、危機理論、悲嘆過程と家族の反応	
8 周手術期にある小児と家族への看護援助	長 順子, 竹田 佳子	・小児の疾患・手術の理解とプレパレーション、痛みの評価と疼痛マネジメント ・周手術期および長期的な問題と看護援助	
9 周手術期にある小児と家族への看護援助の実際	長 順子, 竹田 佳子	周手術期の子どもと家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	
10 慢性状態にある小児と家族への看護援助(1)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	・慢性状態にある小児と家族に生じやすい問題 ・小児の疾患・療養行動の理解とセルフケア能力 ・親から小児へのセルフケアの移行と看護援助 ・慢性疾患をもつ小児の成人期移行の現状と課題、看護援助	
11 慢性状態にある小児と家族への看護援助(2)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	・慢性状態にある小児と家族に生じやすい問題 ・小児の疾患・療養行動の理解とセルフケア能力 ・親から小児へのセルフケアの移行と看護援助 ・慢性疾患をもつ小児の成人期移行の現状と課題、看護援助	
12 慢性状態にある小児と家族への看護援助の実際(1)	長 順子, 竹田 佳子	慢性状態にある小児と家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	
13 慢性状態にある小児と家族への看護援助の実際(2)	長 順子, 竹田 佳子	慢性状態にある小児と家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	
14 重症心身障害児、医療的ケア児と家族への看護(1)	市原 真穂	・重症心身障害児・高度医療依存児の現状と課題 ・小児の健康状態の維持と成長発達を支える小児と家族への看護援助 ・重症心身障害児・高度医療依存児の在宅移行の現状と課題、小児と家族への看護援助	
15 重症心身障害児、医療的ケア児と家族への看護(2)	市原 真穂	・重症心身障害児・高度医療依存児の現状と課題 ・小児の健康状態の維持と成長発達を支える小児と家族への看護援助 ・重症心身障害児・高度医療依存児の在宅移行の現状と課題、小児と家族への看護援助	
16 重症心身障害児、医療的ケア児と家族への看護の実際(1)	市原 真穂	重症心身障害児、医療的ケア児と家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	
17 小児におけるエンドオブライフケア(1)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	・小児の予後不良疾患 ・小児におけるエンドオブライフケアの現状と課題	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
18 小児におけるエンドオブライフケア(2)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	・小児の予後不良疾患 ・小児におけるエンドオブライフケアの現状と課題	
19 小児におけるエンドオブライフケアの実際(1)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	エンドオブライフケアの看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	
20 様々な状況にある小児と家族への看護援助(1)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	
21 様々な状況にある小児と家族への看護援助(2)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	
22 様々な状況にある小児と家族への看護援助(3)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	
23 様々な状況にある小児と家族への看護援助(4)	天野 里奈, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	
24 専門看護師による高度看護実践(1)	長 順子, 天野 里奈, 竹田 佳子, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	小児看護専門看護師による、複雑で困難な問題をもつ子どもと家族への看護の実際と、専門看護師の役割を理解する	
25 専門看護師による高度看護実践(2)	長 順子, 天野 里奈, 竹田 佳子, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	小児看護専門看護師による、複雑で困難な問題をもつ子どもと家族への看護の実際と、専門看護師の役割を理解する	
26 専門看護師による高度看護実践(3)	長 順子, 天野 里奈, 竹田 佳子, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	小児看護専門看護師による、複雑で困難な問題をもつ子どもと家族への看護の実際と、専門看護師の役割を理解する	
27 まとめのプレゼンテーション	長 順子, 天野 里奈, 竹田 佳子, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	倫理調整、調整、教育などを用いて、臨床現場のケアの質向上に資する活動を計画し、提案するためのプレゼンテーションを行う	

開講科目名 / Course	小児看護学演習	
時間割コード / Course Code	G3007	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	天野 里奈 (専任教員)、河上 智香 (専任教員)、高山 充 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Moodle, Google Forms など
担当教員 /	荒木暁子 (看護学研究科・教授)、高月晋一 (医学部小児科学講座・教授)、竹田佳子、長順子 (大森病院看護部・小児看護専門看護師)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30 ~ 13:00	
授業概要 /	大学病院の小児科や小児外科の外来、または、小児のプライマリケアの場としてのクリニックなどにおいて、診察、治療・処置場面に同席し、症状アセスメントや病態判断について理解を深めていく。	
到達目標 /	乳児から思春期までの小児の多様な診断・治療のプロセスについて理解すると共に、小児のプライマリケアにおける症状のアセスメントに役立てる知識を修得する。 1．乳児から思春期までの小児の多様な診断・治療のプロセスについて説明できる。 2．小児のプライマリケアの場において、多様な発達段階および健康問題をもつ小児に対し、症状のアセスメントを実施できる。 3．医師の指導を通して、症状のアセスメント、病態の判断について理解を深め、高度な看護の視点から提案できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	事前に課題について文献抄読、視聴覚教材を活用し、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論の準備を行う。授業中に修得できなかった学習内容は、事後に学習を行う。30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	演習への取り組み50%・プレゼンテーション50%で総合的に評価する。 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
フィードバック方法 /	授業内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	・ 五十嵐 隆：小児科診療ガイドライン 第3版．総合医学社，2017． ・ 北村 聖 総編集：臨床病態学 小児編．ヌーヴェルヒロカワ，2013 その他、適宜紹介、提示する。小児看護学特論 の参考資料も参照すること
参考書 /	適宜紹介、提示する。
備考(関連科目等) /	遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたりリアルタイム配信を行う。小児看護学特論 ・ 、小児看護学演習 の学習内容を統合し取り組む。 フィールドワークは、東邦大学医療センター大森病院小児科外来にて実施する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 演習計画の立案（グループワーク、または、教員との面談）	荒木 暁子	乳児から思春期までの小児の多様な診断・治療のプロセス（1単位：15時間以上） 総合病院の小児科・小児外科外来において、診察場面に同席するとともに、診療録から情報収集し、診断・治療のプロセスを学ぶとともに、医師の指導を通じて理解を深める。	
2 診察場面への同席による診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
3 診察場面への同席による診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
4 診察場面への同席による診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
5 診察場面への同席による診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
6 診断の解釈と考察、医師からの指導（プレゼンテーション、ディスカッション）	高月 晋一	同上	
7 診察場面への同席による診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
8 診察場面への同席による診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
9 診察場面への同席による診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
10 診察場面への同席による診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
11 診断の解釈と考察、医師からの指導（プレゼンテーション、ディスカッション）	高月 晋一	同上	
12 事例の分析（診断・治療の考察と高度看護実践の必要性）（グループワーク、または、教員との面談）	荒木 暁子	同上	
13 事例の分析（診断・治療の考察と高度看護実践の必要性）（グループワーク、または、教員との面談）	荒木 暁子	同上	
14 演習計画の立案（グループワーク、または、教員との面談）	荒木 暁子	救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、症状のアセスメントに関する演習（1単位：15時間以上） 小児科外来、救急外来を受診する小児に対し、医師の指導を通じて適切な心身のアセスメントとトリアージを見学すると共に、症状のアセスメントを考察する。 事前学習、事後レポートを提出する。	
15 小児科外来で救急場面へ同席し診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
16 小児科外来で救急場面へ同席し診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
17 小児科外来で救急場面へ同席し診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
18 小児科外来で救急場面へ同席し診断プロセスの見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
19 診断、治療の解釈と考察、医師からの指導（プレゼンテーション、ディスカッション）	高月 晋一	同上	
20 救急外来（夜間等含む）の小児事例へ同席し見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
21 救急外来（夜間等含む）の小児事例へ同席し見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
22 救急外来（夜間等含む）の小児事例へ同席し見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
23 救急外来（夜間等含む）の小児事例へ同席し見学（フィールドワーク）	高月 晋一	同上	
24 診断、治療の解釈と考察、医師からの指導（プレゼンテーション、ディスカッション）	高月 晋一	同上	
25 事例の分析：診断・治療の考察と高度看護実践の必要性（グループワーク、または、指導者・教員との面談）	荒木 暁子	同上	
26 まとめのプレゼンテーション	荒木 暁子	演習の学びから、小児と家族のニーズに基づく、診断・治療プロセス、多職種連携と高度看護実践についてプレゼンテーションし、討議する（プレゼンテーション、ディスカッション）	
27 まとめのプレゼンテーション	荒木 暁子	演習の学びから、小児と家族のニーズに基づく、診断・治療プロセス、多職種連携と高度看護実践についてプレゼンテーションし、討議する（プレゼンテーション、ディスカッション）	

開講科目名 / Course	精神看護学特論	
時間割コード / Course Code	G3051	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	伊藤 桂子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	後藤 喜広 (専任教員)、伊藤 桂子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Chat, zoom, pc
担当教員 /	伊藤桂子(看護学研究科・教授) 後藤喜広(看護学研究科・講師) 若山仁大(看護学研究科・非常勤講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	伊藤桂子 keiko.itou med.toho-u.ac.jp 後藤喜広 yoshihiro.gotou med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	精神保健福祉の歴史の変遷を踏まえた精神保健福祉制度と体制について学び、現代の精神的健康問題について多面的に分析し、精神保健福祉と精神医療の今後の展望について探求する。	
到達目標 /	1. 精神保健医療福祉の制度と体制について、法制度の変遷、倫理、治療環境等の視点から概要と課題を述べることができる。 2. 現代の精神的健康問題について多面的に分析し、関連する要因を述べることができる。 3. 対象理解のための生活の評価に必要な基礎的理論と方法について説明することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。 事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加する。 主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。 。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 3 精神保健医療福祉の制度と体制	伊藤 桂子	諸外国の精神保健福祉および精神医療の現状 日本の精神保健医療福祉に関する法制度の歴史的変遷	
4 7 社会の動向と精神的健康問題	後藤 喜広	現代社会における精神的健康問題の特徴	
8 10 家族の機能と病理	伊藤 桂子	家族システム論を活用した家族の理解 精神障害者家族のアセスメントと家族支援	
11 13 社会の動向と精神的健康問題	伊藤 桂子	生活支援の制度と支援機関、就労支援と職場のメンタルヘルス	
14 16 社会の動向と精神的健康問題	伊藤 桂子	自殺予防、虐待、ひきこもり、依存症等の地域保健活動	
17 18 対象の理解と生活評価に必要な基礎的理論	若山 仁大	Mental Status Examinationの基礎的な知識	
19 20 対象の理解と生活評価に必要な基礎的理論	若山 仁大	Mental Status Examinationの活用	
21 26 社会の動向と精神的健康問題	後藤 喜広, 伊藤 桂子	精神保健のトピックスとなっている話題を取り上げ、事例をもとに実践への応用について検討する	
27 まとめ	後藤 喜広, 伊藤 桂子	精神保健医療福祉における課題と今後の展望	

開講科目名 / Course	精神看護学演習	
時間割コード / Course Code	G3054	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	伊藤 桂子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	後藤 喜広 (専任教員)、伊藤 桂子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Chat, zoom, pc
担当教員 /	伊藤桂子(看護学研究科・教授)、後藤喜広(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	伊藤桂子 keiko.itou med.toho-u.ac.jp 後藤喜広 yoshihiro.gotou med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	各自が関心を持っている領域の視点から研究課題を明確にし、実証的な研究方法を検討できる能力を養う。	
到達目標 /	1.各自が関心を持っている領域の視点から精神保健医療福祉における重要な課題を考察することができる。 2.自身の研究課題を明確にできる。 3.研究課題に取り組むための実証的な研究方法を検討し、研究計画書を立案できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連(看護学研究科) /	(DP1)知識・技能と課題解決力、(DP2)共生型リーダーシップ、(DP3)社会的責任・倫理観	

事前・事後学習とその時間 /	ゼミナール形式で討議を行ったのちに、関心のある領域の視点に基づいてフィールドワークを実施する。 フィールドワークのプレゼンテーションをもとに積極的な討論を展開し自己の研究課題を深める。 主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。 30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 演習ガイダンス	後藤 喜広, 伊藤 桂子	フィールドワークにおけるデータ収集と演習方法	
2 3 精神保健、精神看護における研究課題	後藤 喜広, 伊藤 桂子	精神保健、精神看護における研究課題の発表	
4 5 研究課題の明確化	後藤 喜広, 伊藤 桂子	研究課題における研究の動向の検討	
6 7 研究課題の明確化	後藤 喜広, 伊藤 桂子	研究課題における研究の動向の検討	
8 9 研究課題の明確化	後藤 喜広, 伊藤 桂子	研究課題における研究の動向の検討	
10 11 研究デザイン	後藤 喜広, 伊藤 桂子	研究課題を明らかにするための研究の方法についての検討	
12 13 研究デザイン	後藤 喜広, 伊藤 桂子	研究課題を明らかにするための研究の方法についての検討	
14 15 フィールドワークおよび予備調査	後藤 喜広, 伊藤 桂子	フィールドワークおよび予備調査に関する計画立案	
16 17 フィールドワーク	後藤 喜広, 伊藤 桂子	観察法やインタビュー調査を用いた演習	
18 19 フィールドワーク	後藤 喜広, 伊藤 桂子	観察法やインタビュー調査を用いた演習	
20 21 フィールドワーク	後藤 喜広, 伊藤 桂子	観察法やインタビュー調査を用いた演習	
22 23 フィールドワーク	後藤 喜広, 伊藤 桂子	フィードバック・予備調査結果の分析	
24 25 フィールドワーク	後藤 喜広, 伊藤 桂子	フィードバック・予備調査結果の分析	
26 27 研究計画書の作成	後藤 喜広, 伊藤 桂子	フィールドワーク・予備調査結果をふまえた研究計画書の作成	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護学特論	
時間割コード / Course Code	G3105	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	望月 由紀子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	必修	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、13:30～14:00	
授業概要 /	公衆衛生看護の定義・概念・理念を踏まえて、公衆衛生看護の歴史の変遷を概観し、公衆衛生看護に関わる理論、公衆衛生活動の展開と評価方法について学ぶことで、今後の公衆衛生看護の課題と展望を探究する。	
到達目標 /	1．公衆衛生看護の定義・概念・理念について理解し、公衆衛生看護の現状を分析的に述べることができる。 2．社会状況の変化や法制度の変遷を踏まえて、公衆衛生看護活動の変遷について述べるができる。 3．公衆衛生看護の現状を、理論や評価指標により分析・評価し、課題を述べるができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。	

評価方法・基準 /	講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。
教科書 /	必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。
参考書 /	必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。
備考(関連科目等) /	学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験をふまえグループ討議を行う。授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせる。遠隔形式の場合には、Zoomを用いたリアルタイム配信にて実施する。対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 講義ガイダンス	望月 由紀子	本講義の目的と進め方	
2 公衆衛生看護の概念1	望月 由紀子	公衆衛生看護の定義・概念・理念1	
3 公衆衛生看護の概念2	望月 由紀子	公衆衛生看護の定義・概念・理念2	
4 公衆衛生看護の変遷1	望月 由紀子	研究の関心分野1（社会的背景、要因等	
5 公衆衛生看護の変遷2	望月 由紀子	研究の関心分野2（社会的背景、要因等	
6 公衆衛生看護の変遷3	望月 由紀子	研究の関心分野3（社会的背景、要因等	
7 公衆衛生看護の変遷4	望月 由紀子	研究の関心分野4（社会的背景、要因等	
8 公衆衛生看護活動の課題1	望月 由紀子	公衆衛生看護活動の課題1（文献や研究論文）	
9 公衆衛生看護活動の課題2	望月 由紀子	公衆衛生看護活動の課題2（文献や研究論文）	
10 公衆衛生看護活動の課題3	望月 由紀子	公衆衛生看護活動の課題3（文献や研究論文）	
11 公衆衛生看護活動の課題4	望月 由紀子	公衆衛生看護活動の課題4（文献や研究論文）	
12 公衆衛生看護活動の概念3	望月 由紀子	公衆衛生看護の定義・概念・理論3	
13 公衆衛生看護活動の概念4	望月 由紀子	公衆衛生看護の定義・概念・理論3	
14 公衆衛生看護に関わる課題5	望月 由紀子	研究目的の明確化1（背景、目的の定義、重要性、研究の範囲など）	
15 公衆衛生看護に関わる課題6	望月 由紀子	研究目的の明確化2（背景、目的の定義、重要性、研究の範囲など）	
16 公衆衛生看護に関わる課題7	望月 由紀子	研究目的の明確化3（背景、目的の定義、重要性、研究の範囲など）	
17 公衆衛生看護に関わる課題8	望月 由紀子	研究目的の明確化4（背景、目的の定義、重要性、研究の範囲など）	
18 公衆衛生看護に関わる課題9	望月 由紀子	研究目的の明確化5（背景、目的の定義、重要性、研究の範囲など）	
19 公衆衛生看護に関わる課題10	望月 由紀子	研究目的の明確化6（背景、目的の定義、重要性、研究の範囲など）	
20 公衆衛生看護の展開と評価1	望月 由紀子	研究テーマの絞り込み1（発表）	
21 公衆衛生看護の展開と評価2	望月 由紀子	研究テーマの絞り込み2（発表）	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
22 公衆衛生看護の展開と評価3	望月 由紀子	研究テーマの絞り込み3 (発表)	
23 公衆衛生看護の展開と評価4	望月 由紀子	研究テーマの絞り込み4 (修正)	
24 公衆衛生看護の展開と評価5	望月 由紀子	研究テーマの絞り込み5 (修正)	
25 公衆衛生看護研究1	望月 由紀子	プレゼンテーション1 (M1、M2合同)	
26 公衆衛生看護研究2	望月 由紀子	プレゼンテーション2 (M1、M2合同)	
27 公衆衛生看護研究3	望月 由紀子	プレゼンテーション3 (M1、M2合同)	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護学演習	
時間割コード / Course Code	G3108	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子(専任教員)、望月 由紀子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子(看護学研究科・教授) 櫻井 純子(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、13:30～14:00	
授業概要 /	文献検討やフィールドワークを通して関心がある公衆衛生看護学領域の健康課題を明らかにし、課題解決のための方法を多面的に検討し、研究計画の立案のプロセスを通して研究方略を探求する。	
到達目標 /	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検討を行い関心がある公衆衛生看護学分野における健康課題を選定し述べることができる。 2. 関連する組織・地域でフィールドワークを行い、必要なデータ収集と分析の結果を説明できる。 3. 健康課題を解決するための方法を多目的に検討して、自身の研究計画を立案できる。 	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観	
事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。 事前学習をもとに、学生自身が主体的に取り組み、積極的に討論して自己の課題を探求する。	

評価方法・基準 /	講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。
教科書 /	必要に応じ、その都度提示する。
参考書 /	必要に応じ、その都度提示する。
備考(関連科目等) /	事前に予習をして講義に臨むこと。 学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験を踏まえグループ討議を行う。 授業形態は対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。 遠隔形式の場合には、ZOOM を用いたリアルタイム配信にて実施する。 対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 研究計画立案1	望月 由紀子	自身の研究計画の立案1（研究計画）	
2 研究計画立案2	望月 由紀子	自身の研究計画の立案2（研究計画）	
3 研究計画立案3	望月 由紀子	自身の研究計画の立案3（研究計画）	
4 研究計画立案4	望月 由紀子	自身の研究計画の立案4（倫理審査）	
5 研究計画立案5	望月 由紀子	自身の研究計画の立案5（倫理審査）	
6 研究計画立案6	望月 由紀子	自身の研究計画の立案6（倫理審査）	
7 研究計画立案7	望月 由紀子	自身の研究計画の立案7（研究計画）	
8 研究計画立案8	望月 由紀子	自身の研究計画の立案8（研究計画）	
9 研究計画立案9	望月 由紀子	自身の研究計画の立案9（研究計画）	
10 健康課題の抽出1（グループワーク）	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出1（産業保健の概要）	
11 健康課題の抽出2（グループワーク）	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出2（産業保健の概要）	
12 健康課題の抽出3（個人ワーク）	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出3（企業の概要・健康課題）	
13 健康課題の抽出4（個人ワーク）	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出4（企業の概要・健康課題）	
14 健康課題の抽出5（個人ワーク）提出	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出5（企業の概要・健康課題）	
15 健康課題の発表会1	櫻井 純子, 望月 由紀子	健康課題のプレゼンテーション1（産業保健）	
16 健康課題の発表会2	櫻井 純子, 望月 由紀子	健康課題のプレゼンテーション2（産業保健）	
17 健康課題の抽出1（グループワーク）	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出1（学校保健の概要）	
18 健康課題の抽出2（グループワーク）	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出2（学校保健の概要）	
19 健康課題の抽出3（個人ワーク）	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出3（学校の概要・健康課題）	
20 健康課題の抽出4（個人ワーク）	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出4（学校の概要・健康課題）	
21 健康課題の抽出5（個人ワーク）提出	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出5（学校の概要・健康課題）	
22 健康課題の発表会1	櫻井 純子, 望月 由紀子	健康課題のプレゼンテーション1（学校保健）	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
23 健康課題の発表会2	櫻井 純子, 望月 由紀子	健康課題のプレゼンテーション2 (学校保健)	
24 研究計画プレゼンテーション1	望月 由紀子	自身の研究計画プレゼンテーション1	
25 研究計画プレゼンテーション2	望月 由紀子	自身の研究計画プレゼンテーション2	
26 研究計画プレゼンテーション3	望月 由紀子	自身の研究計画プレゼンテーション3	
27 研究計画プレゼンテーション4	望月 由紀子	自身の研究計画プレゼンテーション4	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護学原論	
時間割コード / Course Code	G3113	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子 (専任教員)、坂本 美佐子 (専任教員)、望月 由紀子 (専任教員)、本田 順子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授) 坂本 美佐子 (看護学研究科・講師) 本田 順子 (看護学研究科・講師) 櫻井 純子 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 * を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:30~14:00	
授業概要 /	地域で生活している様々な成長発達レベル、健康レベルにある、個人・家族・集団・地域を対象に健康レベルを向上させ、QOLを高めるための支援を展開する公衆衛生看護の役割と機能、倫理について学ぶ。	
到達目標 /	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護・公衆衛生看護の概念、理念、目的、歴史、展開方法を説明できる。 2. 様々な保健活動とそれに関わる法規、関連機関や職種について具体的に説明できる。 3. 多様な人々の健康レベルやQOL向上のための支援を展開する保健師の役割や機能を説明できる。 4. 公衆衛生看護活動における倫理的問題とその対処について説明できる。 	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	1. 授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2. 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	授業への取り組み(20%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(40%)で総合的に評価する。 レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。
教科書 /	1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年(初版) 2. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年(初版) 3. 岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年(初版) 4. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2025/2026」厚生労働統計協会・2025年
参考書 /	1. 厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向2025/2026」厚生労働統計協会・2025年
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたりリアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス、公衆衛生看護の概念・理念	望月 由紀子	ガイダンス、公衆衛生看護の概念・理念	
2 公衆衛生看護活動の基本1	坂本 美佐子	公衆衛生看護活動の場、対象1	
3 公衆衛生看護活動の基本2	坂本 美佐子	公衆衛生看護活動の方法1	
4 親子保健の制度と保健活動1	坂本 美佐子	親子保健の動向と制度/保健活動	
5 親子保健の制度と保健活動2	坂本 美佐子	支援ニーズが高い親子への支援	
6 学びの統合1	坂本 美佐子	学習整理・理解確認1	
7 健康相談1	櫻井 純子	健康相談の方法と特徴	
8 健康相談2	櫻井 純子	健康相談の基本姿勢と地域活動への展開	
9 健康診査1	櫻井 純子	乳幼児期の健康課題、成長・発達の評価	
10 健康診査2	櫻井 純子	乳幼児の成長・発達の評価2	
11 学びの統合2	櫻井 純子	学習整理・理解確認2	
12 家庭訪問1	本田 順子	家庭訪問の目的、対象と方法1	
13 家庭訪問2	本田 順子	家庭訪問の目的、対象と方法2	
14 精神保健福祉の制度	本田 順子	精神保健(福祉)における動向・制度・施策	
15 感染症の制度	本田 順子	感染症の動向・制度	
16 学びの統合3	本田 順子	学習整理・理解確認3	
17 グループ支援、組織化	坂本 美佐子	グループ支援、組織化の知識・技術	
18 地区診断	坂本 美佐子	地区診断の目的・対象	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
19 障害者（児）の支援	坂本 美佐子	障害者の支援の動向と制度	
20 高齢者保健（福祉）活動1	坂本 美佐子	高齢者保健福祉の動向・制度・施策	
21 学びの統合4	坂本 美佐子	学習整理・理解確認4	
22 成人保健の制度	櫻井 純子	成人保健の動向・制度	
23 学校保健	櫻井 純子	学校保健の制度	
24 健康教育1	櫻井 純子	健康教育の目的、対象・場による方法	
25 健康教育2	櫻井 純子	健康教育の位置づけ・目的、対象と場	
26 産業保健	望月 由紀子	産業保健の制度	
27 学びの統合5	櫻井 純子，望月 由紀子	学習整理・理解確認5	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護展開論	
時間割コード / Course Code	G3114	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子(専任教員)、坂本 美佐子(専任教員)、伊藤 桂子(専任教員)、望月 由紀子(専任教員)、荒木 暁子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子(看護学研究科・教授) 坂本 美佐子(看護学研究科・講師) 櫻井 純子(看護学研究科・講師) 伊藤 桂子(看護学研究科・教授) 荒木 暁子(看護学研究科・教授) 狩野 修(医学部・教授) 小坂橋 恵美子(健康科学部・教授) 佐川 きよみ(東京都看護協会・常任理事) 藤原 佳典(東京都健康長寿医療センター研究所・副所長、東京都介護予防・フレイル予防推進センター センター長)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 伊藤 桂子 keiko.itou med.toho-u.ac.jp 荒木 睦子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp 狩野 修 講義終了後 小坂橋 恵美子 講義終了後 佐川 きよみ 講義終了後 藤原 佳典 講義終了後 * を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:30~14:00	

授業概要 /	地域で生活する人々（母子、成人、高齢者、精神、感染症、生活弱者）が抱える健康課題に応じた公衆衛生看護の展開方法を学ぶ。また個人・家族と集団・地域を連動させた活動の展開方法について理解し、多様な人々の健康レベルに合わせたアプローチの方法を習得する。
到達目標 /	1 公衆衛生看護活動で用いる理論、公衆衛生看護活動の基本となる支援方法を具体的に説明できる。 2 母子、成人、高齢者、精神、生活弱者を対象とした保健制度と保健活動を具体的に述べることができる。 3 多様な人々の健康レベルに合わせたアプローチの必要性と展開方法について根拠をもとに説明できる。 4 具体的な事例から、人々の生活者としての視点を重視する保健師の判断について根拠をもって
ディプロマ・ポリシーとの関連 （看護学研究科） /	（DP1）知識・技能と課題解決力、（DP3）社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	1．授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	授業への取り組み（20％）、プレゼンテーション（40％）、レポート（40％）で総合的に評価する。 。レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	1．村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年（初版） 2．岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年（初版） 3．岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年（初版） 4．厚生労働統計協会「国民衛生の動向2025/2026」厚生労働統計協会・2025年
参考書 /	1．厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向2025/2026」厚生労働統計協会・2025年
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたりアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 親子（母子）保健活動1	坂本 美佐子	親子（母子）支援システムと公衆衛生看護活動1	
2 親子（母子）保健活動2	坂本 美佐子	親子（母子）支援システムと公衆衛生看護活動2	
3 成人保健活動1	櫻井 純子	成人保健施策と公衆衛生看護活動1	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
4 成人保健活動2	櫻井 純子	成人保健施策と公衆衛生看護活動2	
5 親子（母子）保健活動3	荒木 暁子	医療的ケア児・障害児と家族の支援1	
6 親子（母子）保健活動4	荒木 暁子	医療的ケア児・障害児と家族の支援2	
7 精神保健（福祉）活動1	伊藤 桂子	依存症の回復支援 医療連携体制の構築と地域コミュニティの活用1	
8 精神保健（福祉）活動2	伊藤 桂子	依存症の回復支援 医療連携体制の構築と地域コミュニティの活用2	
9 難病保健（福祉）活動1	小坂橋 恵美子	難病保健福祉動向・制度・施策	
10 難病保健（福祉）活動1	小坂橋 恵美子	難病保健における健康課題への支援	
11 精神保健（福祉）活動3	佐川 きよみ	精神保健福祉の健康課題への支援1	
12 精神保健（福祉）活動4	佐川 きよみ	精神保健福祉の健康課題への支援2	
13 障害者（児）保健（福祉）活動1	小坂橋 恵美子	障害保健福祉動向・制度・施策	
14 障害者（児）保健（福祉）活動2	小坂橋 恵美子	障害保健福祉における健康課題への支援	
15 高齢者保健（福祉）活動1	坂本 美佐子	高齢者保健活動における事例展開1	
16 高齢者保健（福祉）活動2	坂本 美佐子	高齢者保健活動における事例展開2	
17 成人保健活動3	櫻井 純子	成人保健施策と公衆衛生看護活動3	
18 成人保健活動4	櫻井 純子	成人保健施策と公衆衛生看護活動4	
19 高齢者保健（福祉）活動3	藤原 佳典	事業化・施策化の実際1	
20 高齢者保健（福祉）活動4	藤原 佳典	事業化・施策化の実際2	
21 高齢者保健（福祉）活動5	藤原 佳典	事業化・施策化の実際3	
22 高齢者保健（福祉）活動6	藤原 佳典	事業化・施策化の実際4	
23 高齢者保健（福祉）活動7	坂本 美佐子	虐待対応と公衆衛生看護活動1	
24 高齢者保健（福祉）活動8	坂本 美佐子	虐待対応と公衆衛生看護活動2	
25 高齢者保健（福祉）活動9	坂本 美佐子	高齢者保健活動における事例展開3（計画立案）	
26 難病保健（福祉）活動3	狩野 修	難病の治療と支援の実際1	
27 難病保健（福祉）活動4	狩野 修	難病の治療と支援の実際2	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護展開論	
時間割コード / Course Code	G3115	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子 (専任教員)、坂本 美佐子 (専任教員)、望月 由紀子 (専任教員)、本田 順子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授) 坂本 美佐子 (看護学研究科・講師) 本田 順子 (看護学研究科・講師) 櫻井 純子 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:45～14:00	
授業概要 /	多様な人々の健康課題に即した公衆衛生看護活動を展開するために必要な家庭訪問・健康相談・健康診査等の知識・技術を学び、対象に合わせてそれらの技術を組み合わせて公衆衛生看護を展開する方法を習得する。	
到達目標 /	1 様々な対象における事例展開を通して、地域で生活する対象者に応じた展開方法を選択し、その根拠を説明できる。 2 公衆衛生看護活動 (健康診査、家庭訪問) における必要な知識や基礎的な支援技術を具体的に説明できる。 3 家庭訪問や健康診査の方法を用いて、個人や家族、集団や地域への支援方法について説明でき	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	1. 授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2. 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	授業への取り組み(20%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(40%)で総合的に評価する。 レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。
教科書 /	1. 村嶋幸代、岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年 (初版)
参考書 /	1. 厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向2025/2026」厚生労働統計協会・2025年 2. 前川喜平、小枝達也著「写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法改訂10版」南山堂・2022年
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 家庭訪問1	本田 順子	家庭訪問に必要な知識	
2 家庭訪問2	本田 順子	家庭訪問に必要な発育発達の見方・技術	
3 家庭訪問3	本田 順子	家庭訪問計画の準備(ワーク)	
4 家庭訪問4	櫻井 純子, 本田 順子	家庭訪問計画1	
5 家庭訪問5	櫻井 純子, 本田 順子	家庭訪問計画2	
6 家庭訪問6	櫻井 純子, 本田 順子	家庭訪問計画3	
7 家庭訪問7	櫻井 純子, 本田 順子	家庭訪問計画4	
8 家庭訪問8	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	家庭訪問計画発表会	
9 親子(母子)保健活動1	櫻井 純子, 本田 順子	事例展開の準備	
10 親子(母子)保健活動2	櫻井 純子	母子保健活動における事例展開1(言葉)	
11 親子(母子)保健活動3	櫻井 純子	母子保健活動における事例展開2(言葉)	
12 親子(母子)保健活動4	櫻井 純子, 本田 順子	母子保健活動における事例展開3(虐待)	
13 親子(母子)保健活動5	櫻井 純子, 本田 順子	母子保健活動における事例展開4(虐待)	
14 親子(母子)保健活動6	櫻井 純子, 本田 順子	母子保健活動における事例展開5(虐待)	
15 親子(母子)保健活動7	櫻井 純子, 本田 順子	母子保健活動における事例展開6(虐待)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
16 家庭訪問9	櫻井 純子, 本田 順子	家庭訪問を想定したロールプレイ1 (計画立案)	
17 家庭訪問10	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	家庭訪問を想定したロールプレイ2 (実施: 模擬患者)	
18 家庭訪問11	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	家庭訪問を想定したロールプレイ3 (実施: 模擬患者)	
19 家庭訪問12	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	家庭訪問を想定したロールプレイ4 (まとめ)	
20 精神保健 (福祉) 活動1	本田 順子	精神保健活動における事例展開1	
21 精神保健 (福祉) 活動2	本田 順子	精神保健活動における事例展開2	
22 精神保健 (福祉) 活動3	本田 順子	精神保健活動における事例展開3	
23 事前訪問ガイダンス1	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 本田 順子	事前訪問準備、参加事業、地域診断	
24 事前訪問ガイダンス2	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 本田 順子	事前訪問準備、参加事業、地域診断	
25 高齢者保健 (福祉) 活動1	坂本 美佐子	高齢者保健活動における事例展開1 (実施: 模擬患者)	
26 高齢者保健 (福祉) 活動2	坂本 美佐子	高齢者保健活動における事例展開2 (実施: 模擬患者)	
27 高齢者保健 (福祉) 活動3	坂本 美佐子	高齢者保健活動における事例展開3 (まとめ)	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護展開論	
時間割コード / Course Code	G3116	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子 (専任教員)、坂本 美佐子 (専任教員)、望月 由紀子 (専任教員)、本田 順子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授) 坂本 美佐子 (看護学研究科・講師) 本田 順子 (看護学研究科・講師) 櫻井 純子 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先 (教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 13:45 ~ 14:00	
授業概要 /	公衆衛生看護活動を展開するために必要な健康診査・健康相談・健康教育の知識・技術を対象に応じて組み合わせ公衆衛生看護を実践する方法を学ぶ。また、地域の特性や健康課題を明確化し、課題解決の方向性を見出すための地域診断に必要な技術を習得する。	

到達目標 /	<p>1 公衆衛生看護活動（健康相談、地域診断、健康教育）における必要な知識や基礎的な支援技術を具体的に説明できる。</p> <p>2 地域の特徴や対象者に応じた健康診査における問診・保健指導を行い、実施する際の視点や対象のアセスメント、必要な保健指導を具体的に説明できる。</p> <p>3 地域における多彩な人々の健康課題について、地域診断の手法を用いて具体的に説明できる。</p> <p>4 保健所・保健センターで実施されている保健事業をまとめ、事業の根拠や必要性、評価などを具体的に説明できる。</p> <p>5 実習前の事前訪問に向けて、打合せや確認内容を明確にして事前訪問計画を立案し、その内容を根拠もって説明できる。</p> <p>6 地域包括支援センターの実習に向けて準備を行い、実習課題や学習内容について説明できる。</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連 （看護学研究科） /	（DP1）知識・技能と課題解決力、（DP3）社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	<p>1．授業ごとに該当分野の予習復習をする。</p> <p>2．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。</p>
評価方法・基準 /	授業への取り組み（20％）、プレゼンテーション（40％）、レポート（40％）で総合的に評価する。 レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	<p>1. 佐伯和子 編「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド」医歯薬出版・2025年（第3版）</p> <p>2. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年（初版）</p> <p>3. 岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年（初版）</p> <p>4. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2025/2026」厚生労働統計協会・2025年</p>
参考書 /	1. 厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向2025/2026」厚生労働統計協会・2025年
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたりリアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 地域診断1	坂本 美佐子	地域診断の方法・データ収集と分析	
2 地域診断2	坂本 美佐子	地域診断に活用される理論・モデル	
3 地域診断3	坂本 美佐子	健康課題の抽出、評価	
4 学びの統合	坂本 美佐子	学修整理・理解確認	
5 地域診断5	本田 順子	地域診断の実際 1	
6 健康診査1	櫻井 純子	健康診断の立案	
7 地域診断6	本田 順子	地域診断の実際2	
8 地域診断7	本田 順子	地域診断の実際3	
9 健康診査2	櫻井 純子	乳幼児を想定した問診場面のロールプレイ 1（計画立案）	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
10 健康診査3	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	乳幼児を想定した問診場面のロールプレイ2 (実施: 模擬患者)	
11 健康診査4	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	乳幼児を想定した問診場面のロールプレイ3 (実施: 模擬患者)	
12 健康診査5	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	乳幼児を対象とした問診場面のロールプレイ4 (まとめ)	
13 健康教育1	櫻井 純子	ニーズに合わせた健康教育指導案 (企画案・展開計画) 1	
14 健康教育2	櫻井 純子	ニーズに合わせた健康教育指導案 (企画案・展開計画) 2	
15 健康教育3	櫻井 純子	ニーズに合わせた健康教育指導案 (企画案・展開計画) 3	
16 健康教育4	櫻井 純子	ニーズに合わせた健康教育指導案 (企画案・展開計画) 4	
17 健康教育5	櫻井 純子	ニーズに合わせた健康教育指導案 (企画案・展開計画) 5	
18 健康教育6	櫻井 純子	ニーズに合わせた健康教育指導案 (シナリオ・媒体) 1	
19 健康教育7	櫻井 純子	ニーズに合わせた健康教育指導案 (シナリオ・媒体) 2	
20 健康教育8	櫻井 純子	ニーズに合わせた健康教育指導案 (シナリオ・媒体) 3	
21 健康教育9	櫻井 純子	ニーズに合わせた健康教育指導案 (シナリオ・媒体) 4	
22 健康教育10	櫻井 純子	ニーズに合わせた健康教育指導案 (シナリオ・媒体) 5	
23 健康教育11	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 本田 順子	ニーズに合わせた健康教育指導案(デモンストレーション) 1	
24 健康教育12	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 本田 順子	ニーズに合わせた健康教育指導案(デモンストレーション) 2	
25 健康教育13	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 本田 順子	ニーズに合わせた健康教育指導案(デモンストレーション) 3	
26 健康教育14	櫻井 純子	ニーズに合わせた健康教育指導案(再考)	
27 健康教育15	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	健康教育発表	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護管理特論	
時間割コード / Course Code	G3120	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子 (専任教員)、坂本 美佐子 (専任教員)、望月 由紀子 (専任教員)、本田 順子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授) 坂本 美佐子 (看護学研究科・講師) 本田 順子 (看護学研究科・講師) 櫻井 純子 (看護学研究科・講師) 今村 晴彦 (長野県立大学・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 今村 晴彦 講義終了後	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:30～14:00	
授業概要 /	公衆衛生看護活動における保健師の管理的な機能として、公衆衛生看護管理の目的と展開方法を理解する。健康危機管理、情報管理、組織・運営管理、人材育成、地域ケアシステム構築について学び、保健師に必要なマネジメント能力を養う。	
到達目標 /	1. 地域住民の健康向上を実現するための、公衆衛生看護管理の目的と展開方法が説明できる。 2. 健康危機管理における公衆衛生看護の役割・機能について根拠をもって説明できる。 3. 地域ケアシステム構築のプロセスと保健師の役割について具体的に説明できる	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	1. 授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2. 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	授業への参加態度・レポート(20%)、筆記試験(80%)により総合的に評価する。 レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年(初版)
参考書 /	適宜紹介する
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたりリアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	望月 由紀子	講義ガイダンス、公衆衛生看護管理の目的・機能	
2 公衆衛生看護管理1	望月 由紀子	業務管理・事例管理	
3 公衆衛生看護管理2	望月 由紀子	情報管理	
4 公衆衛生看護管理3	望月 由紀子	地区管理	
5 公衆衛生看護管理4	望月 由紀子	人材育成・人事管理	
6 公衆衛生看護管理5	望月 由紀子	組織運営管理	
7 公衆衛生看護管理6	望月 由紀子	予算管理	
8 学びの統合1	望月 由紀子	学習整理・理解の確認	
9 健康危機管理1	櫻井 純子, 本田 順子	感染症対策における公衆衛生看護活動1(感染防護服着脱演習)	
10 健康危機管理2	櫻井 純子, 本田 順子	感染症対策における公衆衛生看護活動1(感染防護服着脱演習)	
11 健康危機管理3	坂本 美佐子	災害対応と公衆衛生看護活動1	
12 健康危機管理4	坂本 美佐子	災害対応と公衆衛生看護活動2	
13 健康危機管理5	坂本 美佐子	災害対応と公衆衛生看護活動3	
14 健康危機管理6	今村 晴彦	地域介入の成果:自治体との実装科学	
15 健康危機管理7	今村 晴彦	地域介入の成果:自治体との実装科学	
16 健康危機管理8	今村 晴彦	地域介入の成果:自治体との実装科学	
17 健康危機管理9	櫻井 純子, 本田 順子	感染症対策における公衆衛生看護活動(VR)3	
18 健康危機管理10	櫻井 純子, 本田 順子	感染症対策における公衆衛生看護活動(VR)3	
19 健康危機管理11	櫻井 純子	感染症対策における公衆衛生看護活動5(積極的疫学調査 事例展開)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
20 健康危機管理12	櫻井 純子	感染症対策における公衆衛生看護活動 6（積極的疫学調査 事例展開）	
21 公衆衛生看護管理9	坂本 美佐子	公衆衛生看護における倫理1	
22 公衆衛生看護管理10	坂本 美佐子	公衆衛生看護における倫理2（倫理的ジレンマ：事例展開）	
23 公衆衛生看護管理11	坂本 美佐子	公衆衛生看護における倫理3（倫理的ジレンマ：事例展開）	
24 公衆衛生看護管理12	坂本 美佐子	公衆衛生看護における倫理4（倫理的ジレンマ：事例展開）	
25 公衆衛生看護管理13	望月 由紀子	公衆衛生看護管理の実際1（大田区）	
26 公衆衛生看護管理14	望月 由紀子	公衆衛生看護管理の実際1（大田区）	
27 学びの統合2	望月 由紀子	学習整理・理解の確認	

開講科目名 / Course	産業保健学校保健特論	
時間割コード / Course Code	G3121	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子 (専任教員)、坂本 美佐子 (専任教員)、望月 由紀子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授) 坂本 美佐子 (看護学研究科・講師) 櫻井 純子 (看護学研究科・講師) 深石 純子 (青山学院・中等部)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 深石 純子 授業終了後 を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:45~14:00	

授業概要 /	産業保健・学校保健・地域包括支援センターなど多様な場で展開される公衆衛生看護活動について、健康課題を明らかにし、課題を解決するための基礎的な技術を習得する。 <産業保健> あらゆる職業に従事する人々の疾病・障害を予防し、健康の保持増進に関連する様々な要因を探求する。産業保健の理念・目的・対象を理解して、将来を見据えた労働者の健康の保持増進へのアプローチや産業保健に関するシステム、産業保健活動の実際や保健師の役割や機能を学ぶ。 <学校保健> 学校保健の理念・目的・対象を理解して、現代の変化に伴う子どもが抱える社会状況を理解し、
到達目標 /	1 産業保健の理念・目的・対象を理解して、職業性疾病や障害を予防する支援方法を説明できる。 2 学校保健の理念・目的・対象を理解して、子どもが抱える課題を解決する支援方法を説明できる。 3 環境が健康に及ぼす要因を探るため環境測定を行い、根拠に基づくリスクマネジメント手法
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	1. 授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2. 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	授業への参加態度・レポート(20%)、筆記試験(80%)により総合的に評価する。 レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	1. 岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年(初版)
参考書 /	適宜紹介する
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	望月 由紀子	本講義の目的と進め方	
2 産業保健の概念・理念	望月 由紀子	理念、目的・意義、歴史、社会構造、産業保健の位置づけ	
3 場と対象の理解	望月 由紀子	働き方改革、多様化する働き方、労働災害	
4 産業保健のアセスメント1	望月 由紀子	集団・組織アセスメント1	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
5 産業保健のアセスメント2	望月 由紀子	集団・組織アセスメント2	
6 産業保健のアセスメント3	望月 由紀子	集団・組織アセスメント3	
7 事業化へのプロセス	望月 由紀子	PDCA、事業化・施策化	
8 産業保健の健康課題1	望月 由紀子	主な健康課題への対策と支援1	
9 産業保健の健康課題2	望月 由紀子	主な健康課題への対策と支援2	
10 産業保健活動の実際1	望月 由紀子	企業における産業保健活動の実際 1（大企業）	
11 産業保健活動の実際2	望月 由紀子	企業における産業保健活動の実際 2（大企業）	
12 地域包括支援センターの健康課題1	坂本 美佐子, 望月 由紀子	健康課題の発表 1	
13 地域包括支援センターの健康課題2	坂本 美佐子, 望月 由紀子	健康課題の発表 2	
14 学校保健の制度・理解	望月 由紀子	理念、目的・意義、歴史、制度	
15 学校保健分野の健康課題1	望月 由紀子	主な健康課題への対策と支援 1	
16 学校保健分野の健康課題2	望月 由紀子	主な健康課題への対策と支援 2	
17 学校保健活動の実際1	深石 純子	学校保健の健康課題への実際 1	
18 学校保健活動の実際2	深石 純子	学校保健の健康課題への実際 2	
19 模擬職場巡視・環境測定1	望月 由紀子	職場巡視・環境測定・アセスメント 1（計画立案）	
20 模擬職場巡視・環境測定2	望月 由紀子	職場巡視・環境測定・アセスメント 2（実施）	
21 模擬職場巡視・環境測定3	櫻井 純子, 望月 由紀子	職場巡視・環境測定・アセスメント 3（実施）	
22 模擬職場巡視・環境測定4	櫻井 純子, 望月 由紀子	職場巡視・環境測定・アセスメント 4（実施）	
23 模擬職場巡視・環境測定5	櫻井 純子, 望月 由紀子	まとめ	
24 産業保健の事例展開1	櫻井 純子, 望月 由紀子	中小企業で働く人の安全と健康1（フィールドワーク）	
25 産業保健の事例展開2	櫻井 純子, 望月 由紀子	中小企業で働く人の安全と健康2（フィールドワーク）	
26 産業保健の事例展開3	櫻井 純子, 望月 由紀子	中小企業で働く人の安全と健康3（フィールドワーク）	
27 産業保健の事例展開4	櫻井 純子, 望月 由紀子	まとめ	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護学実習	
時間割コード / Course Code	G3126	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子 (専任教員)、坂本 美佐子 (専任教員)、望月 由紀子 (専任教員)、本田 順子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	必修	
授業形態 /	実習	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的な名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授) 坂本 美佐子 (看護学研究科・講師) 本田 順子 (看護学研究科・講師) 櫻井 純子 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先 (教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:45 ~ 14:00	
授業概要 /	学校保健・産業保健・地域包括支援センターなど多様な場で展開される公衆衛生看護活動の場で行われる実習を通じて、健康課題を明らかにし、基礎的な具体的な支援について実践を通して学ぶ。	

到達目標 /	<p>1. 労働者の健康課題を把握し、企業における公衆衛生看護活動と保健師の役割・機能について考察し、説明できる。</p> <p>2. 学校保健の仕組み、学校保健の対象や健康課題を把握し、対象への学校保健活動を学び、学校保健活動における養護教諭・保健師の役割について考察し、説明できる。</p> <p>3. 高齢者やその家族の健康課題を理解し、地域で展開されている事業について理解を深めるとともに、地域の人々とともに地域づくりを推進する保健師の役割や多機関との連携について考察し、説明することができる。</p> <p>4. それぞれの施設において対象とする住民の健康課題を明らかにし、課題解決に向けた方策を検討</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ
事前・事後学習とその時間 /	<p>実習で学習する予定の内容および自分の関心の高い分野の事前学習をして実習に臨む。</p> <p>実習で学習した内容の事後学習を行う。</p>
評価方法・基準 /	<p>実習への取り組み・参加態度(30%)、実習記録・レポート等(70%)を総合的に評価する。</p> <p>レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。</p>
フィードバック方法 /	<p>レポート内容は、解説して返却する。</p> <p>講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、Active Academy・classroomに掲示する。</p>
教科書 /	なし
参考書 /	これまでに紹介したテキスト
備考(関連科目等) /	<p>感染拡大等により実施内容を変更する場合がある。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。</p> <p>実践的教育から構成する授業科目である。</p>

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 実習オリエンテーション	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	学内実習	
2 産業保健実習(外部施設)	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設オリエンテーション ・実習施設の特徴と労働者の健康課題の理解 ・保健師業務の見学 ・保健師・管理者・衛生部門等からの講話 ・実習施設カンファレンス 	
3 学校保健実習(外部施設)	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設オリエンテーション ・実習施設の特徴と児童・生徒の健康課題の理解 ・養護教諭業務の見学 ・養護教諭・管理者等からの講話 ・実習施設カンファレンス 	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
4 地域包括実習（外部施設）	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設オリエンテーション ・実習施設の特徴と高齢者の健康課題の理解 ・保健師業務の見学 ・講話 ・実習施設カンファレンス 	
5 学内報告会	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	学内実習	

開講科目名 / Course	在宅看護学特論	
時間割コード / Course Code	G3301	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	成澤 明	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	成澤 明 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, タブレット端末
担当教員 /	成澤明 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	成澤明 akira.narusawa med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30-13:00	
授業概要 /	国内外の在宅ケアの現状、動向、および関連する法制度についての分析から地域を包括的に捉え、在宅看護の現状をアセスメントできる能力を養う。	
到達目標 /	1. 在宅看護について、歴史、法制度、地域包括ケアシステム、および看護組織管理などから多面的に分析し記述できる。 2. 在宅療養の意義と看護の役割について述べることができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。	
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。 課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、個別に対面で評価しながら返却する。	

教科書 /	必要な文献を適宜紹介する。
参考書 /	必要な文献を適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	対面形式と遠隔形式を組み合わせる実施する。 ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 在宅看護学の概念	成澤 明	オリエンテーション	
2 在宅ケアの概念 1	成澤 明	在宅ケアの理念	
3 在宅ケアの概念 2	成澤 明	在宅ケアの理念	
4 在宅ケアの概念 3	成澤 明	在宅ケアの歴史	
5 在宅ケアの概念 4	成澤 明	在宅ケアの歴史	
6 在宅ケアの現状 1	成澤 明	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源	
7 在宅ケアの現状 2	成澤 明	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源	
8 在宅ケアの現状 3	成澤 明	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源	
9 在宅ケアの現状 4	成澤 明	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源	
10 在宅看護と地域包括ケア 1	成澤 明	在宅看護と地域包括ケアシステムの現状	
11 在宅看護と地域包括ケア 2	成澤 明	在宅看護と地域包括ケアシステムの現状	
12 在宅看護と地域包括ケア 3	成澤 明	在宅看護と地域包括ケアシステムの課題と今後	
13 在宅看護と地域包括ケア 4	成澤 明	在宅看護と地域包括ケアシステムの課題と今後	
14 療養者への理解 1	成澤 明	対象者理解のための理論	
15 療養者への理解 2	成澤 明	対象者理解のための理論	
16 療養者への理解 3	成澤 明	対象者理解の実際	
17 療養者への理解 4	成澤 明	対象者理解の実際	
18 在宅看護組織の管理運営 1	成澤 明	訪問看護ステーションの管理運営	
19 在宅看護組織の管理運営 2	成澤 明	訪問看護ステーションの管理運営	
20 在宅看護組織の管理運営 3	成澤 明	看護小規模多機能等、看護サービスと管理運営	
21 在宅看護組織の管理運営 4	成澤 明	看護小規模多機能等、看護サービスと管理運営	
22 在宅看護における倫理 1	成澤 明	在宅看護における倫理的問題	
23 在宅看護における倫理 2	成澤 明	在宅看護における倫理的問題	
24 在宅看護における倫理 3	成澤 明	在宅看護における倫理的問題	
25 在宅看護における倫理 4	成澤 明	在宅看護における倫理的問題	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
26 在宅看護学の動向 1	成澤 明	在宅看護論学の課題と動向	
27 在宅看護学の動向 2	成澤 明	在宅看護学の課題と動向	

開講科目名 / Course	在宅看護学演習	
時間割コード / Course Code	G3304	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	成澤 明	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	成澤 明 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	PBL (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, タブレット端末
担当教員 /	成澤明 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	成澤明 akira.narusawa med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30-13:00	
授業概要 /	各自が関心を持っている領域から研究課題を明確にし、分析方法を検討できる能力を養う。	
到達目標 /	1. 関心を持っている看護実践の場において、在宅療養における重要な課題や研究課題を説明できる。 2. 研究課題を実証的に検討する方法を検討し、研究計画書を立案できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。	
フィードバック方法 /	課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。	

教科書 /	必要な文献を適宜紹介する。
参考書 /	必要な文献を適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	対面形式と遠隔形式を組み合わせる実施する。 ゼミでは、学生の主体的な運営により実施する。行なってきた文献検討、フィールドワークのプレゼンテーションをもとに積極的な討論を展開し課題を深めることを期待する。 紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	成澤 明	研究の進め方	
2 研究課題の明確化 1	成澤 明	在宅看護における研究課題の発表	
3 研究課題の明確化 2	成澤 明	在宅看護における研究課題の発表	
4 研究課題の明確化 3	成澤 明	研究課題に関する文献クリティーク	
5 研究課題の明確化 4	成澤 明	研究課題に関する文献クリティーク	
6 研究課題の明確化 5	成澤 明	研究課題に関する文献クリティーク	
7 研究課題の明確化 6	成澤 明	研究課題に関する文献クリティーク	
8 研究課題の明確化 7	成澤 明	研究課題に関する文献クリティーク	
9 研究課題の明確化 8	成澤 明	研究課題に関する文献クリティーク	
10 研究デザイン 1	成澤 明	研究デザインの発表	
11 研究デザイン 2	成澤 明	研究デザインの発表	
12 研究デザイン 3	成澤 明	研究デザインの発表	
13 研究デザイン 4	成澤 明	研究デザインの発表	
14 フィールドワーク 1	成澤 明	フィールドワーク(予備調査)	
15 フィールドワーク 2	成澤 明	フィールドワーク(予備調査)	
16 フィールドワーク 3	成澤 明	フィールドワーク(予備調査)	
17 フィールドワーク 4	成澤 明	フィールドワーク(予備調査)	
18 フィールドワーク 5	成澤 明	フィールドワーク(予備調査)の結果評価	
19 フィールドワーク 6	成澤 明	フィールドワーク(予備調査)の結果評価	
20 研究計画書 1	成澤 明	研究計画書の作成	
21 研究計画書 2	成澤 明	研究計画書の作成	
22 研究計画書 3	成澤 明	研究計画書の作成	
23 研究計画書 4	成澤 明	研究計画書の作成	
24 研究計画書 5	成澤 明	研究計画書の発表	
25 研究計画書 6	成澤 明	研究計画書の発表	
26 研究計画書 7	成澤 明	研究計画書の発表	
27 研究計画書 8	成澤 明	研究計画書の発表	

開講科目名 / Course	感染制御学特論	
時間割コード / Course Code	G3401	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 寅吉	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 寅吉 (専任教員)、勝瀬 明子 (専任教員)、金坂 伊須萌 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的な要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Moodle
担当教員 /	小林寅吉(看護学研究科・教授)勝瀬明子(看護学研究科・准教授)金坂伊須萌(看護学研究科・講師) 内藤拓(医学部・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	小林寅吉kobatora med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki med.toho-u.ac.jp 金坂伊須萌izumo med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	小林寅吉 毎週木曜日12:00-13:00 勝瀬明子 毎週木曜日12:00-13:00 金坂伊須萌 毎週木曜日12:00-13:00 内藤拓 授業終了後に質問を受け付ける。	
授業概要 /	感染症の起炎菌と感染経路およびその制御について検討する。 感染症の診断と治療に関する基礎知識と宿主免疫の働きについて理解する。	
到達目標 /	1. 感染症起炎菌の感染経路と対策について具体的に述べることができる。 2. 臨床における主な感染症とその診断法の概要を説明できる。 3. 抗菌薬と抗菌薬耐性菌に関する基礎的知識について述べることができる。 4. 病原体に対する宿主免疫の働きについて述べることができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題への取り組み(70%)、研究プロトコールおよびプレゼンテーション(30%)で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	授業内で講評を伝え、課題を共有する。
教科書 /	なし
参考書 /	小林寅吉(編)「新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進 感染制御学・微生物学」メヂカルフレンド社・2024年(第3版) 小林寅吉「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2025年(改訂第2版) 小林寅吉「看護の実践で役に立つ 基本からわかる、抗菌薬適正使用」ヴァンメディカル・2025年(初版) 小林寅吉「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版) 藤本秀士「わかる!身につく!病原体・感染・免疫」南山堂・2017年(改訂3版) CLSIガイドライン: Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing 31st ed. CLSI supplement M100, 2021. その他、講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	対面形式にて実施する。 やむを得ず遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってMoodle, zoom等を用い授業を行う。 講義を基にゼミナール形式で行う。 過去に学習した感染と防御(予防)に関する内容について復習しておくことが望ましい。 身近に発生している感染症について情報を集め調べておくこと。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 感染制御学の概念	小林 寅吉	感染制御とは	
2 感染症と流行	小林 寅吉	病原体の移動と伝播	
3 感染経路と遮断	小林 寅吉	各種感染経路別対策と方法	
4 感染経路と遮断	小林 寅吉	各種感染経路別対策と方法	
5 感染症と病原微生物	小林 寅吉	食中毒、主要な細菌感染症	
6 感染症と病原微生物	小林 寅吉	食中毒、主要な細菌感染症	
7 感染症と病原微生物	小林 寅吉	主要なウイルス感染症と特徴	
8 感染症と病原微生物	小林 寅吉	主要なウイルス感染症と特徴	
9 日和見感染症	小林 寅吉	免疫力の低下と感染症	
10 日和見感染症	小林 寅吉	免疫力の低下と感染症	
11 感染症診断	小林 寅吉	臨床検体の採取と取り扱い	
12 感染症診断	小林 寅吉, 金坂 伊須萌	臨床検体の採取と取り扱い	
13 感染症診断	小林 寅吉	臨床検体からの起炎菌の検出と診断の概念	
14 感染症診断	小林 寅吉, 金坂 伊須萌	臨床検体からの起炎菌の検出と診断の概念	
15 抗菌薬感受性の基礎	勝瀬 明子	抗菌薬感受性試験とその概念	
16 抗菌薬感受性と標準法	勝瀬 明子	抗菌薬感受性とガイドラインによる判定基準	
17 抗菌薬感受性と標準法	勝瀬 明子	抗菌薬感受性とガイドラインによる判定基準	
18 抗菌薬と特徴	勝瀬 明子	抗菌薬の微生物に対する作用	
19 抗菌薬と特徴	勝瀬 明子	抗菌薬の微生物に対する作用	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
20 抗菌薬と特徴	勝瀬 明子	抗菌薬の種類と作用機序	
21 抗菌薬と特徴	勝瀬 明子	抗菌薬の種類と作用機序	
22 抗菌薬耐性菌	勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	臨床で検出される主な抗菌薬耐性菌	
23 抗菌薬耐性菌	勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	臨床で検出される主な抗菌薬耐性菌	
24 免疫	内藤 拓	免疫とは	
25 免疫	内藤 拓	免疫とは	
26 免疫	内藤 拓	病原体に対する免疫の働き	
27 免疫	内藤 拓	病原体に対する免疫の働き	

開講科目名 / Course	感染制御学特論	
時間割コード / Course Code	G3402	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 寅吉	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 寅吉 (専任教員)、勝瀬 明子 (専任教員)、金坂 伊須萌 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Moodle
担当教員 /	小林寅吉(看護学研究科・教授)勝瀬明子(看護学研究科・准教授)金坂伊須萌(看護学研究科・講師) 内藤拓(医学部・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	小林寅吉kobatora med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki med.toho-u.ac.jp 金坂伊須萌izumo med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	小林寅吉 毎週木曜日12:00-13:00 勝瀬明子 毎週木曜日12:00-13:00 金坂伊須萌 毎週木曜日12:00-13:00 内藤拓 授業後に質問を受け付ける	
授業概要 /	医療関連施設内感染が生じる要因について環境および宿主側の因子から探求し、サーベイランスの必要性およびその遮断法について検討する。抗菌薬耐性菌と効果的な抗菌薬治療について科学的根拠に基づいたPK-PD理論を理解する。特殊病態下での免疫について理解し、易感染宿主における感染対策について検討する。	
到達目標 /	1. 医療関連感染で問題となる病原体と分布について具体的に述べるができる。 2. 抗菌薬耐性菌の性質とそれらが生じる仕組みを説明することができる。 3. 抗菌薬の特性と適正使用による耐性菌の抑制法に関する基礎的な知識を説明することができる。 4. アレルギ-や特殊病態下での免疫と感染症とのかわりについて概要を説明することができる。	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題への取り組み(70%)、研究プロトコルおよびプレゼンテーション(30%)で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	授業内で講評を伝え、課題を共有する。
教科書 /	なし
参考書 /	小林寅吉(編)「新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進 感染制御学・微生物学」メヂカルフレンド社・2024年(第3版) 小林寅吉「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2025年(改訂第2版) 小林寅吉「看護の実践で役に立つ 基本からわかる、抗菌薬適正使用」ヴァンメディカル・2025年(初版) 小林寅吉「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版) 藤本秀士「わかる!身につく!病原体・感染・免疫」南山堂・2017年(改訂3版) CLSIガイドライン: Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing 31st ed. CLSI supplement M100, 2021. その他、講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	対面形式にて実施する。 やむを得ず遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってMoodle, zoom等を用い授業を行う。 講義を基にゼミナール形式で行う。 感染制御学特論 で学習した内容を復習しておくこと。 医療関連感染など身近に発生している感染症について情報を集め調べておくこと。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 医療関連感染	小林 寅吉	医療関連感染の実態	
2 医療関連感染	小林 寅吉	医療関連感染の実態	
3 医療関連感染と病原体	小林 寅吉	医療関連感染の主な病原体	
4 医療関連感染と病原体	小林 寅吉	医療関連感染の主な病原体	
5 起炎菌と感染症診断	勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	抗原や遺伝子を利用した感染症診断	
6 起炎菌と感染症診断	勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	抗原や遺伝子を利用した感染症診断	
7 起炎菌と感染症診断	勝瀬 明子	染色や培養法による感染症診断	
8 AMR(抗菌薬耐性菌)問題	小林 寅吉, 金坂 伊須萌	世界における抗菌薬耐性菌問題	
9 抗菌薬耐性菌	小林 寅吉	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陽性菌)など	
10 抗菌薬耐性菌	小林 寅吉	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陽性菌)など	
11 抗菌薬耐性菌	小林 寅吉	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陰性菌)など	
12 抗菌薬耐性菌	小林 寅吉	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陰性菌)など	
13 抗菌薬適正使用	小林 寅吉	抗菌薬の体内動態とモニタリング	
14 抗菌薬適正使用	小林 寅吉	抗菌薬の体内動態とモニタリング	
15 抗菌薬適正使用	小林 寅吉	PK-PD理論と抗菌薬適正使用	
16 抗菌薬適正使用	小林 寅吉	PK-PD理論と抗菌薬適正使用	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
17 感染症サーベイランス	小林 寅吉	各種サーベイランスと手法	
18 感染症サーベイランス	小林 寅吉	各種サーベイランスと手法	
19 主要な感染症	小林 寅吉	血流感染症と起炎菌の特徴	
20 主要な感染症	小林 寅吉	血流感染症と起炎菌の特徴	
21 主要な感染症	小林 寅吉	呼吸器感染症、尿路感染症と起炎菌の特徴	
22 主要な感染症	小林 寅吉	呼吸器感染症、尿路感染症と起炎菌の特徴	
23 免疫	内藤 拓	免疫とアレルギー	
24 免疫	内藤 拓	免疫とアレルギー	
25 免疫	内藤 拓	特殊病態下での免疫	
26 免疫	内藤 拓	特殊病態下での免疫	
27 遺伝子疫学解析	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	遺伝子手法を利用した分子疫学的解析	

開講科目名 / Course	感染制御学演習	
時間割コード / Course Code	G3404	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 寅吉	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 寅吉 (専任教員)、勝瀬 明子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用しない
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	
担当教員 /	小林寅吉(看護学研究科・教授)勝瀬明子(看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	小林寅吉kobatora med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	小林寅吉毎週木曜日12:00-13:00 勝瀬明子毎週木曜日12:00-13:00	
授業概要 /	抗菌薬耐性菌を中心とした病院感染および市中感染の起炎菌の抗菌薬耐性機序の解析と使用抗菌薬との関連を検証する。病院感染の原因菌の伝播経路の解析方法を学び、結果を考察し実践への応用について検討する。	
到達目標 /	1. 抗菌薬耐性菌の生じる仕組みと耐性機構について具体的に述べるができる。 2. 病院内および市中に分布する耐性菌を調査し菌株間の関連性を解析する分子遺伝学的手法を実施することができ、その結果を解析することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。	

評価方法・基準 /	課題への取り組み(80%)、研究(実験)の成果(20%)で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	授業内で講評を伝え、課題を共有する。
教科書 /	なし
参考書 /	小林寅吉(編)「新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進 感染制御学・微生物学」メヂカルフレンド社・2024年(第3版) 小林寅吉「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2025年(改訂第2版) 小林寅吉「看護の実践で役に立つ 基本からわかる、抗菌薬適正使用」ヴァンメディカル・2025年(初版) 小林寅吉「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版) 藤本秀士「わかる!身につく!病原体・感染・免疫」南山堂・2017年(改訂3版) CLSIガイドライン: Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing 31st ed. CLSI supplement M100, 2021. その他、講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	対面形式にて実施する。 実験を通し微生物の取り扱いおよび手法を学ぶとともに、実験結果に対する考察を討議する。 必要に応じ集中的日程の中で演習を行う。 感染制御学特論、感染制御学演習で学習した内容、実験手技について復習しておくこと。 医療関連感染などに関係する各種ガイドラインについて情報を集め調べておくこと。 病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策	小林 寅吉, 勝瀬 明子	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討	
2 抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策	小林 寅吉, 勝瀬 明子	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討	
3 抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策	小林 寅吉, 勝瀬 明子	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討	
4 抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策	小林 寅吉, 勝瀬 明子	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討	
5 抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策	小林 寅吉, 勝瀬 明子	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討	
6 抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策	小林 寅吉, 勝瀬 明子	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討	
7 抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法	小林 寅吉, 勝瀬 明子	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得	
8 抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法	小林 寅吉, 勝瀬 明子	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得	
9 抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法	小林 寅吉, 勝瀬 明子	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
10 抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法	小林 寅吉, 勝瀬 明子	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得	
11 抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法	小林 寅吉, 勝瀬 明子	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得	
12 抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法	小林 寅吉, 勝瀬 明子	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得	
13 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証	
14 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証	
15 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証	
16 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証	
17 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証	
18 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	研究概要の整合性と妥当性の検証	
19 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	研究概要の整合性と妥当性の検証	
20 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	研究概要の整合性と妥当性の検証	
21 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	研究概要の整合性と妥当性の検証	
22 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	研究概要の整合性と妥当性の検証	
23 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	研究計画書の内容について討議	
24 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	研究計画書の内容について討議	
25 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	研究計画書の内容について討議	
26 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	研究計画書の内容について討議	
27 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉, 勝瀬 明子	研究計画書の内容について討議	

開講科目名 / Course	看護教育論	
時間割コード / Course Code	G5001	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	菊池 麻由美	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	菊池 麻由美 (専任教員)、渡邊 奈穂 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM, Moodle
担当教員 /	菊池麻由美 (看護学研究科・教授) ・渡邊奈穂 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先 (教室) /	mayumi.kikuchi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:00-13:00	
授業概要 /	看護基礎教育および継続教育における教育課程の編成、教授・学習方法、学習評価に関する主要な理論と方法論について学び、看護実践能力の向上に資する教育プログラムを立案・実施・評価するための能力を養う。	
到達目標 /	1. 看護教育に必要な基礎理論を理解し説明できる。 2. 根拠に基づき、学習者の心に響く研修や授業を設計・評価できる。 3. キャリアの概念を理解し、看護職としての自己のキャリアをデザインできる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観	
事前・事後学習とその時間 /	1 . 課題について文献抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。 2 . 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	授業・課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。	

フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	グレッグ美鈴，池西悦子（2024），看護教育学，南江堂，第3版．
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。 授業資料を事前に読み、自分の経験を活かして課題に取り組むことにより、各自の意見をもって授業に参加することを期待する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	菊池 麻由美，渡邊 奈穂	オリエンテーション・課題提示	
2-3 教育・学習の主要理論 (1)	菊池 麻由美	行動主義、認知主義、構成主義、成人学習理論	
4-6 看護教育のパラダイム転換	菊池 麻由美	行動主義から人間性中心主義へ	
7-9 教授・学習の方法 (1)	渡邊 奈穂	主体的な学習を促す教授方法 アクティブラーニング・シミュレーション教育	
10-12 教授・学習の方法 (2)	渡邊 奈穂	主体的な学習を促す教授方法 インストラクショナル・デザイン	
13-15 教育・学習の主要理論 (2)	菊池 麻由美	経験学習、正統的周辺参加、省察的实践家 「管理教育」に陥らないための批判的検討	
16-18 学習評価の理論と方法	菊池 麻由美	形成的評価と総括的評価、パフォーマンス評価、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価	
19-21 キャリア発達に関する基礎理論	菊池 麻由美	看護師の熟達（生涯発達）、キャリア、クリニカルラダー	
22-25 キャリア発達に関する演習	菊池 麻由美	自分のキャリアデザイン	
25-27 教育計画に関する演習	菊池 麻由美	自身が所属する組織（または架空の組織）における「実際の授業案（指導案）」・「院内研修企画書」・「ルーブリックの素案」の提案	

開講科目名 / Course	看護倫理	
時間割コード / Course Code	G5003	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	菊池 麻由美	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)、伊藤 桂子 (専任教員)、菊池 麻由美 (専任教員)、小坂 志保 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM
担当教員 /	菊池麻由美 (看護学研究科・教授) 伊藤桂子 (看護学研究科・教授) 富岡由美 (看護学研究科・教授) 小坂志保 (看護学研究科・准教授) 丹木博一 (元上智大学短期大学部・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	菊池麻由美 (mayumi.kikuchi@med.toho-u.ac.jp) を@に置き換える。	
オフィスアワー /	授業日13:00-18:00	
授業概要 /	この科目では、めまぐるしく変化する医療・看護の現場および社会における倫理的課題について学修する。臨床事象の分析、倫理的調整を図るための問題解決策の検討により、「看護倫理とは何か」を学生ひとりひとりが探求する。生命倫理と看護倫理の基礎的知識を修得し、看護の場における倫理的課題について倫理原則や看護実践にかかわる倫理概念などの視点からの事例の分析と対策の検討をとおして、倫理的課題に気づく力、課題解決能力・調整力を養う。	

到達目標 /	1.生命倫理の基礎的知識を理解し、看護倫理の歴史的背景、国際的動向について説明することができる。 2.看護実践における倫理的問題についての分析と意思決定のプロセスについて説明することができる。 3.複雑化・多様化する医療現場の現象を看護倫理の視点から分析し、説明することができる。 4.臨床で経験する倫理的ジレンマに対し、倫理的調整をはかるための問題解決のプロセスと方法について説明することができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽
事前・事後学習とその時間 /	1.講義内容と文献や書籍を基に学修し、ゼミナール形式で議論を行う。 2.30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	学習した内容の発表など、学習者主体のゼミナール形式のため積極的な発表と議論を期待する。各講義の前には、発表準備ならびに十分な文献・資料を読み講義に臨むこと。 一部授業は対面で行う。その他の授業は履修者と相談し授業形式(対面・遠隔)を決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 看護倫理とは、看護職者の倫理要領	菊池 麻由美	看護職者にとって「倫理」を学ぶ必要性について学修する	
2-5 看護倫理の重要概念を理解する	菊池 麻由美	自主 (autonomy) ・責任 (Accountability/ Responsibility) ・無害 (無危害non-maleficence) ・善行 (与益 beneficence) ・正義と公平 (justice/equality) ・忠誠と誠実 (Veracity/ Fidelity) ・権利 (right) ・アドボカシー (Advocacy) 等の概念を学ぶ	
6 倫理的課題の分析枠組み	菊池 麻由美	倫理的な意思決定に向けて何が課題となるのか、課題解決に向けてどのように取り組めるかを学修する	
7-12 倫理と倫理学	丹木 博一	・歴史的背景をもとに、看護倫理を考える基盤となる学問について学ぶ ・生命倫理 / 医療倫理 / 臨床倫理 / 看護倫理 ・正義の倫理 / ケアの倫理 / 徳の倫理	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
13-18 ト라우マ・インフォームドケア	伊藤 桂子	<ul style="list-style-type: none"> ・トラウマ・インフォームドケアの定義、トラウマの概念、3つのE、4つの要素、6つの原則 ・文献検討からトラウマ・インフォームドケアを考える ・トラウマ・インフォームドケアを実現するための検討 : 臨床の現場で起きているTICとNON TICを検討する ・トラウマ・インフォームドケアを実現するための検討 : 病院組織をトラウマ・インフォームドケアの視点で見直す ・医療の場における看護師のジレンマとその対処について検討する 	
19-21 医療現場の倫理的課題 「臓器移植」関わる倫理的課題と課題解決	小坂 志保	「臓器移植」をテーマに取り上げ、医療現場で遭遇する倫理的課題と課題解決策の糸口を検討する	
22-24 医療現場の倫理的課題 「妊娠・出産」関わる倫理的課題と課題解決策	富岡 由美	「妊娠・出産」を巡る課題をテーマに取り上げ、医療現場で遭遇する倫理的課題と課題解決策の糸口を検討する	
25-27 看護研究に関わる倫理的課題と課題解決策	菊池 麻由美	人間を対象とした看護学研究を巡る倫理的諸問題について学修するとともに、例示された研究計画について「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に照らして倫理的妥当性の判断を試みる	

開講科目名 / Course	看護英語論文通読	
時間割コード / Course Code	G5005	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小倉 咲	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小倉 咲 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的な要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom、各自のPC、Zoom
担当教員 /	小倉咲(看護学研究科・講師)、Jeremy Fulton(看護学研究科・非常勤講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	小倉咲 saki.ogura med.toho-u.ac.jp Jeremy Fulton fulton.jeremy med.toho-u.ac.jp を@に置き換える	
オフィスアワー /	毎週火曜日、13:30-13:50	
授業概要 /	<ul style="list-style-type: none"> ・研究に必要な英語論文を読み、またその一部を書く力を養う。 ・英文の内容を正確に理解し、必要な情報を得るための基本的な読解スキルを習得する。 ・看護研究における英語の語彙や知識を身につける。 <p>上記項目の実践として、各受講者が自身の専門分野の先行研究から論文を選び講読する。選択した英語論文については、学期中に段階的に読み進め、その内容について授業内で個人発表を行う。</p>	
到達目標 /	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護英語論文を適切に読み解き、またその一部を書くことができる。 2. 専門分野の英文をより早く正確に読むことができる。 3. 看護及び医療に関する英語の語彙や知識を自らの専門分野の論文精読に活用できる。 	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	講義・演習（30 時間）：30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。 事前に提示された文献については、必ず予習をして参加すること。
評価方法・基準 /	課題点40%、平常点（授業への貢献度）10%、個人発表50%で総合的に判断する。
フィードバック方法 /	授業内での講評およびGoogle Classroomを併用する。
教科書 /	野口ジュディー他（2019）『医療系学生のための総合英語』三修社
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	テキストは、可能な限り授業初日までに準備すること。 授業に英和・和英辞典（電子辞書可）を持参することを推奨。 対面形式を中心に、履修者と社会状況に応じて遠隔形式（zoom）と組み合わせて実施する。 履修者の専門分野や講義の進捗状況や社会状況等によって、授業計画や方式が変更になる場合がある。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 ガイダンス、英語文献購読（1）	小倉 咲	ガイダンス、授業の概要 * 英作文課題（一般的なテーマ）	
3-4 英語文献講読（2）	小倉 咲	テキストを使って看護およびその周辺に関する英文を読む	
5-6 英語文献講読（3）	小倉 咲	テキストを使って看護およびその周辺に関する英文を読む	
7 英語論文リサーチ<1>	小倉 咲	英語論文・英語文献の検索方法の解説と実践 * 英作文課題（自分の研究テーマに関するもの）	
8-9 英語文献講読（4）	小倉 咲	テキストを使って看護およびその周辺に関する英文を読む	
10-11 英語文献講読（5）	小倉 咲	テキストを使って看護およびその周辺に関する英文を読む	
12 英語論文リサーチ<2>	小倉 咲	課題の中間報告（各自の研究テーマと英語文献検索状況） Abstractの読み方	
13-14 英語文献講読（6）	小倉 咲	テキストを使って看護およびその周辺に関する英文を読む	
15 Abstractを読む<1>	小倉 咲	受講生が選択した英語論文のAbstractを読む	
16-17 英語文献講読（7）	小倉 咲	テキストを使って看護およびその周辺に関する英文を読む	
18 Abstractを読む<2>	小倉 咲	受講生が選択した英語論文のAbstractを読む	
19 英語文献講読（8）	小倉 咲	テキストを使って看護およびその周辺に関する英文を読む	
20-21 個人発表<1>	Jeremy Fulton	各受講生による自身の研究分野の英語論文についての発表と、クラスディスカッション	
22 英語文献講読（9）	小倉 咲	テキストを使って看護およびその周辺に関する英文を読む	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
23-24 個人発表<2>	Jeremy Fulton	各受講生による自身の研究分野の英語論文についての発表と、クラスディスカッション	
25-26 個人発表<3>	Jeremy Fulton	各受講生による自身の研究分野の英語論文についての発表と、クラスディスカッション	
27 まとめ	小倉 咲	講義内容のまとめを行う	

開講科目名 / Course	社会学研究特論	
時間割コード / Course Code	G5008	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	森岡 崇	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	森岡 崇 (非常勤・兼任講師)、非常勤講師 (【 暫定使用 】 教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	タブレット端末、またはPC
担当教員 /	森岡 崇 (慶應義塾志木高等学校 教諭)	
科目責任者連絡先 (教室) /	森岡 崇 morioka shiki.keio.ac.jp を @ に置き換える。	
オフィスアワー /	授業終了後に質問を受け付ける	
授業概要 /	「社会って何だろう？」これは、なかなか答えるのが難しい問いである。しかし、ベッドサイドも病院も、すべてこの「社会」に含まれる。したがって、看護研究の実践に際しても、一度立ち止まって考えてみる価値がある問いだといえよう。本講義では、テキストをもとに社会学の基礎を学びながら、実践研究へつながる道筋をイメージできるようにすることを目的とする。履修に際し社会学の基礎知識は一切不要である。しかし、自分自身に興味関心を持ち続けることを忘れずに。意外に思われるかもしれないが、社会を読み解く際のカギとなるものといえよう。	
到達目標 /	1. 病床も含めた社会のとらえ方について、基礎的視覚を確立することができる。 2. 社会のとらえ方を学ぶことで、臨床現場の理解を再構築できる。 3. 数値になりにくい現象を、具体的に説明することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	対面形式で実施する。 理論的な部分に関しては、講義形式をとる。演習は看護研究の作品を読み込む。また、可能であれば、質的なデータ収集、分析についての演習も取り入れる。各自の研究テーマに基づく発言を期待する。 30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行うこと。
評価方法・基準 /	課題への取り組み(20%)、各自の分担課題についてのプレゼンテーション(30%)、最終課題レポート(50%)により総合的に評価する。
フィードバック方法 /	レポート、あるいは授業中のプレゼンテーションをSABCの4段階で評価し、返却する。
教科書 /	『「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス』好井裕明、光文社新書 『闘いの軌跡-小児がんによる子どもの喪失と母親の成長』戈木クレイグヒル滋子、川島書店 その他、授業で提示する。
参考書 /	『死のアウェアネスと看護 死の認識と終末期ケア』B. グレイザー & A. ストラウス 木下康仁(訳)、医学書院 『質的研究の基礎 第3版』J. コーピン & A. ストラウス 操華子・森岡崇(訳)、医学書院 『フィールドワークの技法』佐藤郁哉、新曜社 『暴走族のエスノグラフィー モードの叛乱と文化の呪縛』佐藤郁哉、新曜社
備考(関連科目等) /	社会学の基礎知識は一切不要。 正解が見えない領域に入って行く。「社会って何だろう?」「わたしって何だろう?」といった問いをグルグル考え続けるのが好きな方、自分自身に興味を持っている方の履修を期待する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 社会学概論	森岡 崇	ガイダンス	
2 社会学概論	森岡 崇	社会とは何か?	
3 社会学概論	森岡 崇	社会とは何か?	
4 社会学概論	森岡 崇	社会学はなにができるのか 発想の違い	
5 社会学概論	森岡 崇	社会学はなにができるのか 日常性へのまなざし	
6 社会学概論	森岡 崇	社会学はなにができるのか 日常性へのまなざし	
7 調査方法論	森岡 崇	グラウンデッド・セオリー1	
8 調査方法論	森岡 崇	グラウンデッド・セオリー2	
9 調査方法論	森岡 崇	グラウンデッド・セオリー3	
10 発表	森岡 崇	文献輪読	
11 発表	森岡 崇	文献輪読	
12 演習	森岡 崇	データ分析	
13 発表	森岡 崇	文献輪読	
14 発表	森岡 崇	文献輪読	
15 演習	森岡 崇	データ分析	
16 発表	森岡 崇	文献輪読	
17 発表	森岡 崇	文献輪読	
18 演習	森岡 崇	インタビュー実習	
19 発表	森岡 崇	文献輪読	
20 発表	森岡 崇	文献輪読	
21 演習	森岡 崇	データ分析	
22 発表	森岡 崇	文献輪読	
23 発表	森岡 崇	文献輪読	
24 演習	森岡 崇	データ分析	
25 発表	森岡 崇	文献輪読	
26 発表	森岡 崇	文献輪読	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
27 まとめ	森岡 崇	社会学の可能性	

開講科目名 / Course	生殖医学特論	
時間割コード / Course Code	G5009	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	富岡由美(看護学研究科・教授) 中田雅彦(大森病院・教授) 片桐由起子(大森病院・教授) 李 巍(薬学部・教授) 齊藤芙美(大森病院・准教授) 麻生敬子(大森病院・講師) 玉置優子(大森病院・講師) 伊藤歩(大森病院・講師) 片倉雅文(大森病院・助教) 安宅大輝(大森病院・不妊症看護認定看護師)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	

オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日10:00～11:00 中田雅彦 授業終了後に質問を受け付ける。 片桐由起子 授業終了後に質問を受け付ける。 李 巍 授業終了後に質問を受け付ける。 齊藤英美 授業終了後に質問を受け付ける。 麻生敬子 授業終了後に質問を受け付ける。 玉置優子 授業終了後に質問を受け付ける。 伊藤歩 授業終了後に質問を受け付ける。 片倉雅文 授業終了後に質問を受け付ける。 安宅大輝 授業終了後に質問を受け付ける。
授業概要 /	性と生殖に関する知識を医学的観点から教授する。生殖器の機能、生殖補助医療、性感染症、不妊症などを中心テーマとする。男女の生殖器系の健康状態を査定し診断するために必要な性と生殖の基礎的な知識を学ぶ。また、ライフサイクル各期に起こる主な疾患や生殖や妊孕性に関連する諸問題、生殖医療、性感染症について理解し、健康状態のアセスメントができる能力を身につける。
到達目標 /	1. 男女の生殖器系の解剖を図示し、男女の生殖器系の生理を説明できる。 2. 女性の悪性腫瘍の診断方法、治療方法を説明できる。 3. 生殖や妊孕性に関連する倫理を含む諸問題を理解し、女性の妊孕性に影響する要因を述べることができる。 4. 女性の一生の中で特にホルモンの影響を受ける時期に特有な疾患に対する治療について述べることができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。 なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。
評価方法・基準 /	講義およびディスカッションへの取り組み(80%)、課題(20%)から総合的に評価する。 授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	試験については結果を提示し、設問について解説する。
教科書 /	なし
参考書 /	随時、参考図書を紹介する。
備考(関連科目等) /	授業では、積極的に発言し参加すること。必ず復習をして見学等に臨むこと。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 男女の生殖器系	富岡 由美	オリエンテーション 男性の生殖器系の解剖(解剖見学)	
2 男女の生殖器系	富岡 由美	女性の生殖器系の解剖(解剖見学)	
3 生殖期を中心とした乳腺疾患と検査	齊藤 英美	生殖期を中心とした乳腺疾患	
4 生殖期を中心とした乳腺疾患と検査	齊藤 英美	生殖期を中心とした乳腺疾患における検査	
5 生殖器系の検査	伊藤 歩	内分泌検査法・内視鏡検査法・画像検査法	
6 生殖器系の検査	伊藤 歩	パップスメア等の検査の実際の見学	
7 生殖器系の治療	伊藤 歩	ホルモン療法・腹腔鏡手術	
8 生殖器系の治療	伊藤 歩	手術の見学	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
9 思春期に起こりやすい疾患	麻生 敬子	病態	
10 思春期に起こりやすい疾患	麻生 敬子	治療	
11 女性の性周期と不妊	片桐 由起子	女性の性周期の調整機序と不妊症	
12 生殖補助医療	片桐 由起子	生殖補助医療	
13 がん生殖	片桐 由起子	がん生殖	
14 性感染症	片倉 雅文	性感染症の検査	
15 性感染症	片倉 雅文	性感染症の治療	
16 生殖補助医療における支援	安宅 大輝	生殖補助医療を受ける夫婦への支援	
17 生殖補助医療における支援	安宅 大輝	生殖補助医療を受ける夫婦への支援	
18 更年期障害	李 巍	女性の疾患に利用される漢方薬（薬学部で行います。）	
19 更年期障害	李 巍	桂枝茯苓丸の調剤（薬学部で行います。）	
20 出生前診断	玉置 優子	出生前診断の方法	
21 遺伝	玉置 優子	遺伝性疾患の診断	
22 遺伝	玉置 優子	遺伝性疾患の治療	
23 生殖補助医療における支援	富岡 由美	生殖補助医療を受ける女性への支援（ゲストスピーカー）	
24 女性の悪性腫瘍の診断	中田 雅彦	女性の悪性腫瘍の診断	
25 女性の悪性腫瘍の診断	中田 雅彦	女性の悪性腫瘍の診断	
26 女性の悪性腫瘍の治療	中田 雅彦	女性の悪性腫瘍の治療	
27 女性の悪性腫瘍の治療	中田 雅彦	女性の悪性腫瘍の治療	

開講科目名 / Course	性科学特論	
時間割コード / Course Code	G5010	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 中島耕一 (大森病院・教授) 安宅大輝 (大森病院・不妊症看護認定看護師) 主原翠 (大森病院・遺伝カウンセラー)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日 10:00~11:00 加藤知子 毎週月曜日 12:00~13:00 渡邊幸恵 毎週月曜日 12:00~13:00 中島耕一 授業終了後に質問を受け付ける。 安宅大輝 授業終了後に質問を受け付ける。 主原翠 授業終了後に質問を受け付ける。	
授業概要 /	助産の対象となる妊産婦とそのパートナーをそれぞれの性をもち生きる人間として幅広く捉える基盤を養う。性の考え方、捉え方を歴史的に概説し、今日の性に関する正しい理解を促すための方法や女性の性に関する諸問題を探求する。	

到達目標 /	1. 人間の性 (humansexuality) を、生殖という身体的・生理学的側面から説明できる。 2. 人間の性 (humansexuality) を、心理社会的側面から学際的にとらえて説明できる。 3. 人間の性愛や医療を大脳生理学・神経生理学の領域からもとらえて男女の性差による違いを説明できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。 講義に加えて、一部グループワークを行う。 対面形式にて実施する。
評価方法・基準 /	講義およびディスカッションへの取り組み(20%)、各自の分担課題についてのプレゼンテーション(80%)で総合的に評価する。 授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	グループワークやプレゼンテーションに対してフィードバックを行う。
教科書 /	1) 我部山キヨ子, 武谷雄二編「助産学講座2 母子の基礎科学」医学書院・2021年(第6版)
参考書 /	適宜紹介する
備考(関連科目等) /	授業科目に関する春学期に学習した内容について復習しておくこと。原則、対面形式にて実施する。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと本授業計画に沿ってZoomを用いリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 科目ガイダンス	富岡 由美	性の捉え方についての意見交換	
2 科学的にみた性	富岡 由美	性を科学的にみる、セクシュアリティにおける性差	
3 女性のライフサイクルと性	富岡 由美	思春期から更年期までの性意識	
4 男性のライフサイクルと性	中島 耕一	思春期から更年期までの男性の性	
5 男性のライフサイクルと性	中島 耕一	思春期から更年期までの男性の性	
6 男性の性	中島 耕一	男性の性反応	
7 男性の性	中島 耕一	男性の性反応	
8 男性の性	中島 耕一	男性不妊の病態ED治療の臨床	
9 男性の性	中島 耕一	男性不妊の病態ED治療の臨床	
10 女性の性の諸問題	加藤 知子	人工妊娠中絶	
11 女性の性の諸問題	加藤 知子	人工妊娠中絶への支援	
12 女性の性の諸問題	加藤 知子	DV・虐待	
13 女性の性の諸問題	加藤 知子	DV・虐待への支援	
14 性の多様化	富岡 由美	マイノリティの性 (ゲストスピーカー)	
15 性の多様化	富岡 由美	マイノリティの性 (ゲストスピーカー)	
16 性の多様化	渡邊 幸恵	マイノリティの性 GW	
17 性の多様化	渡邊 幸恵	マイノリティの性 GW	
18 遺伝カウンセリング	主原 翠	遺伝カウンセリングの実際	
19 遺伝カウンセリング	主原 翠	遺伝カウンセリングの実際	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
20 遺伝カウンセリング	主原 翠	遺伝カウンセリングの実際	
21 男性特有の疾患への支援	安宅 大輝	男性特有の疾患における不妊への支援	
22 男性特有の疾患への支援	安宅 大輝	男性特有の疾患における不妊への支援	
23 不妊カップルの支援	富岡 由美	プレコンセプションについて	
24 不妊カップルの支援	富岡 由美	不妊の現状とカップルに対するケア 検査	
25 不妊カップルの支援	富岡 由美	不妊の現状とカップルに対するケア 治療	
26 不妊カップルの支援	富岡 由美	不妊の現状とカップルに対するケア 支援	
27 まとめ	富岡 由美	講義内容のまとめを行う	

開講科目名 / Course	看護コンサルテーション論	
時間割コード / Course Code	G5011	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	荒木 暁子 (専任教員)、小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM
担当教員 /	荒木暁子(看護学研究科・教授)、小林成光(看護学研究科・准教授) 梅澤志乃(大森病院・精神看護専門看護師) 富田学(大森病院・感染症看護専門看護師) 黒澤亮子(大森病院・がん看護専門看護師)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	荒木 毎週木曜日12:30~13:00	
授業概要 /	専門看護師の重要な役割であるコンサルテーションに関する概念・技術を教授する。コンサルテーションの概念枠組みを活用して、特定領域の専門的知識・技術・経験に基づき、事例を分析する能力を養う。専門領域におけるコンサルテーションを実施する際の課題について検討し、事例を批判的に吟味しながら実践活動に応用できる能力を習得する。	
到達目標 /	1.コンサルテーションの概念および実践モデル、コンサルタントの役割、個人もしくは組織を対象としたコンサルテーションのプロセスについて説明することができる。 2.コンサルテーションの概念枠組みを活用して、特定領域の専門的知識・技術・経験に基づき、事例を分析し説明することができる。 3.学習した概念を用いて実際の現象を分析することを通して、専門看護師としてコンサルテーション機能を実践する際の自己の課題を明確にし、課題解決のための基礎的能力について説明することができる。	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、 (DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	1. 課題について文献抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。 2. 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 看護コンサルテーションの概要	荒木 暁子	看護コンサルテーションについて	
2-4 看護コンサルテーションの概要	荒木 暁子	専門看護師の役割と機能(コンサルタントの役割、 コンサルテーションのタイプと実践モデル、 内部コンサルテーションと外部コンサルテーション、 専門看護師としてどのようにコンサルテーションを実施するか、 から の概念を用いて検討する)	
5-12 看護コンサルテーションのプロセス	小林 成光	コンサルテーションの各プロセスにおける構成要素を習得し、患者中心のコンサルテーションにおける具体的な方略について、事例をもとにグループで検討する	
13-16 臨床における看護コンサルテーションの実際(感染看護領域)	富田 学	組織内における職種横断的感染対策における事例を用いながら、コンサルテーションのあり方を検討する。さらに、隔離を要する状態にある患者、HIV陽性患者などの倫理的配慮に関するコンサルテーションの実際を検討する	
17-22 臨床における看護コンサルテーションの実際(がん看護領域)	黒澤 亮子	複雑な事例に対するがん看護専門看護師の活動の実際ケースをもとに、看護管理者と専門看護師との連携の実際と課題を検討する	
23-25 臨床における看護コンサルテーションの実際(リエゾン精神看護領域)	梅澤 志乃	複雑な事例に対する精神看護専門看護師の活動の実際ケースをもとに、コンサルティ中心のコンサルテーション活動の実際と課題を検討する	
26、27 まとめ	荒木 暁子, 小林 成光	講義のまとめを行う	

開講科目名 / Course	臨床病態生理学特論	
時間割コード / Course Code	G5014	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	田中 耕一郎	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	田中 耕一郎 (専任教員)、湯浅 玲奈 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)、小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM
担当教員 /	田中耕一郎(看護学研究科・教授)、館田一博(医学研究科・教授)、鈴木銀河(大森病院・講師)、中島耕一(大森病院・教授)、岡本陽祐(大橋病院・助教)、南木敏宏(大森病院・教授)、片桐由起子(大森病院・教授)、根本隆洋(大森病院・教授)、周郷延雄(大森病院・教授)、関谷秀樹(大森病院・准教授)、竹林ちあき(大森病院・准教授)、荒木暁子(看護学研究科・教授)、小林成光(看護学研究科・准教授)、湯浅玲奈(大森病院・非常勤)	
科目責任者連絡先(教室) /	田中耕一郎 kouichirou.tanaka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週金曜日13:00-13:30	
授業概要 /	臨床症状が生じる原因・病態生理を学ぶことは、看護のアセスメントの根拠となり得る。患者の症状からそのメカニズムを理解することは疾患の原因の推測につながり、異常の早期発見のための観察を可能にし、看護師として重要な役割となる。さまざまな疾病の病態生理を解説し、根拠に基づく検査の進め方、身体所見、検査所見などを統合し、どのように鑑別診断を行っているか、科学的な根拠・思考に基づく診断過程について解説する。さらに、症例に対する問診、身体所見等、検査結果、診断過程について解説し、ケアとキュアを統合するにあたり、どのような臨床看護判断が必要になるのか検討する。	

到達目標 /	1.対象の病態生理学的変化を根拠にもとづいて解釈し、看護診断の基盤となる知識を述べることができる。 2.発現している身体症状の原因となる病態生理を説明できる。 3.病状に対する診断法および治療法の知識を深め、根拠に基づいた看護実践を実施できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	各専門領域の医師による講義。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	今まで体験してきた臨床所見と結びつけ、探求心を持ち学習に臨むこと。履修についての問い合わせは荒木暁子akiko.araki med.toho-u.ac.jpまで(を@に置き換える。) 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 内分泌	湯浅 玲奈	・ 臨床上よく見かける内分泌疾患 - 下垂体・甲状腺疾患・副腎疾患など - ・ 症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	
3-4 膠原病	南木 敏宏	・ 膠原病の原因、病態生理、診断・治療 ・ 症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	
5-6 血液疾患	竹林 ちあき	・ 血液疾患および播種性血管内凝固に関する病態生理、診断・治療 ・ 症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	
7 臓器移植 クルズス	田中 耕一郎	・ 臓器移植の現状について ・ 症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	
8-9 泌尿器疾患	中島 耕一	・ 泌尿器系疾患の病態生理、診断・治療 ・ 症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	
10-11 呼吸器疾患	鈴木 銀河	・ 呼吸の異常の病態生理 ・ 呼吸困難、咳嗽、喀痰、喀血、不整脈などの症状から原因・病態生理との関連 ・ 症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	
12-13 婦人科疾患	片桐 由起子	・ 婦人科疾患の病態生理、診断・治療 ・ 症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
14-15 感染症	舘田 一博	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫機構 ・細菌・ウイルス・真菌が原因の疾病の病態、診断・治療 ・発熱と感染症との関連 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する 	
16-17 口腔内疾患	関谷 秀樹	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内疾患の病態生理、診断・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する 	
18-19 消化器疾患	岡本 陽祐	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器疾患の病態生理、診談・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する 	
20 クルズス 2	田中 耕一郎	<ul style="list-style-type: none"> ・腎移植を中心とした臓器移植の現状について ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する 	
21-22 精神疾患	根本 隆洋	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の診断・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する 	
23-24 脳神経外科	周郷 延雄	<ul style="list-style-type: none"> ・脳神経外科疾患の病態生理、診断・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する 	
25-26 循環器疾患	鈴木 銀河	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患に関する病態生理 ・末梢循環不全(ショック)、意識障害に関する病態生理、胸痛の生じるメカニズム ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する 	
27 まとめ	荒木 暁子, 小林 成光		

開講科目名 / Course	看護管理	
時間割コード / Course Code	G5023	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	荒木暁子(看護学研究科・教授)、藤野泰平(看護学研究科・非常勤講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp (を@に置き換える)	
オフィスアワー /	荒木：毎週木曜日12:30~13:15	
授業概要 /	マクロな視点での医療制度・政策、ミクロな視点での病院組織(チーム組織)の理解、人的資源管理について講義・学生のプレゼンを中心に討議を行う。	
到達目標 /	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度実践看護師として必要な看護管理の基礎知識(日本におけるヘルスケアシステム・看護制度・政策・看護管理、看護職の社会的な立場や環境、組織と組織で働く人間を理解するための理論)を学ぶことで、看護管理の知識について説明できる。 2. 1.の知識をもとに、自らが置かれている組織(働く場)や看護チーム・個々人について分析しプレゼンテーションできる。 3. 1.と2.を活用し、組織の中で協働する力やマネジメント能力をどのように活用するかを述べることができる。 4. 看護職における人材育成の課題や将来展望を見いだすためにキャリア開発・人的資源管理の諸理論を説明できる。 	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	授業テーマについての学生のプレゼンテーションをもとに討議を行い、学修を深める。 授業の実施形式は、履修者と相談の上決定する。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	討議への参加状況（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）から総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	適宜授業内で必読文献を紹介する予定。
参考書 /	・井部俊子ほか監修.『看護管理学習テキスト第3版第1~5巻』日本看護協会出版会、2022 ・スティーブン P.ロビンズ, マネジメント入門, ダイヤモンド社, 2014 ・佐藤美香子.看護管理実践計画書 標準テキスト.日総研.2016
備考(関連科目等) /	最初の授業時に、各プレゼンテーションの担当を決定する。各回の授業テーマに関する参考文献をあらかじめ読み授業に臨むこと。それを元に、テーマについてのグループワークやディスカッションを通して学びを深めていく。テーマによっては、その分野におけるエキスパートを招いて見識を広めていく。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 看護管理概論	荒木 暁子	ガイダンス / 看護管理者・高度実践看護師として学ぶ看護管理とは	
2 医療の動向と看護管理	荒木 暁子	ヘルスケアシステム論	
3 医療の動向と看護管理	荒木 暁子	医療政策と診療報酬	
4 医療の動向と看護管理	荒木 暁子	介護報酬、障害福祉サービス、	
5 組織管理	荒木 暁子	組織論、組織行動論	
6 組織管理	荒木 暁子	組織論、組織行動論	
7 組織管理	荒木 暁子	組織論、組織行動論	
8 組織管理	荒木 暁子	組織論、組織行動論	
9 看護サービスの質管理	荒木 暁子	医療におけるクオリティ・マネジメント	
10 看護サービスの質管理	荒木 暁子	医療におけるクオリティ・マネジメント	
11 看護サービスの質管理	荒木 暁子	看護サービスの質保証・向上	
12 看護サービスの質管理	荒木 暁子	看護サービスの質保証・向上	
13 組織管理	荒木 暁子	リーダーシップ論とチームマネジメント	
14 組織管理	荒木 暁子	リーダーシップ論と課題解決	
15 人的資源管理	荒木 暁子	キャリア開発・人材育成	
16 人的資源管理	荒木 暁子	キャリア開発・人材育成	
17 人的資源管理	荒木 暁子	人材ポートフォリオ・高度実践看護師の活用	
18 労務管理	荒木 暁子	労働法令、賃金体系、医療安全	
19 労務管理	荒木 暁子	労働法令、賃金体系、医療安全	
20 労務管理	荒木 暁子	労働法令、賃金体系、医療安全	
21 地域における看護管理	荒木 暁子	地域包括ケアにおける看護管理	
22 地域における看護管理	藤野 泰平	地域包括ケアにおける看護管理	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
23 地域における看護管理	藤野 泰平	地域における起業家としての看護管理	
24 地域における看護管理	藤野 泰平	地域における起業家としての看護管理	
25 地域における看護管理	荒木 暁子	地域ケアシステムからみた自組織の位置づけと将来像	
26 まとめのプレゼンテーション	荒木 暁子	課題に関するプレゼンテーション	
27 まとめのプレゼンテーション	荒木 暁子	課題に関するプレゼンテーション	

開講科目名 / Course	看護医療経済学	
時間割コード / Course Code	G5024	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	大西 遼	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	大西 遼 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施しない
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用しない
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	
担当教員 /	大西遼	
科目責任者連絡先(教室) /	東邦大学医学部社会医学講座医療政策・経営科学分野(2415)	
オフィスアワー /	火曜日13時~17時	
授業概要 /	<p>本科目は、医療経済学の基礎学習を行う。近年のわが国の医療費の増加は経済成長率を凌駕しており、医療の世界でも資源の効率的な配分が重要となってきた。こうした中で、医療経済学が重要であるとの認識は高まっているが、実際に医療経済学がどのようなものであるか初学者に解説したものは少ない。本講義は、このような中で医療経済学の基本的な分析道具を説明しながら、その分析道具で実際の日本の状況を観察することで、医療経済学とはどういうものか、その基本的な概念はどのようなものか理解することを目標とする。本科目を履修することで、より進んだ応用にまで興味を持つことができるよう指導する。</p> <p>日本における少子高齢化社会の進行から医療費の適正化をはじめとする医療資源の効率的活用を考え、医療・看護にかかわる諸問題について、医療経済学の視点からその解決方法や評価方法を見出す力を養う。</p>	
到達目標 /	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療経済学について、その基本的な概念が理解できる。 2 医療経済学の視点で日本の状況について観察することができる。 	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、 (DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	できるだけ平易に説明するつもりなので、特に前提知識は必要としないが、授業の内容をより深く理解するためには、以下に挙げるテキスト及び参考図書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。また、授業で扱った事項に関しては通常の復習に加えて、新聞・専門雑誌・インターネット上の関連ページなどのメディアで報道される関連事項にも目を通して興味を持つように努めること。 講義(30時間):30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	レポート(60%)、授業中のレスポンスシート(40%)から総合的に評価する。
フィードバック方法 /	各回授業の最後に提出を求める『レスポンスシート』について、次回授業の冒頭で解説、講評する。レポートは評価して返却する。
教科書 /	橋本 英樹(編)、泉田 信行(編)『医療経済学講義 補訂版』東京大学出版会・2016
参考書 /	長谷川友紀(編)・長谷川敏彦(編)、松本邦愛(編)『医療職のための公衆衛生・社会医学』エムスリーエデュケーション・2024 島崎謙治(編)『日本の医療 制度と政策』増補改訂第3版、東京大学出版会・2022 小黒一正・菅原琢磨(編)『薬価の経済学』日本経済新聞出版社・2018
備考(関連科目等) /	特になし。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	大西 遼	科目の概要と進め方について説明する。	
2 医療を経済学で考える	大西 遼	経済学における医療サービスの扱いについて解説する。	
3 医療資源	大西 遼	医療資源とは何かを解説する。	
4 医療サービス市場の特	大西 遼	需要と供給の面から解説する。	
5 情報の非対称性と医療 の不確実性	大西 遼	医療サービスの特徴について解説する。	
6 市場の失敗と医療への 公的介入	大西 遼	現在の医療サービスの形成過程について学ぶ。	
7 社会保険制度	大西 遼	保険の仕組みとなぜ必要なのかを解説する。	
8 医療保険制度の経済学	大西 遼	医療保険制度について解説する。	
9 日本の医療保険制度と 診療報酬制度の仕組み	大西 遼	診療報酬制度の仕組みについて解説する。	
10 諸外国の医療制度比較	大西 遼	諸外国の医療制度について解説する。	
11 医療費の国際比較	大西 遼	諸外国の医療費の状況等を解説する。	
12 高齢者保健	大西 遼	主に高齢者に関わる医療、介護のサービスについて解説する。	
13 成人保健	大西 遼	主に成人に関わる医療サービス等について解説する。	
14 医療の質と安全を経済 学的に考える	大西 遼	医療安全の向上がもたらす効果について解説する。	
15 患者行動の経済学	大西 遼	患者がどのような考えに基づいて行動するのかを解説する。	
16 医療格差と公平性	大西 遼	医療費の地域差やアクセスの格差を解説する。	
17 医療技術評価 (HTA)	大西 遼	医療技術の効果や影響についての評価手法を紹介する。	
18 費用効果分析	大西 遼	費用効果分析について解説する。	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
19 費用効用分析	大西 遼	費用効用分析について解説する。	
20 社会保障費	大西 遼	社会保障費の種類と推移について解説する。	
21 QALYとアウトカム評価	大西 遼	QALYの分析方法を解説する。	
22 日本における費用対効果評価制度	大西 遼	費用対効果評価制度についてまとめて説明する。	
23 高齢化社会と医療	大西 遼	将来の医療サービスの在り方について説明する。	
24 医学判断学	大西 遼	医療における意思決定を分析する。	
25 医学判断学の事例	大西 遼	判断樹の作り方を解説する。	
26 医学判断学の事例 2	大西 遼	事例を取り上げ、実際に判断樹をつくる。	
27 薬価の経済学	大西 遼	医薬品の流通に関する経済学的見方を紹介する。	

開講科目名 / Course	看護学研究法特講	
時間割コード / Course Code	G7001	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	坂本 なほ子	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	坂本 なほ子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	必修	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用しない
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	
担当教員 /	坂本なほ子(看護学研究科・教授) 野口麻衣子(東京科学大学・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	坂本なほ子naoko.sakamoto med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、12:45～13:00	
授業概要 /	看護研究に必要とされる知識を身につけ、研究テーマに即した方法を応用できるような実践的かつ倫理的な看護研究者を育成する。	
到達目標 /	看護研究に必要とされる方法論と実践的アプローチ法を説明できる。 研究目的に適した研究方法を理解し応用し、研究対象を的確に把握、分析、解釈できる。 研究成果を看護学に応用するための知識・技術・態度を身につけ、実施できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1)知識・技能と課題解決力、(DP3)社会的責任・倫理観、(DP4)科学的探究心・自己研鑽、 (DP5)国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。 60時間の時間外学習を行うこと。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み(40%)，レポート(60%)から総合的に評価する。	
フィードバック方法 /	レポート内容を3段階で評価し、返却する。	

教科書 /	バーズ&グローブ(著),黒田裕子他(翻訳),看護研究入門 原著第9版,ELSEVIER.(2023) キャシー・シャーマズ Kathy Charmaz(著),岡部 大祐(翻訳).グラウンデッド・セオリーの構築 [第2版],ナカニシヤ出版.(2013)
参考書 /	講義にて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	自身の修士論文について再確認しておくこと。 授業はZoomを用いたリアルタイム配信授業を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 オリエンテーション・自己紹介	坂本 なほ子	オリエンテーション、各自の修士論文について自己紹介を兼ねて紹介する	
2 研究プロセス	坂本 なほ子	研究問題と研究目的	
3 研究プロセス	坂本 なほ子	目標、疑問、仮説および研究変数	
4 研究プロセス	坂本 なほ子	文献レビュー、枠組み	
5 研究プロセス	坂本 なほ子	量的方法論	
6 研究プロセス	坂本 なほ子	量的方法論	
7 研究プロセス	坂本 なほ子	アウトカム研究、ミクストメソッド研究	
8 研究プロセス	坂本 なほ子	標本抽出法	
9 研究プロセス	坂本 なほ子	量的測定の方法	
10 研究プロセス	坂本 なほ子	その他の測定方法	
11 データの収集と分析	坂本 なほ子	データの収集と管理、統計解析概論	
12 データの収集と分析	坂本 なほ子	記述統計、分析統計	
13 質的研究について	野口 麻衣子	講義	
14 質的研究について	野口 麻衣子	講義	
15 輪読	野口 麻衣子	輪読とディスカッション	
16 輪読	野口 麻衣子	輪読とディスカッション	
17 初期段階のコーディング	野口 麻衣子	演習	
18 輪読	野口 麻衣子	輪読とディスカッション	
19 焦点化のためのコーディング	野口 麻衣子	演習	
20 輪読	野口 麻衣子	輪読とディスカッション	
21 理論的分類、ダイアグラム化、統合	野口 麻衣子	演習	
22 輪読	野口 麻衣子	輪読とディスカッション	
23 輪読	野口 麻衣子	輪読とディスカッション	
24 輪読	野口 麻衣子	輪読とディスカッション	
25 データの収集と分析	坂本 なほ子	推測統計	
26 データの収集と分析	坂本 なほ子	推測統計	
27 研究計画書	坂本 なほ子	研究計画書の作成	

開講科目名 / Course	感染制御学特講	
時間割コード / Course Code	G7105	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 寅吉	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 寅吉 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的な要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Moodle
担当教員 /	小林寅吉 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	小林寅吉kobatora med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	小林寅吉 毎週木曜日12:00-13:00	
授業概要 /	関連文献やガイドラインを用い、ディスカッション、および学生によるプレゼンテーションを中心に行う。	
到達目標 /	1. 臨床微生物学に関する知識を基礎として、感染症ならびにその制御の視点から、医療施設における感染管理に応用し実施できる。 2. 病院内に限らず地域の医療現場における安全性を保障すること、および、流行する新興・再興感染症の制圧に寄与することを目的とし、時代とともに変化する感染症とその制御への問題解決に対応できる研究を遂行するための基礎的知識を習得し説明することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み(70%)、研究プロトコールおよびプレゼンテーション(30%)で総合的に評価する。	

フィードバック方法 /	授業内で講評を伝え、課題を共有する。
教科書 /	なし
参考書 /	小林寅吉（編）「新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進 感染制御学・微生物学」メヂカルフレンド社・2024年（第3版） 小林寅吉「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2025年（改訂第2版） 小林寅吉「看護の実践で役に立つ 基本からわかる、抗菌薬適正使用」ヴァンメディカル・2025年（初版） 小林寅吉「読めば分かる！耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年（初版） 藤本秀士「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」南山堂・2017年（改訂3版） CLSIガイドライン：Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing 31st ed. CLSI supplement M100, 2021. その他、講義の中で適宜紹介する。
備考（関連科目等） /	対面形式にて実施する。 やむを得ず遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってMoodle, zoom等を用い授業を行う。 講義を基盤にゼミナール形式で行う。 過去に学習した感染と防御（予防）に関連した内容について復習しておくこと。 医療関連感染など身近に発生している感染症から世界で問題となっている感染症および抗菌薬耐性菌について情報を集め調べておくこと。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ヒトと感染症	小林 寅吉	微生物の分布およびヒトとの関わり	
2 ヒトと感染症	小林 寅吉	臨床において問題となる微生物とその性状	
3 ヒトと感染症	小林 寅吉	臨床において問題となる微生物とその性状	
4 ヒトと感染症	小林 寅吉	医療施設における易感染患者と日和見感染菌との関わり	
5 ヒトと感染症	小林 寅吉	医療施設における易感染患者と日和見感染菌との関わり	
6 感染症の予防と対策	小林 寅吉	病院感染に関連する微生物およびその感染経路と遮断法	
7 感染症の予防と対策	小林 寅吉	病院感染に関連する微生物およびその感染経路と遮断法	
8 感染症診断と感染対策	小林 寅吉	臨床現場における臨床微生物学的診断法と結果の解釈	
9 感染症診断と感染対策	小林 寅吉	臨床現場における臨床微生物学的診断法と結果の解釈	
10 感染症診断と感染対策	小林 寅吉	病原微生物に対する抗菌薬感受性と化学療法	
11 感染症診断と感染対策	小林 寅吉	病原微生物に対する抗菌薬感受性と化学療法	
12 感染症診断と感染対策	小林 寅吉	微生物に対する抗菌薬および消毒薬の作用	
13 感染症診断と感染対策	小林 寅吉	微生物に対する抗菌薬および消毒薬の作用	
14 化学療法、抗菌薬耐性菌 (AMR)	小林 寅吉	抗菌薬による感染症治療の実際と耐性菌が生じるメカニズム	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
15 化学療法、抗菌薬耐性菌 (AMR)	小林 寅吉	抗菌薬による感染症治療の実際と耐性菌が生じるメカニズム	
16 化学療法、抗菌薬耐性菌 (AMR)	小林 寅吉	抗菌薬耐性菌の耐性機構と特性	
17 化学療法、抗菌薬耐性菌 (AMR)	小林 寅吉	抗菌薬耐性菌の耐性機構と特性	
18 AMRの特性と感染制御	小林 寅吉	抗菌薬耐性菌を中心とした病院感染の定義と発生の仕組み	
19 AMRの特性と感染制御	小林 寅吉	抗菌薬耐性菌を中心とした病院感染の定義と発生の仕組み	
20 AMRの特性と感染制御	小林 寅吉	医療関連施設感染における耐性菌とその問題	
21 サーベイランス	小林 寅吉	アウトブレイクを察知するサーベイランス手法	
22 領域別感染症の特性と感染制御	小林 寅吉	病院感染ハイリスク領域における菌種別対策	
23 領域別感染症の特性と感染制御	小林 寅吉	病院感染ハイリスク領域における菌種別対策	
24 ガイドライン	小林 寅吉	医療関連施設感染に関する主なガイドライン	
25 ガイドライン	小林 寅吉	医療関連施設感染に関する主なガイドライン	
26 まとめ	小林 寅吉	特別研究の研究テーマに関連し、特講で学んだこと、文献検討した結果などの発表および質疑応答	
27 まとめ	小林 寅吉	特別研究の研究テーマに関連し、特講で学んだこと、文献検討した結果などの発表および質疑応答	

開講科目名 / Course	がん看護学特講	
時間割コード / Course Code	G7109	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 成光	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM
担当教員 /	小林成光(看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	masamitsu.kobayashi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00	
授業概要 /	がん看護学に関連する文献検討を通して、各自が取り組みたい現象の看護学上の位置づけを明確化し、テーマの焦点化ができるよう教授する。	
到達目標 /	1.文献検討を通して、がん罹患に関連する諸問題とその関連要因を多角的に説明することができる。 2.がん看護学の現象を広く概観した上で、自らが探求したいテーマを見出し、説明することができる。 3.探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について説	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1)知識・技能と課題解決力、(DP2)共生型リーダーシップ、(DP3)社会的責任・倫理観、 (DP4)科学的探究心・自己研鑽、(DP5)国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	1.ゼミ形式、文献検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。 2.30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。	

フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってonlineを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 最新がん医療の概観	小林 成光	探求したい現象や研究課題について討論し、学習目標を確認する	
3-10 がん医療に関する文献検討	小林 成光	文献検討を通して、がん罹患に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	
11-18 研究課題に関する文献検討	小林 成光	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	
19-26 研究方法に関する文献検討	小林 成光	探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について、文献検討を通して探求する	
27 まとめ	小林 成光	学習目標に対する達成度の確認と、自己の研究課題を明確にする	

開講科目名 / Course	高齢者看護学特講	
時間割コード / Course Code	G7113	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	横井 郁子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	横井 郁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	コンピュータ、大学で整備された情報通信ネットワーク
担当教員 /	横井郁子 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	横井郁子 yokoiyk med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12 : 30 ~ 13 : 00	
授業概要 /	高齢者を取り巻く我が国の現状を整理しながら、看護師を含むケア提供者たちが抱える問題に着目し、解決のための方策を見出すための研究について討議していく。	
到達目標 /	1 高齢者に関するさまざまな調査報告書から現状分析ができる。 2 医療ケア提供システムについて理解し、倫理的問題を含むさまざまな課題について述べる ことができる。 3 高齢者看護の実践を支える理論について説明することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、 (DP4) 科学的探究心・自己研鑽	
事前・事後学習とその時間 /	最新の高齢者に関わる医療制度、介護保険制度の事前学習をすませしておくこと。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	授業への取組み40%、レポート60% レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。	
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。	

教科書 /	必要に応じて提示する。
参考書 /	必要に応じて提示する。
備考(関連科目等) /	文献講読を中心にセミナー形式ですすめる。 対面形式と遠隔形式を組み合わせる。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 高齢者と社会1	横井 郁子	さまざまな報告書をもとに日本における高齢者の現状と課題を分析する	
2 高齢者と社会2	横井 郁子	さまざまな報告書をもとに日本における高齢者の現状と課題を分析する	
3 医療ケア提供システムの現状1	横井 郁子	医療保険と高齢者看護	
4 医療ケア提供システムの現状2	横井 郁子	医療保険と高齢者看護	
5 医療ケア提供システムの現状3	横井 郁子	医療保険と高齢者看護	
6 医療ケア提供システムの現状4	横井 郁子	介護保険と高齢者看護	
7 医療ケア提供システムの現状5	横井 郁子	介護保険と高齢者看護	
8 医療ケア提供システムの現状6	横井 郁子	介護保険と高齢者看護	
9 高齢者看護学を支える理論1	横井 郁子	理論に関する文献検討	
10 高齢者看護学を支える理論2	横井 郁子	理論に関する文献検討	
11 高齢者看護学を支える理論3	横井 郁子	理論に関する文献検討	
12 高齢者看護学を支える理論4	横井 郁子	理論に関する文献検討	
13 高齢者看護学を支える理論5	横井 郁子	理論に関する文献検討	
14 高齢者看護学を支える理論6	横井 郁子	理論に関する文献検討	
15 高齢者看護学を支える理論7	横井 郁子	理論に関する文献検討	
16 高齢者看護学を支える理論8	横井 郁子	理論に関する文献検討	
17 高齢者看護学と倫理1	横井 郁子	エイジズムと看護実践	
18 高齢者看護学と倫理2	横井 郁子	エイジズムと看護実践	
19 高齢者看護学と倫理3	横井 郁子	安全と看護実践—身体抑制の現状と課題—	
20 高齢者看護学と倫理4	横井 郁子	安全と看護実践—身体抑制の現状と課題—	
21 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて1	横井 郁子	「プロセス」を支えるとは	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
22 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて2	横井 郁子	「プロセス」を支えるとは	
23 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて3	横井 郁子	「プロセス」を支えるとは	
24 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて4	横井 郁子	「プロセス」を支えるとは	
25 高齢者看護学の課題1	横井 郁子	発表・討議	
26 高齢者看護学の課題2	横井 郁子	発表・討議	
27 高齢者看護学の課題3	横井 郁子	発表・討議	

開講科目名 / Course	性・生殖看護学特講	
時間割コード / Course Code	G7115	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	PC、Zoom
担当教員 /	富岡 由美 (看護学研究科 教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡 由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡 由美 毎週月曜日10:00～11:00	
授業概要 /	日本における性と生殖に関する看護(母子保健)の現状と課題を、体系的な文献レビューに基づき批判的に検討し、学術的根拠をもって明確化する。得られた知見を踏まえ、各自の研究課題を精緻化するとともに、適切な研究方法(研究デザイン・データ収集および分析計画等)を立案する。授業は、文献講読・プレゼンテーション・討議を中心としたゼミ形式で実施し、学生の主体的学習と相互批評を通じて研究遂行能力の向上を図る。	
到達目標 /	1. 周産期にある女性の背景と健康の保持・増進に必要な社会的支援の方法について考察することができる。 2. 女性の妊孕性と必要となる社会的支援について考察することができる。 3. 女性のライフステージの背景と、健康課題について考察することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	ゼミ形式で行う。文献検討は学生が主体的に実施する。 講義および提示した課題に対しプレゼンテーションとディスカッションによって進める。事前に提示した課題を行い、講義に参加すること。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	講義への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合し評価を行う。 授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、講評をフィードバックする。 また、プレゼンテーションについては講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	使用しない
参考書 /	授業の中で関連する文献、参考図書を指示する。
備考(関連科目等) /	基本的には遠隔形式で行うが大学院生と相談し授業方法や時間を決定し実施をする。授業は到達目標のもと、本授業計画に沿って行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 科目ガイダンス	富岡 由美	科目の目標と狙い オリエンテーション	
2 性・生殖と看護課題	富岡 由美	わが国の性・生殖看護の現状と課題	
3 性・生殖と研究	富岡 由美	性と生殖に関する文献検討	
4 性・生殖と研究	富岡 由美	周産期の倫理	
5 性・生殖と研究	富岡 由美	周産期の倫理	
6 性・生殖と研究	富岡 由美	出生前診断につて	
7 性・生殖と研究	富岡 由美	出生前診断について	
8 性・生殖と研究	富岡 由美	不妊症について	
9 性・生殖と研究	富岡 由美	不妊症について	
10 性・生殖と研究	富岡 由美	不育症について	
11 性・生殖と研究	富岡 由美	不育症について	
12 思春期の保健課題	富岡 由美	思春期保健の諸問題	
13 思春期の保健課題	富岡 由美	思春期保健の諸問題	
14 思春期保健と研究	富岡 由美	思春期保健の諸問題に関する文献検討	
15 思春期保健と研究	富岡 由美	思春期保健の諸問題に関する文献検討	
16 思春期保健と研究	富岡 由美	思春期保健の諸問題に関するクリティーク	
17 思春期保健と研究	富岡 由美	思春期保健の諸問題に関するクリティーク	
18 成熟期の保健課題	富岡 由美	成熟期および生殖期にある女性の保健課題について	
19 成熟期の保健課題	富岡 由美	成熟期および生殖期にある女性の保健課題について	
20 成熟期の保健課題	富岡 由美	成熟期および生殖期にある女性の保健課題について	
21 成熟期保健と研究	富岡 由美	成熟期の女性の健康課題に関する文献検討及びクリティーク	
22 成熟期保健と研究	富岡 由美	成熟期の女性の健康課題に関する文献検討及びクリティーク	
23 周産期の看護課題	富岡 由美	周産期の女性の健康課題に関する文献検討	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
24 周産期の看護課題	富岡 由美	周産期の女性の健康課題に関する文献検討	
25 更年期・老年期の課題	富岡 由美	更年期・老年期における性の諸問題 文献クリティーク	
26 更年期・老年期の課題	富岡 由美	更年期・老年期における性の諸問題 文献クリティーク	
27 まとめ	富岡 由美	性・生殖に関する看護課題について討論	

開講科目名 / Course	小児看護学特講	
時間割コード / Course Code	G7117	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的な要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	荒木暁子(看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	小児看護学領域で重要となる理論や概念に関する文献を抄読し、子どもと家族の健康をめぐる様々な現象を明らかにする具体的な研究方法を探究する。小児看護学関連領域の研究論文をクリティーク、体系的にレビューし、小児看護学における研究の動向と課題を探究するとともに、自らの研究課題を明らかにする。	
到達目標 /	1.小児看護学領域における主な理論や概念について理解し、研究におけるそれらの重要性について述べることができる。 2.論文クリティーク、体系的レビューをとおして、小児看護学領域における研究の動向と課題について述べるができる。 3.自分の研究課題とその解決のための方法を明らかにすることができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	

評価方法・基準 /	・課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。 ・評価については授業内で講評し、課題の共有をする。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	主的に関心のある領域の文献検討を行い、研究課題を絞ることにつなげる。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 オリエンテーション	荒木 暁子	オリエンテーション、理論と概念について	
2 小児医療、小児看護に関する文献検討	荒木 暁子	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	
3 小児医療、小児看護に関する文献検討	荒木 暁子	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	
4 小児医療、小児看護に関する文献検討	荒木 暁子	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	
5 小児医療、小児看護に関する文献検討	荒木 暁子	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	
6 小児医療、小児看護に関する文献検討	荒木 暁子	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	
7 小児医療、小児看護に関する文献検討	荒木 暁子	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	
8 小児医療、小児看護に関する文献検討	荒木 暁子	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	
9 研究課題に関する文献検討	荒木 暁子	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	
10 研究課題に関する文献検討	荒木 暁子	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	
11 研究課題に関する文献検討	荒木 暁子	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	
12 研究課題に関する文献検討	荒木 暁子	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	
13 研究課題に関する文献検討	荒木 暁子	研究テーマに関する体系的レビューを行う。	
14 研究課題に関する文献検討	荒木 暁子	研究テーマに関する体系的レビューを行う。	
15 研究課題に関する文献検討	荒木 暁子	研究テーマに関する体系的レビューを行う。	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
16 研究課題に関する文献 検討	荒木 暁子	研究テーマに関する体系的レビューを行う。	
17 研究課題に関する文献 検討	荒木 暁子	研究テーマに関する体系的レビューを行う。	
18 研究課題に関する文献 検討	荒木 暁子	研究テーマに関する体系的レビューを行う。	
19 研究課題に関する文献 検討	荒木 暁子	研究テーマに関する体系的レビューを行う。	
20 研究方法に関する文献 検討	荒木 暁子	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	
21 研究方法に関する文献 検討	荒木 暁子	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	
22 研究方法に関する文献 検討	荒木 暁子	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	
23 研究方法に関する文献 検討	荒木 暁子	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	
24 研究方法に関する文献 検討	荒木 暁子	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	
25 研究方法に関する文献 検討	荒木 暁子	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	
26 研究方法に関する文献 検討	荒木 暁子	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	
27 まとめ	荒木 暁子	授業のまとめ	

開講科目名 / Course	基礎看護学特講	
時間割コード / Course Code	G7121	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	菊池 麻由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	菊池 麻由美 (専任教員)、小坂 志保 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	zoom
担当教員 /	菊池麻由美 (看護学研究科・教授) 小坂志保 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先 (教室) /	菊池麻由美 mayumi.kikuchi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12 : 30-13 : 00	
授業概要 /	この科目は博士論文となる研究を遂行するために必要な研究能力を強化する科目である。関心事象の記述と文献の抄読により、関心のある事象周辺概念を整理し、研究計画書作成につなげる。また、文献を批判的に読む能力および、研究者に求められる倫理的姿勢を醸成する。	
到達目標 /	関心のある看護の事象を多角的に把握することができる。 関心のある看護の事象を探求し、自分の研究のReal Reasonを言語化し、Clinical Question、Research Questionを明確にすることができる。 関心のある看護の事象について、レビュー論文を作成することができる。 研究者倫理について理解し、一看護学研究者として研究計画書を作成することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。 受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前準備をして臨むこと。	

評価方法・基準 /	課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。
教科書 /	開講時、提示する。
参考書 /	開講時、提示する。
備考(関連科目等) /	授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。 各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。 プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-3 看護と看護科学	菊池 麻由美, 小坂 志保	科目のオリエンテーション 看護学の発展の経緯と実践の科学としての看護学の特徴 看護学研究の研究手法 課題提示	
4-7 論文クリティークの方法	菊池 麻由美, 小坂 志保	論文クリティークの意義 論文クリティークの方法 文献の検索	
8-17 文献検索・クリティーク演習	菊池 麻由美, 小坂 志保	キーワードの決定 文献の検索 検索結果の保存と管理	
18-21 量的研究のクリティークの実際	菊池 麻由美, 小坂 志保	プレゼンテーション 討論	
22-25 質的研究（質的記述的研究）のクリティーク	菊池 麻由美, 小坂 志保	プレゼンテーション 討論	
26-27 まとめ	菊池 麻由美, 小坂 志保	論文クリティークとクリティカル・シンキング サブストラクション	

開講科目名 / Course	臨床看護学特講	
時間割コード / Course Code	G7123	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	原沢 のぞみ	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	原沢 のぞみ (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	ZOOM, PC
担当教員 /	原沢のぞみ (看護学部・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	原沢のぞみ nozomi.harasawa med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:45 13:00	
授業概要 /	臨床看護学における有用な諸理論や研究のクリティークを通して、臨床看護学における研究の課題を明らかにすることができる。講義は、プレゼンテーションを主体とする。	
到達目標 /	臨床看護学領域における諸理論や国内外の研究の動向について学び、研究課題・研究方法について明らかにすることができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	各回のテーマについて事前に学習したものを発表し、ディスカッションを中心に進める。対面形式と遠隔形式を組み合わせる。30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	プレゼンテーション60%、レポート40%で評価する。 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。	
フィードバック方法 /	講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。	

教科書 /	参考文献は、適宜提示する。
参考書 /	参考文献は、適宜提示する。
備考(関連科目等) /	対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 - 2 ガイダンス	原沢 のぞみ	オリエンテーション・学習計画の立案	
3 - 6 看護実践に活かす理論	原沢 のぞみ	臨床看護学に関連する概念・理論・モデル	
7 - 10 看護実践に活かす理論	原沢 のぞみ	臨床看護学に関連する概念・理論・モデル	
11 - 14 看護研究クリティーク(1)	原沢 のぞみ	臨床看護学領域における研究の動向	
15 - 18 看護研究クリティーク(2)	原沢 のぞみ	臨床看護学領域における研究の動向	
19 - 22 看護研究クリティーク(3)	原沢 のぞみ	臨床看護学領域における研究の動向	
23 - 25 看護研究クリティーク(4)	原沢 のぞみ	臨床看護学領域における研究の課題	
26 - 27 まとめ	原沢 のぞみ	学びの統合	

開講科目名 / Course	在宅看護学特講	
時間割コード / Course Code	G7205	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	成澤 明	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	成澤 明 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, タブレット端末
担当教員 /	成澤 明 (看護学研究科 准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	成澤明 akira.narusawa med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00	
授業概要 /	在宅看護学領域における自己の関心現象や支援方法を探究する上で必要な理論・概念に関する文献を検討し、在宅看護学を体系化する基盤能力を養う。	
到達目標 /	1. 在宅療養者・家族の健康上および生活上の課題および効果的な看護実践方法の開発に必要な知識基盤を形成し記述できる。 2. 在宅看護の現象や支援方法に関連する理論・概念を説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連(看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。	
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。 課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、個別に対面で評価しながら返却する。	

教科書 /	必要な文献を適宜紹介する。
参考書 /	必要な文献を適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	遠隔授業およびゼミ形式により進める。 紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 わが国の在宅看護の変遷と現状 1	成澤 明	在宅療養を取り巻く社会状況と看護	
2 わが国の在宅看護の変遷と現状 2	成澤 明	在宅療養を取り巻く社会状況と看護	
3 わが国の在宅看護の変遷と現状 3	成澤 明	在宅療養と社会制度・政策	
4 わが国の在宅看護の変遷と現状 4	成澤 明	在宅療養と社会制度・政策	
5 諸外国の在宅看護の現状 1	成澤 明	諸外国における在宅療養を取り巻く社会状況と看護	
6 諸外国の在宅看護の現状 2	成澤 明	諸外国における在宅療養を取り巻く社会状況と看護	
7 諸外国の在宅看護の現状 3	成澤 明	諸外国における在宅療養と社会制度・政策	
8 諸外国の在宅看護の現状 4	成澤 明	諸外国における在宅療養と社会制度・政策	
9 文献クリティーク 1	成澤 明	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク	
10 文献クリティーク 2	成澤 明	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク	
11 文献クリティーク 3	成澤 明	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク	
12 文献クリティーク 4	成澤 明	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク	
13 文献クリティーク 発表 1	成澤 明	関心のテーマの文献クリティークについて発表	
14 文献クリティーク 発表 2	成澤 明	関心のテーマの文献クリティークについて発表	
15 在宅ケアと地域包括ケアシステム 1	成澤 明	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連	
16 在宅ケアと地域包括ケアシステム 2	成澤 明	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連	
17 在宅ケアと地域包括ケアシステム 3	成澤 明	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連	
18 在宅ケアと地域包括ケアシステム 4	成澤 明	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連	
19 在宅ケアと地域包括ケアシステム 5	成澤 明	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策	
20 在宅ケアと地域包括ケアシステム 6	成澤 明	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
21 在宅ケアと地域包括ケアシステム 7	成澤 明	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策の発表	
22 在宅ケアと地域包括ケアシステム 8	成澤 明	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策の発表	
23 地域看護活動の評価 1	成澤 明	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	
24 地域看護活動の評価 2	成澤 明	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	
25 地域看護活動の評価 3	成澤 明	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	
26 地域看護活動の評価 4	成澤 明	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	
27 地域と在宅看護	成澤 明	地域における在宅看護	

開講科目名 / Course	地域看護・ケアシステム特講	
時間割コード / Course Code	G7207	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	望月 由紀子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	PBL (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、12:30～13:00	
授業概要 /	学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。	
到達目標 /	1. 概念分析の哲学的基盤を理解した上で、地域看護学・ケアシステム関連分野の概念を科学的に分析する方法を具体的に説明できる。 2. 文献レビューを通じて、現在の概念の用いられ方を根拠を示しながら説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。文献を統合した成果をプレゼンテーションおよびレポートとして提出する。 授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合には、(Zoomを用いたリアルタイム配信)にて実施する。 対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。 30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。 学習成果をレポートとしてまとめ提出する。	

評価方法・基準 /	講義・演習への取り組み（20％）、プレゼンテーション（30％）、レポート（50％）で総合的に評価する。 プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。 レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	RodgersBL,KnafIKA.(2000).ConceptsDevelopmentinNursing.
参考書 /	RodgersBL,KnafIKA.(2000).ConceptsDevelopmentinNursing.
備考(関連科目等) /	事前に予習をして講義に臨むこと。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 講義ガイダンス	望月 由紀子	本講義の目的と進め方	
2 概念の哲学的基盤	望月 由紀子	地域看護学における概念	
3 概念の哲学的基盤	望月 由紀子	概念の哲学的基盤（1）	
4 概念の哲学的基盤	望月 由紀子	概念の哲学的基盤（2）	
5 概念分析	望月 由紀子	概念分析（1）	
6 概念分析	望月 由紀子	概念分析（2）	
7 概念分析	望月 由紀子	概念分析（3）	
8 概念分析	望月 由紀子	概念分析（4）	
9 概念分析	望月 由紀子	概念分析（5）	
10 概念分析	望月 由紀子	概念分析（6）	
11 概念分析	望月 由紀子	概念分析（7）	
12 メタ統合	望月 由紀子	統合的レビュー（1）	
13 メタ統合	望月 由紀子	統合的レビュー（2）	
14 メタ統合	望月 由紀子	メタ統合(1)	
15 メタ統合	望月 由紀子	メタ統合(2)	
16 メタ統合	望月 由紀子	メタ統合(3)	
17 メタ統合	望月 由紀子	メタ統合(4)	
18 メタ統合	望月 由紀子	メタ統合(5)	
19 メタ統合	望月 由紀子	メタ統合(6)	
20 文献検討	望月 由紀子	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（1）	
21 文献検討	望月 由紀子	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（2）	
22 文献検討	望月 由紀子	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（3）	
23 文献検討	望月 由紀子	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（4）	
24 文献検討	望月 由紀子	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（5）	
25 文献検討	望月 由紀子	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（6）	
26 文献検討	望月 由紀子	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（7）	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
27 文献検討	望月 由紀子	関心のある地域看護学関連テーマの文献 検討(8)	

開講科目名 / Course	地域看護健康政策特講	
時間割コード / Course Code	G7209	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	望月 由紀子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizukii med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、12:30～13:00	
授業概要 /	院生が、今までに経験し、かつ関心を持つフィールドを題材にして、文献などにより健康政策の現状、問題点・課題を明示し、新たな方策案までをプレゼンテーションし討論する。 学生の主体的発表を組み合わせを行い、発表・討論を重視する。	
到達目標 /	1. 健康政策に関する理念、発展過程およびその背景、展開方法などを多面的に把握し、問題分析と評価の方法が説明できる。 2. 新たな政策課題について根拠を示しながら説明できる。 3. 課題解決のための研究・実践について具体的に説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	文献検討は学生が主体的に学習する。院生各自のフィールド題材の発表で教員はコメンテーターの役割を担う。 授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合には、(Zoom を用いたりアルタイム配信)にて実施する。 対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。 30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。 学習成果はレポートにまとめ提出する。
評価方法・基準 /	講義・演習への取り組み(20%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)で総合的に評価する。 プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。 レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。
フィードバック方法 /	レポート内容を3段階で評価し、返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。
参考書 /	教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。
備考(関連科目等) /	事前に予習をして講義に臨むこと。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 講義ガイダンス	望月 由紀子	本講義の目的と進め方	
2 健康政策	望月 由紀子	わが国の健康政策の理念と変遷	
3 健康政策	望月 由紀子	健康政策の発展過程とその背景	
4 健康政策	望月 由紀子	健康政策の発展過程とその理論	
5 健康政策	望月 由紀子	健康政策の発展過程とその理論	
6 文献検討	望月 由紀子	各種制度の背景、理念	
7 文献検討	望月 由紀子	各種制度の背景、理念	
8 文献検討	望月 由紀子	各種制度の発展過程	
9 文献検討	望月 由紀子	各種制度の発展過程	
10 文献検討・フィールド研究	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(1)	
11 文献検討・フィールド研究	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(2)	
12 文献検討	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(3)	
13 文献検討・フィールド研究	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(4)	
14 文献検討・フィールド研究	望月 由紀子	各種制度の政策課題と新たな方策案の提言(1)	
15 文献検討・フィールド研究	望月 由紀子	各種制度の政策課題と新たな方策案の提言(2)	
16 フィールド研究	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(1)	
17 フィールド研究	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(2)	
18 フィールド研究	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(3)	
19 フィールド研究	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(4)	
20 フィールド研究	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(5)	
21 フィールド研究	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(6)	
22 成果発表・討論	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(1)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
23 成果発表・討論	望月 由紀子	各種制度の問題分析・評価(2)	
24 成果発表・討論	望月 由紀子	各種制度の政策課題と新たな方策案の提言(1)	
25 成果発表・討論	望月 由紀子	各種制度の政策課題と新たな方策案の提言(2)	
26 成果発表・討論	望月 由紀子	健康政策と地域看護活動(1)	
27 成果発表・討論	望月 由紀子	健康政策と地域看護活動(2)	

開講科目名 / Course	精神看護学特講	
時間割コード / Course Code	G7215	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	伊藤 桂子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伊藤 桂子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Googleclassroom, zoom, pc
担当教員 /	伊藤桂子(看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	伊藤桂子 keiko.itou med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	精神保健医療福祉に関連する文献検討を通して、現代の精神保健・精神看護に関する課題と対策について思考し、各自が取り組みたい研究テーマの焦点化ができるように教授する。	
到達目標 /	1.文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握することができる。 2.精神保健医療福祉の現象を広く概観した上で、自らが探求したいテーマを見出すことができる。 3.探求したい現象を明らかにするための研究上のアプローチ方法について探求できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連(看護学研究科) /	(DP1)知識・技能と課題解決力、(DP3)社会的責任・倫理観、(DP5)国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	毎回の課題に対して資料を作成し、それを基にゼミナール形式で討議を行う。 エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う。 主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。	

評価方法・基準 /	課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解釈を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 精神保健福祉医療に関する動向の概観	伊藤 桂子	探求したい現象や研究課題について討論する	
2 3 精神保健福祉医療に関する動向の概観	伊藤 桂子	自らが探求したい研究課題の俯瞰図を作成し、関連する要因を整理する	
4 5 精神保健福祉医療に関する文献検討	伊藤 桂子	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	
6 7 精神保健福祉医療に関する文献検討	伊藤 桂子	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	
8 9 精神保健福祉医療に関する文献検討	伊藤 桂子	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	
10 11 精神保健福祉医療に関する文献検討	伊藤 桂子	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	
12 13 研究課題に関する文献検討	伊藤 桂子	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	
14 15 研究課題に関する文献検討	伊藤 桂子	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	
16 17 研究課題に関する文献検討	伊藤 桂子	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	
18 19 研究課題に関する文献検討	伊藤 桂子	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	
20 21 研究課題に関する文献検討	伊藤 桂子	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	
22 23 研究方法に関する文献検討	伊藤 桂子	探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について、文献検討を通して探求する	
24 25 研究方法に関する文献検討	伊藤 桂子	探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について、文献検討を通して探求する	
26 27 まとめ	伊藤 桂子	自己の研究課題に関するレビュー論文のアウトラインを作成して、プレゼンテーションを行う	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護学特講	
時間割コード / Course Code	G7217	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	望月 由紀子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、13:30～14:00	
授業概要 /	概念分析の哲学的基盤を理解した上で、文献検討およびクリティークにより公衆衛生看護学関連分野の概念を科学的に分析し批判的に思考できる方法論を習得する。また公衆衛生看護学で活用できる理論・ツールについて検討し、課題解決の方法について探求する。	
到達目標 /	1. 公衆衛生看護学関連分野の概念を科学的に分析する方法を説明できる。 2. 文献レビューを通して、現在の概念の用いられ方について根拠を示しながら説明できる。 3. 公衆衛生看護学で活用できる理論・ツールについて検討し、課題解決の方法について具体的に述べることができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。 学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。 文献を統合した成果をプレゼンテーションおよびレポートとして提出する。	

評価方法・基準 /	講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。 プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。 レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。
フィードバック方法 /	プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。 レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、返却する。
教科書 /	Rodgers BL,KnafI KA.(2000).Concept Development in Nursing.
参考書 /	Rodgers BL,KnafI KA.(2000).Concept Development in Nursing.
備考(関連科目等) /	授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。 対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	望月 由紀子	本講義の目的と進め方	
2 公衆衛生看護学における概念1	望月 由紀子	公衆衛生看護学における概念（1）	
3 公衆衛生看護学における概念2	望月 由紀子	公衆衛生看護学における概念（2）	
4 公衆衛生看護学における概念3	望月 由紀子	公衆衛生看護学における概念（3）	
5 公衆衛生看護学における概念4	望月 由紀子	公衆衛生看護学における概念（4）	
6 公衆衛生看護学における概念5	望月 由紀子	公衆衛生看護学における概念（5）	
7 概念分析1	望月 由紀子	概念分析（1）	
8 概念分析2	望月 由紀子	概念分析（2）	
9 概念分析3	望月 由紀子	概念分析（3）	
10 概念分析4	望月 由紀子	概念分析（4）	
11 概念分析5	望月 由紀子	概念分析（5）	
12 概念分析6	望月 由紀子	概念分析（6）	
13 概念分析7	望月 由紀子	概念分析（7）	
14 概念分析8	望月 由紀子	概念分析（8）	
15 公衆衛生看護で活用できる理論1	望月 由紀子	公衆衛生看護で活用できる理論（1）	
16 公衆衛生看護で活用できる理論2	望月 由紀子	公衆衛生看護で活用できる理論（2）	
17 公衆衛生看護で活用できる理論3	望月 由紀子	公衆衛生看護で活用できる理論（3）	
18 公衆衛生看護で活用できる理論4	望月 由紀子	公衆衛生看護で活用できる理論（4）	
19 公衆衛生看護で活用できる理論5	望月 由紀子	公衆衛生看護で活用できる理論（5）	
20 公衆衛生看護で活用できる理論6	望月 由紀子	公衆衛生看護で活用できる理論（6）	
21 公衆衛生看護活動の分析と評価1	望月 由紀子	公衆衛生看護活動の分析と評価（1）	
22 公衆衛生看護活動の分析と評価2	望月 由紀子	公衆衛生看護活動の分析と評価（2）	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
23 公衆衛生看護活動の分析と評価3	望月 由紀子	公衆衛生看護活動の分析と評価（ 3 ）	
24 公衆衛生看護活動の分析と評価4	望月 由紀子	公衆衛生看護活動の分析と評価（ 4 ）	
25 公衆衛生看護活動の分析と評価5	望月 由紀子	公衆衛生看護活動の分析と評価（ 5 ）	
26 公衆衛生看護活動の分析と評価6	望月 由紀子	公衆衛生看護活動の分析と評価（ 6 ）	
27 公衆衛生看護活動の分析と評価7	望月 由紀子	公衆衛生看護活動の分析と評価（ 7 ）	

開講科目名 / Course	母子保健学特講	
時間割コード / Course Code	G7219	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	PC、Zoom
担当教員 /	富岡 由美 (看護学研究科 教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡 由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡 由美 毎週月曜日10:00～11:00	
授業概要 /	日本における性と生殖に関する看護(母子保健)の現状と課題を、体系的な文献レビューに基づき批判的に検討し、学術的根拠をもって明確化する。得られた知見を踏まえ、各自の研究課題を精緻化するとともに、適切な研究方法(研究デザイン・データ収集および分析計画等)を立案する。授業は、文献講読・プレゼンテーション・討議を中心としたゼミ形式で実施し、学生の主体的学習と相互批評を通じて研究遂行能力の向上を図る。	
到達目標 /	<ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブヘルス/ライツの理念のもとに性と生殖に関する課題を見出すことができる。 2. ヘルスプロモーションの視点から女性のライフサイクルの各期における看護の方向性を言及することができる。 3. 常に変化する社会のなかで医療・看護の立場から女性の健康の保持・増進について探求することができる。 4. 研究課題を明確化し、研究計画の立案ができる。 	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。 講義はゼミ形式で行い、グループディスカッションも取り入れる。
評価方法・基準 /	出席30%、授業中の態度や取り組み20%、レポート50%
フィードバック方法 /	レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、講評をフィードバックする。
教科書 /	使用しない。講義前に必要に応じて紹介する。
参考書 /	授業の中で関連する文献、参考図書を指示する。
備考(関連科目等) /	遠隔授業を基本とするが、授業方法や時間は履修学生と相談して実施する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 科目ガイダンス	富岡 由美	科目の目標とねらい オリエンテーション 学習目標の設定	
3-4 母子保健について	富岡 由美	わが国の性・生殖看護(母子保健)の現状と課題	
5-6 研究課題に対する検討	富岡 由美	母子保健に関する文献検討 文献レビューを通して課題の絞り込み	
7-8 研究課題に対する検討	富岡 由美	母子保健に関する文献検討 文献レビューを通して課題の絞り込み	
9-10 研究課題に対する検討	富岡 由美	母子保健に関する文献検討 文献レビューを通して課題の絞り込み	
11-12 研究課題に対する検討	富岡 由美	母子保健に関する文献検討：クリティーク	
13-14 研究課題に対する検討	富岡 由美	母子保健に関する文献検討：クリティーク	
15-16 研究課題に対する研究方法	富岡 由美	文献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法	
17-18 研究課題に対する研究方法	富岡 由美	文献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法	
19-20 研究課題に対する研究方法	富岡 由美	文献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法	
21-22 研究課題にたいする研究方法	富岡 由美	文献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法	
23-24 研究課題に対する研究方法	富岡 由美	文献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法 についてのクリティーク	
25-26 研究課題に対する研究方法	富岡 由美	文献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法 についてのクリティーク	
27 まとめ	富岡 由美	学習目標の評価、今度の研究の遂行に向けての自己の課題の明確化	

開講科目名 / Course	看護理論 (D)	
時間割コード / Course Code	G7503	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	菊池 麻由美	
科目区分 / Course Group	(支持科目) / (支持科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	菊池 麻由美 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、その他
	「その他」の内容 /	ケースメソッド
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Zoom
担当教員 /	菊池麻由美 (看護学研究科・教授) 永田明 (愛媛大学・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	菊池麻由美 mayumi.kikuchi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30-13:00	
授業概要 /	看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性を理解する。また、理論の構造を学修し、自分の関心領域の理論・概念の開発に向けた探求を行う。看護学の哲学的基盤を発展させるために、理論や概念を批判的に吟味する能力を養い、理論分析・構築の方法を修得する。	
到達目標 /	1)看護科学の哲学的基盤について述べることができる 2)概念分析の方法や理論クリティークの方法を身につけ、理論を分析できる 3)理論構築の方法を説明できる	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、 (DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	

評価方法・基準 /	課題への取り組み(50%)、プレゼンテーション(50%)で総合的に評価する。 評価については、授業内で講評し、課題を共有する。
フィードバック方法 /	課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う
教科書 /	Meleis, A. I.(2017). Theoretical nursing: Development and Progress (6th Revised Ed.).Philadelphia: Lippincott Co.. Meleis, A. I. (著), 中木 高夫 (翻訳), 北 素子 (翻訳), 谷津 裕子 (翻訳), 濱田 真由美 (翻訳),セオレティカル・ナーシング 原著第6版-看護理論の開発と進歩, 看護の科学社.
参考書 /	筒井真優美編集(2015), 看護理論家の業績と理論評価, 医学書院 JacquelineFawcett、著、大田喜久子筒井真優美訳: 看護理論の分析と評価, 医学書院. Lorraine Olszewski Walker/Kay Coalson Avant 著, 中木高夫 川崎修一訳: 看護における理論構築の方法. 医学書院.
備考(関連科目等) /	授業形式は一部遠隔形式を取り入れる。 各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。 事前に配布された授業資料およびテキスト該当箇所は事前に読み、各自の意見をもって授業に参加することを期待する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-4 看護学の理論体系の発展経緯	菊池 麻由美	科目のオリエンテーション 看護学における理論と実践、研究の関係 思想史・科学史 看護における理論開発の歴史 理論の基盤・認識論	
5-10 理論と概念	永田 明	理論開発のレベル 理論開発の要素。アプローチ 概念開発 目的と使用 概念分析 概念分析の方法 概念分析の手順	
11-13 理論の基本的成り立ちと理論の構造	菊池 麻由美	看護理論の機能と構造 理論のクリティーク	
14-16 概念分析	永田 明	概念分析の具体例 ・概念分析の方法 ・適切 / 不適切例	
17-18 理論開発：中範囲理論	永田 明	理論開発の実際：「コンフォート理論」	
19-22 看護理論のクリティーク	菊池 麻由美	プレゼンテーションと討議 関心領域の理論を取り上げた理論や概念のクリティークの実践	
23-24 理論開発：状況特定理論	永田 明, 菊池 麻由美	理論開発の実際：未定	
25-27 概念分析	永田 明	プレゼンテーションと討議 関心領域の概念を取り上げた概念分析の実践 まとめ：理論の開発と活用	

開講科目名 / Course	多職種連携・協働演習	
時間割コード / Course Code	G9204	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	春学期 / SPRING	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	横井 郁子	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	松元 由香 (専任教員)、横井 郁子 (専任教員)、石橋 タミ (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	コンピュータ、大学で整備された情報通信ネットワーク
担当教員 /	横井郁子 (看護学研究科・教授) 石橋タミ (看護学研究科・准教授) 松元由香 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	横井郁子連絡先 : yokoiyk med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12 : 30 ~ 13 : 00 他の日時も対応可。その場合は事前にメールで連絡すること。	
授業概要 /	地域包括ケアシステムを構成している各医療・ケア提供の場へ赴き、対象、および、その家族を含む関わる人々の支援に必要な物的・人的資源について分析する能力を養う。 *受講者を看護職と限定しない。	
到達目標 /	1. 多職種連携・協働に関する文献検討を行いながら問いを立て、フィールドワークを行い自身の立てた問いについて仮説を立てながら課題を見出すことができる。 2. 1で見出した課題に関する現状を説明するとともに、それに対する取り組みについて考察、提案することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観	
事前・事後学習とその時間 /	フィールドワークの計画は、学生自ら立案し、教員の指導を得て現場に臨む。現場での協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。 30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。	

評価方法・基準 /	フィールドワークへの取り組み60%、プレゼンテーション40%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	必要に応じて提示する。
参考書 /	必要に応じて提示する。
備考(関連科目等) /	対面方式と遠隔方式を組み合わせる。 フィールドワークの場所、日程はできるだけ調整するが希望に添えない場合もある。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-3 多職種連携・協働の現状と課題	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	本科目のオリエンテーション 参考文献(こちらから提供)を読み、 1.自身の職場での他職種との関係を振り返る。 2.生活者である対象が病を持ちながら暮らしを継続するために関わる職種に焦点を当て、多職種連携・協働に対する「問い」をたてる。	
4-5 生活者に関わる多職種連携・協働(1)	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	ゲスト招聘、話題提供(できるだけ受講生と異なる職種の方) 前回たてた「問い」を再考する	
6-7 生活者に関わる多職種連携・協働(2)	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	ゲスト招聘、話題提供(できるだけ受講生と異なる職種の方) 前回たてた「問い」を再考する	
8 フィールドワークの計画立案	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワークの計画・調整	
9-22 フィールドワーク	横井 郁子	フィールドは2箇所程度を予定(1箇所/日)	
23-25 フィールドノート分析	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	事前にたてた問いを中心にフィールドワークで得たことをまとめ分析し、発表する。	
26-27 多職種との連携とは、協働とは	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	生活者に関わる多職種の「連携」と「協働」の在り方について、自身の学びをいかしながら討議を通して再考する。	

開講科目名 / Course	看護学特別研究	
時間割コード / Course Code	G1002	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	通年 / ONE-YEAR	
単位数 / Credits	6.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(研 究) / (研 究)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	必修	
授業形態 /	実習	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Googleclassroom, zoom, pc
担当教員 /	荒木暁子 (看護学研究科・教授) 横井郁子 (看護学研究科・教授) 小林寅喆 (看護学研究科・教授) 伊藤桂子 (看護学研究科・教授) 菊池麻由美 (看護学研究科・教授) 坂本なほ子 (看護学研究科・教授) 富岡由美 (看護学研究科・教授) 望月由紀子 (看護学研究科・教授) 原沢のぞみ (看護学研究科・教授) 田中耕一郎 (看護学研究科・教授) 勝瀬明子 (看護学研究科・准教授) 成澤明 (看護学研究科・准教授) 小坂志保 (看護学研究科・准教授) 吉朝加奈 (看護学研究科・准教授) 小林成光 (看護学研究科・准教授) 石橋タミ子 (看護学研究科・准教授) 山中源治 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	各指導教員に確認すること。	
オフィスアワー /	各指導教員に確認すること。	
授業概要 /	看護学に関する研究課題を立案・設定し、研究計画書にそって研究を実践することで、修士論文を作成する。研究を通じて研究者として必要な態度(謙虚さ、忠実性、真摯さ)を獲得する。	

到達目標 /	1.興味・関心のある現象に関する課題を明らかにするための文献検討、文献クリティークを行う能力を習得する。 2.興味・関心のある現象について、フィールドワークに参加し、諸理論を用いて現象を捉える能力を習得する。 3.フィールドワーク、文献検討から研究課題の絞り込みを行い、研究課題を説明できる 4.研究を進めるにあたり、研究課題に適したフィールド、対象、データ収集方法を選択できる。 5.課題の研究的探索に有効な研究方法を明確にし、研究計画を立案できる。 6.研究を進めるにあたり倫理的配慮について理解し、説明できる。 7.収集したデータを分析する能力を習得する。 8.得られた知見を論文として表現する能力を習得する。 9.データ収集から論文作成、成果発表までのプロセスにおいて研究者として必要な態度（謙虚さ、忠実性、真摯さ）を獲得する。
ディプロマ・ポリシーとの関連 （看護学研究科） /	（DP1）知識・技能と課題解決力、（DP2）共生型リーダーシップ、（DP3）社会的責任・倫理観、（DP4）科学的探究心・自己研鑽、（DP5）国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	各指導教員が適切な方法により実施する。
評価方法・基準 /	課題への取り組み（20%）、研究計画書（20%）、論文（60%）から総合的に評価する。
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評し、課題の共有をする。
教科書 /	適宜提示する
参考書 /	適宜提示する
備考(関連科目等) /	各指導教員の方で、専門分野の文献検討などを十分に行った上で、看護学特別研究の準備を進めていくこと。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 教育内容		各主指導教員・副指導教員の指導のもとに、学生は研究課題にそって、研究計画書の立案から調査研究などの実施、修士論文の作成まで研究の過程を展開する。	各担当教員
2 指導體制		主指導教員・副指導教員を中心に、大学院担当教員が協力して指導にあたる。	

開講科目名 / Course	高度看護実践実習	
時間割コード / Course Code	G1003	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	通年 / ONE-YEAR	
単位数 / Credits	10.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 成光	
科目区分 / Course Group		
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	山下 尚美 (専任教員)、小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	実習	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM、Teams
担当教員 /	小林成光(看護学研究科・准教授)、山下尚美(看護学研究科・講師)、寺原敦朗(大森病院放射線科・教授) 節原光江(大森病院・がん看護専門看護師)、黒澤亮子(大森病院・がん看護専門看護師)、祖父江由紀子(大森病院・がん看護専門看護師)、堀孔美恵(大橋病院・がん看護専門看護師)、藤井知花(大橋病院・がん看護専門看護師)、花出正美(がん研有明病院・がん看護専門看護師)	
科目責任者連絡先(教室) /	masamitsu.kobayashi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00	
授業概要 /	がん看護学特論ならびに演習での知識を統合し、がん看護領域における特殊性をふまえながら高度な実践能力を養うことができる。また、がん看護専門看護師として必要な役割(コンサルテーション、調整、倫理調整、研究、教育)を自立して行える実践能力の開発をめざす。	

到達目標 /	<p>1. がん患者の身体管理方法や有害事象のアセスメント能力、予定治療の遂行に関わる臨床判断能力を習得し、ケア（care）とキユア（cure）を融合させた高度な看護実践能力について説明できる。</p> <p>2. がん患者および家族あるいはがんサバイバーが、自律した、納得のいく日常生活を送ることができるような専門的な直接ケアと、施設と地域のシームレスな連携をはかる継続看護を実践することができる。</p> <p>3. 看護スタッフが対応困難と感じている患者や家族への看護について、コンサルテーション、倫理的調整、調整、教育などの実践活動を行うことを通して専門看護師の役割について説明できる。</p> <p>4. 臨床におけるがん看護の現状や教育ニーズを把握し、がん患者および家族やがんサバイバーへの看護の質向上を図るための教育や研究支援を実施することができる。</p> <p>5. がん看護専門看護師として自己の専門性を発展させる領域（サブスペシャリティ）を見出し、必要な実践能力やケア開発能力について説明できる。</p> <p>6. がん患者および家族やがんサバイバーに対する卓越した看護を開発していくための自身の課題を記述できる。</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連 （看護学研究科） /	（DP1）知識・技能と課題解決力、（DP2）共生型リーダーシップ、（DP3）社会的責任・倫理観、（DP4）科学的探究心・自己研鑽
事前・事後学習とその時間 /	<p>1. さまざまな臨床問題をもつがん患者および家族への看護について、臨床医およびがん看護専門看護師、教員等のスーパーバイズを受けながら多角的に検討し実践する。</p> <p>2. 施設で実習が不可能な社会情勢の場合には、遠隔形式をもちいて指導者および教員とディスカッションを行う。</p>
評価方法・基準 /	事前課題への取り組み20%、実習への取り組み60%、レポート20%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	実習前・中・後で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	適宜紹介する。
参考書 /	適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	既習の特論・演習での学びや文献検討でえたエビデンスなどを統合して事前学習を丁寧に行うこと。詳細は、がん看護専門看護師高度看護実践実習実習要項を参照すること。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってオンラインを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 実習 : 1年春学期 2-3週間	堀 孔美恵, 節原 光江, 祖父江 由紀子, 黒澤 亮子, 藤井 知花, 山下 尚美, 小林 成光, 花出 正美	<p>1)実習目的 がん看護専門看護師として焦点をあてる領域（サブスペシャリティ）を選択し、直接ケアを通して、高度な実践能力やケア開発能力を習得する。また、がん看護専門看護師として専門性を発揮するとはどういうことなのか探究する。 受け持ち患者及び家族に対する看護については、実習指導者であるがん看護専門看護師・担当教員等のスーパーバイズを受け、多角的に検討しながら実践を行う。</p> <p>2)実習施設 東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院、がん研有明病院</p>	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
2 実習 : 2年春学期 2~3週間	堀 孔美恵, 節原 光江, 祖父江 由紀子, 黒澤 亮子, 藤井 知花, 山下 尚美, 小林 成光, 花出 正美	<p>1)実習目的 複雑で対応困難な問題をもつがん患者やその家族に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いた質の高い看護の提供および看護支援法の開発ができるような能力を習得する。さらに、複雑で対応困難な事例に対して、スタッフ看護師と共に解決策を検討することを通して、がん看護専門看護師の実践能力を習得する。また、入退院を繰り返しながらがん治療を受けている対象者に対して、施設と地域社会とのシームレスな連携をはかる継続看護について探求する。</p> <p>受け持ち患者及び家族に対する看護については、実習指導者であるがん看護専門看護師・担当教員等のスーパーバイズを受け、多角的に検討しながら実践を行う。</p> <p>2)実習施設 東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院、がん研有明病院</p>	
3 実習 : 1年秋学期 2~3週間	堀 孔美恵, 節原 光江, 祖父江 由紀子, 黒澤 亮子, 藤井 知花, 山下 尚美, 小林 成光, 花出 正美	<p>1)実習目的 がん看護専門看護師と行動を共にし、がん看護専門看護師の活動の実際から、役割機能(実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整)、およびチーム医療における協働のあり方を理解し、がん看護専門看護師の専門性を発揮する能力を習得する。</p> <p>2)実習施設 東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院、がん研有明病院</p>	小林成光、山下尚美、節原光江、黒澤亮子、祖父江由紀子、堀孔美恵、藤井知花、花出正美
4 実習 : 1年秋学期4週間	堀 孔美恵, 節原 光江, 寺原 敦朗, 祖父江 由紀子, 黒澤 亮子, 藤井 知花, 山下 尚美, 小林 成光, 花出 正美	<p>1)実習目的 臨床指導者(臨床指導医・がん看護専門看護師・担当教員等)の指導のもと、がんの診断・治療過程を理解し、治療の有害事象のアセスメントとモニタリング、治療遂行の判断に関する能力を習得する。また、対象者が治療を受けながら日常生活を送ることができるような継続看護を実践するために、施設と地域社会とのシームレスな連携モデルを開発する能力を習得する。</p> <p>2)実習施設 東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院、がん研有明病院</p>	小林成光、山下尚美、節原光江、黒澤亮子、祖父江由紀子、堀孔美恵、藤井知花、花出正美、寺原敦朗

開講科目名 / Course	助産学課題実習	
時間割コード / Course Code	G1004	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	通年 / ONE-YEAR	
単位数 / Credits	6.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(研 究) / (研 究)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	実習	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google classroom, Zoom, PC
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 伏見枝莉 (看護学部・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日10:00~11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00~13:00 渡邊幸恵 毎週月曜日12:00~13:00 山本由香 毎週月曜日12:00~13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00~13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00~13:00	

授業概要 /	周産期にある妊産褥婦とその家族を対象としたケアについて、文献検討を通して課題を抽出し、実習計画を立案し、立案した計画に沿ったケアを母子に提供する。また、自己の助産課題に対し研究計画を立案しデータ収集・分析を行い、課題研究論文を作成する。
到達目標 /	1. 周産期にある妊産褥婦とその家族に対する助産について、各自の関心に沿った課題に関する文献検討を行い、実習計画を立案することができる。 2. 対象者に対しEvidenceに基づく助産診断および助産ケアを実施することができる。 3. 研究課題を明確にし、研究計画を立案・データの分析を行い課題研究論文を作成することができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽
事前・事後学習とその時間 /	詳細は、別途要項を参照のこと。
評価方法・基準 /	課題の明確化、実習計画の立案、実習への取り組み、課題研究論文審査会の結果までの全過程を総合的に評価する。実習時間等の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	ゼミを通して、随時コメントする。
教科書 /	なし
参考書 /	随時、参考書を紹介する。
備考(関連科目等) /	・各指導教員のもとで、既習の特論、演習、実習での学びや文献検討で得たエビデンスなどを統合した事前学習を丁寧に行うこと。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。 ・課題研究指導は指定した日時に開催するゼミにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 実習概要	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	課題の抽出を行い、実習計画を立案する。実習計画に沿って妊産褥婦または新生児を受持ち助産診断のもと助産ケアを実施する。実習を通して、多様な文化や生活環境にある女性のケアを実践することで、個別性を重視し、周産期各期に応じた質の高い管理・ケアのあり方について学ぶ。 また、これまでの学びより助産学の課題を明らかにし、課題研究として必要なデータを収集、データの分析を行い、課題研究論文を作成する。	富岡由美・加藤知子・渡邊幸恵・山本由香・疋田仁美・伏見枝莉
2 実習施設		実習施設は以下の周産期医療施設とし、課題に合わせて実習施設を選定する。 東邦大学医療センター 大森病院 東邦大学医療センター 佐倉病院	« NULL »

開講科目名 / Course	公衆衛生看護学研究	
時間割コード / Course Code	G1005	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	通年 / ONE-YEAR	
単位数 / Credits	6.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(研 究) / (研 究)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	望月 由紀子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	実習	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科 教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:30~14:00	
授業概要 /	文献検討を通して研究課題を抽出し、研究計画を立案する。立案した研究計画にそってデータを収集・分析し研究を実践することで、課題研究論文を作成する。研究を通じて研究者として必要な姿勢(謙虚さ、忠実性、真摯さ)と探求する態度を習得する。	
到達目標 /	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護分野において興味・関心のある現象に関する課題を明らかにするための文献検討、文献クリティークを行うことができる。 2. フィールドワーク、文献検討から研究課題の絞り込みを行い、研究課題を抽出できる。 3. 研究課題に適したフィールド、対象、データ収集方法を選択できる。 4. 課題の研究的探索に有効な研究方法を明確にし、研究計画を立案できる。 5. 研究を進めるにあたり倫理的配慮について理解し、説明できる。 6. 必要なデータを収集し、適切な方法で分析できる。 7. 課題研究論文を作成し、効果的にプレゼンテーションを実施できる。 	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽	

事前・事後学習とその時間 /	テーマに関連する分野の事前・事後学習を行う
評価方法・基準 /	課題への取り組み(20%)、研究計画書(20%)、論文(60%)から総合的に評価する。
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評し、課題の共有をする。
教科書 /	適宜提示する
参考書 /	適宜提示する
備考(関連科目等) /	学生が主体的に学習する。院生各自の課題を元にグループ討議を行う。 授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。 対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 教育内容	望月 由紀子	指導教員の指導のもとに、学生は研究課題にそって、研究計画書の立案から調査研究などの実施、課題研究論文の作成まで研究の過程を展開する。	望月由紀子
2 指導内容	望月 由紀子	担当教員が協力して指導にあたる。	望月由紀子

開講科目名 / Course	小児高度看護実践実習	
時間割コード / Course Code	G1006	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	通年 / ONE-YEAR	
単位数 / Credits	10.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(研 究) / (研 究)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	天野 里奈 (専任教員)、河上 智香 (専任教員)、高山 充 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	実習	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Zoom, Google classroom
担当教員 /	荒木暁子 (看護学研究科・教授)、河上智香 (看護学研究科・准教授)、天野里奈 (看護学研究科・助教)、高山充 (看護学研究科・助教)、高月晋一 (東邦大学医学部小児科学講座教授)、竹田佳子 (大森病院・小児看護専門看護師)、長順子 (大森病院・小児看護専門看護師)、井出由美 (非常勤講師・昭和大学小児看護専門看護師)	
科目責任者連絡先 (教室) /	荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	荒木暁子 毎週木曜日 12:30 ~ 13:00	
授業概要 /	<p>1 . 小児看護専門看護師のシャドウイングを通して、高度な看護実践と役割を理解し、自らの看護実践を省察することを通して、自身の課題や強みを捉えていく。 < 役割学習 ></p> <p>2 . 複雑な健康障害を持つ小児を受け持ち、専門看護師としての役割・機能を踏まえ、指導医や小児看護専門看護師、教員などのスーパーバイズを受け、計画・実施・評価する。 < 診断・治療 > < 高度実践 ></p> <p>実習場所：東邦大学医療センター大森病院 小児科病棟、外来、および関連部署</p>	
到達目標 /	<p>小児看護専門看護師の役割を理解し、専門看護師に向けた自らの課題と強みを明確にする。医師との調整を必要とする看護ケアの展開に焦点を置き、高度実践看護師として、患者の治療や薬剤について看護の視点で検討・調整し、医師と調整できる。</p> <p>複雑な健康問題をもつ小児が、よりよい健康状態を保ち成長発達を遂げられるように、小児とその家族を支援するためのケアとケアを統合した高度な実践能力を修得する。</p>	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、 (DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	高度実践看護の役割に関する学習、および、受け持ち児の病態・生理・治療に関する学習について、臨床医や専門看護師のスーパーバイズのもと適宜事前・事後学習を行う。
評価方法・基準 /	実習評価表を用いた実習実施状況の評価50% レポート50% (診断・治療10例以上、実践機能5例以上、コンサルテーション・調整・倫理調整・教育は各2事例以上) 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
フィードバック方法 /	実習前・中・後で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	<ul style="list-style-type: none"> ・ Ann Hamric 他, 中村美鈴 訳: 高度実践看護 - 統合的アプローチ, へるす出版, 2017 ・ Patti Rager Zuzelo: The Clinical Nurse Specialist Handbook, Jones and Bartlett, 2009 ・ Sonya R. Hardin and Roberta Kaplow: Synergy for Clinical Excellence, AACN, 2004 ・ Duffy, M., Dresser, S., Fulton, J.: Clinical Nurse Specialist Toolkit A Guide for the New Clinical Nurse Specialist (2nd Edition). National Association of Clinical Nurse
参考書 /	適宜紹介、提示する。
備考(関連科目等) /	既習の特論・演習での学びや文献検討でえたエビデンスなどを統合して事前学習を丁寧に行うこと。詳細は、小児看護専門看護師高度看護実践実習実習要項を参照すること。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたりリアルタイム配信を行う。 この科目は、高度看護実践実習単位取得に関する申し合わせ事項(平成25年4月1日, 令和5年4月1日改訂)に基づき、分割した科目立て(分割科目という)となっており、成績は分割されたそれぞれの科目で認定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 実習オリエンテーション・計画立案	河上 智香, 荒木 暁子	実習の進め方を概説する。自身のテーマやサブスペシャリティに応じて、実習フィールド、実習内容などを勘案し、実習計画を立案する。	荒木暁子、河上智香

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
2 <役割学習> 関連	長 順子, 竹田 佳子, 荒木 暁子	<p>(2年春学期3週間2単位)</p> <p>小児看護専門看護師による高度実践・倫理調整・コンサルテーション・コーディネーション・教育・研究の6つの役割を学ぶ。</p> <p>専門看護師との討議および看護実践を通じた、自らの課題と強みを明確化する。</p> <p>実習先：東邦大学医療センター大森病院 ・患者を受け持ち、小児看護専門看護師のシャドウイングを通して、小児看護専門看護師の行う高度実践・倫理・コンサルテーション・コーディネーション・教育・研究の各役割の実際を学ぶ ・シャドウイングに際し、施設の組織分析を行う ・小児看護専門看護師の活動の意図や、効果的に活動するための日々の取り組み（関係性の構築やシステム作りなど）を含め、シャドウイング後にディスカッションすることで学びを深める ・レディネスに応じ、学生は小児看護専門看護師の活動に補助的あるいは主体となり参画して実践・評価を行う ・シャドウイングとディスカッション、活動への参画を振り返り、専門看護師に向けた自らの課題と強みを明確にする</p>	荒木暁子、竹田佳子、長順子、または、井出由美
3 <診断・治療> 関連	高月 晋一, 荒木 暁子	<p>(2年秋学期3週間2単位)</p> <p>継続して治療を受ける小児を受け持ち、臨床医の指導のもと、高度実践看護師として治療や薬剤について看護の視点で検討・調整し、よりよい看護の提供につなげる。 ・受け持ち患児の看護実践を行う上で、治療や薬剤の調整に必要な判断ならびにその過程を理解し、医師との調整の元、看護実践を行う。(10例以上)</p> <p>・受け持ち患児の看護を提供する中で必要となる治療、検査、薬剤等の判断内容とその根拠を理解する。 ・受け持ち患児のケアを行う上で、治療・薬剤調整など医師との調整が必要な事例について、その判断を明確にし、医師のスーパービジョンを受け評価する。</p>	高月晋一、荒木暁子
4 <高度実践> 関連	長 順子, 天野 里奈, 竹田 佳子, 河上 智香, 高山 充, 荒木 暁子	<p>(2年通年9週間6単位)</p> <p>複雑な健康問題をもつ小児と家族に対して、倫理的な視点を持ち ケアとキュアを統合した高度な技術を用いて事例を分析し、実施・評価する。看護職者への教育や、コンサルテーション・調整を実施する。研究結果を、看護実践や評価に活用する。</p>	

開講科目名 / Course	継続事例支援演習	
時間割コード / Course Code	G3119	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	通年 / ONE-YEAR	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	本田 順子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子(専任教員)、本田 順子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	本田 順子(看護学研究科・講師) 櫻井 純子(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:30~14:00	
授業概要 /	継続的な家庭訪問を通して、対象者との信頼関係の深まりやニーズの変化、個人や家族の発達段階・課題に合わせて、地域と連携しながら公衆衛生看護を展開するための技術を習得する。	
到達目標 /	1 地域の特徴や個人や家族特性を捉えた個別の潜在的・顕在的な健康課題が抽出できる 2 継続的な家庭訪問により、信頼関係の深まりや生活上のニーズの変化を把握できる 3 個別のアプローチによる保健師の支援方法が実践できる 4 家庭訪問や健康相談を実践することで課題解決能力を高める支援を実践することができる 5 対象者の課題を解決するための具体的な計画立案・実施・評価ができる 6 地域包括ケアシステムのなかで、多機関・多職種との連携・協働する保健師の役割・機能が説明できる	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観	
事前・事後学習とその時間 /	1. 授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2. 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。	

評価方法・基準 /	授業への取り組み(20%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(40%)で総合的に評価する。 。レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。
フィードバック方法 /	レポート等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。 プレゼンテーションは授業内で評価し、講評を伝える。
教科書 /	1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年(初版) 2. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年(初版) 3. 岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年(初版)
参考書 /	1. 厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向2025/2026」厚生労働統計協会・2025年 2. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2025/2026」厚生労働統計協会・2025年
備考(関連科目等) /	事前に予習をして授業に臨むこと。 学生間のグループ討議により、主体的に演習準備を行う。 演習に必要な内容を主体的に学習する。 授業形態は対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合には、ZOOM を用いたリアルタイム配信にて実施する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 オリエンテーション	櫻井 純子, 本田 順子	ガイダンス・演習計画	
2 継続支援を展開する上でのシステム	本田 順子	継続支援と地域包括ケアシステム	
3 学外演習1の準備	櫻井 純子, 本田 順子	オリエンテーション、計画立案・フィールドワークの準備	
4 学外演習2の準備	本田 順子	初回訪問オリエンテーション	
5 学外演習2の準備	櫻井 純子	授乳・離乳の支援・子どもの健康への支援(事故予防 他) 高齢者への支援(地域包括支援センターの機能・役割含む 他)	
6 学外演習1の実施	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(産科外来)1	
7 学外演習1の実施	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(産科外来)2	
8 学外演習1の実施	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(新生児外来/1か月児健診)1	
9 学外演習1の実施	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(新生児外来/1か月児健診)2	
10 学外演習3の準備	櫻井 純子, 本田 順子	健康相談の進め方	
11 学外演習2の計画	櫻井 純子, 本田 順子	まとめ、計画立案・フィールドワークの準備	
12 学外演習2の実施	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(1回目家庭訪問)	
13 学外演習3の計画	櫻井 純子, 本田 順子	健康相談の準備	
14 学外演習3の実施	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(1回目健康相談)	
15 学外演習3の実施	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(2回目健康相談-メール・オンライン)	
16 学外演習3の計画	櫻井 純子, 本田 順子	健康相談の準備	
17 学外演習の実施	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(3回目健康相談)	
18 学外演習2の計画	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(2回目家庭訪問)に向けた準備	
19 学外演習2の実施	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(2回目家庭訪問)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
20 フィールドワークの振り返り	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワークについて学びを統合	
21 学外演習2の準備	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(3回目家庭訪問)の準備	
22 学外演習2の実施	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(3回目家庭訪問)	
23 学外演習2の準備	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(4回目家庭訪問)の準備	
24 学外演習2の実施	櫻井 純子, 本田 順子	フィールドワーク(4回目家庭訪問)	
25 報告会に向けた準備	本田 順子	学生の自己学習	
26 報告会	櫻井 純子, 本田 順子	プレゼンテーション・まとめ	
27 報告会	櫻井 純子, 本田 順子	プレゼンテーション・まとめ	

開講科目名 / Course	地区管理組織支援演習	
時間割コード / Course Code	G3122	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	通年 / ONE-YEAR	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子(専任教員)、坂本 美佐子(専任教員)、横井 郁子(専任教員)、望月 由紀子(専任教員)、本田 順子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	PBL(課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子(看護学研究科・教授)横井 郁子(看護学研究科・教授)坂本 美佐子(看護学研究科・講師)本田 順子(看護学研究科・講師)櫻井 純子(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 横井 郁子 yokoiyk med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:30~14:00	
授業概要 /	小地域をフィールドとして、地域における住民や関係機関・関係職種と関わり協働することで、公衆衛生看護活動の地域での展開方法である地区活動や組織支援に必要な技術を習得する。	
到達目標 /	1 人々の日常生活の基盤である地区/近隣/コミュニティ/小地域等の概念について説明できる。 2 地域における住民組織/地域組織の活動目的や組織構造が説明できる。 3 関係機関・関係職種と連携・協働し、住民が主体となって地域づくりを行うための地区活動や	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	1. 授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2. 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	授業への参加態度・レポート(20%)、筆記試験(80%)により総合的に評価する。 レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。
教科書 /	1. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年(初版) 2. 岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年(初版)
参考書 /	適宜紹介する
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたりリアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス、地区活動・組織活動の基本	望月 由紀子	講義の目的と進め方、地区活動の意義、住民の主体、グループ形成、組織化プロセス	
2 多機関・多職種の役割と機能1	坂本 美佐子	地域包括支援センターの役割・機能	
3 多機関・多職種の役割と機能2	坂本 美佐子	社会福祉協議会の役割・機能	
4 多機関・多職種の連携と協働	横井 郁子	フォーマル・インフォーマル資源、顔の見える関係、ネットワーク構築	
5 多機関・多職種の連携と協働	横井 郁子	フォーマル・インフォーマル資源、顔の見える関係、ネットワーク構築	
6 フィールドワーク1(活動実態の把握)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	地域活動への参加体験	
7 フィールドワーク1(活動実態の把握)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	地域活動への参加体験	
8 学内演習(リフレクション)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	振り返りを行い関心分野の確定	
9 学内演習(リフレクション)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	振り返りを行い関心分野の確定	
10 フィールドワーク2(暮らしの背景)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	住民視点による背景理解	
11 フィールドワーク2(暮らしの背景)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	住民視点による背景理解	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
12 フィールドワーク 2 (暮らしの背景)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	住民視点による背景理解	
13 フィールド経験の再構成	坂本 美佐子, 望月 由紀子	思考プロセス: 発見から問いへ	
14 フィールド経験の再構成	坂本 美佐子, 望月 由紀子	思考プロセス: 発見から問いへ	
15 対話の技能と倫理	坂本 美佐子, 望月 由紀子	ナラティブ・アプローチ: 姿勢・技法・倫理・視点	
16 対話の技能と倫理	坂本 美佐子, 望月 由紀子	ナラティブ・アプローチ: 姿勢・技法・倫理・視点	
17 フィールドワーク 3 (地域の支え合いの形)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	活動を支える「仕組み」: 役割・資源・継続・つながり	
18 フィールドワーク 3 (地域の支え合いの形)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	活動を支える「仕組み」: 役割・資源・継続・つながり	
19 フィールドワーク 3 (地域の支え合いの形)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	活動を支える「仕組み」: 役割・資源・継続・つながり	
20 フィールドワーク 4 (住民の主体性とエンパワメント)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	地域の「底力」: 自分事・変化・支え合い	
21 フィールドワーク 4 (住民の主体性とエンパワメント)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	地域の「底力」: 自分事・変化・支え合い	
22 フィールドワーク 4 (住民の主体性とエンパワメント)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	地域の「底力」: 自分事・変化・支え合い	
23 フィールドワーク 5 (地域の自律性とネットワーク)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	組織の強みの把握: 相互機能、意思決定、継承力、包容力、強み	
24 フィールドワーク 5 (地域の自律性とネットワーク)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	組織の強みの把握: 相互機能、意思決定、継承力、包容力、強み	
25 フィールドワーク 5 (地域の自律性とネットワーク)	坂本 美佐子, 望月 由紀子	組織の強みの把握: 相互機能、意思決定、継承力、包容力、強み	
26 公衆衛生看護の視点によるまとめ	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	支援のあり方と活用の検討: 地域が持つ力を保健師がどう信じどう伴走して引き出すか)	
27 公衆衛生看護の視点によるまとめ	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	支援のあり方と活用の検討: 地域が持つ力を保健師がどう信じどう伴走して引き出すか)	

開講科目名 / Course	看護学特別研究 (D) / Advanced Research on Nursing Sciences and Arts	
時間割コード / Course Code	G7002	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 春学期 / SPRING	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	通年 / ONE-YEAR	
単位数 / Credits	8.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	必修	
授業形態 /	実習	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Googleclassroom, zoom, pc
担当教員 /	荒木暁子 (看護学研究科・教授) 横井郁子 (看護学研究科・教授) 小林寅喆 (看護学研究科・教授) 伊藤桂子 (看護学研究科・教授) 菊池麻由美 (看護学研究科・教授) 坂本なほ子 (看護学研究科・教授) 富岡由美 (看護学研究科・教授) 望月由紀子 (看護学研究科・教授) 原沢のぞみ (看護学研究科・教授) 田中公聴会 (看護学研究科・教授) 勝瀬明子 (看護学研究科・准教授) 成澤明 (看護学研究科・准教授) 小坂志保 (看護学研究科・准教授) 吉朝加奈 (看護学研究科・准教授) 小林成光 (看護学研究科・准教授) 石橋タミ子 (看護学研究科・准教授) 山中源治 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先 (教室) /	各指導教員に確認すること。	
オフィスアワー /	各指導教員に確認すること。	
授業概要 /	看護学に関する研究課題を立案・設定し、研究計画書にそって研究を実践することで、博士論文を作成する。	

到達目標 /	1. フィールドワーク、文献検討から研究課題の絞り込みを行い、研究課題を説明できる。 2. 自らの研究の学術的意義、新規性、独創性及び応用的価値について説明できる。 3. 研究を進めるにあたり、研究課題に適したフィールド、対象、データ収集方法を選択できる。 4. 課題の研究的探索に有効な研究計画を立案できる。 5. 収集したデータを分析し、得られた知見を論文として表現できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、 (DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	各指導教員が適切な方法により実施する。
評価方法・基準 /	研究計画書の立案から、博士論文審査会の結果までの全過程を総合的に評価する。
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評し、課題の共有をする。
教科書 /	各指導教員が適宜、必要な文献等について指示する。
参考書 /	各指導教員が適宜、必要な文献等について指示する。
備考(関連科目等) /	各指導教員の元で、専門分野の文献検討などを十分に行った上で、看護学特別研究の準備を進めていくこと。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 教育内容		各指導教員・副指導教員の指導のもとに、学生は研究課題にそって、研究計画書の立案から調査研究などの実施、博士論文の作成まで、自主的に研究の過程を展開します。	
2 指導体制		指導教員・副指導教員を中心に、大学院担当教員が協力して指導にあたる。	

開講科目名 / Course	基礎看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2108	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小坂 志保	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	菊池 麻由美 (専任教員)、小坂 志保 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Zoom
担当教員 /	小坂志保 (看護学研究科・准教授) 菊池麻由美 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	菊池麻由美 mayumi.kikuchi med.toho-u.ac.jp 小坂志保 shiho.kosaka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30-13:00	
授業概要 /	<p>・ 勘や経験に頼ったり、単にマニュアルやプロトコルに則るのではなく、最新のevidenceをもとに看護実践を行うことや、臨床看護師の看護研究を促進できる人材育成を目標として、自身のテーマに沿った国内外の文献を検索し、精読することによって具体的に根拠に基づく看護ケア (Evidence based practice:EBP) の在り方について検討し、考察を深め他者へ効果的なプレゼンテーションができる能力を養う機会とする。</p> <p>・ 自身の看護実践と文献検討を照らし合わせながら今後の研究テーマについて検討し、Research Questionの創出を目指す。</p>	

到達目標 /	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の現場で根拠に基づいた実践を行い、様々な看護ケアを科学的・哲学的に検証し探求することを目的として、国内外の文献を検索・検討・抄読したうえで、自身の考えを論理的に説明することができる。 ・自身の看護実践をもとにテーマを創出し、看護ケアに関連する文献を分析的・批判的に読み、まとめ・プレゼンテーションすることができる。 ・看護実践と文献検討から、clinical questionをresearch questionに転換し研究テーマを明確化できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。 受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前準備をして臨むこと。
評価方法・基準 /	課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(60%)で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 各自の臨床経験を振り返りつつ、意欲的に参加することを期待する。 あらかじめ提示した資料を丁寧に抄読して参加してください。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 根拠に基づいた実践の導入	菊池 麻由美, 小坂 志保	科目のオリエンテーション 根拠に基づいた実践(Evidence Based Practice)の紹介	
2 根拠に基づいた実践の探求	菊池 麻由美, 小坂 志保	看護実践とEvidence Based Practiceの関連について検討	
3-5 文献検索方法	菊池 麻由美, 小坂 志保	Pubmed/CINAHLを用いてResearch questionに基づく文献検索の実践	
6 プレゼンテーション方	小坂 志保	英語文献の紹介方法	
7-8 文献検索	小坂 志保	関心ある自身のテーマに沿って関連文献の検索	
9-12 文献検討(量的研究)	小坂 志保	量的研究論文の精読	
13-15 プレゼンテーション(量的研究)	菊池 麻由美, 小坂 志保	量的研究論文について自身の考察とともにプレゼンテーション	
16-18 プレゼンテーション(グラウンデッド・セオリー)	菊池 麻由美, 小坂 志保	質的研究論文(グラウンデッド・セオリー)の精読 質的研究論文(グラウンデッド・セオリー)について自身の考察とともにプレゼンテーション	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
19-21 プレゼンテーション(エスノグラフィー)	菊池 麻由美, 小坂 志保	質的研究論文(エスノグラフィー)の精読 質的研究論文(エスノグラフィー)について自身の考察とともにプレゼンテーション	
22-24 プレゼンテーション(現象学的アプローチ)	菊池 麻由美, 小坂 志保	質的研究論文(現象学的アプローチ)の精読 質的研究論文(現象学的アプローチ)について自身の考察とともにプレゼンテーション	
25 Clinical question からResearch questionへの転換	菊池 麻由美, 小坂 志保	文献検討を通して、Clinical QuestionからResearch Questionへの転換を行う	
26 Research Questionの創出	菊池 麻由美, 小坂 志保	自身の研究テーマとなるResearch questionを見出す	
27 まとめ	菊池 麻由美, 小坂 志保	授業の総括	

開講科目名 / Course	基礎看護学演習	
時間割コード / Course Code	G2109	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	菊池 麻由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	菊池 麻由美 (専任教員)、渡邊 奈穂 (専任教員)、小坂 志保 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Zoom
担当教員 /	菊池麻由美 (看護学研究科・教授) 小坂志保 (看護学研究科・准教授) 渡邊奈穂 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	菊池麻由美 mayumi.kikuchi med.toho-u.ac.jp 小坂志保 shiho.kosaka med.toho-u.ac.jp 渡邊奈穂 naho.watanabe med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	授業開講日 13:00 ~ 17:00	
授業概要 /	文献検討をふまえて、各自の関心に沿ったテーマで参与観察・インタビューを計画、実施し、その結果に基づき関心テーマについて考察する。看護職者の実践や経験に関する質的データの収集方法を演習する。	
到達目標 /	看護の本質や看護職者の生成と発達に焦点を当てた先行研究を多角的に検討し、看護職者の実践や経験を対象として研究する方法論を説明する。 各自の看護実践を振り返ることで見出した関心テーマについてのインタビュー・参与観察を行う。上記の経験を踏まえて、看護職者の実践や経験を記述する方法論について実践的、論理的に説明する。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観	

事前・事後学習とその時間 /	30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。 各自の関心に沿って進める。臨床における参与観察・インタビューに基づいて演習する。
評価方法・基準 /	課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。
教科書 /	ホロウェイ ウィーラー、野口道子訳、ナースのための質的研究入門、医学書院
参考書 /	別途、提示する。
備考(関連科目等) /	授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。 各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 演習概論	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	科目のオリエンテーション 質的研究方法におけるデータ収集と演習の方法	
2-3 質的研究の方法	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	研究デザインと哲学 データ分析方法	
4-6 データ収集方法	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	アンケート インタビュー 参与観察	
7-12 データ収集演習の準備	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	演習の依頼方法 計画書・依頼書・同意説明書・同意書・同意撤回書作成 演習依頼	
13-18 データ収集演習	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	インタビューまたは参与観察の実施	
19-21 データの作成	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	逐語録または参与観察記録の作成	
22-26 データの分析・プレゼンテーション	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	データの分析 演習成果の報告	
27 まとめ	菊池 麻由美, 渡邊 奈穂, 小坂 志保	演習総括	

開講科目名 / Course	性・生殖看護学演習	
時間割コード / Course Code	G2404	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用しない
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google classroom, zoom, PC
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 伏見枝莉 (看護学部・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日 10:00～11:00 加藤知子 毎週月曜日 12:00～13:00 渡邊幸恵 毎週月曜日 12:00～13:00 山本由香 毎週月曜日 12:00～13:00 疋田仁美 毎週月曜日 12:00～13:00 伏見枝莉 毎週月曜日 12:00～13:00	
授業概要 /	思春期から更年期にある女性の健康課題を明確にし、健康の保持増進と健康問題を回避するための健康教育について企画・実践をする。出産前教育や学童・思春期の男女を対象に健康教育を実践する。	

到達目標 /	1. 学童期から更年期・老年期の女性がもつ健康問題や性と生殖に関する諸問題について分析検討し、援助のあり方を説明できる。 2. ヘルスプロモーション理論に沿って、学童期から成熟期、更年期・老年期の女性を対象にした健康教育プログラムを作成できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽
事前・事後学習とその時間 /	30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。 課題に基づくゼミナール形式で議論を行う。健康教育の実施、評価とレポートの提出をする。
評価方法・基準 /	講義およびディスカッションへの取り組み(30%)、教育プログラムの作成(50%)、教育プログラムの評価(20%)で総合的に評価する。 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 授業時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	健康教育プログラムの作成プロセスにおいて、助言を行う。
教科書 /	堀内成子、片岡弥恵子編「助産学講座5 助産診断・技術学」医学書院・2026年(第7版)
参考書 /	課題にそって授業開始時に提示する。
備考(関連科目等) /	授業科目に関する内容について、春学期に学習した内容について復習しておくこと。 原則、対面で実施する。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 科目オリエンテーション	富岡 由美	科目オリエンテーション 女性のライフサイクルと健康課題	
2 性の成熟過程と避妊教育	加藤 知子	避妊、受胎調節法に関する国際的動向	
3 性の成熟過程と避妊教育	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	避妊、受胎調節法に関する国際的動向	
4 様々な国の性教育	加藤 知子	性教育(避妊・受胎調節)に関する教育の国際比較	
5 様々な国の性教育	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	性教育(避妊・受胎調節)に関する教育の国際比較	
6 避妊教育プログラム	加藤 知子	低容量ピルとコンドーム教育プログラム	
7 避妊教育プログラム	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	低容量ピルとコンドーム教育プログラム	
8 性の成熟過程と性感染症予防教育	加藤 知子	我が国の現状と国際比較	
9 性の成熟過程と性感染症予防教育	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	我が国の現状と国際比較	
10 女性の生涯を通じた健康の保持増進	加藤 知子	思春期から更年期の健康教育	
11 女性の生涯を通じた健康の保持増進	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	思春期から更年期の健康教育	
12 健康教育の技法	渡邊 幸恵	保健指導の実際	
13 健康教育の技法	渡邊 幸恵	保健指導の指導案作成	
14 健康教育の技法	渡邊 幸恵	保健指導の評価	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
15 健康教育の見学 (中学校)	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	助産師が行う性教育の見学	
16 健康教育の見学 (中学校)	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	助産師が行う性教育の見学	
17 健康教育の企画と実際	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	健康教育プログラムの作成 性教育 (小学校)	
18 健康教育の企画と実際	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	健康教育プログラムの作成 性教育 (小学校)	
19 健康教育の企画と実際	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	健康教育プログラムの作成 性教育 (小学校)	
20 健康教育の企画と実際	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	健康教育プログラムの作成 性教育 (小学校)	
21 健康教育の企画と実際	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	健康教育プログラムの作成 性教育 (小学校)	
22 健康教育の企画と実際	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	健康教育プログラムの作成 性教育 (中学校)	
23 健康教育の企画と実際	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	健康教育プログラムの作成 性教育 (中学校)	
24 健康教育の企画と実際	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	健康教育プログラムの作成 性教育 (中学校)	
25 健康教育の企画と実際	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	健康教育プログラムの作成 性教育 (中学校)	
26 健康教育の企画と実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	健康教育プログラムの実施 性教育 (小学校)	
27 健康教育の企画と実際	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	健康教育プログラムの実施 性教育 (中学校)	

開講科目名 / Course	助産学特論	
時間割コード / Course Code	G2412	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	加藤 知子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用しない
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google classroom, Zoom, PC
担当教員 /	加藤知子 (看護学研究科・准教授) 高月晋一 (大森病院・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 高月晋一 橋本淳也	
オフィスアワー /	加藤知子 毎週月曜日12:00~13:00 高月晋一 授業終了後に質問を受け付ける。 橋本淳也 授業終了後に質問を受け付ける。 松岡正樹 授業終了後に質問を受け付ける。 早乙女壮彦 授業終了後に質問を受け付ける。	
授業概要 /	乳幼児の健全な心身の発育・発達過程とその特徴について講義を通して教授する。また、子どもを取り巻く環境を知り、成長発達に影響を及ぼす因子についてアセスメントし、助産過程を展開する。	

到達目標 /	1. 乳幼児期の成長・発達について、身体的・心理的・社会的、生活という視点から説明できる。 2. 乳幼児を持つ家族の健康の保持増進のための相談・教育・援助活動について、説明できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。 各分野の専門職者の講義と事例を用いたグループワーク形式ですすめる。
評価方法・基準 /	講義への取り組み(40%)、課題の評価(60%)で総合的に評価する。 授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 グループワークやプレゼンテーションにて助言する。
教科書 /	1) 石井邦子、廣間武彦編「助産学講座8助産診断・技術学 [3] 新生児期・乳幼児期」医学書院・2021年(第6版) 2) 日本助産診断・実践研究会編「マタニティ診断」医学書院・2025年(第6版)
参考書 /	1) 仁志田博司編集「新生児学入門」医学書院・2019年(第5版) 2) 水野克己「お母さんがもっと元気になる乳児健診 健診を楽しくすすめるエビデンス&テクニック」メディカ出版・2015年 3) 福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会 乳幼児健診マニュアル 医学書院・2019年(第6版)
備考(関連科目等) /	小児看護学で学習した、乳幼児期に特有な成長・発達について復習しておくこと。原則、対面授業とするが、状況により遠隔授業を行う際は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いてリアルタイムで行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 科目オリエンテーション・乳幼児への保健対策	加藤 知子	乳幼児への保健対策の現状と課題	
2 乳幼児への保健施策	加藤 知子	乳幼児への保健対策の現状と課題	
3 乳幼児の成長・発達	橋本 淳也	乳幼児の成長・発達	
4 乳幼児の成長・発達	橋本 淳也	乳幼児の成長・発達	
5 乳幼児の成長・発達	早乙女 壮彦	乳幼児の成長・発達	
6 乳幼児の成長・発達	早乙女 壮彦	乳幼児の成長・発達	
7 乳幼児健康診査とスクリーニング、乳幼児の疾患	高月 晋一	乳幼児健康診査とマスキング、乳幼児の循環器疾患	
8 乳幼児健康診査とスクリーニング、乳幼児の疾患	高月 晋一	乳幼児健康診査とマスキング、乳幼児の循環器疾患	
9 感染症と予防接種、乳幼児の疾患	松岡 正樹	感染症と予防接種、乳幼児の血液疾患	
10 感染症と予防接種、乳幼児の疾患	松岡 正樹	感染症と予防接種、乳幼児の血液疾患	
11 乳幼児の生活と環境	加藤 知子	乳幼児の健康的な生活と環境	
12 乳幼児の生活と環境	加藤 知子	乳幼児の健康的な生活と環境	
13 幼児の事故防止	加藤 知子	幼児に起こりやすい事故とその予防	
14 幼児の事故防止	加藤 知子	幼児に起こりやすい事故とその予防	
15 子ども虐待の予防	加藤 知子	子ども虐待の現状と課題 (ゲストスピーカー)	
16 子ども虐待の予防	加藤 知子	子ども虐待の現状と課題 (ゲストスピーカー)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
17 子ども虐待の予防	加藤 知子	子ども虐待の現状と課題 (ゲストスピーカー)	
18 子ども虐待の予防	加藤 知子	子ども虐待の現状と課題 (ゲストスピーカー)	
19 乳幼児の栄養の食生活	加藤 知子	乳幼児の栄養の特徴と食生活における課題	
20 乳幼児の栄養の食生活	加藤 知子	乳幼児の栄養の特徴と食生活における課題	
21 乳幼児の栄養の食生活	加藤 知子	乳幼児の栄養と食生活 調理演習 (離乳食)	
22 乳幼児の栄養の食生活	加藤 知子	乳幼児の栄養と食生活 調理演習 (離乳食)	
23 乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育	加藤 知子	3~4か月乳児健康診査とケア	
24 乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育	加藤 知子	5~6か月乳児健康診査とケア	
25 乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育	加藤 知子	乳幼児と家族に対する助産過程の展開	
26 乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育	加藤 知子	乳幼児と家族に対する助産過程の展開	
27 乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育	加藤 知子	乳幼児と家族に対する助産過程の展開	

開講科目名 / Course	助産学特論	
時間割コード / Course Code	G2413	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、天野 里奈 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google classroom, Zoom, PC
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授) 渡邊幸恵 (看護学研究科・講師) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 伏見枝莉 (看護学部・助教) 天野里奈 (看護学部・助教)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp 天野里奈 rinaamano med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日10:00～11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00～13:00 渡邊幸恵 毎週月曜日12:00～13:00 山本由香 毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00～13:00 天野里奈 授業終了時に質問を受け付ける。	

授業概要 /	地域における母子保健の制度的基盤、施策の動向、支援活動の実際を多面的に学ぶ。助産師として必要な地域支援力を養うため、行政施策や多職種連携の構造理解に加え、ケーススタディやフィールドワーク、国際看護交流を通じて実践的に学修を進める。
到達目標 /	1.地域母子保健の制度と施策の基盤を理解し、説明できる。 2.地域における多様な母子の保健課題に対して、助産師としての支援方針を立案できる。 3.多職種との連携体制を理解し、地域母子保健活動における協働の役割を説明できる。 4.国際的視点を持ち、他国との母子保健制度や文化の違いを比較・発信できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	授業科目に関する内容について、あらかじめテキスト等に目を通しておくこと。 講義とゼミ形式により進める。 対面形式にて実施する。
評価方法・基準 /	講義への取り組み(20%)、レポート(40%)プレゼンテーション(40%)で総合的に評価する。 プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	グループワークやプレゼンテーションに対して助言を行う。
教科書 /	1) 石井邦子・廣間武彦編「助産学講座8 助産診断・技術学 [3] 新生児期・乳幼児期」医学書院・2023年(第6版) 2) 我部山キヨ子編「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」医学書院・2023年(第6版)
参考書 /	その他、随時参考図書を紹介する。
備考(関連科目等) /	遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 地域母子保健の基本	富岡 由美	科目オリエンテーション 母子保健におけるコミュニティとは	
2 地域母子保健行政	富岡 由美	母子保健政策と制度の動向(ゲストスピーカー)	
3 地域母子保健行政	富岡 由美	母子保健政策と制度の動向(ゲストスピーカー)	
4 地域母子保健行政	富岡 由美	母子保健政策と制度の動向(ゲストスピーカー)	
5 地域母子保健活動	富岡 由美	助産師会の母子保健活動の実際(助産師会連携 フィールドワーク)	
6 地域母子保健活動	富岡 由美	助産師会の母子保健活動の実際(助産師会連携 フィールドワーク)	
7 地域母子保健の多様な支援	富岡 由美	妊娠期の支援(ハイリスク妊婦の支援)	
8 地域母子保健の多様な支援	富岡 由美	妊娠期の支援(ハイリスク妊婦の支援)	
9 地域母子保健の多様な支援	渡邊 幸恵	母子の支援(訪問、福祉制度を活用した支援)	
10 地域母子保健の多様な支援	天野 里奈	母子の支援(訪問、福祉制度を活用した支援)	
11 地域母子保健の多様な支援	天野 里奈	母子の支援(訪問、福祉制度を活用した支援)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
12 地域母子保健の多様な支援	富岡 由美	外国人母子への支援	
13 地域母子保健の多様な支援	富岡 由美	外国人母子への支援	
14 地域母子保健の多様な支援	渡邊 幸恵	精神的支援（母親の不安、精神的支援）	
15 地域母子保健の多様な支援	渡邊 幸恵	精神的支援（母親の不安、精神的支援）	
16 国際看護の概要	富岡 由美	母子保健の課題	
17 諸外国の母子保健	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	母子保健制度（保健・教育）、助産師の役割の違い（米国）	
18 諸外国の母子保健	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	母子保健制度（保健・教育）、助産師の役割の違い（米国）	
19 諸外国の母子保健	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	母子保健制度（保健・教育）、助産師の役割の違い（タイ・中国）	
20 諸外国の母子保健	渡邊 幸恵, 富岡 由美, 加藤 知子, 山本 由香	母子保健制度（保健・教育）、助産師の役割の違い（タイ・中国）	
21 国際交流（米国・タイ・中国）	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	日本の紹介、国際比較（プレゼンテーション）	
22 国際交流（米国・タイ・中国）	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	日本の紹介、国際比較（プレゼンテーション）	
23 大田区母子保健活動	富岡 由美	大田区の地域母子保健事業の制度と実際（グループワーク）	
24 大田区母子保健活動	富岡 由美	大田区の地域母子保健事業の制度と実際（グループワーク）	
25 大田区母子保健活動	富岡 由美	大田区の地域母子保健事業の制度と実際（グループワーク）	
26 大田区母子保健活動	富岡 由美	大田区の地域母子保健事業の制度と実際（グループワーク）	
27 地域母子保健における支援	富岡 由美	地域母子保健活動のまとめ、ディスカッション	

開講科目名 / Course	助産学特論	
時間割コード / Course Code	G2414	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom , Zoom , PC
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 山本由香 (看護学研究科・講師) 疋田仁美 (看護学部・助教) 荒木暁子 (看護学研究科 教授) 有賀いずみ (佐倉病院・副看護部長) 内藤智子 (大森病院・師長) 西田朋子 (大森病院・師長補佐) 永森久美子 (世田谷区立産後ケアセンター 副センター長)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp 有賀いずみ 内藤智子 西田朋子 永森久美子 を@に置き換える。	

オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日：10:00～11:00 山本由香 毎週月曜日：12:00～13:00 疋田仁美 毎週月曜日：12:00～13:00 荒木暁子 授業終了後に質問を受け付ける。 有賀いずみ 授業終了後に質問を受け付ける。 内藤智子 授業終了後に質問を受け付ける。 西田朋子 授業終了後に質問を受け付ける。 永森久美子 授業終了後に質問を受け付ける。
授業概要 /	助産師の実践的な業務管理について教授し、活動する場による助産管理の内容と特徴、法的根拠等について学ぶ。また、助産業務に関わる職業上の倫理と助産師の義務と責任、周産期における安全対策について探求する。
到達目標 /	1.助産師の業務と役割を管理的視点から説明できる。 2.助産業務に関連する法律および社会制度について説明できる。 3.助産師の資格および専門的能力を基盤として、助産実践を支える管理の考え方とその活用について説明できる。 4.周産期医療における医療安全と質保証の仕組みを説明できる。 5.助産師がチームリーダーとして果たすべき役割と責任を説明できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、 (DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。 なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。
評価方法・基準 /	講義への取り組み(20%)、プレゼンテーション(80%)で総合的に評価する。 プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	事例検討の評価については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	我部山 キヨ子,毛利 多恵子編「助産学講座10助産管理」医学書院・2023年(第6版)
参考書 /	その他、随時参考図書を紹介する。
備考(関連科目等) /	助産学実習 および の実習の際に実習施設の人、モノ、金、情報の動きについて意識しながら実習すること。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 助産管理の概念	富岡 由美	科目オリエンテーション 助産管理の基本と概要	
2 助産管理の基本と助産業務管理	富岡 由美	基本資源のマネジメント	
3 助産管理の基本と助産業務管理	富岡 由美	基本資源のマネジメント(事例検討)	
4 助産管理の基本と助産業務管理	富岡 由美	PDCAサイクルとサービス評価、管理者に求められる能力	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
5 場に応じた助産業務管理の特徴	内藤 智子	産科病棟の管理	
6 場に応じた助産業務管理の特徴	内藤 智子	産科病棟の管理	
7 場に応じた助産業務管理の特徴	西田 朋子	NICUの管理	
8 場に応じた助産業務管理の特徴	西田 朋子	NICUの管理	
9 場に応じた助産業務管理の特徴	永森 久美子	コミュニティの中の施設管理（産後ケアセンター）	
10 場に応じた助産業務管理の特徴	永森 久美子	コミュニティの中の施設管理（産後ケアセンター）	
11 助産に関する医療安全と危機管理	荒木 暁子	リスク・マネジメントとは？	
12 助産に関する医療安全と危機管理	荒木 暁子	医療施設における安全対策の事例検討	
13 助産に関する医療安全と危機管理	有賀 いずみ	周産期の医療事故/リスクマネジメントとケアの保証	
14 助産に関する医療安全と危機管理	有賀 いずみ	周産期の医療事故/リスクマネジメントとケアの保証	
15 助産に関する医療安全と危機管理	疋田 仁美, 山本 由香	発災時の地域連携支援 避難所HUG	
16 助産に関する医療安全と危機管理	疋田 仁美, 山本 由香	発災時の地域連携支援 避難所HUG	
17 周産期医療体制と地域連携	富岡 由美	発災時の地域連携 避難所における管理（妊産婦避難所：大田区連携）	
18 周産期医療体制と地域連携	富岡 由美	発災時の地域連携 避難所における管理（妊産婦避難所：大田区連携）	
19 周産期医療体制と地域連携	富岡 由美	妊産婦避難所における妊産婦の支援の実際	
20 助産政策	富岡 由美	助産政策の実際（ゲストスピーカー）	
21 助産政策	富岡 由美	助産政策の実際（ゲストスピーカー）	
22 助産政策	富岡 由美	政策提言（グループワーク）	
23 助産所における助産業務管理	富岡 由美	助産所の管理・運営（助産所開業シミュレーション）	
24 助産所における助産業務管理	富岡 由美	関係法規、助産所開業マニュアルほかを参考に開業・運営計画を立案する	
25 助産所における助産業務管理	富岡 由美	関係法規、助産所開業マニュアルほかを参考に開業・運営計画を立案する	
26 助産所における助産業務管理	富岡 由美	関係法規、助産所開業マニュアルほかを参考に開業・運営計画を立案する	
27 助産所における助産業務管理	富岡 由美	発表・ディスカッション	

開講科目名 / Course	助産学実習	
時間割コード / Course Code	G2419	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	実習	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom , Zoom , PC
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日10:00～11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00～13:00	

授業概要 /	地域の母子保健事業や母子ケア活動、健康教育に参加する。学生自身も実際に健康教育を実施し、評価する。さらに、地域における助産師の役割について考察する。地域における母子保健活動の基礎的知識と実践力を身につけ、多職種連携、地域資源活用、企画・評価まで行える能力を育成する。モデルコアカリキュラムに則り、地域の特性や多様性を踏まえた支援を実践的に理解することを目標とする。
到達目標 /	1. コミュニティにおける母子保健活動に参加し地域の特性を把握することにより、地区診断をすることができる。 2. 地域における母子の健康問題を踏まえ、安心して子育てができる母子保健のあり方を説明できる。 3. 思春期にある男女および成熟期にある女性を対象にした健康教育プログラムを作成し、実施評価できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	* 詳細は実習要項参照
評価方法・基準 /	実習態度(30%)、実習記録(30%)、レポート(30%)、カンファレンス(10%)で総合的に評価する。 評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。 レポートについてはA、B、Cの3段階で評価する。 実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。 レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、返却する。
教科書 /	なし
参考書 /	随時、参考書を提示する。
備考(関連科目等) /	授業科目に関する春学期に学習した内容について復習しておくこと。 助産学特論 ~、助産学演習、の単位を修得見込みであること。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、グループワークをリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
-----	------	---------	----

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 実習概要	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	<p>1.地域における母子に対する助産ケア（助産所）</p> <p>1) 助産所の所在地の地区診断を行い、母子保健の現状および女性の健康問題等について分析する。</p> <p>2) 地区診断に基づいた助産ケアのプログラムを企画し、実施および評価を行う。</p> <p>3) 助産所で実施されている出産準備教室、産後の健康教室、各種子育て支援活動および家庭訪問を実施する。</p> <p>2.産褥期・育児期における支援（産後ケアセンター）</p> <p>1) 子育て支援の場に参加し、産後の母子保健活動を体験する。</p> <p>2) 地域における子育て支援などの母子保健事業の実際を見学する。</p> <p>3.思春期における健康指導（中学校）</p> <p>1) プレコンセプションケアの視点から思春期の学校保健における心身共に健康を維持増進できる保健管理の実際について学ぶ。</p> <p>2) 思春期における男女を対象に心身共に健康を維持増進するための指導を行う</p>	
2 実習施設		<p>実習施設は、以下の場所とする。</p> <p>助産所（みやした助産院・とわ助産院・バースあおば） 世田谷区立産後ケアセンター 区立中学校</p>	

開講科目名 / Course	助産学実習	
時間割コード / Course Code	G2420	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伏見 枝莉 (専任教員)、渡邊 幸恵 (専任教員)、富岡 由美 (専任教員)、疋田 仁美 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、山本 由香 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	実習	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用しない
	ICTを活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先 (教室) /	富岡由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp 加藤知子 tomoko.kato med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 sachie.watanabe med.toho-u.ac.jp 山本由香 yuka.yamamoto med.toho-u.ac.jp 疋田仁美 hitomi.hikida med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉 eri-fushimi ns.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡由美 毎週月曜日10:00 ~ 11:00 加藤知子 毎週月曜日12:00 ~ 13:00	

授業概要 /	開業権を活かした助産経営管理、業務形態や出産ケアについて病院と助産所の特徴を学び、現在の医療環境における位置づけ・働き方を考察する。様々な出産施設の特徴をふまえた施設内での連携のあり方、さらに保健・医療・福祉等の関連機関との連携のあり方を追究する。 また、ハイリスク妊産婦への助産ケアと治療管理の実際を学ぶ。
到達目標 /	1. 助産管理に必要な管理の原則と技法にそって、それぞれの施設の助産業務の範囲と助産管理の特性を妊産婦管理や新生児医療・ケアに参画し、その管理方法の特徴を述べることができる。 2. 施設内、施設間、地域社会において、助産実践と保健・医療・福祉の連携のあり方を説明できる。 3. 組織変革の方策、手順について説明できる。 4. ハイリスク妊産婦の助産過程を展開し、適切な助産ケアが実施できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	病院、助産所、産後ケアセンターをローテーションしながら実習を行う。 実習施設 1. 病院：東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター佐倉病院、愛育病院 2. 助産所：パースあおば、みやした助産院、神奈川県助産師会立とわ助産院 3. 産後ケアセンター：世田谷区立産後ケアセンター 佐倉病院、助産所実習は宿泊を伴う。宿泊にかかる費用は学生の実費負担とする。 詳細は、別途要項を参照のこと。
評価方法・基準 /	実習態度(20%)、事前の課題と事後の課題(30%)、実習記録・カンファレンス資料(50%)で総合的に評価する。 実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
フィードバック方法 /	評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。 レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、返却する。
教科書 /	なし
参考書 /	随時、参考書を紹介する。
備考(関連科目等) /	授業科目に関する内容について、春学期に学習した内容について復習しておくこと。 助産学特論 の単位の修得見込みであることを実習の条件とする。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
-----	------	---------	----

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 実習概要	伏見 枝莉, 渡邊 幸恵, 富岡 由美, 疋田 仁美, 加藤 知子, 山本 由香	<p>1.助産管理（病院）</p> <p>1) 地域周産期母子医療センターとしての役割を果たすための助産管理の実際を見学する。</p> <p>2) 指定の日時のスタッフの配置について考えることができる。</p> <p>3) 院内連携、地域連携について学ぶ。</p> <p>4) リスクマネジメント、質の保証に関する工夫等を考察する。</p> <p>2.助産管理（助産所）</p> <p>1) 助産所の助産管理の実際についてオリエンテーションを受け、法的根拠に基づく管理・運営の実際について学ぶ。</p> <p>2) 医療安全の確保と医療事故への対応と関連機関等の連携について学ぶ。</p> <p>3) 助産所においてカンファレンスを行い、緊急時および切れ目ない妊娠、出産、育児をするための協働、連携について学びを深め、共有する。</p> <p>3.助産管理（産後ケアセンター）</p> <p>1) 法的根拠に基づく管理・運営の実際について学ぶ。</p> <p>2) 医療安全の確保と医療事故への対応と関連機関等の連携について学ぶ。</p> <p>3) 産褥期にある家族のケアを行う上で必要となる施設内の医療専門職や地域関連機関との連携のあり方を見学する。</p> <p>4.ハイリスクの妊産婦の管理</p> <p>1)ハイリスクケースの地域連携の実際を見学する。</p> <p>2)ハイリスク妊産婦の助産過程を展開し、適切な助産ケアが実施できる。</p>	
2 実習施設		<p>実習施設は以下の周産期施設とする。</p> <p>東邦大学医療センター 大森病院 東邦大学医療センター 佐倉病院 愛育病院 世田谷区立産後ケアセンタ 助産所（みやした助産院・とわ助産院・パースあおば）</p>	

開講科目名 / Course	臨床看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2552	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	原沢 のぞみ	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	佐藤 由紀子 (専任教員)、原沢 のぞみ (専任教員)、申 于定 (専任教員)、山中 源治 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	ZOOM、PC
担当教員 /	原沢のぞみ (看護学研究科・教授)、山中源治 (看護学研究科・准教授)、佐藤由紀子 (看護学研究科・講師)、申于定 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先 (教室) /	原沢のぞみ nozomi.harasawa med.toho-u.ac.jp、山中源治 motoharu.nakayama med.toho-u.ac.jp、佐藤由紀子 yukiko.sato med.toho-u.ac.jp、申于定 ujon.shin med.toho-u.ac.jp を@に置き換える	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:45 13:00	
授業概要 /	健康各期の対象の特徴と看護の課題を明らかにするためのアセスメントの視点について説明できる。 自己管理が必要な対象の健康支援のあり方について説明できる。	
到達目標 /	健康レベル (急性期、回復期、慢性期、終末期) に応じた看護をホリスティックな視点から説明できる。 対象の健康を支えるための学習理論や教育方法について説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	授業への取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート40%で評価する。 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。	

フィードバック方法 /	講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。
教科書 /	参考文献は、開講時に提示する。
参考書 /	参考文献は、開講時に提示する。
備考(関連科目等) /	対面形式と遠隔形式を組み合わせる。遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 - 2 ガイダンス	原沢 のぞみ	オリエンテーション	
3 - 6 健康問題を抱える対象の看護	山中 源治	生命の危機状態にある対象の特徴と看護	
7 - 10 健康問題を抱える対象の看護	佐藤 由紀子	回復過程にある対象の特徴と看護	
11 - 14 健康問題を抱える対象の看護	申 于定	慢性状態にある対象の特徴と看護	
15 - 18 健康問題を抱える対象の看護	原沢 のぞみ	終末期にある対象の特徴と看護	
19 - 22 健康を支える学習支援	原沢 のぞみ	成人学習理論に基づく学習支援	
23 - 24 健康を支える学習支援	原沢 のぞみ	セルフマネジメント教育	
25 - 26 教育的介入の実際	原沢 のぞみ, 山中 源治	事例検討	
27 学びの統合	原沢 のぞみ, 山中 源治	まとめ	

開講科目名 / Course	臨床看護学演習	
時間割コード / Course Code	G2553	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	原沢 のぞみ	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	佐藤 由紀子 (専任教員)、原沢 のぞみ (専任教員)、山中 源治 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Zoom、PC
担当教員 /	原沢のぞみ (看護学研究科・教授)、山中源治 (看護学研究科・准教授)、佐藤由紀子 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先 (教室) /	原沢のぞみ nozomi.harasawa med.toho-u.ac.jp、山中源治 motoharu.nakayama med.toho-u.ac.jp、佐藤由紀子 yukiko.sato med.toho-u.ac.jp	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:45 13:00	
授業概要 /	量的研究・質的研究の文献クリティークを行う際の視点について説明できる。クリティークを通して、臨床における看護の課題について説明できる。フィールドワークを行うための具体的方法について説明できる。	
到達目標 /	臨床看護学領域の文献クリティークを行うことができる。クリティークを通して、臨床看護における課題を発見できる。導き出した課題をもとにフィールドワークの計画書を作成することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	授業へ取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート40%で評価する。 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。	

フィードバック方法 /	講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。
教科書 /	参考文献は、開講時に提示する。
参考書 /	参考文献は、開講時に提示する。
備考(関連科目等) /	対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 - 4 ガイダンス	原沢 のぞみ	オリエンテーション	
5 - 8 文献クリティーク	原沢 のぞみ	臨床看護学領域における研究の動向と課題	
9 - 12 文献クリティーク	山中 源治	質的研究クリティーク	
13 - 16 文献クリティーク	原沢 のぞみ	量的研究クリティーク	
17 - 18 フィールドワークの基本	佐藤 由紀子	フィールドワークを行う上での倫理	
19 - 22 フィールドワークの基本	原沢 のぞみ, 山中 源治	フィールドワーク計画の作成	
23 - 24 フィールドワークの基本	原沢 のぞみ, 山中 源治	フィールドワーク計画書の発表	
25 - 27 フィールドワークの基本	原沢 のぞみ, 山中 源治	フィールドワーク計画書の修正・課題の明確化	

開講科目名 / Course	がん看護学特論	
時間割コード / Course Code	G2604	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 成光	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM
担当教員 /	小林成光 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	masamitsu.kobayashi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00 外部講師の場合：授業終了後に質問を受け付ける。	
授業概要 /	高度実践看護師に求められる役割について理解する。また、過去の臨床実践や演習事例を振り返り、臨床での実践への適応について検討し、看護援助を探求する。	
到達目標 /	1. 高度実践看護師に求められる役割について説明できる。 2. 実践事例を基に、臨床実践への適応について検討し、専門看護師に求められる役割について述べることが出来る。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	1 . 講義、事例検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。 2 . 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。	
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。	

教科書 /	Hamric & Hanson's Advanced Practice Nursing - An Integrative Approach - 7th Edition 講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	Hamric & Hanson's Advanced Practice Nursing - An Integrative Approach - 6th Edition 講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってonlineを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 オリエンテーション	小林 成光	オリエンテーション、高度実践看護について	
3-5 高度実践看護の概念 : Conceptualizations of Advanced Practice Nursing	小林 成光	高度実践看護の概念についてディスカッションを通して深める 事前課題: 指定図書を読み、各章をまとめておく	
6-8 高度実践看護の定義 : A Definition of Advances Practice Nursing	小林 成光	高度実践看護の定義についてディスカッションを通して深める 事前課題: 指定図書を読み、各章をまとめておく	
9-11 高度実践看護のコン ピテンシー: Direct Clinical Practice	小林 成光	高度実践看護の実践の役割についてディスカッションを通して深める 事前課題: 指定図書を読み、各章をまとめておく	
12-14 高度実践看護のコン ピテンシー: Guidance and Coaching	小林 成光	高度実践看護の教育の役割についてディスカッションを通して深める 事前課題: 指定図書を読み、各章をまとめておく	
15-17 高度実践看護のコン ピテンシー : Consultation	小林 成光	高度実践看護のコンサルテーションの役割についてディスカッションを通して深める 事前課題: 指定図書を読み、各章をまとめておく	
18-20 高度実践看護のコン ピテンシー : Collaboration	小林 成光	高度実践看護のコラボレーションの役割についてディスカッションを通して深める 事前課題: 指定図書を読み、各章をまとめておく	
21-23 高度実践看護のコン ピテンシー: Ethical Decision Making	小林 成光	高度実践看護の倫理調整の役割についてディスカッションを通して深める 事前課題: 指定図書を読み、各章をまとめておく	
24-25 事例検討	小林 成光	既習を役割を活用して、これまでの臨床事例を分析	
26-27 事例検討	小林 成光	既習を役割を活用して、これまでの臨床事例を分析	

開講科目名 / Course	がん看護学演習	
時間割コード / Course Code	G2606	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 成光	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	山下 尚美 (専任教員)、小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM
担当教員 /	小林成光(看護学研究科・准教授)、山下尚美(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	masamitsu.kobayashi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00	
授業概要 /	がん看護領域における対象を包括的に捉えるための基盤となる知識を学ぶために、リサーチエビデンスの検索から活用に関する技術を習得する。	
到達目標 /	1.がん看護領域における課題を説明することができる。 2.様々な研究デザインからなる先行研究を読み、クリティークすることができる。 3.先行研究からリサーチエビデンスを整理する方法を習得する。 4.リサーチエビデンスを集積し、臨床適応の方法について検討することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1)知識・技能と課題解決力、(DP4)科学的探究心・自己研鑽、(DP5)国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	1.文献について抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。 2.30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。	
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。	

教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってonlineを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 オリエンテーション	小林 成光	オリエンテーション	
3-5 論文クリティークの手法	小林 成光	文献検索・論文クリティークの方法、関心領域の検討	
6-8 論文の精読・クリティーク演習	山下 尚美, 小林 成光	様々な研究デザインの論文を精読し、クリティーク、発表 事前課題：関心領域の英論文	
9-11 論文の精読・クリティーク演習	山下 尚美, 小林 成光	様々な研究デザインの論文を精読し、クリティーク、発表 事前課題：関心領域の英論文	
12-14 論文の精読・クリティーク演習	山下 尚美, 小林 成光	様々な研究デザインの論文を精読し、クリティーク、発表 事前課題：関心領域の英論文	
15-17 論文の精読・クリティーク演習	山下 尚美, 小林 成光	様々な研究デザインの論文を精読し、クリティーク、発表 事前課題：関心領域の英論文	
18-20 論文の精読・クリティーク演習	山下 尚美, 小林 成光	様々な研究デザインの論文を精読し、クリティーク、発表 事前課題：関心領域の英論文	
21-23 論文の精読・クリティーク演習	山下 尚美, 小林 成光	様々な研究デザインの論文を精読し、クリティーク、発表 事前課題：関心領域の英論文	
24-26 論文の精読・クリティーク演習	山下 尚美, 小林 成光	様々な研究デザインの論文を精読し、クリティーク、発表 事前課題：関心領域の英論文	
27 まとめ	小林 成光		

開講科目名 / Course	がん看護学演習	
時間割コード / Course Code	G2607	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 成光	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	山下 尚美 (専任教員)、小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM
担当教員 /	小林成光 (看護学研究科・准教授)、山下尚美 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	masamitsu.kobayashi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00 外部講師の場合：授業終了後に質問を受け付ける。	
授業概要 /	臨床の場において、苦痛な症状を有するがん患者を対象に症状マネジメントモデル等を用いた看護介入を検討し、介入の効果を分析する。	
到達目標 /	1. 様々な症状を有するがん患者の苦痛を全人的に捉え、薬物療法や非薬物療法を用いた症状マネジメントを実践する。 2. がん患者とその家族を理解し、最適な看護援助を提供するために必要な社会資源の活用について検討する。 3. 症状マネジメントモデル等に基づいて看護実践を検討し、一連の過程を評価することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	1 . 講義、事例検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。 2 . 30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	文献学習20%、課題への取り組み20%、フィールドワーク60%で総合的に評価する。	

フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってonlineを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 オリエンテーション	小林 成光	オリエンテーション	
3-11 フィールドワーク計画作成	山下 尚美, 小林 成光	臨床演習に向けて、症状マネジメントモデル等について学習を深め、計画書を作成する	
12-25 フィールド演習	山下 尚美, 小林 成光	臨床の場で患者の紹介を受け、ある特定の症状に焦点を当て、苦痛症状を有するがん患者を対象に症状マネジメントモデル等を用いて看護実践の検討・評価を行う。	
26-27 まとめ	山下 尚美, 小林 成光		

開講科目名 / Course	高齢者看護学演習	
時間割コード / Course Code	G2903	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	横井 郁子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	松元 由香(専任教員)、横井 郁子(専任教員)、石橋 タミ(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	PBL(課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	コンピュータ、大学で整備された情報通信ネットワーク
担当教員 /	横井郁子(看護学研究科・教授) 石橋タミ(看護学研究科・准教授) 松元 由香(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	横井郁子 yokoiky med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30~13:00	
授業概要 /	高齢者の暮らしおよび療養の場の特徴を踏まえたヘルスアセスメントについてその方法も含めて再考する。	
到達目標 /	1. 高齢者看護の実践の場の現状と課題について先行研究から推測することができる。 2. 関心のある看護実践の場に赴き、そこで実施されているヘルスアセスメントおよび看護支援について、フィールドワークを行い柔軟なアセスメント技術の重要性を理解する。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観	
事前・事後学習とその時間 /	事前学習内容に関するプレゼンテーションおよび討議の後、実践現場において上記の実践を行う。実践現場における実践内容に関しては学生自らが行動計画を立て、教員の指導を得て実践に臨む。実践の場への協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。 30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	プレゼンテーションおよび討議30%、事前学習成果レポート30%、実践の場での課題に関するレポート40%。 レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。	

フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	必要に応じて提示する。
参考書 /	必要に応じて提示する。
備考(関連科目等) /	高齢者医療のさまざまな場について、最新の医療制度、介護保険制度を踏まえ学習しておく。 対面形式と遠隔形式を組み合わせる。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 医療福祉施設における高齢患者を取り巻く諸問	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	文献検討	
2 医療福祉施設における高齢患者を取り巻く諸問	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	文献検討	
3 地域・在宅における高齢者を取り巻く諸問題1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	文献検討	
4 地域・在宅における高齢者を取り巻く諸問題2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	文献検討	
5 フィールドワーク計画立案1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	関心を持っている看護実践の場のフィールドワーク計画を立案	
6 フィールドワーク計画立案2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	関心を持っている看護実践の場のフィールドワーク計画を立案	
7 フィールドワーク計画立案3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワーク計画の発表	
8 フィールドワーク計画立案4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	フィールドワーク計画の発表	
9 フィールドワーク1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
10 フィールドワーク2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
11 フィールドワーク3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
12 フィールドワーク4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
13 フィールドワーク5	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
14 フィールドワーク6	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
15 フィールドワーク7	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
16 フィールドワーク8	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
17 フィールドワーク9	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
18 フィールドワーク10	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
19 フィールドワーク11	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
20 フィールドワーク12	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
21 フィールドワーク13	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
22 フィールドワーク14	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
23 フィールドワーク15	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	
24 フィールドワークでの学びの共有1	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	発表・討議	
25 フィールドワークでの学びの共有2	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	発表・討議	
26 フィールドワークでの学びの共有3	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	発表・討議	
27 フィールドワークでの学びの共有4	松元 由香, 横井 郁子, 石橋 タミ	発表・討議	

開講科目名 / Course	小児看護学特論	
時間割コード / Course Code	G3002	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	河上 智香 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	荒木暁子(看護学研究科・教授)、河上智香(看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp 河上智香 chika.kawakami med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:45 ~ 13:00	
授業概要 /	小児を取り巻く日本の保健医療・社会福祉制度とその適応、活用の現状と課題について学び、専門看護師としての援助のあり方を考察する。	
到達目標 /	<ol style="list-style-type: none"> 1．小児とその家族を対象とした保健医療・社会福祉制度と、その適応について述べることができる 2．日本における保健医療・社会福祉制度の活用の現状と、地域差や制度が届きにくい対象への民間の社会資源による活動を説明できる 3．日本における学校保健と特別支援教育の現状と課題について述べることができる 4．フィールドワークを通して専門看護師としての支援のあり方を考察する 	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。 30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。	

評価方法・基準 /	課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加藤邦子, 牧野カツコ, 他: 子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論. 福村出版, 2015 ・ 加藤正仁, 宮田広善: 発達支援学 その理論と実践. 協同医書出版社, 2011 ・ マイケル・C・ロバーツ編, 奥山真紀子, 丸 光恵 監訳: 小児医療心理学. エルゼビア・ジャパン, 2007 ・ 日本小児神経学会社会活動委員会 編: 医療的ケア研修テキスト. クリエイトかもがわ, 2012 ・ 武藤隆, 安藤智子: 子育て支援の心理学 家庭・園・地域で育てる (有斐閣コンパクト), 有斐閣, 2008. ・ Richard R. Abidin 原著, 兼松百合子他著: PSI育児ストレスインデックス手引き 2訂版. 雇用問題研究会, 2016 その他、適宜紹介、提示する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	講義や演習を基に、セミナー形式で議論を行う。 事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加すること。 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 小児保健医療・社会福祉制度における看護の役	荒木 暁子	コースオリエンテーション	
2 小児における多職種連携・調整(1)	荒木 暁子	小児を取り巻く関連職種の背景と役割	
3 小児における多職種連携・調整(2)	荒木 暁子	小児を取り巻く関連職種の背景と役割	
4 小児における多職種連携・調整(3)	荒木 暁子	小児を取り巻く関連職種の背景と役割、調整	
5 小児における多職種連携・調整(4)	荒木 暁子	小児を取り巻く関連職種の背景と役割、調整	
6 保健医療・社会福祉制度(1)	河上 智香, 荒木 暁子	小児保健制度	
7 保健医療・社会福祉制度(2)	河上 智香, 荒木 暁子	小児保健制度	
8 保健医療・社会福祉制度(3)	荒木 暁子	医療・診療報酬	
9 保健医療・社会福祉制度(4)	荒木 暁子	医療・診療報酬	
10 保健医療・社会福祉制度(5)	荒木 暁子	児童福祉関連	
11 保健医療・社会福祉制度(6)	荒木 暁子	児童福祉関連	
12 学校保健と特別支援教育(1)	河上 智香, 荒木 暁子	学校保健	
13 学校保健と特別支援教育(2)	河上 智香, 荒木 暁子	学校保健	
14 学校保健と特別支援教育(3)	荒木 暁子	特別支援教育	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
15 学校保健と特別支援教育(4)	荒木 暁子	特別支援教育	
16 保健医療・社会福祉制度の実際(1)	河上 智香, 荒木 暁子	子育て世代包括支援センター	
17 保健医療・社会福祉制度の実際(2)	河上 智香, 荒木 暁子	子育て世代包括支援センター	
18 保健医療・社会福祉制度の実際(3)	荒木 暁子	医療型障害児入所施設、通園施設における看護	
19 保健医療・社会福祉制度の実際(4)	荒木 暁子	医療型障害児入所施設、通園施設における看護	
20 保健医療・社会福祉制度の実際(5)	荒木 暁子	在宅療養児の看護	
21 保健医療・社会福祉制度の実際(6)	荒木 暁子	在宅療養児の看護	
22 保健医療・社会福祉制度の活用(1)	河上 智香, 荒木 暁子	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	
23 保健医療・社会福祉制度の活用(2)	河上 智香, 荒木 暁子	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	
24 保健医療・社会福祉制度の活用(3)	河上 智香, 荒木 暁子	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	
25 保健医療・社会福祉制度の活用(4)	河上 智香, 荒木 暁子	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
26 保健医療・社会福祉制度の活用(5)	河上 智香, 荒木 暁子	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	
27 まとめ	河上 智香, 荒木 暁子	授業のまとめ	

開講科目名 / Course	小児看護学特論	
時間割コード / Course Code	G3004	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	河上 智香 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom、Teams、Zoom
担当教員 /	荒木暁子 (看護学研究科・教授)、河上智香 (看護学研究科・准教授)、高月晋一 (医学部小児科学講座教授)、金村英秋 (佐倉病院小児科教授)、片桐由紀子 (医学部産婦人科学講座教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30 ~ 13:00	
授業概要 /	小児の代表的な健康問題、学生のサブスペシャリティとなる健康問題について、病態生理・検査法とその解釈・診断・治療法 (栄養療法、薬物療法など) ・症状マネジメントなどの理解を深め、実践への応用を検討することができるよう、小児科医・小児外科医等からの授業を中心に進めていく。	
到達目標 /	小児の代表的な疾患について、その病態生理・検査法とその解釈・診断・治療法 (栄養療法、薬物療法など) ・症状マネジメントなどの理解を深め、高度実践看護の基礎となる知識を修得する。 1 . 乳児・幼児・学童思春期の代表的な疾患について病態生理、検査とその解釈法、診断、治療法 (栄養療法、薬物療法)、症状マネジメント等について説明できる。 2 . 診断・治療の際に重要となる感染予防対策、リハビリテーション、遺伝カウンセリングなどについて説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	事前に課題について文献抄読、視聴覚教材を活用し、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論の準備を行う。授業中に修得できなかった学習内容は、事後に学習を行う。30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	講義への取り組み30%、プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
フィードバック方法 /	授業内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五十嵐 隆：小児科診療ガイドライン 第3版。総合医学社，2017 ・ 北村 聖 総編集：臨床病態学 小児編。ヌーヴェルヒロカワ，2013 ・ ナースの小児科学 改訂6版，中外医学社，2015 その他、適宜紹介、提示する。
参考書 /	適宜紹介、提示する。
備考(関連科目等) /	遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたりリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 小児の代表的疾患と看護(概論)	荒木 暁子	コースオリエンテーション 乳児・幼児・学童・思春期の発症率、死亡率、医療経済等からみた代表疾患、および、高度実践看護の特徴について概説する。(講義)	
2 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	呼吸器疾患の病態生理、診断と治療法(講義)	
3 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	呼吸器疾患の病態生理、診断と治療法(講義)	
4 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	循環器疾患の病態生理、診断と治療法(講義)	
5 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	循環器疾患の病態生理、診断と治療法(講義)	
6 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	消化器疾患の病態生理、診断と治療法(講義)	
7 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	消化器疾患の病態生理、診断と治療法(講義)	
8 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	腎・泌尿・生殖器疾患の病態と診断(講義)	
9 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	腎・泌尿・生殖器疾患の治療、症状マネジメント(講義)	
10 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	腎・泌尿・生殖器疾患の腎移植、長期的予後(講義)	
11 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	小児外科疾患の病態生理、診断と治療法(講義)	
12 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	小児外科疾患の病態生理、診断と治療法(講義)	
13 小児の代表的疾患の病態・診断・治療(各論)	高月 晋一	腫瘍性疾患の病態生理、診断と治療法(講義)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
14 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）	高月 晋一	代謝・内分泌疾患の病態生理、診断と治療法（講義）	
15 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）	高月 晋一	代謝・内分泌疾患の病態生理、診断と治療法（講義）	
16 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）	高月 晋一	免疫・アレルギー疾患の病態生理、診断と治療法（講義）	
17 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）	高月 晋一	免疫・アレルギー疾患の病態生理、診断と治療法（講義）	
18 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）	高月 晋一	血液疾患の病態と診断、治療と長期的予後（講義）	
19 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）	高月 晋一	血液疾患の病態と診断、治療と長期的予後（講義）	
20 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）	金村 英秋	神経・運動器疾患、医療的ケア児の病態生理（講義）	
21 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）	金村 英秋	神経・運動器疾患、医療的ケア児の診断と治療法（講義）	
22 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）？	金村 英秋	神経・運動器疾患、医療的ケア児のリハビリテーション（講義）	
23 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）？	高月 晋一	小児精神科疾患の病態生理、診断と治療法（講義）	
24 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）？	高月 晋一	感染症の病態生理、診断と治療法（講義）	
25 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）？	片桐 由起子	遺伝性疾患の病態生理、診断と治療法（講義）	
26 小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）？	片桐 由起子	遺伝カウンセリング（講義）	
27 小児領域における高度実践看護	河上 智香, 荒木 暁子	小児領域における代表疾患を踏まえ、高度実践看護について考察する（プレゼンテーション、ディスカッション）	

開講科目名 / Course	小児看護学演習	
時間割コード / Course Code	G3006	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	河上 智香 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom、Teamsなど
担当教員 /	荒木暁子 (看護学研究科・教授) 河上智香 (看護学研究科・准教授) 田中千賀子 (田園調布医師会立訪問看護ステーション・管理者) 佐藤菜緒 (大森病院看護部・小児救急認定看護師)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp 河上智香 chika.kawakami med.toho-u.ac.jp を@に置き換える	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:45 ~ 13:00	
授業概要 /	多職種と連携しながら、小児のトリアージ、医療的ケア児への看護 (レスパイトケア、デイサービスや在宅を含む) に参加し、小児看護における高度看護実践を学ぶ。	
到達目標 /	1 . 救急外来でのトリアージおよびホームケア指導や子育て支援に関する研修を通して、多職種との連携による高度実践看護の活動を説明できる。 2 . 重症心身障害児への看護 (レスパイトケア、デイサービスや在宅を含む)、または、入院中の小児への遊びの支援 (プレパレーション含む) に参加し、多職種との連携による高度実践看護の活動を説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	提示された演習場面において、実践を通して高度看護実践の役割や機能を学ぶ。 事前学習、文献を活用した事後レポートを提出する。 30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	出席状況50%、演習への取り組み・プレゼンテーション50%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評や解説を伝え、課題の共有を行う。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	必要であれば文献管理ツールの講習会に参加する。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 コースオリエンテーション	荒木 暁子	授業の概要、進め方	
2 フィールドワーク計画作成	河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
3 フィールドワーク計画作成	河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
4 フィールドワーク計画プレゼンテーション	河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
5 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
6 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
7 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
8 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
9 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
10 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
11 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
12 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
13 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
14 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
15 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
16 フィールドワーク	佐藤 菜緒, 河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	
17 フィールドワークまとめ	河上 智香, 荒木 暁子	小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習のまとめ	
18 フィールドワーク計画	河上 智香, 荒木 暁子	以下の 、 のうちから1つを選択、または、両方を実施 小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	
19 フィールドワーク計画	河上 智香, 荒木 暁子	以下の 、 のうちから1つを選択、または、両方を実施 小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	
20 フィールドワーク	田中 千賀子, 河上 智香, 荒木 暁子	以下の 、 のうちから1つを選択、または、両方を実施 小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	
21 フィールドワーク	田中 千賀子, 河上 智香, 荒木 暁子	以下の 、 のうちから1つを選択、または、両方を実施 小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
22 フィールドワーク	田中 千賀子, 河上 智香, 荒木 暁子	以下の 、 のうちから1つを選択、または、両方を実施 小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	
23 フィールドワーク	田中 千賀子, 河上 智香, 荒木 暁子	以下の 、 のうちから1つを選択、または、両方を実施 小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	
24 フィールドワーク	田中 千賀子, 河上 智香, 荒木 暁子	以下の 、 のうちから1つを選択、または、両方を実施 小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	
25 フィールドワーク	田中 千賀子, 河上 智香, 荒木 暁子	以下の 、 のうちから1つを選択、または、両方を実施 小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	
26 フィールドワークまとめ	河上 智香, 荒木 暁子	以下の 、 のうちから1つを選択、または、両方を実施 小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	
27 まとめ	河上 智香, 荒木 暁子	授業のまとめ	

開講科目名 / Course	精神看護学特論	
時間割コード / Course Code	G3052	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	伊藤 桂子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	中村 幹夫(非常勤講師)、後藤 喜広(専任教員)、伊藤 桂子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施しない
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Chat, zoom, pc
担当教員 /	伊藤桂子(看護学研究科・教授)、後藤喜広(看護学研究科・講師)、中村英輝(看護学研究科・助教)、高田みほ(大森病院・精神保健福祉士)、緑川綾(看護学研究科・非常勤講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	伊藤桂子 keiko.itou med.toho-u.ac.jp 後藤喜広 yoshihiro.gotou med.toho-u.ac.jp 中村英輝 hideki.nakamura med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	現代の精神看護・医療・福祉におけるアプローチの実際について専門的な知識を教授する。また個人・家族・集団に効果的な支援を探究するとともに、対象の人権を擁護するための倫理的判断能力を養う。	
到達目標 /	1.精神保健上の問題を抱えた人々への精神看護・医療・福祉におけるアプローチの理論と技法について説明できる。 2.対象の人権を擁護することについて、トラウマインフォームドケアの視点を用いて考察することができる。 3.対象者やその家族がその人らしく生き、回復することについて、自らの意見を述べることができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1)知識・技能と課題解決力、(DP3)社会的責任・倫理観、(DP5)国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。 主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 2 日本における精神医療および障害福祉サービスの動向	伊藤 桂子	日本における精神医療および障害福祉サービスの動向	
3 4 日本における精神医療および障害福祉サービスの動向	後藤 喜広	精神障害にも対応した地域包括ケアシステム	
5 6 多職種連携とコンサルテーション	伊藤 桂子	コンサルテーション論	
7 8 多職種連携とコンサルテーション	後藤 喜広	精神科における多職種連携	
9 10 治療的コミュニケーション	伊藤 桂子	患者 看護師関係と治療的コミュニケーション	
11 12 トラウマインフォームドケア	伊藤 桂子	トラウマインフォームドケアの概要と実践	
13 14 日本における精神医療および障害福祉サービスの動向	中村 英輝	家族と子どもを取り巻く精神保健の動向	
15 16 地域移行、地域定着のための支援	高田 みほ	精神科におけるソーシャルサポート	
17 18 地域移行、地域定着のための支援	高田 みほ	地域移行のためのネットワークの活用	
19 21 ケアリングとマインドフルネス	緑川 綾	ケアリング理論の原則、ケアリング意識とマインドフルネス活動の効果	
22 23 精神障害者およびその家族の回復	後藤 喜広, 伊藤 桂子	精神障害をもつ人とその家族の理解と自立を目指すための支援について、事例検討を通して探求する（リカバリーモデル、ストレンクスモデル）	
24 25 精神障害者およびその家族の回復	後藤 喜広, 伊藤 桂子	精神障害をもつ人とその家族の理解と自立を目指すための支援について、事例検討を通して探求する（自助グループ、ピアサポート）	
26 27 まとめ	後藤 喜広, 伊藤 桂子, 中村 英輝	精神保健上の問題を抱えた人々の回復とその支援	

開講科目名 / Course	精神看護学演習	
時間割コード / Course Code	G3053	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	伊藤 桂子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	後藤 喜広(専任教員)、伊藤 桂子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Chat, zoom, pc
担当教員 /	伊藤桂子(看護学研究科・教授)、後藤喜広(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	伊藤桂子 keiko.itou med.toho-u.ac.jp 後藤喜広 yoshihiro.gotou med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	文献検討をふまえて、各自の関心に沿ったテーマでフィールドワークを計画して実施する。フィールドワークを実施し、研究データの収集方法と分析方法を修得する。	
到達目標 /	1. 先行文献を多角的に検討し、精神保健医療に関する現状と課題を説明することができる 2. 関心のあるテーマを検討し、演習の課題を明確にすることができる 3. フィールドワークを実施し、データ収集方法やデータ分析を修得することができる	
ディプロマ・ポリシーとの関連(看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観	
事前・事後学習とその時間 /	主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。 関心のあるテーマに基づいてフィールドワークを実施する。 30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み(20%)、プレゼンテーション(60%)、レポート(20%)で総合的に評価する。	

フィードバック方法 /	講義内で講評や解釈を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	後藤 喜広, 伊藤 桂子	フィールドワークにおけるデータ収集と演習方法	
2 フィールドワークのテーマ選定	後藤 喜広, 伊藤 桂子	各自の関心のある事象を報告し、自分が取り組む研究課題を明確にする	
3 4 文献検討	後藤 喜広, 伊藤 桂子	各自の研究課題に関連した文献を検討する	
5 6 文献検討	後藤 喜広, 伊藤 桂子	文献検討の結果を報告し、討議する	
7 8 演習計画	後藤 喜広, 伊藤 桂子	関心を持っているテーマに沿ってフィールドワーク計画を立案する	
9 10 演習計画	後藤 喜広, 伊藤 桂子	フィールドワークに活用するフィールドノーツを作成する	
11 12 フィールドワーク	後藤 喜広, 伊藤 桂子	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	
13 14 フィールドワーク	後藤 喜広, 伊藤 桂子	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	
15 16 データ分析	後藤 喜広, 伊藤 桂子	収集した情報をデータ化して、分析する	
17 演習実施報告	後藤 喜広, 伊藤 桂子	フィールドワークの成果を発表し、討議する	
18 19 演習計画	後藤 喜広, 伊藤 桂子	関心を持っているテーマに沿ってフィールドワーク計画を立案する	
20 21 フィールドワーク	後藤 喜広, 伊藤 桂子	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	
22 23 フィールドワーク	後藤 喜広, 伊藤 桂子	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	
24 25 データ分析	後藤 喜広, 伊藤 桂子	収集した情報をデータ化して、分析する	
26 27 演習実施報告	後藤 喜広, 伊藤 桂子	フィールドワークの成果を発表し、討議する	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護学特論	
時間割コード / Course Code	G3106	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	望月 由紀子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月由紀子 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、13:30～14:00	
授業概要 /	公衆衛生看護学分野の研究における概念を理解し、課題を明らかにするための研究デザインや枠組みを構築する方法やデザインに基づく質的・量的研究におけるデータ収集、分析、結果の公表の一連の過程を踏まえ公衆衛生看護の課題について探求する。	
到達目標 /	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護学分野の研究における概念について理解し、自身の課題について概念をもとに説明できる。 2. 研究課題を明らかにするための研究デザインや研究の枠組みを構築する方法を述べることができる。 3. 質的・量的研究におけるデータ収集および分析方法について説明できる。 	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。 事前学習をもとに、学生自身が主体的に取り組み、積極的に討論して自己の課題を探求する。	

評価方法・基準 /	講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。
教科書 /	適宜紹介する
参考書 /	適宜紹介する
備考(関連科目等) /	事前に予習をして講義に臨むこと。 学生が主体的に文献検討を行い学習する。 授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。 対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 講義ガイダンス	望月 由紀子	本講義のオリエンテーション	
2 文献検討1	望月 由紀子	研究テーマに関連する文献検討1	
3 文献検討2	望月 由紀子	研究テーマに関連する文献検討2	
4 質的研究1	望月 由紀子	研究テーマに関連する質的研究1	
5 質的研究2	望月 由紀子	研究テーマに関連する質的研究1	
6 量的研究1	望月 由紀子	研究テーマに関連する量的研究1	
7 量的研究2	望月 由紀子	研究テーマに関連する量的研究2	
8 研究デザイン1	望月 由紀子	問題提起・研究課題・仮説の構造化1	
9 研究デザイン2	望月 由紀子	研究計画	
10 研究デザイン3	望月 由紀子	質的/量的手法の選択と妥当性の検討1	
11 研究デザイン4	望月 由紀子	質的/量的手法の選択と妥当性の検討2	
12 実践展開演習1	望月 由紀子	観察・ヒアリング等準備状況の発表1	
13 実践展開演習2	望月 由紀子	実践現場によるフィールドワーク2	
14 研究デザイン5	望月 由紀子	量的研究のデザイン1	
15 研究デザイン6	望月 由紀子	量的研究のデザイン2	
16 データ収集と分析1	望月 由紀子	データの収集と分析-量的研究1	
17 データ収集と分析2	望月 由紀子	データの収集と分析-量的研究2	
18 データ収集と分析3	望月 由紀子	逐語録・コード化	
19 データ収集と分析4	望月 由紀子	カテゴリー化・概念図	
20 研究倫理1	望月 由紀子	研究倫理指針/個人情報保護等1	
21 研究倫理2	望月 由紀子	研究倫理指針/個人情報保護等2	
22 健康課題の抽出1	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出	
23 健康課題の抽出2	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出	
24 健康課題の抽出3	望月 由紀子	公衆衛生看護学における健康課題の抽出	
25 研究計画発表1	望月 由紀子	研究テーマ・課題の発表1	
26 研究計画発表2	望月 由紀子	研究テーマ・課題の発表2	
27 研究計画発表3	望月 由紀子	研究テーマ・課題の発表3	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護学演習	
時間割コード / Course Code	G3107	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	望月 由紀子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子(看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、13:30～14:00	
授業概要 /	地域の健康問題を明らかにするために、国内外の文献のクリティークを通して、批判的精神を養う。公衆衛生看護学分野における量的研究データおよび質的研究データの分析の実際を通して体験的に学び、自己の研究課題に適切な研究方法を探求する。	
到達目標 /	1. 地域の健康問題を明らかにするために、社会背景を踏まえて、公衆衛生看護学分野に関連する文献のクリティークを行い、批判的思考をもとに分析できる。 2. 収集した質的データや模擬の量的データを用いて実際に分析を行い、その結果を述べることができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連(看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ	
事前・事後学習とその時間 /	30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。 事前学習をもとに、学生自身が主体的に課題に取り組み、積極的に討論して自己の課題を探求する。	

評価方法・基準 /	講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。
教科書 /	前田樹海他 翻訳(2023) APAに学ぶ 看護系論文 執筆のルール 第2版 牧本清子他編著(2020) よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版 その他、適宜授業で紹介します。
参考書 /	別途案内する。
備考(関連科目等) /	事前に予習をして講義に臨むこと。 学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験を踏まえグループ討議を行う。 授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。 対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 講義ガイダンス	望月 由紀子	本演習の進め方・計画立案	
2 研究デザイン1	望月 由紀子	研究方法論	
3 研究デザイン2	望月 由紀子	問題提起・研究課題・仮説の構造化2	
4 文献クリティーク1	望月 由紀子	質的・量的文献の批判的読解1	
5 文献クリティーク2	望月 由紀子	質的・量的文献の批判的読解2	
6 文献クリティーク3	望月 由紀子	質的・量的文献の批判的読解3	
7 データ整理と分析1	望月 由紀子	逐語録・コード化1	
8 データ整理と分析2	望月 由紀子	逐語録・コード化2	
9 実践展開演習1	望月 由紀子	研究テーマの整理～体験から問いの探求	
10 実践展開演習2	望月 由紀子	研究テーマの整理～体験から問いの探求	
11 実践展開演習3	望月 由紀子	研究テーマの整理～体験から問いの探求	
12 データ整理と分析3	望月 由紀子	カテゴリー化・概念図1	
13 データ整理と分析4	望月 由紀子	カテゴリー化・概念図2	
14 研究倫理1	望月 由紀子	倫理審査書類の作成1	
15 研究倫理2	望月 由紀子	倫理審査書類の作成2	
16 研究倫理3	望月 由紀子	倫理審査書類の作成3	
17 研究倫理4	望月 由紀子	倫理審査書類の作成4	
18 データ整理と分析5	望月 由紀子	測定ツールの改善提案1	
19 データ整理と分析6	望月 由紀子	測定ツールの改善提案2	
20 健康課題の抽出1	望月 由紀子	健康課題の掘り下げ1	
21 健康課題の抽出2	望月 由紀子	健康課題の掘り下げ2	
22 健康課題の抽出3	望月 由紀子	健康課題の掘り下げ3	
23 健康課題の抽出4	望月 由紀子	健康課題の掘り下げ4	
24 研究計画立案1	望月 由紀子	研究テーマ・課題の発表1	
25 研究計画立案2	望月 由紀子	研究テーマ・課題の発表2	
26 研究計画立案3	望月 由紀子	研究テーマ・課題の発表3予演会【合同	
27 研究計画立案4	望月 由紀子	研究テーマ・課題の発表4予演会【合同	

開講科目名 / Course	健康政策特論	
時間割コード / Course Code	G3109	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	1.0	
主担当教員 / Main Instructor	石橋 智昭	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	石橋 智昭 (非常勤・兼任講師)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Moodle ,GoogleClassroom
担当教員 /	石橋 智昭(公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団・研究部長)	
科目責任者連絡先(教室) /	石橋 智昭 tomoaki.ishibashi med.toho-u.ac.jp * を@に置き換える	
オフィスアワー /	授業終了後に質問を受け付ける	
授業概要 /	保健医療制度の概要を知り、健康に関する国の政策を政策論と実際の行政の側面から理解し、人々の疾病を予防し、健康を保持増進するための支援方法や方策を見出す力を養う。 政策形成のプロセスを理解し、「健康増進法」や「介護保険法」を例に、計画から評価までのサイクルを具体的に理解し、地域資源の活用方法や事業評価を展開する方法を習得する。	
到達目標 /	政策プログラムの事例を通じて、健康政策が「問題の特定」「政策の選択」「政策の実施」「政策評価」といった継続的で反復的なサイクルで成立していることを説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	授業前に準備学修課題をクラスルームから提示する。必ず課題を仕上げ、各自が課題意識を持って授業に臨むようにする。対面形式と遠隔形式を組み合わせる。ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。15時間の講義・演習に対して、30時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	2/3以上の出席を持って評価の対象とする。授業時のディスカッションへの参加および事前課題の提出20%、 授業後の課題レポート80%により総合的に評価する。課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、 返却する。
フィードバック方法 /	クラスルームで全体評価を行うとともに授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
教科書 /	必要な文献、資料などを適宜、提示する。
参考書 /	適宜、提示する。
備考(関連科目等) /	紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。 「遠隔形式」の場合は、到達目標のもと本授業計画に沿ってオンデマンド配信を実施する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 オリエンテーション	石橋 智昭	科目の概要とオリエンテーション	
2 政策形成の過程	石橋 智昭	公共政策の構成要素	
3 政策形成の過程	石橋 智昭	政策形成のプロセス	
4 公共政策と決定プロセス	石橋 智昭	公共政策決定のプロセス	
5 公共政策と決定のプロセス	石橋 智昭	公共政策決定のモデル理論	
6 政策の課題設定	石橋 智昭	ニーズの特定	
7 政策の課題設定	石橋 智昭	政策の立案	
8 政策の実施	石橋 智昭	国から県、市町村への伝達過程	
9 政策の実施	石橋 智昭	政策の実施のプロセス	
10 政策の評価	石橋 智昭	評価の方法論(プロセス指標)	
11 政策の評価	石橋 智昭	評価の方法論(アウトカム指標)	
12 政策の評価	石橋 智昭	サービスの質の評価	
13 政策の評価	石橋 智昭	サービスの質の評価	
14 まとめ	石橋 智昭	講義のまとめ	

開講科目名 / Course	保健医療福祉システム特論	
時間割コード / Course Code	G3110	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子(専任教員)、坂本 美佐子(専任教員)、望月 由紀子(専任教員)、本田 順子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子(看護学研究科・教授) 坂本 美佐子(看護学研究科・講師) 本田 順子(看護学研究科・講師) 櫻井 純子(看護学研究科・講師) 今村 晴彦(長野県立大学・准教授) 佐川 きよみ(台東区福祉部高齢福祉課)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 今村 晴彦 講義終了後 佐川 きよみ 講義終了後 * を@に置き換える	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:30~14:00	
授業概要 /	国及び都道府県、市町村などの具体的な行政施策とそれぞれの役割を理解するとともに、保健医療福祉サービスを評価し、調整する基本的知識と能力を養う。	

到達目標 /	<ol style="list-style-type: none"> 1 住民の健康管理に責任を持つ、基礎自治体及び都道府県の組織特性と責任について説明できる。 2 国及び都道府県、市町村などの具体的な行政施策とそれぞれの役割を説明できる。 3 健康課題にかかわる社会資源やサービスが機能しているかを評価し改善する方法が説明できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2. 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	<p>授業への取り組み(20%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(40%)で総合的に評価する。</p> <p>レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。</p>
フィードバック方法 /	<p>レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。</p> <p>講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルーム</p>
教科書 /	1. 野村陽子・加藤典子 編「保健学講座 5 保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社・2022年(初版)
参考書 /	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福富和夫・橋本修二「保健統計・疫学」南山堂・2023年(改訂7版) 2. 椎葉茂樹編「衛生行政大要(改訂第24版)」日本公衆衛生協会・2016年 3. 厚生労働省「令和7年度版 厚生労働白書」厚生労働省・2025年 4. 厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向 2025/2026」厚生労働統計協会・2025年
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたりリアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 保健医療福祉サービスの評価1	今村 晴彦	保健医療福祉サービスの評価のプロセス1	
2 保健医療福祉サービスの評価2	今村 晴彦	保健医療福祉サービスの評価のプロセス2	
3 保健医療福祉サービスの評価3	今村 晴彦	保健医療福祉サービスの評価のプロセス3	
4 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み1	坂本 美佐子	保健医療福祉の行政・制度と保健師の役割1	
5 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み2	坂本 美佐子	保健医療福祉の行政・制度と保健師の役割2	
6 保健所の機能と役割1	望月 由紀子	保健所の仕組みと機能1(保健所事例)	
7 保健所の機能と役割2	望月 由紀子	保健所の仕組みと機能2(保健所事例)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
8 保健所の機能と役割3	望月 由紀子	保健所の仕組みと機能3（保健所事例）	
9 保健所の機能と役割4	望月 由紀子	保健所の仕組みと機能4（保健所事例）	
10 公衆衛生行政の分野と制度の基本1	佐川 きよみ	地域保健の体系	
11 公衆衛生行政の分野と制度の基本2	佐川 きよみ	他機関・他職種との連携・協働	
12 医療制度と政策1	坂本 美佐子	医療制度と仕組み	
13 医療制度と政策2	坂本 美佐子	医療体制の管理と整備	
14 保健医療福祉の行政・制度と保健師の役割1	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	行政機関に働く保健師活動の特徴1（中間報告会）	
15 保健医療福祉の行政・制度と保健師の役割2	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	行政機関に働く保健師活動の特徴2（中間報告会）	
16 保健医療福祉の行政・制度と保健師の役割3	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	行政機関に働く保健師活動の特徴3（中間報告会）	
17 保健医療福祉の行政・制度と保健師の役割4	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	行政機関に働く保健師活動の特徴4（最終報告会）	
18 保健医療福祉の行政・制度と保健師の役割5	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	行政機関に働く保健師活動の特徴5（最終報告会）	
19 保健医療福祉の行政・制度と保健師の役割6	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	行政機関に働く保健師活動の特徴6（最終報告会）	
20 保健医療福祉の行政・制度と保健師の役割7	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	行政機関に働く保健師活動の特徴7（最終報告会）	
21 ネットワーク形成と地域ケアシステムの構築1	望月 由紀子	職域ケアシステムの構築1	
22 ネットワーク形成と地域ケアシステムの構築2	望月 由紀子	職域ケアシステムの構築2	
23 保健計画の立案と評価2	坂本 美佐子	評価計画の立案	
24 保健医療福祉計画の策定9	坂本 美佐子	評価計画の策定1（演習）	
25 保健医療福祉計画の策定10	坂本 美佐子	評価計画の策定2（演習）	
26 保健医療福祉サービスの評価4	坂本 美佐子	保健医療福祉サービスの評価の実際1	
27 保健医療福祉サービスの評価5	坂本 美佐子	保健医療福祉サービスの評価の実際2	

開講科目名 / Course	保健医療福祉システム演習	
時間割コード / Course Code	G3111	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	1.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子(専任教員)、坂本 美佐子(専任教員)、望月 由紀子(専任教員)、本田 順子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	PBL(課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子(看護学研究科・教授) 坂本 美佐子(看護学研究科・講師) 本田 順子(看護学研究科講師) 櫻井 純子(看護学研究科・講師) 今村 晴彦(長野県立大学・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 今村 晴彦 講義終了後 * を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:30~14:00	
授業概要 /	模擬自治体の事例において、課題・ニーズを把握し、それに基づいて保健計画を立案することにより、公衆衛生看護の役割と地域活動の展開方法の実際を学ぶ。	
到達目標 /	1 自治体における課題やニーズを把握する方法が具体的に説明できる。 2 課題を解決するための保健計画が策定できる。 3 立案した保健計画を評価する方法を具体的に説明できる。	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	1. 授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2. 15時間の講義に対して、30時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	授業への参加態度・レポート(20%)、筆記試験(80%)により総合的に評価する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	1. 野村陽子・加藤典子 編「保健学講座 5 保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社・2022年(初版)
参考書 /	適宜紹介する
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	望月 由紀子	講義の目的と進め方	
2 保健計画の立案と評価1	坂本 美佐子	保健計画の立案	
3 保健計画立案のための課題抽出1	今村 晴彦	保健医療福祉の計画立案1	
4 保健計画立案のための課題抽出2	今村 晴彦	保健医療福祉の計画立案2	
5 保健計画立案のための課題抽出3	今村 晴彦	保健医療福祉の計画立案3	
6 保健医療福祉計画の策定1	坂本 美佐子	保健計画の策定1	
7 保健医療福祉計画の策定2	坂本 美佐子	保健計画の策定2	
8 保健医療福祉計画の策定3	坂本 美佐子	保健計画の策定3	
9 保健医療福祉計画の策定4	坂本 美佐子	保健計画の策定4	
10 保健医療福祉計画の策定5	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	保健計画の策定5(発表)	
11 保健医療福祉計画の策定6	坂本 美佐子	評価計画の立案1	
12 保健医療福祉計画の策定7	坂本 美佐子	評価計画の立案2	
13 保健医療福祉計画の評価8	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	保健計画の立案と評価1(発表)	
14 まとめ	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	保健計画の立案と評価2(発表)	

開講科目名 / Course	疫学特論	
時間割コード / Course Code	G3112	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	坂本 なほ子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	坂本 なほ子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する 場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用につ いて /	活用しない
	ICTを活用する場合、その具体 的名称(クリッカー、タブレット 端末等) /	
担当教員 /	坂本なほ子(看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	坂本なほ子naoko.sakamoto med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、12:45～13:00	
授業概要 /	人間集団の多様な健康事象について、時(time)、場所(place)、人(person)の3つの主要概念を用いて包括的にとらえ、因果関係の解明を目指すため手法を学び、とくに健康事象のリスクを定量的に推定する方法を学ぶ。	
到達目標 /	疫学の研究方法を説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1)知識・技能と課題解決力、(DP3)社会的責任・倫理観、(DP4)科学的探究心・自己研鑽、 (DP5)国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。 60時間の時間外学習を行うこと。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み(20%)、試験(80%)から総合的に評価する。	
フィードバック方法 /	授業内で解説を行う。	

教科書 /	日本疫学会.『やさしい疫学』改定第4版.南江堂.2024年
参考書 /	坂本なほ子.『はじめての保健統計学』改定第2版.サイオ出版.2026年 尾崎米厚他.『標準保健師講座4 疫学・保健統計学』.医学書院.2025年
備考(関連科目等) /	遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	坂本 なほ子	科目の概要と進め方	
2 疫学の歴史	坂本 なほ子	疫学とは何か	
3 疾病頻度の指標(1)	坂本 なほ子	有病割合、罹患率	
4 疾病頻度の指標(2)	坂本 なほ子	死亡率、年齢調整死亡率	
5 疾病頻度の指標(3)	坂本 なほ子	累積罹患率、致命率	
6 曝露効果の指標(1)	坂本 なほ子	相対危険	
7 曝露効果の指標(2)	坂本 なほ子	寄与危険	
8 疫学研究法	坂本 なほ子	母集団と標本、標本抽出法	
9 疫学研究デザイン	坂本 なほ子	記述疫学	
10 疫学研究デザイン(2)	坂本 なほ子	生態学的研究、横断研究	
11 疫学研究デザイン(3)	坂本 なほ子	症例対照研究	
12 疫学研究デザイン(4)	坂本 なほ子	コホート研究	
13 疫学研究デザイン(5)	坂本 なほ子	介入研究	
14 疫学研究デザイン(6)	坂本 なほ子	その他の研究	
15 バイアス(1)	坂本 なほ子	選択バイアス	
16 バイアス(2)	坂本 なほ子	情報バイアス	
17 交絡	坂本 なほ子	交絡とその制御	
18 因果関係	坂本 なほ子	因果関係とその判定	
19 スクリーニング	坂本 なほ子	スクリーニングとROC曲線	
20 疾病登録	坂本 なほ子	がん登録	
21 生活習慣と健康課題(1)	坂本 なほ子	生活習慣に起因する健康課題の頻度と分布	
22 生活習慣と健康課題(2)	坂本 なほ子	生活習慣に起因する健康課題の頻度と分布	
23 疾患と予防(1)	坂本 なほ子	調査結果のまとめ方を学ぶ	
24 疾患と予防(1)	坂本 なほ子	疾患の頻度と分布と危険因子	
25 疾患と予防(2)	坂本 なほ子	疾患の頻度と分布と危険因子	
26 疫学研究の実際(1)	坂本 なほ子	疫学の実践例	
27 疫学研究の実際(2)	坂本 なほ子	疫学の実践例	

開講科目名 / Course	地域健康危機管理特論	
時間割コード / Course Code	G3117	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	1.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子 (専任教員)、坂本 美佐子 (専任教員)、望月 由紀子 (専任教員)、本田 順子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授) 坂本 美佐子 (看護学研究科・講師) 本田 順子 (看護学研究科・講師) 櫻井 純子 (看護学研究科・講師) 石田 千絵 (日本赤十字看護大学・教授)	
科目責任者連絡先 (教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 石田 千絵 講義終了後 * を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 13:30 ~ 14:00	
授業概要 /	公衆衛生看護活動における保健師の管理的な機能のうち、災害保健活動、虐待対応、感染症対応など健康危機管理について学び、多機関との連携調整を含む保健師に必要なマネジメント能力を養う。	
到達目標 /	1 個人/家族、地区/小地域、保健師の所属する組織の健康状態に危機的状況が起こる場面に応じた公衆衛生看護活動が説明できる。 2 健康危機管理におけるリスクマネジメントと必要な関係機関との連携・協働が説明できる。 3 虐待対応における危機的介入と必要な関係機関との連携・協働が説明できる。 4 パンデミックや複合災害への対応が説明できる。	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、 (DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	1. 授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2. 15時間の講義に対して、30時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	授業への取り組み(20%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(40%)で総合的に評価する。 レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年 (初版)
参考書 /	適宜紹介する
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	坂本 美佐子	講義の目的と進め方	
2 健康危機管理としての 災害対応1	坂本 美佐子	発災直後・急性期の初動・保健師の役割	
3 健康危機管理としての 災害対応2	坂本 美佐子	亜急性期・避難生活支援・保健師の役割	
4 健康危機管理としての 災害対応3	坂本 美佐子	中長期・復興期の生活再建・保健師の役割	
5 健康危機管理としての 災害対応4	坂本 美佐子	静穏期・備えの組織支援・保健師の役割	
6 災害対策と健康危機管 理1	石田 千絵	災害対策:リスクマネジメント1	
7 災害対策と健康危機管 理2	石田 千絵	災害対策:リスクマネジメント2	
8 災害対策と健康危機管 理3	石田 千絵	災害対策:リスクマネジメント3	
9 災害対策と健康危機管 理4	石田 千絵	災害対策:リスクマネジメント4	
10 災害対策と健康危機管 理5	櫻井 純子, 本田 順子	災害対策: 避難所運営の計画策定1 (体制・運営・配慮者・衛生・受援・継 続)	
11 災害対策と健康危機管 理6	櫻井 純子, 本田 順子	災害対策: 避難所運営の計画策定2 (体制・運営・配慮者・衛生・受援・継 続)	
12 感染症対策と健康危機 管理1	望月 由紀子	パンデミックへの対応とマネジメント 1(自治体の事例)	
13 感染症対策と健康危機 管理2	望月 由紀子	パンデミックへの対応とマネジメント 2(自治体の事例)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
14 感染症対策と健康危機管理3	望月 由紀子	パンデミックへの対応とマネジメント 3 (自治体の事例)	

開講科目名 / Course	地域健康危機管理演習	
時間割コード / Course Code	G3118	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	1.0	
主担当教員 / Main Instructor	本田 順子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子 (専任教員)、小林 寅吉 (専任教員)、勝瀬 明子 (専任教員)、金坂 伊須萌 (専任教員)、本田 順子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	本田 順子 (看護学研究科・講師) 櫻井 純子 (看護学研究科・講師) 小林 寅吉 (看護学研究科・教授) 勝瀬 明子 (看護学科研・准教授) 金坂 伊須萌 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 小林 寅吉 kobatora med.toho-u.ac.jp 勝瀬 明子 akiki med.toho-u.ac.jp 金坂 伊須萌 izumo med.toho-u.ac.jp * を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:30~14:00	
授業概要 /	公衆衛生看護活動における保健師の管理的な機能のうちの健康危機管理について、平時からの発災時を想定した災害保健活動や、パンデミックに対応できる感染症対応などについて、演習を通して実践的に学び基礎的な技術を習得する。	

到達目標 /	1 感染症診断に基づき、感染制御を目的としたサーベイランスの方法が説明できる。 2 感染症パンデミックにおける対応と公衆衛生看護の役割について説明できる。 3 災害時のアセスメントとそれに対応した保健活動を模擬事例を通して実践できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観
事前・事後学習とその時間 /	1. 授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2. 15時間の講義に対して、30時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	授業への取り組み(20%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(40%)により総合的に評価する。 レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年(初版)
参考書 /	適宜紹介する
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 結核対応の実際とフィールドワーク1	櫻井 純子	結核対策の構造と保健師の役割1	
2 結核対応の実際とフィールドワーク2	櫻井 純子	結核対策の構造と保健師の役割1	
3 結核対応の実際とフィールドワーク3	櫻井 純子	結核対策の構造と保健師の役割1	
4 感染症の科学的理解と顕微鏡実験1 感染症の発生予防とまん延防止	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	感染症の診断 手指消毒の除菌・殺菌効果 病原細菌の環境における生存性	
5 感染症の科学的理解と顕微鏡実験1 感染症の発生予防とまん延防止	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	感染症の診断 手指消毒の除菌・殺菌効果 病原細菌の環境における生存性	
6 感染症の科学的理解と顕微鏡実験2 感染症の発生予防とまん延防止	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	感染症の診断 手指消毒の除菌・殺菌効果 病原細菌の環境における生存性	
7 感染症の科学的理解と顕微鏡実験2 感染症の発生予防とまん延防止	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	感染症の診断 手指消毒の除菌・殺菌効果 病原細菌の環境における生存性	
8 感染症の科学的理解と顕微鏡実験3 感染症の発生予防とまん延防止	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	感染症の診断 手指消毒の除菌・殺菌効果 病原細菌の環境における生存性	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
9 感染症の科学的理解と顕微鏡実験3 感染症の発生予防とまん延防止	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	感染症の診断 手指消毒の除菌・殺菌効果 病原細菌の環境における生存性	
10 災害対策・避難所運営の演習1	櫻井 純子, 本田 順子	避難所における組織支援とプレゼンテーションの実際：(学内)運営訓練	
11 災害対策・避難所運営の演習2	櫻井 純子, 本田 順子	避難所における組織支援とプレゼンテーションの実際：(学内)運営訓練	
12 災害対策・避難所運営の演習3	櫻井 純子, 本田 順子	避難所における組織支援とプレゼンテーションの実際：(地域)プレゼン準備	
13 災害対策・避難所運営の演習4	櫻井 純子, 本田 順子	避難所における組織支援とプレゼンテーションの実際：(地域)プレゼン実施	
14 災害対策・避難所運営の演習5	櫻井 純子, 本田 順子	避難所における組織支援とプレゼンテーションの実際：(地域)プレゼン振り返り	

開講科目名 / Course	地域診断・ケアシステム特論	
時間割コード / Course Code	G3123	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子(専任教員)、坂本 美佐子(専任教員)、望月 由紀子(専任教員)、本田 順子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	PBL(課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子(看護学研究科・教授) 坂本 美佐子(看護学研究科・講師) 本田 順子(看護学研究科・講師) 櫻井 純子(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 * を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:30~14:00	
授業概要 /	地域診断により健康課題を明らかにし、既存のケアシステムを評価することを通して、地域に必要な事業を企画・立案し、システム化・施策化へと展開するケアシステム構築のための実践的な技術を習得する。	
到達目標 /	1 地域診断に必要な情報収集・データ収集と分析方法が説明できる。 2 地域診断により抽出された健康課題を解決するために必要な事業を企画・立案できる。 3 既存のケアシステムを評価し、企画・立案した事業の評価計画を立案できる。	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	1. 授業ごとに該当分野の予習復習をする。 2. 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	授業への参加態度・レポート(20%)、筆記試験(80%)により総合的に評価する。 レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	1. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年 (初版)
参考書 /	1. 金川克子, 早川和生監訳, コミュニティアズパートナー第2版, 2007, 医学書院
備考(関連科目等) /	「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたりアルタイム配信等を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	櫻井 純子, 本田 順子	講義の目的と進め方 HC事前訪問時の地区踏査準備を含む	
2 地域診断の目的と方法1	櫻井 純子, 本田 順子	地域診断の目的 HCヒアリング準備を含む	
3 地域診断の目的と方法2	櫻井 純子, 本田 順子	データ収集の必要性 資料の見方、e-statの見方等含む	
4 地域診断の目的と方法3	櫻井 純子, 本田 順子	地域診断に必要なデータ収集方法	
5 収集したデータの分析と解釈1	櫻井 純子, 本田 順子	データの収集	
6 収集したデータの分析と解釈2	櫻井 純子, 本田 順子	統計的データの収集1	
7 収集したデータの分析と解釈3	櫻井 純子, 本田 順子	収集したデータの分析・解釈1	
8 データの収集とアセスメント1	櫻井 純子, 本田 順子	収集したデータのアセスメント1	
9 データの収集とアセスメント2	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀子, 本田 順子	収集したデータのアセスメント2	
10 収集したデータの分析と解釈4	櫻井 純子, 本田 順子	統計的データの収集2	
11 収集したデータの分析と解釈5	櫻井 純子, 本田 順子	統計的データの収集3	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
12 収集したデータの分析と解釈6	櫻井 純子, 本田 順子	収集したデータの分析 解釈2	
13 データの収集とアセスメント3	櫻井 純子, 本田 順子	収集したデータのアセスメント3	
14 データの収集とアセスメント4	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	収集したデータのアセスメント4 (発表)	
15 収集したデータの分析と解釈7	櫻井 純子, 本田 順子	統計的データの収集4	
16 収集したデータの分析と解釈8	櫻井 純子, 本田 順子	統計的データの収集5	
17 収集したデータ分析の分析と解釈9	櫻井 純子, 本田 順子	統計的データの収集6	
18 収集したデータ分析の分析と解釈10	櫻井 純子, 本田 順子	収集したデータの分析・解釈3	
19 データの収集とアセスメント5	櫻井 純子, 本田 順子	収集したデータのアセスメント5	
20 データの収集とアセスメント6	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	収集したデータのアセスメント6 (発表)	
21 アセスメントから健康課題の抽出1	櫻井 純子, 本田 順子	健康課題の抽出 1	
22 アセスメントから健康課題の抽出2	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	健康課題の抽出2	
23 アセスメントから健康課題の抽出3	櫻井 純子, 本田 順子	健康課題の抽出3	
24 アセスメントから健康課題の抽出4	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	健康課題の抽出4 (発表)	
25 アセスメントから健康課題の抽出5	櫻井 純子, 本田 順子	健康課題の抽出5	
26 プレゼンテーションとまとめ1	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	健康課題の発表1	
27 プレゼンテーションとまとめ2	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	健康課題の発表2	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護学実習	
時間割コード / Course Code	G3124	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子(専任教員)、坂本 美佐子(専任教員)、望月 由紀子(専任教員)、本田 順子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	実習	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子(看護学研究科・教授) 坂本 美佐子(看護学研究科・講師) 櫻井 純子(看護学研究科・講師) 本田 順子(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日13:30~14:00	
授業概要 /	保健所・保健センターで行われる実習を通じて、個人・家族と集団・地域と連動させながら、健康課題を解決していくための公衆衛生看護活動としての実践的な技術を学ぶ。	

到達目標 /	<p>1 地域で生活する多様な人々の健康レベル・特徴等を理解し、地域のケア資源を活用しつつ、住民に寄り添い支援をする保健師の活動の概要を説明できる。</p> <p>2 地域で生活する多様な人々の健康ニーズに対して、地域診断の手法を使って健康課題を明らかにし抽出できる。</p> <p>3 公衆衛生看護の役割・機能を理解し、行政における公的責任と住民の健康を守る保健師の役割</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ
事前・事後学習とその時間 /	<p>実習で学習する予定の内容および自分の関心の高い分野の事前学習をして実習に臨む。</p> <p>実習で学習した内容の事後学習を行う。</p>
評価方法・基準 /	<p>実習への取り組み・参加態度(30%)、実習記録・レポート等(70%)を総合的に評価する。</p> <p>レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。</p>
フィードバック方法 /	<p>レポート内容は、解説して返却する。</p> <p>講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、Active Academy・classroomに掲示する。</p>
教科書 /	なし
参考書 /	これまでに紹介したテキスト
備考(関連科目等) /	<p>感染拡大等により実施内容を変更する場合がある。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。</p> <p>実践的教育から構成する授業科目である。</p>

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 実習施設	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	東京都23区内の保健所・保健センター	
2 実習期間	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	2週間(学内演習、準備、まとめを含む)	
3 実習内容	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	<ul style="list-style-type: none"> ・実習区オリエンテーション ・実習区の地域診断・健康課題の抽出 ・実習区で展開されている保健事業の理解と参加 ・家庭訪問への同行・支援計画の立案 ・事例理解のための各種相談、会議の同席 ・住民の健康課題に合わせた健康教育の準備 ・実習施設カンファレンス 	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護学実習	
時間割コード / Course Code	G3125	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	坂本 美佐子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	櫻井 純子 (専任教員)、坂本 美佐子 (専任教員)、望月 由紀子 (専任教員)、本田 順子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	実習	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google classroom、Google forms 等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授) 坂本 美佐子 (看護学研究科・講師) 本田 順子 (看護学研究科・講師) 櫻井 純子 (看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先 (教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp 坂本 美佐子 misako.sakamoto med.toho-u.ac.jp 本田 順子 junko.honda med.toho-u.ac.jp 櫻井 純子 を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 13 : 45 ~ 14 : 00	
授業概要 /	保健所・保健センターで行われる実習を通し、地域の人々 (個人・家族・集団・地域) の健康課題を明らかにし、健康課題を解決するための事業計画を立案、実施、評価する一連の公衆衛生看護活動について実践を通して学ぶ。	

到達目標 /	<p>1 健康ニーズや健康課題に対してPDCAの視点で展開されている保健事業を抽出し、保健計画立案や評価の視点を習得すると共に、必要な社会資源を創出する保健師の役割を説明できる。</p> <p>2 地域住民の健康レベルとQOL向上のために必要な公衆衛生看護活動の方法を理解し、基礎的な知識・技術・態度を習得できる。</p> <p>3 予防を含め、多様な人々の健康を守るために各分野の多職種・多機関と連携・協働して地域全体を支える包括的かつ重層的な支援体制の構築を目指す公衆衛生看護の役割を考察し、説明できる。</p> <p>4 行政における公衆衛生看護管理を学び、組織の中で働く行政保健師の役割や意義を考察し、説明できる。</p> <p>5 地域住民による支えあいを育むと共に、住民と共に安心して健康に暮らせる地域づくりを目指し、地域共生社会の実現に寄与する保健師の役割を考察し、説明できる。</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ
事前・事後学習とその時間 /	<p>実習で学習する予定の内容および自分の関心の高い分野の事前学習をして実習に臨む。</p> <p>実習で学習した内容の事後学習を行う。</p>
評価方法・基準 /	<p>実習への取り組み・参加態度(30%)、実習記録・レポート等(70%)を総合的に評価する。</p> <p>レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。</p>
フィードバック方法 /	<p>レポート内容は、解説して返却する。</p> <p>講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、Active Academy・classroomに掲示する。</p>
教科書 /	なし
参考書 /	これまでに紹介したテキスト
備考(関連科目等) /	<p>感染拡大等により実施内容を変更する場合がある。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。</p> <p>実践的教育から構成する授業科目である。</p>

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 実習施設	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	東京都23区内の保健所・保健センター	
2 実習期間	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	2週間(準備、まとめを含む)	
3 実習内容	櫻井 純子, 坂本 美佐子, 望月 由紀 子, 本田 順子	<p>健康ニーズや健康課題に対してPDCAの視点で展開されている保健事業を抽出し、保健計画立案や評価の視点を習得するし、必要な社会資源を創出する保健師の役割を理解できる。</p> <p>地域住民の健康レベルとQOL向上のために必要な公衆衛生看護活動の方法を理解し、基礎的な知識・技術・態度を習得できる。</p> <p>予防を含め、多様な人々の健康を守るために各分野の多職種・多機関と連携・協働して地域全体を支える包括的かつ重層的な支援体制の構築を目指す公衆衛生看護の役割を理解できる。</p> <p>行政における公衆衛生看護管理を学び、組織の中で働く行政保健師の役割や意義を理解できる。</p> <p>地域住民による支えあいを育むと共に、住民と共に安心して健康に暮らせる地域づくりを目指し、地域共生社会の実現に寄与する保健師の役割を理解できる。</p>	

開講科目名 / Course	在宅看護学特論	
時間割コード / Course Code	G3302	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	成澤 明	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	成澤 明 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, タブレット端末
担当教員 /	成澤明 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	成澤明 akira.narusawa med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30-13:00	
授業概要 /	理論やモデルをもとに在宅療養者をアセスメントできる基礎能力を養う。	
到達目標 /	1. 地域で生活しながら療養する人々と家族について理解を深めるため、在宅看護の基本的な理論について説明できる。 2. 対象を理解するための理論を理解し、在宅看護における課題を記述できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。 課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。	
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。 課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、個別に対面で評価しながら返却する。	

教科書 /	必要な文献を適宜紹介する。
参考書 /	必要な文献を適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 在宅看護学における理論と概念 1	成澤 明	ガイダンス	
2 在宅看護学における理論と概念 2	成澤 明	エンパワメント	
3 在宅看護学における理論と概念 3	成澤 明	エンパワメント	
4 在宅看護学における理論と概念 4	成澤 明	エンパワメント	
5 在宅看護学における理論と概念 5	成澤 明	エンパワメント	
6 在宅看護学における理論と概念 6	成澤 明	エンパワメント	
7 在宅看護学における理論と概念 7	成澤 明	エンパワメント	
8 在宅看護学における理論と概念 8	成澤 明	エンパワメント	
9 在宅看護学における理論と概念 9	成澤 明	エンパワメント	
10 在宅看護学における理論と概念 10	成澤 明	エンパワメント	
11 在宅看護学における理論と概念 11	成澤 明	エンパワメント	
12 在宅看護学における理論と概念 12	成澤 明	エンパワメント	
13 在宅看護学における理論と概念 13	成澤 明	エンパワメント	
14 在宅看護学における理論と概念 14	成澤 明	エンパワメント	
15 在宅看護学における理論と概念 15	成澤 明	エンパワメント	
16 在宅看護学における理論と概念 16	成澤 明	エンパワメント	
17 在宅看護学における理論と概念 17	成澤 明	エンパワメント	
18 在宅看護学における理論と概念 18	成澤 明	エンパワメント	
19 在宅看護学における理論と概念 19	成澤 明	エンパワメント	
20 在宅看護学における理論と概念 20	成澤 明	エンパワメント	
21 在宅看護学における理論と概念 21	成澤 明	エンパワメント	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
22 地域と在宅ケア 1	成澤 明	療養場所の移行を支えるチームのあり方と看護	
23 地域と在宅ケア 2	成澤 明	療養場所の移行を支えるチームのあり方と看護	
24 地域と在宅看護 1	成澤 明	地域における在宅看護の役割と課題	
25 地域と在宅看護 2	成澤 明	地域における在宅看護の役割と課題	
26 地域と在宅看護 3	成澤 明	地域における在宅看護の役割と課題	
27 地域と在宅看護 4	成澤 明	地域における在宅看護の役割と課題	

開講科目名 / Course	在宅看護学演習	
時間割コード / Course Code	G3303	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	成澤 明	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	成澤 明 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, タブレット端末 タブレット端末
担当教員 /	成澤明 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	成澤明 akira.narusawa med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00	
授業概要 /	在宅看護学に関連する文献に関して批判的に吟味、検討するとともに、実践報告のレビューを行いゼミ形式で課題検討、および効果的な在宅看護実践方法を探求する能力を養う。	
到達目標 /	1. 地域において療養する人とその家族を包括的にアセスメントするための方略を文献および実践を通して記述できる。 2. 在宅療養継続のためのシームレスな看護方略およびチームケアのあり方について説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連(看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽	
事前・事後学習とその時間 /	対面形式と遠隔形式を組み合わせ実施する。 ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。	

フィードバック方法 /	課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
教科書 /	必要な文献を適宜紹介する。
参考書 /	必要な文献を適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 在宅看護学研究	成澤 明	ガイダンス	
2 在宅看護継続のための看護方略 1	成澤 明	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略	
3 在宅看護継続のための看護方略 2	成澤 明	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略	
4 在宅看護継続のための看護方略 3	成澤 明	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略	
5 在宅看護継続のための看護方略 4	成澤 明	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略	
6 在宅看護継続のための看護方略 5	成澤 明	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略	
7 在宅看護継続のための看護方略 6	成澤 明	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略	
8 在宅看護継続のための看護方略 7	成澤 明	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略	
9 在宅看護継続のための看護方略 8	成澤 明	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略	
10 在宅看護における文献クリティーク 1	成澤 明	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク	
11 在宅看護における文献クリティーク 2	成澤 明	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク	
12 在宅看護における文献クリティーク 3	成澤 明	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク	
13 在宅看護における文献クリティーク 4	成澤 明	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク	
14 在宅看護における文献クリティーク 5	成澤 明	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク	
15 在宅看護における文献クリティーク 6	成澤 明	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク	
16 在宅看護における文献クリティーク 7	成澤 明	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク	
17 在宅看護における文献クリティーク 8	成澤 明	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク	
18 フィールドワーク 1	成澤 明	フィールドワーク計画書の作成	
19 フィールドワーク 2	成澤 明	フィールドワーク計画書の作成	
20 フィールドワーク 3	成澤 明	フィールドワーク計画書の作成	
21 フィールドワーク 4	成澤 明	フィールドワーク計画書の作成	
22 フィールドワーク 5	成澤 明	フィールドワーク計画書の発表	
23 フィールドワーク 6	成澤 明	フィールドワーク計画書の発表	
24 フィールドワーク 7	成澤 明	フィールドワーク計画書の発表	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
25 フィールドワーク 8	成澤 明	フィールドワーク計画書の発表	
26 フィールドワーク 9	成澤 明	フィールドワーク計画書の修正	
27 フィールドワーク 10	成澤 明	フィールドワーク計画書の修正	

開講科目名 / Course	感染制御学演習	
時間割コード / Course Code	G3403	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 寅吉	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 寅吉 (専任教員)、勝瀬 明子 (専任教員)、金坂 伊須萌 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用しない
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	
担当教員 /	小林寅吉(看護学研究科・教授)勝瀬明子(看護学研究科・准教授)金坂伊須萌(看護学研究科・講師)	
科目責任者連絡先(教室) /	小林寅吉kobatora med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki med.toho-u.ac.jp 金坂伊須萌izumo med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	小林寅吉 毎週木曜日12:00-13:00 勝瀬明子 毎週木曜日12:00-13:00 金坂伊須萌 毎週木曜日12:00-13:00	
授業概要 /	感染制御学特論を基盤に、感染症の診断について理解し、感染制御における意義を検討する。感染症起炎菌の抗菌薬に対する感受性を実験的に検証することにより抗菌薬の特性や抗菌薬耐性菌の検出手法を理解し、病院感染および市中感染の適切な対応へつなげる能力を培う。	
到達目標 /	1. 微生物を法令に準拠した方法で適正に取り扱うことができる。 2. 細菌学的手法を用い感染症の診断と耐性菌検出を行うことができる。 3. 実際のアウトブレイク事例をとおりサーベイランスを行うことができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。	

評価方法・基準 /	課題への取り組み(80%)、研究(実験)の成果(20%)で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	授業内で講評を伝え、課題を共有する。
教科書 /	なし
参考書 /	小林寅吉(編)「新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進 感染制御学・微生物学」メヂカルフレンド社・2024年(第3版) 小林寅吉「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2025年(改訂第2版) 小林寅吉「看護の実践で役に立つ 基本からわかる、抗菌薬適正使用」ヴァンメディカル・2025年(初版) 小林寅吉「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版) 藤本秀士「わかる!身につく!病原体・感染・免疫」南山堂・2017年(改訂3版) CLSIガイドライン: Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing 31st ed. CLSI supplement M100, 2021. その他、講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	対面形式にて実施する。 実験を通し微生物の取り扱いおよび手法を学ぶとともに、実験結果に対する考察を討議する。 必要に応じ集中的日程の中で演習を行う。 感染制御学特論 ・ で学習した内容を復習しておくこと。 医療関連感染など身近に発生している感染症と抗菌薬耐性菌について情報を集め調べておくこと。 病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 感染症および微生物と法律	小林 寅吉, 勝瀬 明子	バイオハザード、バイオセーフティ	
2 感染症および微生物と法律	小林 寅吉, 勝瀬 明子	バイオハザード、バイオセーフティ	
3 感染症および微生物と法律	小林 寅吉, 勝瀬 明子	病原微生物の適正な取り扱い方法	
4 感染症および微生物と法律	小林 寅吉, 勝瀬 明子	病原微生物の適正な取り扱い方法	
5 感染症診断	小林 寅吉, 勝瀬 明子	起炎菌と常在菌、臨床検体の採取と適切な取り扱い	
6 感染症診断	小林 寅吉, 勝瀬 明子	起炎菌と常在菌、臨床検体の採取と適切な取り扱い	
7 感染症診断	小林 寅吉, 勝瀬 明子	塗抹と鏡見、グラム染色	
8 感染症診断	小林 寅吉, 勝瀬 明子	塗抹と鏡見、グラム染色	
9 感染症診断	小林 寅吉, 勝瀬 明子	臨床検体の培養と同定	
10 感染症診断	小林 寅吉, 勝瀬 明子	臨床検体の培養と同定	
11 感染症診断	小林 寅吉, 勝瀬 明子	迅速診断法	
12 抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	抗菌薬感受性測定の原理と実際 ディスク拡散法	
13 抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	抗菌薬感受性測定の原理と実際 MIC法	
14 抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	抗菌薬感受性測定の原理と実際 MIC法	
15 抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御	小林 寅吉, 勝瀬 明子	国際標準(CLSI)基準による感受性測定結果の解釈	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
16 抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御	小林 寅吉, 勝瀬 明子	抗菌薬耐性菌の検出	
17 抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御	小林 寅吉, 勝瀬 明子	抗菌薬耐性菌の検出	
18 抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	抗菌薬耐性菌の検出	
19 抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御	小林 寅吉, 勝瀬 明子, 金坂 伊須萌	抗菌薬耐性菌の検出	
20 抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御	小林 寅吉, 勝瀬 明子	抗菌薬による起炎菌の殺菌効果の検証	
21 抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御	小林 寅吉, 勝瀬 明子	抗菌薬による起炎菌の殺菌効果の検証	
22 感染制御を目的としたサーベイランス	小林 寅吉, 勝瀬 明子	流行の分類、アウトブレイクの検知	
23 感染制御を目的としたサーベイランス	小林 寅吉, 勝瀬 明子	流行の分類、アウトブレイクの検知	
24 感染制御を目的としたサーベイランス	小林 寅吉, 勝瀬 明子	アウトブレイク事例への対応の実際	
25 感染制御を目的としたサーベイランス	小林 寅吉, 勝瀬 明子	アウトブレイク事例への対応の実際	
26 感染制御を目的としたサーベイランス	小林 寅吉, 勝瀬 明子	アウトブレイク事例への対応の実際	
27 感染制御を目的としたサーベイランス	小林 寅吉, 勝瀬 明子	アウトブレイク事例への対応の実際	

開講科目名 / Course	看護理論 (M)	
時間割コード / Course Code	G5002	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	菊池 麻由美	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	菊池 麻由美 (専任教員)、緑川 綾 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、その他
	「その他」の内容 /	ケースメソッド
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Zoom
担当教員 /	菊池麻由美 (看護学研究科・教授) 緑川綾 (慶応大学・助教)	
科目責任者連絡先 (教室) /	菊池麻由美 mayumi.kikuchi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30-13:00	
授業概要 /	看護理論は「看護」という営みを理解し、新たな看護実践を創造する枠組として価値づけられる。本科目では、看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性について概観した後に、理論のクリティーク方法を学修する。また、代表的ないくつかの理論について論及し、看護理論の看護事象への活用可能性について議論する。さらに、選択した1つの看護理論について枠組みを用いて分析し、その結果をプレゼンテーションする。これらにより、看護理論を看護実践に活用する能力、および看護事象を理論的に捉える能力を醸成する。	
到達目標 /	1) 看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性を説明できる。 2) いくつかの看護論の背景、主要概念、枠組みを説明することができる。 3) 理論に基づく事例検討を行い、課題解決に看護理論を用いる方法を説明することができる。 4) 1つの看護理論について背景、主要概念、枠組み、事例への活用方法をプレゼンテーションすることができる。 5) 看護実践の基盤となる諸理論の構成、利点及び限界や、看護実践・研究・教育への活用について検討し、自分の考えを論理的に説明できる。	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、 (DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。 ケースメソッドによるケースの検討や課題発表を行うので、事前準備をして積極的に参加すること。
評価方法・基準 /	課題への取り組み(50%)、プレゼンテーション(50%)で総合的に評価する。 評価については、授業内で講評し、課題を共有する。
フィードバック方法 /	課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。
教科書 /	筒井真優美編集(2025), 看護理論家の業績と理論評価, 医学書院, 第2版
参考書 /	筒井真優美編(2008), 看護理論 看護理論20の理解と実践への応用, 南江堂, 第3版.
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。 事前に配布された授業資料およびテキスト該当箇所は事前に読み、各自の意見をもって授業に参加することを期待する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 看護学の理論体系の 発展経緯	菊池 麻由美	看護における理論開発の歴史 看護理論の概観と看護科学、看護学との 関連	
3-5 看護現象の概念化や 理論化の意味や重要性	菊池 麻由美	看護理論の諸概念 卓越した看護実践への看護理論の活用 看護実践の質を維持・発展させるための 理論構築 理論と概念、理論の分析と評価 看護実践・教育・研究における看護理論 の重要性	
6-8 ケアリング理論	菊池 麻由美, 緑川 綾	ジーン・ワトソンの看護理論 ・ケースの検討(看護理論の活用) ・理論家の背景、理論の源泉、問題意識 、前提、主要概念、命題	
9-10 クリティーク演習	菊池 麻由美	グループで選択した看護理論についての クリティーク	
11-14 セルフケア理論	菊池 麻由美	ドロセア・オレムの看護理論 ・ケースの検討(看護理論の活用) ・理論家の背景、理論の源泉、問題意識 、前提、主要概念、命題	
15-16 クリティーク演習	菊池 麻由美	グループで選択した看護理論についての クリティーク	
17-20 中範囲理論	菊池 麻由美	コンフォート理論 ・ケースの検討(看護理論の活用) ・理論家の背景、理論の源泉、問題意識 、前提、主要概念、命題	
21-22 クリティーク演習	菊池 麻由美	グループで選択した看護理論についての クリティーク	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
23-25 課題発表	菊池 麻由美	課題発表：選択した看護理論の看護実践への活用 - その実際と課題 -	
26-27 看護理論と看護実践	菊池 麻由美	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実践への看護理論の活用の可能性 ・看護理論を看護実践に活用する上での課題 	

開講科目名 / Course	疾病学特論	
時間割コード / Course Code	G5004	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	田中 耕一郎	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	田中 耕一郎 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom、zoom
担当教員 /	田中耕一郎 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	田中耕一郎kouichirou.tanaka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週金曜日：12:30～13:30 メールで事前に連絡をすること。	
授業概要 /	医療、看護に従事するために必要な哲学の役割を理解し、さらに疾患の病態生理を理解するために、人体の正常構造やその機能を再認識し、臨床医学、臨床看護に役立つ知識を身につけられるようにする。また、臨床上頻繁に遭遇する糖尿病、腎疾患等の最新知識や、他の疾患と臨床症状が似ているために適切な診断と治療にすぐに結びつきづらい内分泌疾患、加齢により生じる多様な変化などを最近のトピックスなども幅広く取り入れて講義する。さらに、近年避けられない地震や天候不良などにより生じる災害と医療の関係性についても講義していく。講義内では院生のプレゼンテーションやディスカッション等も積極的に行っていく。	
到達目標 /	疾患の病態生理を理解し、正しく説明できる。 医療現場で実際に患者を診る際に、患者の心身の状態から病態をできる限り正確に把握し、可能な限り迅速に適切な看護や治療に結び付けることができる。突然に起こる災害の際には、持っているスキルを最大限に活かして、患者の心身状態を適切に把握し看護することができる。	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、 (DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。 事前に提示された資料がある場合は、講義前に理解をしておく。 講義後には内容を振り返り、知識を定着させる。
評価方法・基準 /	課題への取り組み40%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%から総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	資料の配布、もしくは必要に応じ適宜参考図書等を提示する。
参考書 /	必要に応じ適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	基本的に対面形式にて実施するが、状況によっては対面形式と遠隔形式(zoomを用いたリアルタイム配信など)を組み合わせるハイブリッド方式にすることも対応できるようにする。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 プロローグ	田中 耕一郎	理想の看護とは	
2 医療と倫理	田中 耕一郎	なぜ倫理が必要なのか	
3 医療と倫理	田中 耕一郎	哲学との関連性	
4 糖尿病	田中 耕一郎	糖尿病の定義・診断・治療・合併症	
5 内分泌学	田中 耕一郎	下垂体と甲状腺、副腎	
6 内分泌学	田中 耕一郎	他の疾患に間違われやすい内分泌疾患	
7 腎臓学	田中 耕一郎	腎機能と検査	
8 腎臓学	田中 耕一郎	腎疾患	
9 腎疾患	田中 耕一郎	腎代替療法：血液透析・腹膜透析・腎移植	
10 更年期	田中 耕一郎	女性	
11 更年期	田中 耕一郎	男性	
12 加齢とは	田中 耕一郎	その症状、年のせいだから大丈夫って本当？	
13 老年医学	田中 耕一郎	フレイル	
14 老年医学	田中 耕一郎	誤嚥性肺炎	
15 老年医学	田中 耕一郎	フレイルと理学療法	
16 緩和医療	田中 耕一郎	緩和医療とはなにか 狭義・広義の緩和医療	
17 緩和医療	田中 耕一郎	我が国における緩和医療の変遷	
18 緩和医療	田中 耕一郎	グリーンケア	
19 災害と医療	田中 耕一郎	災害時に必要な医療・看護	
20 災害と医療	田中 耕一郎	災害時の医療体制 透析療法を例に	
21 災害と医療	田中 耕一郎	災害時に起こりうる感染とその対策	
22 禁煙学	田中 耕一郎	そもそもタバコとは	
23 禁煙学	田中 耕一郎	喫煙と疾病	
24 禁煙学	田中 耕一郎	禁煙の対策	
25 ゲノム治療	田中 耕一郎	ゲノムとは	
26 ゲノム治療	田中 耕一郎	ゲノム治療 / がんゲノム医療とは	
27 エピローグ	田中 耕一郎	講義を通して感じたこと、考えたこと	

開講科目名 / Course	医療言語論	
時間割コード / Course Code	G5006	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	吉朝 加奈	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	吉朝 加奈 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google classroom, zoom または teams, pc
担当教員 /	吉朝加奈 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	吉朝加奈 kana.yoshiasa med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜12:30-12:50	
授業概要 /	<p>本授業では、テキストを抄読することを通して、言語活動の諸問題を考察する。とりわけ、「病」「健康」「医療」をめぐる言語のあり方に焦点を当て、医療人類学の視点から病や治療がどのように意味づけられてきたのかを概観したうえで、近代医学における言説の成立過程を批判的に読み解く。</p> <p>具体的には、『病気と治療の文化人類学』を導入として、フーコー『臨床医学の誕生』を中心に医学的言説について考察する。</p> <p>授業は、テキスト精読と学生発表・ディスカッションを中心としたゼミナール形式で行う。</p>	
到達目標 /	<p>1. 言語や言説が病や健康の理解にどのように関与しているかを、文化的・歴史的な文脈の中で分析し、説明することができる。</p> <p>2. テキストの読解と議論を通じて、医療における言語のあり方を自らの言葉で考察できる</p>	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観	

事前・事後学習とその時間 /	講義・演習（30 時間）：30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。 事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加する。
評価方法・基準 /	授業への参加および貢献度（レジュメ作成、授業内での発表およびディスカッションの参加状況と内容を）60%、最終回での発表10%、ブックレポート30%
フィードバック方法 /	口頭発表・ディスカッションについては口頭で講評する。 レポートは評価用ルーブリック上のスコアで返却する。
教科書 /	波平恵美子『病気と治療の文化人類学』ちくま学芸文庫、2022年 ミシェル・フーコー(著), 神谷美恵子(翻訳)『臨床医学の誕生 新装版』みすず書房、2020年 * 受講人数と受講者のバックグラウンドによって変更する場合がある。
参考書 /	神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房、1980年、または2004年。 その他参考文献は授業時に提示する。
備考(関連科目等) /	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前に該当文献を抄読し、レジュメを作成し（受講者で順番）、ディスカッションできる準備をしてから授業に参加することが求められる。 ・ ディスカッションが中心となる授業のため、開講に原則2名以上の受講生が必要である。 ・ 初回は対面で行うが、2回目以降は、受講生の人数や状況によってzoom（リアルタイム）を併用する回もある。 ・ 講義の進捗状況や社会状況等によって、授業方式や授業計画が変更になる場合がある。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 導入、医療言語論の視点	吉朝 加奈	ガイダンス 波平恵美子『病気と治療の文化人類学』第1章	
3-4 文献検討：病気の意味づけ	吉朝 加奈	波平恵美子『病気と治療の文化人類学』第1章	
5-6 文献検討：病気と治療の文化的多様性	吉朝 加奈	波平恵美子『病気と治療の文化人類学』第2（一部）、5章	
7-8 文献検討：病を分類する言説（1）	吉朝 加奈	フーコー『臨床医学の誕生』序、第1章	
9-10 文献検討：病を分類する言説（2）	吉朝 加奈	フーコー『臨床医学の誕生』第2章	
11-12 文献検討：病を分類する言説（3）	吉朝 加奈	フーコー『臨床医学の誕生』第3章	
13-14 文献検討：臨床医学の淵源	吉朝 加奈	フーコー『臨床医学の誕生』第4章	
15-16 文献検討：症例を設立させる言説・語り（1）	吉朝 加奈	フーコー『臨床医学の誕生』第5章	
17-18 文献検討：症例を設立させる言説・語り（2）	吉朝 加奈	フーコー『臨床医学の誕生』第6章	
19-21 文献検討：病を可視化する言説（1）	吉朝 加奈	フーコー『臨床医学の誕生』第7章-8章	
22-24 文献検討：病を可視化する言説（2）	吉朝 加奈	フーコー『臨床医学の誕生』第9章・結論	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
25-27 学生発表・学習内容の統括	吉朝 加奈	神谷美恵子『生きがいについて』医療的言説と患者（当事者）の語り、についての講義。 学生による発表 全体討議により、授業全体を総括する。	

開講科目名 / Course	心理学研究特論	
時間割コード / Course Code	G5007	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	伊藤 桂子	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伊藤 桂子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	zoom,pc,google Chat
担当教員 /	伊藤桂子(看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	伊藤桂子 keiko.itou med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	心理学全般に関する研究原理を概説し、次に分野ごとの代表的な研究例を参照しながら研究方法を教授する。対象の理解と看護実践に必要な発達心理学や臨床心理学について基本的な知識を体系的に学び、自らの看護実践や研究への心理学の活用について検討する。	
到達目標 /	1. 心理学全般に関する研究原理の基礎的な知識について述べることができる。 2. 対象の理解と看護実践に必要な発達心理学や臨床心理学について概要を説明できる。 3. 臨床心理学における心理査定法、心理療法、研究法について述べるができる。 4. 心理学の基礎的な知識を活用した、研究の構想について説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、 (DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	講義や演習を基に、ゼミナール形式で議論を行う。 事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加する。 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。	

評価方法・基準 /	文献学習（20%）、課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、課題を共有する。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	原則としてzoomを用いたリアルタイム配信の遠隔形式で講義を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 心理学概論	伊藤 桂子	オリエンテーション、心理学研究の動向	
2 心理学概論	伊藤 桂子	心理学における研究法	
3 心理学概論	伊藤 桂子	感覚	
4 心理学概論	伊藤 桂子	知覚	
5 心理学概論	伊藤 桂子	認知・記憶	
6 心理学概論	伊藤 桂子	学習	
7 心理学概論	伊藤 桂子	感情	
8 心理学概論	伊藤 桂子	動機づけ	
9 心理学概論	伊藤 桂子	パーソナリティ	
10 心理学概論	伊藤 桂子	発達心理	
11 心理学概論	伊藤 桂子	社会心理（対人認知）	
12 心理学概論	伊藤 桂子	社会心理（援助行動・リーダーシップ）	
13 14 心理尺度の開発	伊藤 桂子	心理尺度の開発	
15 心理尺度の活用	伊藤 桂子	心理尺度の活用	
16 17 心理統計	伊藤 桂子	統計ソフトJMPの基本的な使い方	
18 20 心理学研究の実際	伊藤 桂子	心理学の理論を活用した研究	
21 23 心理学研究の実際	伊藤 桂子	心理学を看護に応用した研究	
24 26 心理学を活用した研究の構想	伊藤 桂子	心理学の基礎的な知識を活用した研究の構想	
27 まとめ	伊藤 桂子	授業の総括	

開講科目名 / Course	看護政策特論	
時間割コード / Course Code	G5012	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)、望月 由紀子 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	荒木暁子 (看護学研究科・教授) 富岡由美 (看護学研究科・教授) 望月由紀子 (看護学研究科・教授) 島田陽子 (独立行政法人地域医療機能推進機構・理事)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	荒木暁子 毎週木曜日 13:30~14:00	
授業概要 /	保健医療福祉政策が大きく転換する中で、看護の立場から政策に提言することは住民の生活の質を保障するという観点から非常に重要である。看護政策の発展過程について政策の背景・展開方法、分析・評価等を踏まえて、新たな看護政策課題を明らかにし、保健医療福祉政策の最新の動向を見据えた政策提言を探究する。 院生が関心を持っている看護政策課題について、文献研究およびフィールド研究によって看護政策の現状・課題を明らかにし、新たな政策案をプレゼンテーションし、討論する。院生の主体的発表・討論を重視する。	

到達目標 /	1.保健医療福祉政策が大きく転換する中で、住民の生活の質を保障するという観点で看護の立場から政策に提言するために必要なプロセスを述べるができる。 2.看護政策の発展過程について政策の背景・展開方法、分析・評価等を踏まえて、新たな看護政策課題を述べるができる。 3.上記を踏まえ、保健医療福祉政策の最新の動向を見据えた政策提言書を作成できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1)知識・技能と課題解決力、(DP3)社会的責任・倫理観、(DP5)国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	課題に対する授業、自己学習とプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。 30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行うこと。
評価方法・基準 /	課題への取り組み(20%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(50%)で総合的に評価する。 プレゼンテーションについては、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。
フィードバック方法 /	プレゼンテーションについては、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。
教科書 /	・看護制度・政策論.看護管理学習テキスト第7巻 第2版.日本看護協会出版会 ・看護職者のための政策過程入門 第2版.日本看護協会出版会 他、課題に沿って提示する。
参考書 /	・世界一わかりやすい「医療政策」の教科書.津川友介著.医学書院 他、課題に沿って提示する。
備考(関連科目等) /	授業科目に関する内容について、事前に提示した資料等がある場合は、目を通しておくこと。学生が主体的に学習する。院生各自の課題を元にグループ討議を行う。 授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合には、Zoomを用いたリアルタイム配信にて実施する。 対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	荒木 暁子	講義の進め方と課題提示	
2 医療政策	荒木 暁子	我が国の医療政策	
3 医療政策	荒木 暁子	我が国の医療政策の動向	
4 看護政策	荒木 暁子	我が国の看護政策の変遷	
5 看護政策	荒木 暁子	我が国の看護政策の変遷	
6 看護政策	荒木 暁子	健師助産師看護師法の成立過程	
7 看護政策	荒木 暁子	保健師助産師看護師法の変遷と政策	
8 看護政策	荒木 暁子	我が国の看護政策の課題	
9 看護政策	荒木 暁子	我が国の看護政策の課題	
10 保健福祉政策	望月 由紀子	成人保健福祉の政策	
11 保健福祉政策	望月 由紀子	高齢者保健福祉の政策	
12 保健福祉政策	望月 由紀子	精神保健福祉の政策	
13 保健福祉政策	望月 由紀子	地域保健政策における課題	
14 母子保健政策	富岡 由美	母子保健福祉の政策	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
15 母子保健政策	富岡 由美	母子保健福祉の政策	
16 母子保健政策	富岡 由美	母子保健福祉の政策	
17 母子保健政策	富岡 由美	母子保健福祉の政策	
18 看護政策の形成過程	島田 陽子	看護政策の形成過程	
19 看護政策の形成過程	島田 陽子	看護政策の形成過程	
20 看護政策の形成過程	島田 陽子	看護政策の形成過程	
21 看護政策の形成過程	荒木 暁子	テーマの選定と文献レビュー	
22 看護政策の形成過程	荒木 暁子	テーマの選定と文献レビュー	
23 看護政策の形成過程	荒木 暁子	テーマの選定と文献レビュー	
24 看護政策の形成過程	荒木 暁子	政策提案書の作成	
25 看護政策の形成過程	荒木 暁子	政策提案書の作成	
26 看護政策の形成過程	荒木 暁子	政策提案書の作成	
27 看護政策の形成過程	荒木 暁子	発表・まとめ	

開講科目名 / Course	看護フイジ アセスメント論	
時間割コード / Course Code	G5013	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小坂 志保	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	橋本 裕 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)、小坂 志保 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Forms, ZOOM
担当教員 /	小坂志保(看護学研究科・准教授)、 瀧本雅昭(大森病院・看護部/急性・重症患者看護専門看護師)、竹田佳子(大森病院・看護部/小児看護専門看護師)、 山田亨(大森病院・看護部/急性・重症患者看護専門看護師)、 福田友秀(武蔵野大学・准教授/急性・重症患者看護専門看護師)、細萱順一(かわぐち心臓呼吸器病院/急性・重症患者看護専門看護師) 荒木暁子(看護学研究科・教授)、橋本裕(獨協医科大学看護学部・准教授/高齢者看護専門看護師)	
科目責任者連絡先(教室) /	小坂志保 shiho.kosaka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	小坂 毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	複雑な健康問題をもった対象の身体状況の査定と臨床判断に必要な基礎的な知識・技術を教授する。また、現在臨床実践を行っている各分野のエキスパートの指導を受けて、系統的・統合的なフィジカルアセスメントを実践する能力を習得する。	

到達目標 /	1. 臨床病態生理学特論・臨床薬理学特論で得た知識を活用し学内演習でそれぞれの専門分野の看護実践へとつながる基礎的なフィジカルアセスメントの知識と技術を習得し、説明することができる。 2. 専門看護師として必要な高度なフィジカルアセスメント能力について説明することができる。 3. 複雑な健康問題を持った対象の身体状況について系統的に全身を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術について理解し、シミュレーション教育を通して習得することが出来る。 4. 臨床を想定した複雑な事例に対してフィジカルアセスメントを実施し、高度看護実践の方針を説明することができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	1. 講義および実習室・シミュレーションラボ・救命救急センター等での演習を行う。 2. 60 時間の演習に対して、30時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題への取り組み50%(事前学習)、演習への取り組み30%(演習計画立案・演習実施・報告書)、最終プレゼンテーション20%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	講義・演習の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義・演習の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	1. 基本的なフィジカルアセスメントを復習した上で参加すること。 2. 演習に関する留意事項は別途提示する。 3. 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 看護におけるフィジカルアセスメントの必要性	淵本 雅昭	看護におけるフィジカルアセスメントの必要性 本科目の進め方・オリエンテーション	
2-3 高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント総論	淵本 雅昭	系統的全身診査とは、フィジカルアセスメントの基本的事項、現病歴の聴取(history taking), SOAPの記載方法	
4-7 高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論 呼吸器	山田 亨	呼吸のアセスメント, 呼吸器系の診察法、呼吸器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	
8-11 高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論 循環器	細萱 順一	循環器のアセスメント, 循環器系の診察法、循環器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	
12-15 高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論 消化器	福田 友秀	消化器のアセスメント, 消化器系の診察法、消化器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	
16-19 高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論 脳神経	淵本 雅昭	脳神経系のアセスメント, 脳神経系の診察法、脳神経系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	
20-23 高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論 筋骨格	山田 亨	外皮・感覚器系のアセスメント, 外皮・感覚器系の診察法、外皮・感覚器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
24-26 高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論 腎・泌尿器・内分泌代謝系	小坂 志保	腎・泌尿器・内分泌代謝系のアセスメント,腎・泌尿器・内分泌代謝系の診察法、腎・泌尿器・内分泌代謝系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	
27-28 多様な発達段階に対するフィジカルアセスメント 小児のフィジカルアセスメント	竹田 佳子	生理的变化をふまえた身体機能の評価、知能・認知や生活機能の評価、筋・骨格系のアセスメントを基にした小児から高齢者への人間の加齢変化の視点	
29-31 多様な発達段階に対するフィジカルアセスメント 高齢者のフィジカルアセスメント	橋本 裕	生理的变化をふまえた身体機能の評価、知能・認知や生活機能の評価、筋・骨格系のアセスメントを基にした小児から高齢者への人間の加齢変化の視点	
32-33 症状論1	山田 亨	呼吸困難の症状および兆候からのアセスメント	
34-35 症状論2	細萱 順一	胸痛の症状および兆候からのアセスメント	
36-37 症状論3	福田 友秀	腹痛の症状および兆候からのアセスメント	
38-39 症状論4	淵本 雅昭	頭痛の症状および兆候からのアセスメント	
40-41 統合演習計画	荒木 暁子,小坂 志保	演習計画立案	
42-53 総合演習 病院	淵本 雅昭,山田 亨,荒木 暁子,小坂 志保	東邦大学医療センター大森病院 (ICU、病棟等)	
54 看護フィジカルアセスメント論まとめ	荒木 暁子,小坂 志保	科目まとめ	

開講科目名 / Course	臨床薬理学特論	
時間割コード / Course Code	G5015	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	中瀬古 寛子	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	中瀬古 寛子 (専任教員)、森本 達也 (専任教員)、田中 耕一郎 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)、小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法 (ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM, Teams
担当教員 /	森本達也 (医学部・教授) 中瀬古寛子 (医学部・准教授) 田中耕一郎 (看護学研究科・教授) 武井義則 (医学部・教授) 平山忍 (大森病院・薬剤部) 越川一誠 (大森病院・薬剤部) 下山航平 (大森病院・薬剤部) 大久保諒 (大森病院・薬剤部) 天野懐人 (大森病院・薬剤部) 今川未紀 (大森病院・薬剤部) 青山剛一 (大森病院・薬剤部) 川上達也 (大森病院・薬剤部) 小川隆之 (大森病院・薬剤部) 荒木暁子 (看護学研究科・教授) 小林成光 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先 (教室) /	森本達也 tatsuya.morimoto med.toho-u.ac.jp 荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp 小林成光 masamitsu.kobayashi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	荒木暁子 毎週木曜日12:30 ~ 13:00 上記以外の専任教員、および専任教員以外は、授業時間後に対応する。	
授業概要 /	薬物は『両刃の剣』と呼ばれるように、治療や診断に極めて有用である反面、副作用や中毒の危険性も有する。臨床看護活動において薬物治療に対する理解は極めて重要である。薬物と人体の相互作用およびそれらの臨床応用について学ぶ。また、臨床現場で活動している臨床薬剤師の講義から実践的に学び、薬剤投与に関する判断、投与後の患者の観察、投薬を余儀なくされた患者の生活調整、回復力の促進、服薬管理に関する看護を考える。	

到達目標 /	1.人体に対する薬物の作用、作用点、作用機序の概念を説明できる。 2.薬物の吸収・分布・代謝・排泄および薬効に影響する因子について説明できる。 3.生体内活性物質の生理作用と病態との関連を薬物治療の観点から説明できる。 4.基本的な疾患・病態における薬物治療の根拠を説明できる。 5.代表的な薬物の作用、作用機序、副作用を列挙し、説明できる。 6.病態との関連を考慮し、薬剤投与を受ける患者の看護計画立案ができる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、 (DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	1.講義・宿題発表 2.30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	講義への取り組み40%、レポート・プレゼンテーション60%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	1)系統看護学講座薬理学吉岡充弘他医学書院 2)病態生理に基づく臨床薬理学清野裕(日本語版監修)MEDSi
参考書 /	1)系統看護学講座薬理学吉岡充弘他医学書院 2)病態生理に基づく臨床薬理学清野裕(日本語版監修)MEDSi
備考(関連科目等) /	本科目を受講するにあたり、生理学と薬理学について、十分な基礎知識を習得しておくことが前提となる。テキストを事前に読んでおくこと。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomやTeamsなどを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 薬物、薬理学、薬力学	森本 達也	・薬物とは何か ・薬理学のなりたちと様々な分野とのかかわり ・薬が作用するしくみ(薬物受容体、受容体と薬物の相互作用、イオンチャネル)	
3-4 薬物動態学	中瀬古 寛子	・薬物の投与経路と投与された薬物の体内での吸収、分布、代謝、排泄のしくみ ・薬物動態の指標 ・薬物相互作用(薬物動態的相互作用、薬力学的相互作用)	
5-6 薬効の個人差	武井 義則	・薬効の個人差に影響する因子(年齢、性別、妊娠、遺伝子) ・薬物使用の有益性と危険性 ・薬と法律	
7-8 抗アレルギー薬・抗炎症薬	大久保 諒	・抗アレルギー薬・抗炎症薬の体内動態 ・薬効・副作用	
9-10 心臓・血管系に作用する薬物	小川 隆之	・循環器系に作用する薬物のメカニズム ・代表的な心不全治療薬・抗高血圧症薬 ・抗狭心症薬および抗不整脈薬の作用	
11-12 抗がん薬	越川 一誠	・がん化学療法について副作用の症状・管理	
13-14 抗感染症薬	平山 忍	・抗菌薬の適正使用について薬剤選択、体内動態、薬効、毒性など	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
15-16 中枢神経系に作用する薬物	下山 航平	・中枢神経系の構造・機能について学ぶ 。また代表的な麻酔薬・催眠薬・頭痛薬の作用	
17-18 物質代謝に作用する薬物	天野 懐人	・脂質代謝および脂質異常症の作用メカニズム	
19-20 消化器に作用する薬物	川上 達也	・代表的な消化性潰瘍治療薬および制吐薬の作用	
21-22 漢方薬	田中 耕一郎	・漢方薬（消化器系・心身医学系）の作用機序・特徴	
23-24 呼吸器系に作用する薬物	今川 未紀	・呼吸器系に作用する薬物のメカニズム	
25-26 救急の際に使用される薬物	青山 剛一	・救急時使用薬の作用	
27 薬理学の基本的知識をもとに対象者へのアプローチを検討	荒木 暁子, 小林 成光	・各自の臨床事例について、その薬剤に対する作用と副作用、薬物動態の知識をもとに起きている現象や必要な看護を検討 ・各自の臨床事例をもとに、薬物投与後の患者モニタリングや生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るため看護技術について検討	

開講科目名 / Course	保健統計特論	
時間割コード / Course Code	G5025	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	坂本 なほ子	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	坂本 なほ子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的な要素 /	反転授業、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	PC
担当教員 /	坂本なほ子 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	坂本なほ子 naoko.sakamoto med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、12:45～13:00	
授業概要 /	本講義では、統計学についての基礎的な知識を学び、健康・医療の情報について、「統計学」の考え方に基づく理解力を高めます。	
到達目標 /	・統計学の基礎的な事項を説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、 (DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。60時間の時間外学習を行うこと。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み(20%)、試験(80%)からに評価する。	
フィードバック方法 /	授業内で解説を行う。	

教科書 /	坂本なほ子. 『はじめての保健統計学』改定第2版サイオ出版. 2026年
参考書 /	適宜、紹介する。
備考(関連科目等) /	遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	坂本 なほ子	科目の概要と進め方	
2 記述統計	坂本 なほ子	記述統計	
3 記述統計	坂本 なほ子	記述統計	
4 推測統計	坂本 なほ子	確率的な考え方	
5 推測統計	坂本 なほ子	二項分布・ポアソン分布	
6 推測統計	坂本 なほ子	正規分布	
7 推測統計	坂本 なほ子	推測統計の基礎	
8 推測統計	坂本 なほ子	様々な確率分布	
9 推測統計	坂本 なほ子	推定	
10 推測統計	坂本 なほ子	仮説検定	
11 推測統計	坂本 なほ子	検定方法の選択・t検定	
12 推測統計	坂本 なほ子	F検定・分割表の検定	
13 推測統計	坂本 なほ子	対応のある検定・一元配置分散分析	
14 推測統計	坂本 なほ子	無相関検定	
15 統計ソフトの利用	坂本 なほ子	表計算ソフトでの集計	
16 統計ソフトの利用	坂本 なほ子	統計ソフトを利用したデータ解析	
17 統計ソフトの利用	坂本 なほ子	統計ソフトを利用したデータ解析	
18 統計ソフトの利用	坂本 なほ子	統計ソフトを利用したデータ解析	
19 統計ソフトの利用	坂本 なほ子	統計ソフトを利用したデータ解析	
20 政府統計	坂本 なほ子	人口静態統計、人口動態統計	
21 政府統計	坂本 なほ子	国民生活基本統計、患者統計、医療施設統計	
22 政府統計	坂本 なほ子	学校保健統計、社会生活基本統計	
23 政府統計	坂本 なほ子	感染症発生動向調査、・国民健康・栄養調査	
24 人口統計	坂本 なほ子	日本の人口、人口ピラミッド、死亡率、年齢調整死亡率	
25 人口統計	坂本 なほ子	出生率、主な健康指標	
26 人口統計	坂本 なほ子	生命表、平均寿命	
27 総括	坂本 なほ子	全体の総括	

開講科目名 / Course	感染制御学演習	
時間割コード / Course Code	G7106	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 寅吉	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 寅吉 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用しない
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	
担当教員 /	小林寅吉(看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	小林寅吉kobatora med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	小林寅吉毎週木曜日12:00-13:00	
授業概要 /	主要な病原微生物を用いた実験と解析を中心に演習を行う。	
到達目標 /	1. 感染制御学特講を基盤に医療関連感染の実態を把握するための知識と技術を身につけ実施できる。 2. 抗菌薬耐性菌が生じるメカニズムと伝播経路を理解し、適切な遮断の実行に結びつけ実施できる。 3. 病院感染やアウトブレイクの発生をとらえる各種サーベイランス方法を踏まえ、疫学的側面から	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、 (DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み(80%)、研究(実験)の成果(20%)で総合的に評価する。	

フィードバック方法 /	授業内で講評を伝え、課題を共有する。
教科書 /	なし
参考書 /	小林寅吉（編）「新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進 感染制御学・微生物学」メヂカルフレンド社・2024年（第3版） 小林寅吉「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2025年（改訂第2版） 小林寅吉「看護の実践で役に立つ 基本からわかる、抗菌薬適正使用」ヴァンメディカル・2025年（初版） 小林寅吉「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年（初版） 藤本秀士「わかる!身につく!病原体・感染・免疫」南山堂・2017年（改訂3版） CLSIガイドライン：Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing 31st ed. CLSI supplement M100, 2021. その他、講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	対面形式で実施する。 実験を主体とし、結果に対する考察をゼミナール形式で行う。 感染制御学特講で学習した内容を復習しておくこと。 医療関連感染などに関係する各種ガイドラインについて調べておくこと。 医療関連感染に関する研究テーマについて具体的にあげ、必要な研究法について参考となる文献を準備しておくこと。 病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 感染予防策	小林 寅吉	WHOのバイオセーフティー概念について解説する。レベル別感染予防策と標準予防具の使用法、性能について実際に評価し理解する。	
2 抗菌薬適正使用	小林 寅吉	抗菌薬および消毒薬の作用機序と適正使用法について理解し、その効力について実験的検証を行う。 - 抗菌薬 -	
3 抗菌薬適正使用	小林 寅吉	抗菌薬および消毒薬の作用機序と適正使用法について理解し、その効力について実験的検証を行う。 - 消毒薬 -	
4 感染症診断	小林 寅吉	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。 1.各種染色	
5 感染症診断	小林 寅吉	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。 2.培養同定	
6 感染症診断	小林 寅吉	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。 3.迅速診断	
7 化学療法	小林 寅吉	抗菌薬感受性測定法の原理を理解し、CLSIガイドライン準じた各種病原微生物に対する感受性測定と判定を実施し、治療効果との整合性を検証する。1.MIC測定	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
8 化学療法	小林 寅吉	抗菌薬感受性測定法の原理を理解し、CLSIガイドライン準じた各種病原微生物に対する感受性測定と判定を実施し、治療効果との整合性を検証する。2.殺菌曲線	
9 抗菌薬耐性(AMR)	小林 寅吉	不適切な化学療法によって生じる薬剤耐性菌の出現機序を実験的に検証する。 1.耐性菌の選択・誘導	
10 抗菌薬耐性(AMR)	小林 寅吉	不適切な化学療法によって生じる薬剤耐性菌の出現機序を実験的に検証する。 2.菌交代現象	
11 感染領域別サーベイランスの実際	小林 寅吉	感染管理に必須の各種サーベイランス(血流感染、術後感染)を実際の成績を用いて解析する。	
12 感染領域別サーベイランス	小林 寅吉	感染管理に必須の各種サーベイランス(人工呼吸器肺炎、耐性菌)を実際の成績を用い解析する。	
13 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	
14 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	
15 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	
16 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	
17 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	
18 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	
19 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	
20 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	
21 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	
22 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	
23 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	
24 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	
25 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	
26 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	
27 演習内容の研究テーマへの活用	小林 寅吉	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	

開講科目名 / Course	がん看護学演習	
時間割コード / Course Code	G7110	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小林 成光	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小林 成光 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Form, ZOOM
担当教員 /	小林成光 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	masamitsu.kobayashi med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00	
授業概要 /	がん看護学に関する新たな知の構築に向けて、自己が探求したい研究課題について適切な研究計画書を作成し、看護学特別研究へつなげるよう教授する。	
到達目標 /	1.文献検討やフィールドワーク、専門家へのコンサルテーションを実施し、自己の研究課題を明確にし、研究計画書素案を作成し説明できる。 2.研究の可能性を検討するための予備的な研究計画を記述できる。 3.がん看護学に関する新たな知の構築に向けて、研究デザインを検討し、看護学特別研究の計画を記述できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	1 . ゼミ形式、文献検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。 2 . 30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。	

フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。
教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってonlineを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 課題の明確化	小林 成光	自己の研究課題を明確にする	
3-8 研究対象の検討	小林 成光	これまでの文献検討やフィールドワークを通して、研究対象を明確にする	
9-14 研究計画書素案の作成	小林 成光	文献検討、専門家へのコンサルテーションなどを実施し、研究計画書素案を作成する	
15-20 研究方法の妥当性・信頼性の検討	小林 成光	必要な予備的または試験的研究を行う	
21-24 研究計画書の作成	小林 成光	予備調査の結果をもとに研究計画書を作成する	
25-27 研究計画書の発表	小林 成光	研究計画書を発表し、他者からの意見をもとに更なる検討を行い、最終版を作成する	

開講科目名 / Course	高齢者看護学演習	
時間割コード / Course Code	G7114	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	横井 郁子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	藤野 秀美(専任教員)、横井 郁子(専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	PBL(課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	コンピュータ、大学で整備された情報通信ネットワーク
担当教員 /	横井郁子(看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	横井郁子 yokoiyk med.toho-u.ac.jp	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30~13:00	
授業概要 /	関心分野の文献検討を行い問いを立てる作業を行う。問いをさらに具体的に、かつ、仮説を導くためにフィールドワークを行う。	
到達目標 /	1 問いを立てながら自身の研究課題を明確にするためのフィールドワークを計画することができる。 2 フィールドワークの成果をもとに自身の研究課題とともに課題解決のための研究方法について説明することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連(看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽	
事前・事後学習とその時間 /	フィールドの特性を十分考慮して課題に臨めるよう準備する。 30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	授業への取り組み40%、レポート60% レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。	
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。	

教科書 /	必要に応じて提示する。
参考書 /	必要に応じて提示する。
備考(関連科目等) /	学生によるプレゼンテーションおよび討議 対面形式と遠隔形式を組み合わせる。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 高齢者看護学分野における研究の動向	横井 郁子	研究課題と社会背景	
2 研究課題の背景1	横井 郁子	文献レビュー	
3 研究課題の背景2	横井 郁子	文献レビュー	
4 研究課題の背景3	横井 郁子	文献レビュー	
5 研究課題の背景4	横井 郁子	文献レビュー	
6 研究課題の探求1	横井 郁子	フィールドワーク	
7 研究課題の探求2	横井 郁子	フィールドワーク	
8 研究課題の探求3	横井 郁子	フィールドワーク	
9 研究課題の探求4	横井 郁子	フィールドワーク	
10 研究課題の探求5	横井 郁子	フィールドワーク	
11 研究課題の探求6	横井 郁子	フィールドワーク	
12 研究課題の探求7	横井 郁子	フィールドワーク	
13 研究課題の探求8	横井 郁子	フィールドワーク	
14 研究課題の探求9	横井 郁子	フィールドワーク	
15 研究課題の探求10	横井 郁子	フィールドワーク	
16 研究課題の探求11	横井 郁子	フィールドワーク	
17 研究課題の探求12	横井 郁子	フィールドワーク	
18 課題の焦点化1	横井 郁子	フィールドノーツの分析	
19 課題の焦点化2	横井 郁子	フィールドノーツの分析	
20 課題の焦点化3	横井 郁子	フィールドノーツの分析	
21 課題の焦点化4	横井 郁子	フィールドノーツの分析	
22 課題への取り組み方法の検討1	横井 郁子	発表と討議	
23 課題への取り組み方法の検討2	横井 郁子	発表と討議	
24 課題への取り組み方法の検討3	横井 郁子	発表と討議	
25 課題への取り組み方法の検討4	横井 郁子	発表と討議	
26 研究計画立案1	横井 郁子	発表と討議	
27 研究計画立案2	横井 郁子	発表と討議	

開講科目名 / Course	性・生殖看護学演習	
時間割コード / Course Code	G7116	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	PC、Zoom
担当教員 /	富岡 由美 (看護学研究科教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡 由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡 由美 月曜日 8時～9時	
授業概要 /	1.臨地演習と学内での討議により性・生殖看護学の分野で用いられる健康支援システムやモデルについて把握することができる。 2.フィールドワークを通して研究課題の明確化、研究計画の立案をすることができる。	
到達目標 /	性・生殖看護学特講を基盤に、リプロダクティブヘルス/ライツに関する問題を追及し、新たなケア技術を開発するための知識と技術を探求し実践する。特に女性のライフサイクル各期の性と生殖に関する諸問題を探求し、健康の保持増進に寄与する健康支援モデルの検討を行い、ヘルスプロモーションの視点から看護ケア、看護介入プログラムを開発できる能力を修得し、性・生殖の分野で必要な研究者としての資質と態度を育成する。	
ディプロマ・ポリシーとの関連(看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	フィールドの特性を十分理解するために文献・資料を収集し、事前に学習を行うこと。	
評価方法・基準 /	出席50%、授業中の態度や取り組み20%、レポート30%	

フィードバック方法 /	レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。
教科書 /	特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。
参考書 /	特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。
備考(関連科目等) /	授業科目に関する内容について、あらかじめ新聞や文献等に目を通しておくこと。遠隔形式の場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いた講義をリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 科目のオリエンテーション	富岡 由美	オリエンテーション：性・生殖看護に関する自己の課題を設定する	
3-4 研究課題の明確化	富岡 由美	性・生殖看護に関する文献レビュー	
5-6 研究課題の明確化	富岡 由美	性・生殖看護に関する文献レビュー	
7-8 研究課題の明確化	富岡 由美	性・生殖看護に関する文献レビュー	
9-10 フィールドワーク	富岡 由美	フィールドワークの課題の決定	
11-12 フィールドワーク	富岡 由美	フィールドワークの対象の設定	
13-14 フィールドワーク	富岡 由美	フィールドワークの計画立案	
15-16 フィールドワーク	富岡 由美	フィールドワークの計画設定	
17-18 フィールドワーク	富岡 由美	計画に沿ってフィールドワークの実施	
19-20 フィールドワーク	富岡 由美	計画に沿ってフィールドワークの実施	
21-22 フィールドワーク	富岡 由美	計画に沿ってフィールドワークの実施	
23-24 フィールドワーク	富岡 由美	得られた成果について考察をする	
25-26 フィールドワーク	富岡 由美	得られた成果について考察をする	
27 フィールドワークのまとめ	富岡 由美	フィールドワークの成果の発表	

開講科目名 / Course	小児看護学演習	
時間割コード / Course Code	G7118	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 暁子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	荒木 暁子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, Zoom, PC
担当教員 /	荒木暁子(看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	荒木暁子 akiko.araki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	子どもの発達や健康に関する課題とその影響について家族を含めて捉え、看護支援について検討する。また、研究を遂行する際の研究方法としてのデータ収集および分析方法について学ぶ。	
到達目標 /	1.文献検討やフィールドワークをとおして、子どもや家族が抱える課題・看護支援について述べる ことができる。 2.研究課題に沿ったデータ収集方法や分析方法について述べる ことができる。 3.研究計画の概要を記述することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、 (DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	研究課題に関連する文献検討を主体的に行い、フィールドワーク等をとおして実現可能な研究計画書の作成につなげる。 30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)で総合的に評価する。	

フィードバック方法 /	評価については授業内で講評し、課題の共有をする。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークでは対象者に対する倫理的配慮を十分に行う。 ・研究課題に関連する学術集会やセミナーには積極的に参加する。 ・遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 オリエンテーション	荒木 暁子	オリエンテーション	
2 フィールドワーク	荒木 暁子	フィールドでの観察・インタビューの実施	
3 フィールドワーク	荒木 暁子	フィールドでの観察・インタビューの実施	
4 フィールドワーク	荒木 暁子	フィールドでの観察・インタビューの実施	
5 フィールドワーク	荒木 暁子	フィールドでの観察・インタビューの実施	
6 フィールドワーク	荒木 暁子	フィールドでの観察・インタビューの実施	
7 フィールドワークの検討	荒木 暁子	データ収集・分析方法の検討	
8 フィールドワークの検討	荒木 暁子	データ収集・分析方法の検討	
9 フィールドワーク	荒木 暁子	フィールドでの観察・インタビューの実施	
10 フィールドワーク	荒木 暁子	フィールドでの観察・インタビューの実施	
11 フィールドワーク	荒木 暁子	フィールドでの観察・インタビューの実施	
12 フィールドワーク	荒木 暁子	フィールドでの観察・インタビューの実施	
13 フィールドワーク	荒木 暁子	フィールドでの観察・インタビューの実施	
14 フィールドワーク	荒木 暁子	フィールドでの観察・インタビューの実施	
15 フィールドワークの検討	荒木 暁子	データ収集・分析方法の検討	
16 フィールドワークの検討	荒木 暁子	データ収集・分析方法の検討	
17 概念分析	荒木 暁子	探求したい課題に関する概念分析	
18 概念分析	荒木 暁子	探求したい課題に関する概念分析	
19 概念分析	荒木 暁子	探求したい課題に関する概念分析	
20 概念分析	荒木 暁子	探求したい課題に関する概念分析	
21 サブストラクション	荒木 暁子	探求したい課題に関するサブストラクション	
22 サブストラクション	荒木 暁子	探求したい課題に関するサブストラクション	
23 サブストラクション	荒木 暁子	探求したい課題に関するサブストラクション	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
24 研究計画	荒木 暁子	研究計画に関するディスカッション	
25 研究計画	荒木 暁子	研究計画に関するディスカッション	
26 研究計画	荒木 暁子	研究計画に関するディスカッション	
27 まとめ	荒木 暁子	授業のまとめ	

開講科目名 / Course	基礎看護学演習	
時間割コード / Course Code	G7122	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	小坂 志保	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	菊池 麻由美 (専任教員)、小坂 志保 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	zoom
担当教員 /	小坂志保(看護学研究科・准教授) 菊池麻由美(看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	菊池麻由美 mayumi.kikuchi med.toho-u.ac.jp 小坂志保 shiho.kosaka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30-13:00	
授業概要 /	<p>・ 勘や経験に頼ったり、単にマニュアルやプロトコルに則るのではなく、最新のevidenceをもとに看護実践を行うことや、臨床看護師の看護研究を促進できる人材育成を目標として、自身のテーマに沿った国内外の文献を検索し、精読することによって具体的に根拠に基づく看護ケア(Evidence based practice:EBP)の在り方について検討し、考察を深め他者へ効果的なプレゼンテーションができる能力を養う機会とする。</p> <p>・ 自身の看護実践と文献検討を照らし合わせながら今後の研究テーマについて検討し、Research Questionの創出を目指す。</p> <p>・ 参与観察および個別インタビューによるデータ収集および質的なデータの分析を行い、質的研究の方法の理解、修得をめざす。</p>	

到達目標 /	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の現場で根拠に基づいた実践を行い、様々な看護ケアを科学的・哲学的に検証し探求することを目的として、国内外の文献を検索・検討・抄読したうえで、自身の考えを論理的に説明することができる。 ・自身の看護実践をもとにテーマを創出し、看護ケアに関連する文献を分析的・批判的に読み、まとめ・プレゼンテーションすることができる。 ・看護実践と文献検討から、clinical questionをresearch questionに転換し研究テーマを明確化できる。
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。 受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前準備をして臨むこと。
評価方法・基準 /	課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(60%)で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する
備考(関連科目等) /	授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。 各自の臨床経験を振り返りつつ、意欲的に参加することを期待する。 あらかじめ提示した資料を丁寧に抄読して参加してください。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 根拠に基づいた実践の導入	菊池 麻由美, 小坂 志保	科目のオリエンテーション 根拠に基づいた実践(Evidence Based Practice)の紹介	
2 根拠に基づいた実践の探求	菊池 麻由美, 小坂 志保	看護実践とEvidence Based Practiceの関連について検討	
3-5 文献検索方法	菊池 麻由美, 小坂 志保	Pubmed/CINAHLを用いてResearch questionに基づく文献検索の実践	
6 プレゼンテーション方	小坂 志保	英語文献の紹介方法	
7-8 文献検索	小坂 志保	関心ある自身のテーマに沿って関連文献の検索	
9-12 文献検討(量的研究)	小坂 志保	量的研究論文の精読	
13-15 プレゼンテーション(量的研究)	菊池 麻由美, 小坂 志保	量的研究論文について自身の考察とともにプレゼンテーション	
16-18 質的データの収集方法	菊池 麻由美, 小坂 志保	質的研究と量的研究のパースペクティブ・方法の違い データ収集方法 : 参与観察 データ収集方法 : インタビュー	
19-21 質的データ収集計画の立案・データ収集	菊池 麻由美, 小坂 志保	質的データの収集	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
22-24 質的データの分析	菊池 麻由美, 小坂 志保	切片化 コード化 カテゴリー化	
25 研究目的と研究方法	菊池 麻由美, 小坂 志保	自分の研究テーマに適した研究デザイン、データ収集方法、データ分析方法の検討	
26 Clinical question からResearch questionへの転換・Research Questionの創出	菊池 麻由美, 小坂 志保	文献検討を通して、Clinical QuestionからResearch Questionへの転換を行う 自身の研究テーマとなるResearch questionを見出す	
27 まとめ	菊池 麻由美, 小坂 志保	授業の総括	

開講科目名 / Course	臨床看護学演習	
時間割コード / Course Code	G7124	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	原沢 のぞみ	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	原沢 のぞみ (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	ZOOM、PC
担当教員 /	原沢のぞみ (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	原沢のぞみ nozomi.harasawa med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:45 13:00	
授業概要 /	専門領域の研究の動向を踏まえ、研究課題を抽出できる。研究課題をもとにフィールドワークの計画、実施、評価を行い、研究テーマを精選することができる。講義はプレゼンテーションを主体とする。	
到達目標 /	各自の専門領域に関する文献レビューとフィールドワークを行い、研究テーマを明確化することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	プレゼンテーション40%、フィールドワークによる取組み40%、レポート20%で評価する。評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。	
フィードバック方法 /	講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。	

教科書 /	参考文献は、適宜提示する。
参考書 /	参考文献は、適宜提示する。
備考(関連科目等) /	対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 - 2 臨床看護学演習	原沢 のぞみ	ガイダンス	
3 - 6 臨床看護学演習	原沢 のぞみ	専門領域における研究の動向	
7 - 10 臨床看護学演習	原沢 のぞみ	専門領域における研究課題の抽出	
11 - 14 臨床看護学演習	原沢 のぞみ	専門領域における研究課題の抽出	
15 - 18 臨床看護学演習	原沢 のぞみ	フィールドワーク計画・実施	
19 - 22 臨床看護学演習	原沢 のぞみ	フィールドワーク実施評価・中間発表	
23 - 25 臨床看護学演習	原沢 のぞみ	フィールドワークの結果分析	
26 - 27 臨床看護学演習	原沢 のぞみ	演習のまとめ	

開講科目名 / Course	在宅看護学演習	
時間割コード / Course Code	G7206	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	成澤 明	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	成澤 明 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom
担当教員 /	成澤明 (看護学研究科・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	成澤明 akira.narusawa med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12:30-13:00	
授業概要 /	1. 在宅看護領域における研究テーマを主体的に選定し文献検討、理論分析を論文にまとめる。 2. 研究実施に必要な調整能力と遂行能力を養い研究計画書に基づき研究フィールドの確保、データ収集、および分析を行う。	
到達目標 /	1. 在宅看護学領域で用いられている研究方法を探求し、研究論文を批判的に吟味・検討し説明できる。 2. 予備的研究の演習等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、 (DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。	

フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。 課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、個別に対面で評価しながら返却する。
教科書 /	必要な文献を適宜紹介する。
参考書 /	必要な文献を適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	対面形式と遠隔形式を組み合わせる。授業はゼミ形式で行う。 紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 ガイダンス	成澤 明	在宅看護学演習ガイダンス	
2 在宅看護と在宅ケア 1	成澤 明	在宅看護の現状と課題	
3 在宅看護と在宅ケア	成澤 明	在宅看護の現状と課題	
4 在宅ケアと地域包括ケアシステム 1	成澤 明	在宅療養の現状と課題を地域包括ケアシステムの視点で明確化	
5 在宅ケアと地域包括ケアシステム 2	成澤 明	在宅療養の現状と課題を地域包括ケアシステムの視点で明確化	
6 地域と地域包括ケアシステム 1	成澤 明	地域の現状と課題を地域包括ケアシステムの視点で明確化	
7 地域と地域包括ケアシステム 2	成澤 明	地域の現状と課題を地域包括ケアシステムの視点で明確化	
8 フィールドワーク概要 1	成澤 明	フィールドワークへの理解	
9 フィールドワーク概要 2	成澤 明	フィールドワークへの理解	
10 フィールドワークの実践 1	成澤 明	フィールドワーク内容の理解	
11 フィールドワークの実践 2	成澤 明	フィールドワーク内容の理解	
12 フィールドワーク計画の検討 1	成澤 明	フィールドワーク計画の検討	
13 フィールドワーク計画の検討 2	成澤 明	フィールドワーク計画の検討	
14 フィールドワーク実践の結果発表 1	成澤 明	フィールドワーク実践の発表と評価	
15 フィールドワーク実践の結果発表 2	成澤 明	フィールドワーク実践の発表と評価	
16 研究課題の明確化 1	成澤 明	フィールドワークを踏まえ研究課題の明確化	
17 研究課題の明確化 2	成澤 明	フィールドワークを踏まえ研究課題の明確化	
18 研究課題の発表 1	成澤 明	在宅看護学領域における研究課題の発表と評価	
19 研究課題の発表 2	成澤 明	在宅看護学領域における研究課題の発表と評価	
20 研究計画書の作成 1	成澤 明	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	
21 研究計画書の作成 2	成澤 明	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
22 研究計画書の作成 3	成澤 明	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	
23 研究計画書の作成 4	成澤 明	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	
24 研究計画の発表 1	成澤 明	研究計画の発表	
25 研究計画の発表 2	成澤 明	研究計画の発表	
26 研究計画の評価 1	成澤 明	研究計画の評価と課題の明確化	
27 研究計画の評価 2	成澤 明	研究計画の評価と課題の明確化	

開講科目名 / Course	地域看護・システム演習	
時間割コード / Course Code	G7208	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	望月 由紀子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	PBL (課題解決型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、12:30～13:00	
授業概要 /	学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。	
到達目標 /	1. 文献の講読やフィールドワークを通じて、地域の健康課題を抽出できる。 2. 個人・家族・集団・地域を対象とし、住民とのパートナーシップにより地域の健康向上を目指した地域看護活動の展開方法を具体的に説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ	

事前・事後学習とその時間 /	英語の書籍の精読を基にしたプレゼンテーションとフィールドワークよりすすめる。 授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合には、(Zoom を用いたリアルタイム配信)にて実施する。 対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。 30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。 学習の成果をプレゼンテーションおよびレポートとして提出する。
評価方法・基準 /	講義・演習への取り組み(20%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(40%)で総合的に評価する。 プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。 レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。
フィードバック方法 /	レポート内容は、3段階で評価し返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	別途提示する。
参考書 /	別途提示する。
備考(関連科目等) /	事前に予習をして講義に臨むこと。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 講義ガイダンス	望月 由紀子	本講義の目的と進め方	
2 地域看護活動の展開	望月 由紀子	地域看護におけるアセスメント	
3 地域看護活動の展開	望月 由紀子	地域看護計画の立案(1)	
4 地域看護活動の展開	望月 由紀子	地域看護計画の立案(2)	
5 地域看護活動の展開	望月 由紀子	地域看護における評価と科学的根拠(1)	
6 地域看護活動の展開	望月 由紀子	地域看護における評価と科学的根拠(2)	
7 地域看護活動の展開	望月 由紀子	地域看護におけるリーダーシップ	
8 地域看護活動の展開	望月 由紀子	地域ケアシステムの構築(1)	
9 地域看護活動の展開	望月 由紀子	地域ケアシステムの構築(2)	
10 演習計画立案	望月 由紀子	上記の学習を踏まえたフィールドワーク 先の検討(1)	
11 演習計画立案	望月 由紀子	上記の学習を踏まえたフィールドワーク 先の検討(2)	
12 演習計画立案	望月 由紀子	上記の学習を踏まえたフィールドワーク 先の検討(3)	
13 演習計画立案	望月 由紀子	上記の学習を踏まえたフィールドワーク 先の検討(4)	
14 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク(1)	
15 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク(2)	
16 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク(3)	
17 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク(4)	
18 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク(5)	
19 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク(6)	
20 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク(7)	
21 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク(8)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
22 フィールドワーク成果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく地域看護活動 展開方法の検討(1)	
23 フィールドワーク成果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく地域看護活動 展開方法の検討(2)	
24 フィールドワーク成果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく地域看護活動 展開方法の検討(3)	
25 フィールドワーク成果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく地域看護活動 展開方法の検討(4)	
26 フィールドワーク成果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく地域看護活動 展開方法の検討(5)	
27 フィールドワーク成果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく地域看護活動 展開方法の検討(6)	

開講科目名 / Course	地域看護健康政策演習	
時間割コード / Course Code	G7210	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	望月 由紀子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、12:30～13:00	
授業概要 /	臨地演習と学内カンファレンスを織り交ぜ、地域看護分野のさまざまな場面で活用、応用できる資質を形成する。	
到達目標 /	1．健康政策の変遷を踏まえつつ、地域保健法や介護保険法などの健康政策について、制度の実践活動事例にあたり、健康政策を具現化するための発展過程およびそこに求められる知識・技術を説明できる。 2．政策化するための過程、計画立案、評価など、地域看護の専門家として必要な研究態度、知識、技術について説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ	

事前・事後学習とその時間 /	臨地演習と学内カンファレンスを織り交ぜ理解と知識の定着をはかる。 授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合には、(Zoom を用いたリアルタイム配信)にて実施する。 対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。 30時間の演習に対して60時間の時間外学習を行う。 学習成果をレポートとしてまとめ提出する。
評価方法・基準 /	課題への取り組み(20%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(40%)で総合的に評価する。 評価については授業内で講評し、課題を共有する。
フィードバック方法 /	レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。 講評や解説(質問の意図、復習が必要な内容等)は、講義中およびActive Academy・クラスルーム
教科書 /	教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。
参考書 /	教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。
備考(関連科目等) /	事前に予習をして講義に臨むこと。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 講義ガイダンス	望月 由紀子	本演習の目的と進め方	
2 政策形成過程	望月 由紀子	政策化、施策化、事業化とは(文献研究)	
3 政策形成過程	望月 由紀子	政策化、施策化、事業化とは(文献研究)	
4 政策形成過程	望月 由紀子	政策化、施策化、事業化のプロセス(演習)	
5 政策形成過程	望月 由紀子	政策化、施策化、事業化のプロセス(演習)	
6 政策形成過程	望月 由紀子	計画立案(演習)	
7 政策形成過程	望月 由紀子	政策形成における予算化(演習)	
8 政策形成過程	望月 由紀子	政策形成における予算化(演習)	
9 政策形成過程	望月 由紀子	政策形成に関するディベート(演習)	
10 政策形成過程	望月 由紀子	政策形成に関するディベート(演習)	
11 政策形成過程	望月 由紀子	「政策化等に求められる知識・技術」についての討論を実施する(演習)	
12 政策形成過程	望月 由紀子	「政策化等に求められる知識・技術」についての討論を実施する(演習)	
13 施策化事例の分析	望月 由紀子	施策化の実践事例の分析	
14 施策化事例の分析	望月 由紀子	施策化の実践事例の分析	
15 施策化事例の分析	望月 由紀子	上記演習を題材に「政策化等に求められる知識・技術」についての討論を実施する(演習)	
16 施策化事例の分析	望月 由紀子	上記演習を題材に「政策化等に求められる知識・技術」についての討論を実施する(演習)	
17 施策化事例の分析	望月 由紀子	事業化、施策化の実践事例の分析(演習)	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
18 施策化事例の分析	望月 由紀子	事業化、施策化の実践事例の分析（演習）	
19 施策化事例の分析	望月 由紀子	事業化、施策化の実践事例の分析（演習）	
20 施策化事例の分析	望月 由紀子	事業化、施策化の実践事例の分析（演習）	
21 施策化の実践事例の分析	望月 由紀子	「発展要因」、「阻害要因」について討論し、求められる知識・技術を明らかにする。（演習）	
22 施策化の実践事例の分析	望月 由紀子	「発展要因」、「阻害要因」について討論し、求められる知識・技術を明らかにする。（演習）	
23 施策化の実践事例の分析	望月 由紀子	上記演習を題材に「発展要因」、「阻害要因」について討論し、求められる知識・技術を明らかにする。（演習）	
24 施策化の実践事例の分析	望月 由紀子	新たに事業化、施策化、政策化への取組みの事例を用いて具現化するための発展過程を考察する（演習）	
25 施策化の実践事例の分析	望月 由紀子	新たに事業化、施策化、政策化への取組みの事例を用いて具現化するための発展過程を考察する（演習）	
26 施策化の実践事例の分析	望月 由紀子	健康政策と地域看護活動に対する研究的取組み	
27 施策化の実践事例の分析	望月 由紀子	健康政策と地域看護活動に対する研究的取組み	

開講科目名 / Course	精神看護学演習	
時間割コード / Course Code	G7216	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	伊藤 桂子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	伊藤 桂子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Googleclassroom, zoom, pc
担当教員 /	伊藤桂子(看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	伊藤桂子 keiko.itou med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:45~13:00	
授業概要 /	精神保健・精神看護領域における研究テーマを主体的に選定し文献検討、理論分析を論文にまとめる。 研究実施に必要な調整能力と遂行能力を養い研究計画書に基づき研究フィールドの確保、データ収集、および分析を行い、看護学特別研究へつながるように教授する。	
到達目標 /	1. 精神保健・精神看護学領域で用いられている研究方法を探求し、研究論文を批判的に吟味・検討できる。 2. 予備的研究の演習等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観	

事前・事後学習とその時間 /	フィールドワークは十分な準備をもって臨み、学生が主体的に取り組む。 エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う。 主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。 30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。 。
フィードバック方法 /	講義内で講評や解釈を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 課題とするテーマの明確化	伊藤 桂子	自己の研究課題とするテーマを明確にする	
2-3 研究対象の検討	伊藤 桂子	これまでの文献検討を通して、研究対象を明確にする	
4-5 研究対象の検討	伊藤 桂子	これまでの文献検討を通して、研究対象を明確にする	
6-7 フィールドワーク計画立案	伊藤 桂子	フィールドワークにおける演習計画を立案する	
8-9 フィールドワーク計画立案	伊藤 桂子	フィールドワークにおける演習計画を立案する	
10-11 フィールドワーク	伊藤 桂子	フィールドワークを実施する	
12-13 フィールドワーク	伊藤 桂子	フィールドワークを実施する	
14-15 フィールドワーク	伊藤 桂子	フィールドワークを実施する	
16-17 フィールドワーク	伊藤 桂子	フィールドワークを実施する	
18-19 研究課題の明確化	伊藤 桂子	研究課題に関連する現象を構成する概念を抽出する	
20-21 研究課題の明確化	伊藤 桂子	研究課題に関連する現象を構成する概念を明確にする	
22-23 研究計画書の作成	伊藤 桂子	自己の研究課題を明らかにするための適切なデザイン、方法を検討し研究計画を作成する	
24-25 研究計画書の作成	伊藤 桂子	自己の研究課題を明らかにするための適切なデザイン、方法を検討し研究計画を作成する	
26-27 研究計画の発表	伊藤 桂子	研究計画書を発表し、他者からの意見をもとに更なる検討を行い、最終版を作成する	

開講科目名 / Course	公衆衛生看護学演習	
時間割コード / Course Code	G7218	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	望月 由紀子	
科目区分 / Course Group	(専 門 科 目) / (専 門 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	望月 由紀子 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的な要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的な名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google クラスルーム, Google Forms等
担当教員 /	望月 由紀子 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	望月 由紀子 yukiko.mochizuki med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日、13:30～14:00	
授業概要 /	文献検討やフィールドワークを通して、地域の健康課題を探求し、さらに、個人・家族・集団・地域を対象とし、住民とのパートナーシップにより地域の健康向上を目指した公衆衛生看護活動の展開方法を探求する。	
到達目標 /	1．文献検討やフィールドワークを通して、地域の健康課題を説明できる。 2．個人・家族・集団・地域を対象とし、住民とのパートナーシップにより地域の健康向上を目指した公衆衛生看護活動の展開方法を具体的に説明できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ	
事前・事後学習とその時間 /	30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。 学習成果をレポートとしてまとめ提出する。	

評価方法・基準 /	講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。 プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。 レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。
フィードバック方法 /	プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。 レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、返却する。
教科書 /	別途提示する。
参考書 /	別途提示する。
備考(関連科目等) /	授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせる。 遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。 対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 講義ガイダンス	望月 由紀子	本講義の目的と進め方	
2 公衆衛生看護活動の展	望月 由紀子	公衆衛生看護におけるアセスメント	
3 公衆衛生看護活動の展	望月 由紀子	公衆衛生看護計画の立案	
4 公衆衛生看護活動の展	望月 由紀子	公衆衛生看護における評価	
5 公衆衛生看護活動の展	望月 由紀子	地域ケアシステムの構築	
6 公衆衛生看護活動の展	望月 由紀子	公衆衛生看護における管理（1）	
7 公衆衛生看護活動の展	望月 由紀子	公衆衛生看護における管理（2）	
8 文献検討	望月 由紀子	文献検討を踏まえた演習計画立案（1）	
9 文献検討	望月 由紀子	文献検討を踏まえた演習計画立案（2）	
10 文献検討	望月 由紀子	文献検討を踏まえた演習計画立案（3）	
11 文献検討	望月 由紀子	文献検討を踏まえた演習計画立案（4）	
12 文献検討	望月 由紀子	文献検討を踏まえた演習計画立案（5）	
13 文献検討	望月 由紀子	文献検討を踏まえた演習計画立案（6）	
14 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク（1）	
15 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク（2）	
16 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク（3）	
17 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク（4）	
18 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク（5）	
19 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク（6）	
20 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク（7）	
21 フィールドワーク	望月 由紀子	フィールドワーク（8）	
22 フィールドワークの成 果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく公衆衛生看護 活動展開方法の検討（1）	
23 フィールドワークの成 果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく公衆衛生看護 活動展開方法の検討（2）	
24 フィールドワークの成 果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく公衆衛生看護 活動展開方法の検討（3）	
25 フィールドワークの成 果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく公衆衛生看護 活動展開方法の検討（4）	
26 フィールドワークの成 果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく公衆衛生看護 活動展開方法の検討（5）	
27 フィールドワークの成 果	望月 由紀子	フィールドワークに基づく公衆衛生看護 活動展開方法の検討（6）	

開講科目名 / Course	母子保健学演習	
時間割コード / Course Code	G7220	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(専門科目) / (専門科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	PC、Zoom
担当教員 /	富岡 由美 (看護学研究科 教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡 由美 yumi.tomioka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	富岡 由美 月曜日11時～12時	
授業概要 /	臨地演習と学内での討議により性・生殖看護学の分野で用いられる健康支援システムやモデルについて教授する。また、フィールドワークを通して母子保健に必要な健康支援システムやモデルについて学生とともに探求する。	
到達目標 /	1. 臨地演習と学内での討議により性・生殖看護学の分野で用いられる健康支援システムやモデルについて把握し意見を述べることができる。 2. 健康支援システムやモデルを活用・応用したプランを提案することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。 課題に基づくゼミナール形式で議論を行う。フィールドワーク実施、評価を行いレポートの提出をする。
評価方法・基準 /	出席50%、授業中の態度や取り組み20%、レポート30%
フィードバック方法 /	レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、講評をフィードバックする。
教科書 /	特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。
参考書 /	特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。
備考(関連科目等) /	授業科目に関する内容について、あらかじめ新聞や文献等に目を通しておくこと。遠隔形式の場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いた講義をリアルタイムにて行う。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 科目ガイダンス	富岡 由美	オリエンテーション 学習課題の設定	
3-6 母子保健に関する研究計画の立案	富岡 由美	研究対象者の決定・選定基準の絞り込み	
7-17 母子保健に関する研究計画の立案	富岡 由美	研究計画の作成に向けた フィールドワーク・専門家へのコンサルテーション	
18-24 母子保健に関する研究計画の立案	富岡 由美	研究計画作成に向けた予備調査・試作	
25-27 母子保健に関する研究計画の立案	富岡 由美	研究計画のまとめ、完成に向けての検討	

開講科目名 / Course	疾病論特講	
時間割コード / Course Code	G7502	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	田中 耕一郎	
科目区分 / Course Group	(支持科目) / (支持科目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	田中 耕一郎 (専任教員)	
必修・選択区分 /	選択	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom、zoom
担当教員 /	田中耕一郎 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	田中耕一郎 kouichirou.tanaka med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週金曜日: 12:30 ~ 13:00 メールで事前に連絡をすること。	
授業概要 /	疾患の病態生理を理解し、医療現場で実際に患者を診る際に役立つ知識を習得する。	
到達目標 /	看護ケアに必要な医学知識を学び、得た知識を実践看護に役立てられるようになる。 生理学的、解剖学的視野からも疾病の成り立ちを理解し、疾病の要因や治療のみならず患者自身を取り巻く環境にも配慮した看護ができるように包括的に理解する。 自分の理想とする看護について説明ができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	
事前・事後学習とその時間 /	講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。 事前に配布された資料などを理解し、講義に参加する。 30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。	
評価方法・基準 /	課題への取り組み40%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%から総合的に評価する。 評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。 レポートについてはルーブリックを用い点数評価をする。	

フィードバック方法 /	講義内で講評や解説を伝え、今後取り組むべき自己の課題を共有する。
教科書 /	必要に応じて適宜紹介する。
参考書 /	必要に応じて適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	対面形式にて実施するが、状況によっては対面形式と遠隔形式（zoomを用いたりリアルタイム配信）を組み合わせることも対応できるようにする。 授業に臨むにあたり、講義に関する疾患について各自理解し、討論に参加できるよう準備しておくこと。 積極的な討論への参加を期待する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 プロローグ	田中 耕一郎	オリエンテーションなど	
2 医療と倫理	田中 耕一郎	なぜ倫理が必要か	
3 医療と倫理	田中 耕一郎	哲学との関連性	
4 禁煙学	田中 耕一郎	タバコとは	
5 禁煙学	田中 耕一郎	禁煙対策	
6 依存症	田中 耕一郎	薬物・アルコール・タバコなど	
7 がん	田中 耕一郎	がんとは	
8 がん	田中 耕一郎	がん対策	
9 がん	田中 耕一郎	ゲノム治療	
10 炎症性腸疾患	田中 耕一郎	潰瘍性大腸炎	
11 炎症性腸疾患	田中 耕一郎	クローン病	
12 消化管の主な疾患	田中 耕一郎	食道がん・食道裂孔ヘルニア・胃十二指腸潰瘍・胃がん・大腸がん・大腸憩室炎	
13 移植学	田中 耕一郎	臓器移植	
14 移植学	田中 耕一郎	腎移植	
15 腎代替療法	田中 耕一郎	血液透析・腹膜透析・腎移植	
16 老年医学	田中 耕一郎	認知症	
17 老年医学	田中 耕一郎	認知症の今後の展望	
18 老年医学	田中 耕一郎	認知症の第一人者が認知症になった事例	
19 終末期医療	田中 耕一郎	尊厳死と安楽死	
20 終末期医療	田中 耕一郎	我が国の実情	
21 終末期医療	田中 耕一郎	諸外国の実際	
22 動脈硬化と疾患	田中 耕一郎	動脈硬化の仕組み	
23 動脈硬化と疾患	田中 耕一郎	心臓・脳・大動脈	
24 動脈硬化と疾患	田中 耕一郎	閉塞性動脈硬化症	
25 看取りの医療	田中 耕一郎	多職種連携：在宅ホームケア・訪問診療・訪問看護	
26 看取りの医療	田中 耕一郎	家で看取るとは	
27 エピローグ	田中 耕一郎	この講義で感じたこと、考えたこと	

開講科目名 / Course	共生社会と医療	
時間割コード / Course Code	G9205	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	成澤 明	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	横井 郁子 (専任教員)、伊藤 桂子 (専任教員)、成澤 明 (専任教員)	
必修・選択区分 /	必修	
授業形態 /	講義	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
	「その他」の内容 /	
	双方向授業でのICTの活用について /	活用する
	ICTを活用する場合、その具体的名称(クリッカー、タブレット端末等) /	Google Classroom, タブレット端末
担当教員 /	成澤 明 (看護学研究科・准教授)、横井郁子 (看護学研究科・教授)、伊藤桂子 (看護学研究科・教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	成澤明 akira.narusawa med.toho-u.ac.jp 横井郁子 yokoiyk med.toho-u.ac.jp 伊藤桂子 keiko.ito med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日12:30-13:00	
授業概要 /	地域包括ケアが推進されている現代において、医療が必要な状況にあっても人々が地域で暮らしを継続するための共生社会と医療のあり方について、実際に地域で医療を必要とする当事者の暮らしを通して考察する。	
到達目標 /	1. 共生社会について説明できる。 2. 医療が必要な状況にあっても人々が地域で暮らしを継続するための共生社会と医療のあり方について説明できる。 3. 医療が必要な状況にある人々が地域で暮らしを継続するための課題および専門職としてのかかわりについて考察できる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP3) 社会的責任・倫理観、(DP4) 科学的探究心・自己研鑽、(DP5) 国際性・多様性	

事前・事後学習とその時間 /	30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	課題の提出40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。 課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価する。
教科書 /	講義の中で適宜紹介する。
参考書 /	講義の中で適宜紹介する。
備考(関連科目等) /	共生社会について定義を含むさまざまな課題について予習し臨むこと。 * 最少開講人数3名。 対面形式と遠隔形式を組み合わせ実施する。ゼミ（オンライン上を含む）での積極的な討論によって課題を深めることを期待する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1 共生社会の概念 1	成澤 明	ガイダンス 共生社会の概念	
2 共生社会の概念 2	成澤 明	共生社会についての考察	
3 医療を必要としながら地域で生活する人々の理解 1	横井 郁子, 伊藤 桂子, 成澤 明	医療を必要としながら地域で生活する人々についてのプレゼンテーション	
4 医療を必要としながら地域で生活する人々の理解 2	横井 郁子, 伊藤 桂子, 成澤 明	医療を必要としながら地域で生活する人々についてのプレゼンテーション	
5 医療を必要としながら地域で生活する人々の理解 3	横井 郁子, 伊藤 桂子, 成澤 明	医療を必要としながら地域で生活する人々についてのプレゼンテーション	
6 医療を必要としながら地域で生活する人々の理解 4	横井 郁子, 伊藤 桂子, 成澤 明	医療を必要としながら地域で生活する人々についてのプレゼンテーション	
7 医療を必要としながら地域で生活する人々の理解 5	横井 郁子, 伊藤 桂子, 成澤 明	医療を必要としながら地域で生活する人々についてのプレゼンテーション	
8 医療を必要としながら地域で生活する人々の理解 6	横井 郁子, 伊藤 桂子, 成澤 明	医療を必要としながら地域で生活する人々についてのプレゼンテーション	
9 精神に障害を抱えながら生活する人々に対する共生社会と医療 1	伊藤 桂子, 成澤 明	精神に障害を抱えながら生活する人々に対する共生社会と医療	
10 精神に障害を抱えながら生活する人々に対する共生社会と医療 2	伊藤 桂子, 成澤 明	精神に障害を抱えながら生活する人々に対する共生社会と医療	
11 精神に障害を抱えながら生活する人々に対する共生社会と医療 3	伊藤 桂子, 成澤 明	精神に障害を抱えながら生活する人々に対する共生社会と医療についての考察 ゲストスピーカーとのディスカッション	
12 がんサバイバーに対する共生社会と医療 1	成澤 明	がんサバイバーに対する共生社会と医療	
13 がんサバイバーに対する共生社会と医療 2	成澤 明	がんサバイバーに対する共生社会と医療	

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
14 がんサバイバーに対する共生社会と医療 3	成澤 明	がんサバイバーに対する共生社会と医療についての考察 ゲストスピーカーとのディスカッション	
15 医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療 1	成澤 明	医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療	
16 医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療 2	成澤 明	医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療	
17 医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療 3	成澤 明	医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療についての考察 ゲストスピーカーとのディスカッション	
18 医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療 4	成澤 明	医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療	
19 医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療 5	成澤 明	医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療	
20 医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療 6	成澤 明	医療的ケアを受ける子どもおよびその親に対する共生社会と医療についての考察 ゲストスピーカーとのディスカッション	
21 障害児・者に対する共生社会と医療 1	横井 郁子, 成澤 明	障害児・者に対する共生社会と医療	
22 障害児・者に対する共生社会と医療 2	横井 郁子, 成澤 明	障害児・者に対する共生社会と医療	
23 障害児・者に対する共生社会と医療 3	横井 郁子, 成澤 明	障害児・者に対する共生社会と医療についての考察 共生社会と医療についてのプレゼンテーション(ガイダンス)	
24 これからの共生社会 1	横井 郁子, 伊藤 桂子, 成澤 明	共生社会と医療についてのプレゼンテーション	
25 これからの共生社会 2	横井 郁子, 伊藤 桂子, 成澤 明	共生社会と医療についてのプレゼンテーション	
26 これからの共生社会 3	横井 郁子, 伊藤 桂子, 成澤 明	共生社会と医療についてのプレゼンテーション	
27 これからの共生社会 4	横井 郁子, 伊藤 桂子, 成澤 明	共生社会と医療についてのディスカッション	

開講科目名 / Course	看護専門職連携演習	
時間割コード / Course Code	G9206	
開講所属 / Course Offered by	看護学研究科 / Graduate School of Nursing	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN	
曜限 / Day, Period	他 / Oth.	
開講区分 / semester offered	秋学期 / AUTUMN	
単位数 / Credits	2.0	
主担当教員 / Main Instructor	富岡 由美	
科目区分 / Course Group	(共 通 科 目) / (共 通 科 目)	
教室 / Classroom		
遠隔授業 / Remote lecture	No	
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	富岡 由美 (専任教員)、伊藤 桂子 (専任教員)、望月 由紀子 (専任教員)、荒木 暁子 (専任教員)、加藤 知子 (専任教員)、小林 成光 (専任教員)、石橋 タミ (専任教員)	
必修・選択区分 /	必修	
授業形態 /	演習、実験	
授業方法(ALの要素、ICTの活用等) /	アクティブラーニングについて /	実施する
	アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素 /	P B L (課題解決型学習)、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク
	「その他」の内容 /	
	双方向授業での I C T の活用について /	活用する
	I C T を活用する場合、その具体的名称 (クリッカー、タブレット端末等) /	コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク
担当教員 /	富岡由美 (看護学研究科・教授) 荒木暁子 (看護学研究科・教授) 望月由紀子 (看護学研究科・教授) 伊藤桂子 (看護学研究科・教授) 加藤知子 (看護学部・准教授) 小林成光 (看護学部・准教授) 石橋タミ (看護学部・准教授)	
科目責任者連絡先(教室) /	富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp を@に置き換える。	
オフィスアワー /	毎週木曜日 12 : 30 ~ 13 : 00 他の日時も対応可。その場合は事前にメールで連絡すること。	
授業概要 /	チーム医療の現場における看護師の役割と多職種連携の重要性について、実践的かつ国際的視点から学修する。米国ジェファーソン大学での研修を通じ、医療組織の運営、多職種との協働を通じたリーダーシップの在り方、複雑な健康課題への対応、健康格差への支援について理解を深め、高度実践看護師としての実践力を養う。	
到達目標 /	1. 医療政策を含む組織運営や、多職種協働を通じたリーダーシップについて述べるができる。 2. グローバルな健康課題について述べるができる。 3. 複雑な健康問題を抱える対象への高度な看護実践力について述べるができる。 4. 地域社会における健康格差や脆弱な集団への支援について述べるができる。	

ディプロマ・ポリシーとの関連 (看護学研究科) /	(DP1) 知識・技能と課題解決力、(DP2) 共生型リーダーシップ、(DP5) 国際性・多様性
事前・事後学習とその時間 /	フィールドワークの計画は学生自ら立案し、教員の指導を得て現場に臨む。現場での協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。
評価方法・基準 /	演習(フィールドワーク)への取り組み70%、プレゼンテーション30%で総合的に評価する。
フィードバック方法 /	評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
教科書 /	必要に応じて提示する。
参考書 /	必要に応じて提示する。
備考(関連科目等) /	対面方式と遠隔形式を組み合わせる。 フィールドワークは米国トーマスジェファーソン大学とする。科目履修者は原則フィールドワークに参加する事。フィールドワークについては、授業内で詳しいオリエンテーションを実施する。

授業計画詳細 / Course schedule

授業回	担当教員	学習方法と内容	備考
1-2 オリエンテーション、医療連携、看護職連携について	富岡 由美, 石橋 タミ	本科目のオリエンテーション(フィールドワークを含む)。医療連携、看護職連携について。 課題の立案。	
3-4 看護の専門性とさまざまな場での実践	小林 成光	日本における専門看護師の機能とは? (がん看護学)	
5-6 依存症ケアと看護の専門性	伊藤 桂子	アルコール依存症と向き合う対象とその看護から、依存症ケアと看護の専門性を学修する。	
7-9 多職種連携(保健師・助産師・看護師)	富岡 由美, 望月 由紀子, 加藤 知子, 石橋 タミ	保健師、助産師、看護師という看護職の連携について自身の経験を活かしながら考え、ディスカッションを行う。	
10-11 多職種連携	荒木 暁子	グローバルな視点からチーム医療と多職種連携の在り方を学修する。	
12-22 看護職連携のフィールドワーク	富岡 由美, 望月 由紀子, 荒木 暁子, 加藤 知子, 小林 成光, 石橋 タミ	チーム医療の現場における看護師の役割と多職種連携の重要性について、実践的かつ国際的視点から学修する。フィールドワークは米国トーマスジェファーソン大学で実施する。	
23-24 フィールドノート分析	富岡 由美, 望月 由紀子, 荒木 暁子, 加藤 知子, 小林 成光, 石橋 タミ	フィールドノートの分析を行う。	
25-27 フィールドワークの成果発表	富岡 由美, 望月 由紀子, 荒木 暁子, 加藤 知子, 小林 成光, 石橋 タミ	フィールドワークの成果のプレゼンテーションを実施する。	